

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	日本史概説
担当教員	水谷 悟
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(日本史・外国史)、高校地理歴史(日本史)
単位数	2
テーマ・内容	<p>【実務経験】国立公文書館つくば分館、財団法人東洋文庫、東洋英和女学院中高部・史料室委員などでの実務経験(史料整理、非常勤職員)を活かし、日本列島の歩みが記されている基礎的な史料の紹介と内容の解釈について講義をおこなう。</p> <p>古代から近現代に至るまでの日本の歴史を、各時代を代表する人物を通して概観し、政治・社会・経済・文化などについて基礎的な内容を理解する。その際、それぞれの人物に関して残されたさまざまな史料を読み解き、時代社会のなかで生きた人々の考え方や生き様について学ぶ。</p>
到達目標	<p>① 特定の人物の生涯を通して時代ごとの政治・社会・経済・文化の特質を理解することができる。</p> <p>② 史料を読み解き、時代社会に生きた人々の思考・選択の意味について分析することができる。</p> <p>③ 授業で学んだ人物とその時代の特質について、自分の見解をまとめて表現することができる。</p>
学習内容	<p>①授業形態:「対面授業」</p> <p>②利用するツール:Google Classroom</p> <p>・「課題レポート」を入力・提出する(毎回 300 字以上)</p> <p>※状況に応じてパワポのスライドショー(音声入り)をビデオ化して配信する場合もある</p> <p>③授業内容 特定の人物を通して、時代の政治・社会・経済・文化などの特質について講義する</p> <p>→毎回の授業に対する感想と質問をコメントペーパーに書いて提出する</p> <p>→授業の最後に示す「お題」に各自で取り組み、「課題レポート」を作成・提出する</p>
成績評価の方法・基準	<p>成績評価の方法:コメントペーパー(毎回 80~100 字程度)の内容 30%</p> <p>課題レポート(毎回 300 字以上)の内容 45% 最終レポート(または定期試験)の内容 25%</p> <p>成績評価の基準:授業内容に対する理解度、課題レポートへの取り組み</p> <p>自分の意見・解釈を史料にもとづいて表現する力</p> <p>16 週目に最終レポート(または定期試験)を実施する予定である。</p> <p>※具体的な内容については授業内で説明する。</p>
教科書	授業ごとに「本編」「史料編」の資料を配付する
参考書	<p>・石上英一ほか編『日本の時代史』全 30 巻(吉川弘文館、2002~2004 年)</p> <p>・『シリーズ 大学の日本史』全4巻(山川出版社、2016 年)</p> <p>・『シリーズ 日本近現代史』全 10 巻(岩波新書、2006~2010 年)</p>
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス~「私と時代社会」
授業計画第2回 授業内容	古代国家と政治・文化①~卑弥呼と邪馬台国

授業計画第3回 授業内容	古代国家と政治・文化②～天武・持統と大和朝廷
授業計画第4回 授業内容	古代国家と政治・文化③～清少納言・紫式部と摂関政治
授業計画第5回 授業内容	中世社会と政治・文化①～源頼朝・北条政子と鎌倉幕府
授業計画第6回 授業内容	中世社会と政治・文化②～足利義政・日野富子と応仁の乱
授業計画第7回 授業内容	中世社会と政治・文化③～サビエルとキリスト教
授業計画第8回 授業内容	近世社会と政治・文化①～徳川吉宗と幕政改革
授業計画第9回 授業内容	近世社会と政治・文化②～ペリーと開国
授業計画第10回 授業内容	近代国家と政治・文化①～大久保利通と明治維新
授業計画第11回 授業内容	近代国家と政治・文化②～田中正造と足尾鋳毒事件
授業計画第12回 授業内容	近代国家と政治・文化③～与謝野晶子と婦人運動
授業計画第13回 授業内容	近代国家と政治・文化④～平塚らいてうと婦人運動
授業計画第14回 授業内容	近代国家と政治・文化⑤～東条英機とアジア・太平洋戦争
授業計画第15回 授業内容	近代国家と政治・文化⑥～村岡花子と東洋英和女学校

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	外国史概説
担当教員	原 賢治
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(日本史・外国史)、高校地理歴史(外国史)
単位数	2
テーマ・内容	本授業では、世界史の基本的な知識の習得ないし再確認をしながら、人々の移動や地域間の相互の接触・交流に焦点を置いて古代から現代までの世界各地の歴史の流れを概観する。また同時に、歴史の見方についても学び、考えることを目的とした。
到達目標	歴史の大局的な流れの中で各時代・各地域の特徴を理解する。 自分たちとは異なる世界を知ることによって異文化に対する理解を深める。
学習内容	対面授業にて実施する。 授業では配布するプリントを参考にして、講義を行う。
成績評価の方法・基準	定期試験 80%、授業への参加態度 20% 定期試験(16週目に実施)については、ある歴史的事象について背景や影響を含めて理解し、論述できるのかを評価基準とする。
教科書	特に使用しない。
参考書	小田中直樹・帆刈浩之編『世界史/いま、ここから』山川出版社、2017年 大阪大学歴史教育研究会編『市民のための世界史』大阪大学出版会、2014年
授業計画第1回 授業内容	歴史を見る視点
授業計画第2回 授業内容	古代の歴史:西アジアとヨーロッパ
授業計画第3回 授業内容	古代の歴史:南アジアと東アジア
授業計画第4回 授業内容	東アジアの発展—隋・唐・宋
授業計画第5回 授業内容	イスラム世界の形成
授業計画第6回 授業内容	中世ヨーロッパ—キリスト教社会

授業計画第7回 授業内容	近世のはじまり—モンゴルとその後
授業計画第8回 授業内容	大航海時代
授業計画第9回 授業内容	近世アジアの変動
授業計画第10回 授業内容	ヨーロッパの近代とイギリスの繁栄
授業計画第11回 授業内容	植民地の下での世界
授業計画第12回 授業内容	第一次世界大戦とその影響
授業計画第13回 授業内容	第二次世界大戦と冷戦の始まり
授業計画第14回 授業内容	現代の歴史
授業計画第15回 授業内容	現在と過去

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	人文地理学
担当教員	中川(川添) 紗智
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	<p>本授業は以下のテーマ・内容で構成される。</p> <p>1: 人文地理学地域概念・地域モデルについての解説。</p> <p>2: 日本の国内外における自然環境や産業、歴史、文化、社会制度の特色やその相互作用についての解説。</p> <p>3: 地域課題の要因や解決方策についての解説。</p> <p>以上の説明を通じ、都市や交通、産業、観光などに関わる具体的なテーマについて身近な事例をあげながら地理学的視点を通じて理解する。</p>
到達目標	<p>国内外の諸地域について理解し、積極的に課題の発見・解決を図るための基礎知識を身につける。具体的には、次の3つの事項を到達目標とする。</p> <p>1: 人間活動の特徴や社会構造について地球環境や土地条件との関係から理解する人文地理学の視点を習得する。</p> <p>2: 統計資料や図表などの様々な媒体を通じて人文・社会諸現象の状況や変化を捉え、その特徴や課題についてどのような要素から構成されているのかについて理解する。</p> <p>3: コメントシートの提出等を通じた相互の意見交換を通じて、現代社会について多様な視点から理解・議論する。</p>
学習内容	<p>本講義はオンデマンド型授業形態で実施する(担当教員が作成した授業動画を共有する)。</p> <p>授業はパワーポイントの写真・図表などを表示しながら授業を行う。また、適宜映像資料などを用いて地域の現状や課題について説明することもある。随時、地形図の色塗り作業を各自で行ってもらう。</p> <p>毎授業の最後には、小課題の回答や質問・コメントをコメントカードに記入して提出してもらう。次回授業の冒頭で、寄せられた質問やコメントに対してフィードバックを行う。</p> <p>なお授業内容は進度等によって変更する可能性がある。</p>
成績評価の方法・基準	<p>授業への参加度(コメントシートなどの内容、参加態度で評価)(40%)、期末レポート(60%)で成績評価を行う。</p>
教科書	特に指定しない
参考書	『新詳地理資料』帝国書院、2024
授業計画第1回 授業内容	講義ガイダンス

授業計画第2回 授業内容	地理学とは何か
授業計画第3回 授業内容	都市①(都市の構造)
授業計画第4回 授業内容	都市②(地域社会とまちづくり)
授業計画第5回 授業内容	交通(都市内交通と都市間交通)
授業計画第6回 授業内容	農業(農山漁村の地域活性化・都市近郊農業)
授業計画第7回 授業内容	工業と鉱業(伝統工芸・鉱山産業)
授業計画第8回 授業内容	観光①(歴史的街並みとその活用)
授業計画第9回 授業内容	観光②(温泉の観光地化・アートによる地域活性化)
授業計画第10回 授業内容	グローバル化と国際移住(エスニックタウン)
授業計画第11回 授業内容	自然環境と地理学(自然災害・環境問題)
授業計画第12回 授業内容	身近な地域を理解する～横浜～①歴史
授業計画第13回 授業内容	身近な地域を理解する～横浜～②盛り場
授業計画第14回 授業内容	身近な地域を理解する～横浜～③保護猫活動
授業計画第15回 授業内容	講義のまとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	自然地理学
担当教員	澤田 康德
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	<p>地理学の一分野である自然地理学は、地表における自然を研究課題とする学問分野である。人間は、自然環境と関わりながら地表で生活を営み、地表の自然環境に対し古来関心があり、また自然環境を理解することが生活の営みにとって重要であった。この自然環境は、様々な要素から構成され、要素同士が関連し地球システムとして成り立っている。この自然環境を外来的諸条件の一つとして、人間活動やそれに伴う人文環境には固有の地域性が認められ、さらに人間活動の高度化に伴う自然環境問題や自然災害などは、さまざまな地域性をもって自然環境的課題として近年顕在化してきている。本講義では自然環境およびそれと関連した人文環境に関する地域認識を深めることや、自然環境的課題にいかに対応していくか検討することを目指す。</p> <p>自然環境を構成する要素として重要な、気圏、地圏、水圏事象についての理解を深め、我々の日常生活を規定する自然環境について地理的方法に基づいて検討する。</p>
到達目標	気候現象や地形形成の成り立ちを理解し、それが適応する地域性などを把握する。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・対面方式です。 ・毎回毎回の授業は、前回の積み重ねになりますので、授業ごとに内容をまとめるようにして下さい。 ・内容は、気候、地形、水文、生物環境の関係を理解する。そのうえで社会や自身の防災を考えることです。
成績評価の方法・基準	期末テスト 30%, レポート 30%, 授業への参加態度 40%
教科書	特に指定しない
参考書	高橋 日出男・小泉 武栄(編著) (2008): 地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論, 朝倉書店
授業計画第1回 授業内容	環境とは(自然環境と人文環境)
授業計画第2回 授業内容	身近な気候環境1(日々の天気の色感と現象)
授業計画第3回 授業内容	身近な気候環境2(気候要素の変化)

授業計画第4回 授業内容	身近な気候環境3(各季節に特徴的な気候)
授業計画第5回 授業内容	地形と気候
授業計画第6回 授業内容	世界の気候1(世界で概観する)
授業計画第7回 授業内容	世界の気候2(アメリカ州)
授業計画第8回 授業内容	世界の気候3(ヨーロッパ州, アフリカ州)
授業計画第9回 授業内容	世界の気候4(アジア州, オセアニア州)これまでの内容をまとめるための課題あり
授業計画第10回 授業内容	身近な環境問題1(ヒートアイランド, 大気汚染)
授業計画第11回 授業内容	身近な環境問題2(森林破壊, 水質汚濁)
授業計画第12回 授業内容	地球的課題1(気候変動, 大気汚染)
授業計画第13回 授業内容	地球的課題2(砂漠化, 森林破壊, 海洋汚染)
授業計画第14回 授業内容	人間生活と地球の未来
授業計画第15回 授業内容	まとめ 将来の展望

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	世界地誌
担当教員	飯塚 遼 町田小織
担当形態	オムニバス
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	世界にはさまざまな地域が存在する。それらを理解するためには、それぞれの地域が世界の何処にあるのかという単純な知識以外に「なぜそこに位置しているのか」、「なぜそこでそのような現象がみられるのか」、また「自然と文化にはどのような関係性があるのか」を考えることが重要である。本講義では世界の各地域を対象にして、その地域の自然環境と文化環境との関連性やつながりについて学ぶ。
到達目標	①地理学および地誌学の基礎的な知識が理解できる。 ②世界各地の地域的特性を解釈できる。 ③世界各地域の特性を人文環境や自然環境の関連性から体系的に説明できる。
学習内容	PowerPoint スライドを用いた講義形式の授業である。講義に関連したレポートの作成なども適宜実施する。フィードバックは講義での全体講評および e-pass を通じて行う。なお、講義資料などについては e-pass を通じて配布する。
成績評価の方法・基準	試験(70%)、レポート(20%)、授業への参加態度(10%)
教科書	特に指定しない
参考書	『観光地誌学—観光から地域を読み解く』飯塚 遼・菊地俊夫 2021. 二宮書店. その他、参考書については講義において適宜紹介する。
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション—地誌学とはどのような学問か— 【飯塚遼】
授業計画第2回 授業内容	オセアニア①: オーストラリア—多文化社会の暮らし— 【飯塚遼】
授業計画第3回 授業内容	オセアニア②: ニュージーランド—農業先進国の観光— 【飯塚遼】
授業計画第4回 授業内容	アフリカ—環境問題と新植民地主義— 【飯塚遼】
授業計画第5回 授業内容	ヨーロッパ①: ヨーロッパ概論—多様な歴史・文化・宗教— 【飯塚遼】

授業計画第6回 授業内容	ヨーロッパ②: 北西ヨーロッパ—ヨーロッパの中心ベネルクス—	【飯塚遼】
授業計画第7回 授業内容	ヨーロッパ③: イギリス—カントリーサイドのルーラルティ—	【町田小織】
授業計画第8回 授業内容	ヨーロッパ④: 中東欧—「中欧」と「東欧」—	【町田小織】
授業計画第9回 授業内容	ヨーロッパ⑤: 南東欧—「東西文明の十字路」と「ヨーロッパの火薬庫」—	【飯塚遼】
授業計画第10回 授業内容	北アメリカ①: 米国—移民と文化—	【飯塚遼】
授業計画第11回 授業内容	北アメリカ②: カナダ—気候風土と観光—	【飯塚遼】
授業計画第12回 授業内容	南アメリカ—アンデス山脈とアマゾン川から地域を捉える—	【飯塚遼】
授業計画第13回 授業内容	アジア①: 中国—多民族・多文化の大国—	【町田小織】
授業計画第14回 授業内容	アジア②: コーカサス—アジアとヨーロッパを結ぶ要衝—	【町田小織】
授業計画第15回 授業内容	アジア③: 中央アジア・ロシア—環境問題と資源開発—	【飯塚遼】

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	法学
担当教員	田中 極子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	法学とはどのような学問か、法学の歴史、法学は他の社会科学とどこが違うのか、法学的発想法はどのようなものか、法はどのように作られるのか、法の解釈と法の適用の違いなどの各項目をしっかりと把握し、さらに現代法の諸問題を考察・検討して、法学の発展的な学習への動機付けを高めていきます。
到達目標	(1)法とは何かという問いに対する自分の意見を持つ。 (2)法は自由をもたらすのかに対する自分の意見を持つ。
学習内容	基本的には教科書を用いた講義形式で、国際法の基礎知識を学びます。必要に応じて関連する資料を配布してグループ討論を行います。
成績評価の方法・基準	・各回予習が必須です。授業前までに Google Classroom に登録します:30% ・期末レポートを課します:70%
教科書	松田浩道『リベラルアーツの法学』東京大学出版会、2022年
参考書	稲正樹、寺田麻佑他『法学入門』北樹出版、2019年 法学六法(出版社は問わない)(『法学六法』(信山社)、『ポケット六法』(有斐閣)、『デイリー六法』(三省堂)が導入向けにお勧めです)
授業計画第1回 授業内容	教科書第1章—人間は自由な存在か:聖書と法
授業計画第2回 授業内容	教科書第2章—法に従うのは自由か:哲学と法
授業計画第3回 授業内容	教科書第3章—社会契約は自由にするか:政治と法
授業計画第4回 授業内容	教科書第4章—真実の物語とは何か:歴史と法
授業計画第5回 授業内容	教科書第5章—正しい戦争はあるか:平和と法
授業計画第6回 授業内容	教科書第6章—自由の基盤は何か:文学と法

授業計画第7回 授業内容	教科書第7章－真理は教えられるか：教育と法
授業計画第8回 授業内容	教科書第8章－自由は語りうるか：言語と法
授業計画第9回 授業内容	教科書第9章－自由の限界はどこにあるか：倫理と法
授業計画第10回 授業内容	教科書第10章－宗教は平和をもたらすか：宗教と法
授業計画第11回 授業内容	教科書第11章－自由市場は法規制すべきか：経済と法
授業計画第12回 授業内容	教科書第12章－自由意志は虚構か：真理と法
授業計画第13回 授業内容	教科書第13章－客観性とは何か：科学と法
授業計画第14回 授業内容	教科書第14章－性規範から自由になれるか：ジェンダー・セクシュアリティと法
授業計画第15回 授業内容	教科書第15章－SNSを規制すべきか：メディア・コミュニケーションと法

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	政治学
担当教員	河野 毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	政治学は、権力を研究対象とする学問です。では、権力の使い方は、各国でどのような違いがあるでしょうか？所得水準など経済的なレベルの違いや、人々のアイデンティティーの違いなどの政治的な側面や、リーダーの資質や選ばれ方だけ見ても様々な形態があり、その形態から権力の使われ方が違ってきます。この授業では、世界各国の事例をもとに、多様な構造的、制度的、アクター的な要素を理解した上で、権力の使われ方やその意味を学んでいきます。
到達目標	多様な政治制度や、社会構造などを理解し、国際社会で起こる政治を分析できるようになる。
学習内容	授業形態: 対面授業 民主主義、権威主義、政治体制の崩壊と紛争など、実際に起こる政治のダイナミックな変化を客観的に見ることで、世界情勢の理解が深まるようにデザインされた授業である。
成績評価の方法・基準	成績評価(『履修の手引き』) 本学は5段階で成績をつけます。 秀 100-90 GPA 4 優 89-80 GPA 3 良 79-70 GPA 2 可 69-60 GPA 1 不可 59 以下 GPA 0 (放棄も同様) このクラスでは、中間試験 50%、期末試験 50%で成績をつけます。 いかなる不正でも処分の対象になります。不正の種類とその内容については『履修の手引き』(特に 32-33 ページ)を参照のこと。
教科書	久保、末近、高橋共著(2018年)『比較政治学の考え方』 有斐閣ストゥディア ISBN: 978-4-641-15031-7
参考書	適宜指示する。
授業計画第1回 授業内容	授業の進め方、試験と成績についての説明と、自己紹介。 第1章: 比較政治学の方法と着眼点
授業計画第2回 授業内容	第2章: 国家 第3章: 民主化
授業計画第3回 授業内容	第4章: 民主主義体制の持続

授業計画第4回 授業内容	第5章：権威主義体制の持続
授業計画第5回 授業内容	前半の授業の振り返りと中間試験
授業計画第6回 授業内容	第6章：内戦
授業計画第7回 授業内容	第7章：執政制度
授業計画第8回 授業内容	第8章：政党制度
授業計画第9回 授業内容	第9章：軍
授業計画第10回 授業内容	第10章：社会運動
授業計画第11回 授業内容	第11章：民族集団
授業計画第12回 授業内容	第12章：民主主義の質
授業計画第13回 授業内容	第13章：新自由主義改革
授業計画第14回 授業内容	第14章：比較政治学の方法と着眼点の活用法
授業計画第15回 授業内容	第14章：比較政治学の方法と着眼点の活用法（続き） 授業のまとめと振り返り

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	社会調査演習 I
担当教員	小寺 敦之・山本 直子
担当形態	複数
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>【社会調査を実践する(調査編)】</p> <p>社会調査は、理論や方法を学ぶだけでは理解できません。実際の調査に従事することで、その難しさや面白さを知ることができるのです。また、ひとつの調査を行うためには、膨大なデータを分析するスキルはもちろん、多くの準備と調査対象者への気配りも必要となってきます。</p> <p>このクラスでは、1年をかけて社会調査に関わる作業(調査の準備～報告書の作成)を行い、調査を企画・実施する基礎的な力を身につけていくことを目指します。</p> <p>例年、擬似的な一般社会を想定した調査として、大学の協力のもとで「学生による学生生活調査」を行っており、春学期は、調査の企画・実施とデータの回収までを行っています。今年度の調査内容については受講生の皆さんと相談したいと思います。</p>
到達目標	<p>①社会調査のプロセス(準備～データ入力)を実践する</p> <p>②社会調査の実施に関わるルールやマナーを知る</p> <p>③社会調査に対する目を養う</p>
学習内容	<p>【授業の実施形式＝対面授業】</p> <p>クラス全体でひとつの調査を実施しますが、実際の作業は個別グループに分かれて行います。クラスの進め方は以下の通りです。</p> <p>(1)調査計画の把握(調査テーマや調査方法の確認)</p> <p>(2)調査内容の検討(グループ別の問題設定)</p> <p>(3)調査票の検討(調査票の作成と修正)</p> <p>(4)調査の実施(対象者への協力依頼と調査票の配布)</p> <p>(5)調査票の回収(調査票の回収とデータ入力)</p>
成績評価の方法・基準	<p>【成績評価の方法】 ①授業への参加態度</p> <p>※秋学期「Ⅱ」との総合点で評価しますので「Ⅰ」の成績は秋学期終了まで「保留」になります。</p> <p>【成績評価の基準】 ①主体的・積極的な参加態度が見られたか</p> <p>②社会調査のプロセスを十分に理解・体得することができたか</p>
教科書	特に指定しません
参考書	『社会調査へのアプローチ—理論と方法(第2版)』大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(編著)ミネルヴァ書房 2005 『よりよい社会調査をめざして』井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦(著)創元社 1995 『社会調査の応用』金井雅之・小林盾・渡邊大輔(編)弘文堂 2012
授業計画第1回 授業内容	調査計画の把握(調査テーマや調査方法・実施時期の確認)とグループ分け

授業計画第2回 授業内容	調査票の検討(グループテーマの設定)
授業計画第3回 授業内容	調査票の検討(グループテーマに関する先行研究の検討)
授業計画第4回 授業内容	調査票の検討(グループテーマの具体化)
授業計画第5回 授業内容	調査票の検討(リサーチクエスチョンまたは仮説の設定)
授業計画第6回 授業内容	調査票の作成と修正(グループテーマに関する質問項目の作成)
授業計画第7回 授業内容	調査票の作成と修正(質問票の全体的検討)
授業計画第8回 授業内容	調査票の作成と修正(質問票の修正と項目の追加・削除)
授業計画第9回 授業内容	調査票の作成と修正(質問票の完成)
授業計画第10回 授業内容	調査の実施(サンプリング)
授業計画第11回 授業内容	調査の実施(調査依頼)
授業計画第12回 授業内容	調査の実施(調査票の配布)
授業計画第13回 授業内容	調査の実施(調査票の回収)
授業計画第14回 授業内容	調査の実施(データ入力)
授業計画第15回 授業内容	調査の実施(データチェック)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	社会調査演習Ⅱ
担当教員	小寺 敦之・山本 直子
担当形態	複数
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>【社会調査を実践する(データ分析編)】</p> <p>社会調査は、理論や方法を学ぶだけでは理解できません。実際の調査に従事することで、その難しさや面白さを知ることができるのです。また、ひとつの調査を行うためには、膨大なデータを分析するスキルはもちろん、多くの準備と調査対象者への気配りも必要となってきます。</p> <p>このクラスでは、1年をかけて社会調査に関わる作業(調査の準備～報告書の作成)を行い、調査を企画・実施する基礎的な力を身につけていくことを目指します。</p> <p>秋学期は、春学期の活動を踏まえ、調査データの分析と報告書の作成を行います。</p>
到達目標	<p>①社会調査のプロセス(データ分析～報告書作成)を実践する</p> <p>②社会調査の実施に関わるルールやマナーを知る</p> <p>③社会調査に対する目を養う</p>
学習内容	<p>【授業の実施形式＝対面授業】</p> <p>クラス全体でひとつの調査を実施しますが、実際の作業は個別グループに分かれて行います。クラスの進め方は以下の通りです。</p> <p>(1)エクセルおよび SPSS の復習(単純集計とグラフ作成)</p> <p>(2)データ分析(多変量解析を含む統計分析および自由記述の分析)</p> <p>(3)報告書の作成とプレゼンテーション</p>
成績評価の方法・基準	<p>【成績評価の方法】 ①授業への参加態度 ②期末レポート(調査概要の執筆) ③調査報告書(グループごとに提出)</p> <p>【成績評価の基準】 ①主体的・積極的な参加態度が見られたか</p> <p>②社会調査のプロセスを十分に理解・体得することができたか</p>
教科書	特に指定しません
参考書	『社会調査へのアプローチ—理論と方法(第2版)』大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(編著)ミネルヴァ書房 2005 『よりよい社会調査をめざして』井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦(著)創元社 1995 『社会調査の応用』金井雅之・小林盾・渡邊大輔(編)弘文堂 2012 『SPSSによるやさしいアンケート分析(第2版)』小木曾道夫(著)オーム社 2012
授業計画第1回 授業内容	調査レビューと今後の進め方の確認
授業計画第2回 授業内容	データ分析(回収率)

授業計画第3回 授業内容	データ分析(単純集計)
授業計画第4回 授業内容	データ分析(グラフの作成)
授業計画第5回 授業内容	データ分析(クロス表の作成)
授業計画第6回 授業内容	中間報告会
授業計画第7回 授業内容	データ分析(相関・平均比較)
授業計画第8回 授業内容	データ分析(多変量解析)
授業計画第9回 授業内容	データ分析(自由回答の分析)
授業計画第10回 授業内容	データ分析(その他の分析)
授業計画第11回 授業内容	調査報告書の作成(1)分析
授業計画第12回 授業内容	調査報告書の作成(2)考察
授業計画第13回 授業内容	報告会の準備(1)スライド作成
授業計画第14回 授業内容	報告会の準備(2)練習
授業計画第15回 授業内容	最終報告会

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	社会調査法
担当教員	小寺 敦之
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>【社会調査の正しい考え方と技法を身につけよう】</p> <p>社会調査は社会を理解するために有効な手法ですが、不適切な方法で行われるとその結果は大きく歪んだものになります。たとえ統計データの分析スキルが高くとも、データを得るプロセスに問題があれば、それは良い社会調査とは言えません。</p> <p>このクラスでは、社会調査の企画・設計からデータ収集までのプロセスを理解し、実際に社会調査を実施するまでのシミュレーションを行います。自分自身で調査を行う知識とスキルを身につけていくとともに、他人が行う調査を評価できる能力も養っていきましょう。</p>
到達目標	<p>①社会調査の企画・設計からデータ収集までのプロセスを理解する</p> <p>②社会調査に関わる多様なデータ収集法を知る</p> <p>③適切なサンプリングや質問票作成ができるようになる</p> <p>④実例から調査方法を評価できるようになる</p>
学習内容	<p>講義と演習を組み合わせた授業を行います。講義では、社会調査のプロセスに沿って、多様な調査方法やサンプリングの手法、質問票の作り方などを解説します。実例をもとにその問題点を考えてもらいながら、楽しみながら学べるようにしたいと思います。</p> <p>また、社会調査の学習には実際の体験が不可欠です。そこで、自分で調査を行うことを想定して、テーマや調査対象、方法までを設計する演習も行います(演習はグループワークになる可能性もあります)。</p>
成績評価の方法・基準	<p>①授業内でのミニクイズ(40%)</p> <p>②レポート(調査企画・質問票作成に関する演習課題)(60%)</p>
教科書	特に指定しない
参考書	<p>『社会調査の基本』杉山明子(編著)朝倉書店 2011</p> <p>『社会調査へのアプローチ—理論と方法(第2版)』大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(編著)ミネルヴァ書房 2005</p> <p>『よりよい社会調査をめざして』井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦(著)創元社 1995</p>
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション／社会調査のプロセス
授業計画第2回 授業内容	サンプリング(1)母集団と標本

授業計画第3回 授業内容	サンプリング(2)サンプリングの諸方法と無作為抽出
授業計画第4回 授業内容	サンプリング(3)標本誤差
授業計画第5回 授業内容	調査方法(1)多様な調査手法とその特徴
授業計画第6回 授業内容	調査方法(2)インターネット調査
授業計画第7回 授業内容	演習(1)調査企画
授業計画第8回 授業内容	演習(2)対象・方法の検討
授業計画第9回 授業内容	調査票の作り方
授業計画第10回 授業内容	質問文の作成(1) 二重質問と誘導質問
授業計画第11回 授業内容	質問文の作成(2) 定義の問題
授業計画第12回 授業内容	演習(3)質問項目の検討
授業計画第13回 授業内容	演習(4)調査票の作成
授業計画第14回 授業内容	データの整理
授業計画第15回 授業内容	査の限界を知る

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会学概論 I
担当教員	小藪 明生
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	本講義(社会学概論 I)では、社会学の基礎的な考え方、概念、研究対象について概観する。大きく三つに分類すると、導入としてマイクロ社会学的な見方について、近代化にまつわる諸問題について、合理的な行為者とその集成的状況によるマクロ理論について、理論と概念を学ぶ。これらは社会学関連の他の講義、また他の専門的な領域に関する社会学を学ぶ際に、踏まえておくべき重要な視点となる。
到達目標	社会学の基本的な考え方、概念、テーマについて理解し、それを学生自身の身近な社会現象に応用して論じることができるようになることを目標とする。
学習内容	通常は各回の授業を受講し、レジュメへの書き込みや講師の話を通じ理解していく。理解が十分にできなかった、もしくは興味を持ったトピックがある場合は、各回に示す参考文献にて理解を深めることができる。期末レポート作成時には、出題された論題について授業内容を確認すると共に、参考文献なども踏まえつつ選択したテーマについて各自の関心に基づいて独自の視点を付け加えることが求められる。 授業形態に関して ①対面形式の授業となります。 ②授業資料は各回教場にて配付します。ただし、授業終了後翌日くらいに e-pass の「授業資料」に、当日のレジュメ(ただし一部穴あきの不完全なもの)へのリンクを掲示します。 ③連絡の取り方:各回の授業資料に掲載してある教員メールアドレスに連絡してください。 ④注意事項:毎週出席確認の課題・コメントの提出を求めます。後日まとめてコメントを提出することはできません。
成績評価の方法・基準	各回授業のレスポンスシートの提出・書き込み内容の積極性、期末レポート作成の内容、を考慮する。 期末レポートは論述問題を出題し、評価基準としては、 ①概念・諸現象についての知識の習得度 ②それらを各々の身近な社会的出来事と関連付けて論じられているか を見る。 第 15 週目を期末レポートの説明回とする。 授業への参加(コメントシートの提出回数+書き込み内容)60%、期末レポート 40%の予定。
教科書	購入が必須の教科書は特にありません。

参考書	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留, 2017, 『社会学の力——最重要概念・命題集』有斐閣. その他参考文献は授業各回の内容に関連するものを適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション
授業計画第2回 授業内容	自己の社会性
授業計画第3回 授業内容	日常生活の自己呈示:ゴフマン
授業計画第4回 授業内容	近代化と大衆社会
授業計画第5回 授業内容	自由からの逃走
授業計画第6回 授業内容	科学的管理法と人間関係論
授業計画第7回 授業内容	権威と服従、官僚制の逆機能
授業計画第8回 授業内容	マスメディアと社会的現実
授業計画第9回 授業内容	世論と集団の意思決定
授業計画第10回 授業内容	消費社会と感情労働
授業計画第11回 授業内容	社会的ジレンマとコモンス論
授業計画第12回 授業内容	繰り返し囚人のジレンマゲーム
授業計画第13回 授業内容	安心社会と信頼社会
授業計画第14回 授業内容	民主主義と市民社会(ハットナム「Making Democracy Work」)
授業計画第15回 授業内容	まとめと期末レポートの説明

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会学概論 I
担当教員	野田 潤
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>私たちが普段「当たり前」「常識」と思っていることの中には、思いがけない「非・当たり前」「非・常識」が潜んでいる。社会学は身の回りの事象をより広い社会の文脈に置くことで、ものの見方を増やしてくれる学問である。</p> <p>本講義(社会学概論 I)では初学者に向けて、社会的に考えるための物の見方とその方法を示す。とりわけ、「一般的には個人的な問題と考えられがちな事象がいかんして社会的な文脈を反映しているのか」という社会的な視点の習得に重点を置きながら、講義を進める。</p>
到達目標	<p>(1)社会学の基本的な概念や用語、理論、方法を理解する。</p> <p>(2)「社会的想像力」について理解し、具体例を挙げながら説明することができる。</p> <p>(3)個人的な問題と考えられている事象が、いかんして社会的な文脈を反映しているかを理解する。</p>
学習内容	<p>①授業実施形態:対面授業を行う。</p> <p>②使用するツール:本科目は対面授業だが、資料の配付や課題の管理のため、Google Classroom も併用する。必ず履修登録期間に公開される「講義連絡」を確認して、授業開始までに Google Classroom の登録を行うこと。</p> <p>授業は講義形式で行う。さまざまな理論や専門用語、事例の学習を通じて、社会学についての基本的な知識をつけ、個人と社会がいかんに関連しているかについて理解を深めていく。また、受講者の皆さんには、講義で学んだ知識や考えたことなどについて、毎回の授業内でリアクションコメントを提出してもらい、それに対して翌週の授業冒頭で教員からフィードバックをおこなう。</p>
成績評価の方法・基準	<p>定期試験をおこなう。</p> <p>成績は、定期試験(80%)および授業への参加態度(20%)で評価する。</p> <p>定期試験における具体的な評価基準は、①基本的な分析概念や専門用語の習得、②データや事例にもとづいた事実関係の正しい把握、③個人と社会の連関について理解する能力の3点である。</p> <p>授業への参加態度は、④毎回のリアクションコメントの提出状況によって評価する。</p>
教科書	特に指定しない。ただし講義中に適宜、必要資料を配布する。
参考書	アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』而立書房、2009年
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション～社会学とは何か
授業計画第2回 授業内容	社会学の方法①～さまざまな調査法と研究事例

授業計画第3回 授業内容	社会学の方法②～「価値自由」の考え方について
授業計画第4回 授業内容	「当たり前」は「不思議なこと」①～社会によって「常識」は異なる
授業計画第5回 授業内容	「当たり前」は「不思議なこと」②～個々人の行為と「意図せざる結果」
授業計画第6回 授業内容	「個人」を超えた現象としての「社会」①～デュルケームとウェーバーの研究事例から
授業計画第7回 授業内容	「個人」を超えた現象としての「社会」②～個人とは矛盾する「社会」の理屈
授業計画第8回 授業内容	社会学的想像力とは何か～個人と社会の連関を見つける
授業計画第9回 授業内容	個人を規定する社会～制度・構造・価値・規範
授業計画第10回 授業内容	個人は社会を変えることができるか？～構造化理論／パフォーマンスティビティ
授業計画第11回 授業内容	社会変動を考える～理論と事例
授業計画第12回 授業内容	「自然なるもの」と「社会」①～「日本人」とは何か
授業計画第13回 授業内容	「自然なるもの」と「社会」②～「性別」とは何か
授業計画第14回 授業内容	「個人の力」の両義性
授業計画第15回 授業内容	再び「社会学的想像力」について～「常識」を「うまく」手放す

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	社会学概論Ⅱ
担当教員	小藪 明生
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	本講義(社会学概論Ⅱ)では、現代社会を考える際に重要な論点について概観する。グローバリゼーション、格差社会、メディアによるコミュニケーション、世俗化などといった論点を提供する。そのほかに本講義ではこれらの重要な論点に共通する問題としての、現代社会における人間関係の変化を把握することを目的に、それを分析するための「社会的ネットワーク」や「社会関係資本」といった考え方に基づいて学ぶ。
到達目標	現代社会とその諸問題に関する社会学の基本的な考え方、概念、テーマについて理解し、それを学生自身の身近な社会現象に応用して論じることができるようになることを目標とする。
学習内容	通常は各回の授業を受講し、レジュメへの書き込みや講師の話を通じ理解していく。理解が十分にできなかった、もしくは興味を持ったトピックがある場合は、各回に示す参考文献にて理解を深めることができる。期末レポート作成時には、出題された論点について授業内容を確認すると共に、参考文献なども踏まえつつ選択したテーマについて各自の関心に基づいて独自の視点を付け加えることが求められる。 授業形態に関して ①対面形式の授業となります。 ②授業資料は各回教場にて配付します。ただし、授業終了後翌日くらいに e-pass の「授業資料」に、当日のレジュメ(ただし一部穴あきの不完全なもの)へのリンクを掲示します。 ③連絡の取り方:各回の授業資料に掲載してある教員メールアドレスに連絡してください。 ④注意事項:毎週出席確認の課題・コメントの提出を求めます。後日まとめてコメントを提出することはできません。
成績評価の方法・基準	各回授業のレスポンスシートの提出・書き込み内容の積極性、期末レポート作成の内容、を考慮する。 期末レポートは論述問題を出題し、評価基準としては、 ①概念・諸現象についての知識の習得度 ②それらを各々の身近な社会的出来事と関連付けて論じられているか を見る。 第15週目を期末レポートの説明回とする。 授業への参加(コメントシートの提出回数+書き込み内容)60%、期末レポート40%の予定。
教科書	購入が必須の教科書は特にありません。

参考書	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留, 2017, 『社会学の力——最重要概念・命題集』有斐閣. その他参考文献は授業各回の内容に関連するものを適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	現代社会論・導入
授業計画第2回 授業内容	都市社会の人間関係:「コミュニティ問題」
授業計画第3回 授業内容	都市の家族とネットワーク
授業計画第4回 授業内容	人脈・「弱い紐帯の強さ」
授業計画第5回 授業内容	ソーシャル・インフルエンス、価値観の伝播
授業計画第6回 授業内容	ネットワークの閉鎖性が持つ力
授業計画第7回 授業内容	格差と健康と社会関係
授業計画第8回 授業内容	格差の再生産と資本概念
授業計画第9回 授業内容	災害と地域のネットワーク
授業計画第10回 授業内容	観光のまなざし
授業計画第11回 授業内容	宗教の個人化と巡礼
授業計画第12回 授業内容	社会関係資本: パットナム『孤独なボウリング』
授業計画第13回 授業内容	一般的信頼
授業計画第14回 授業内容	インターネット社会のコミュニティ形成
授業計画第15回 授業内容	まとめと期末レポートの説明

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	社会学概論Ⅱ
担当教員	野田 潤
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	私たちが普段「当たり前」「常識」と思っていることの中には、思いがけない「非・当たり前」「非・常識」が潜んでいる。社会学は身の回りの事象をより広い社会の文脈に置くことで、ものの見方を増やしてくれる学問である。本講義(社会学概論Ⅱ)では、前期の社会学概論Ⅰで学んだ基礎知識をふまえて、引き続き初学者に向けて、社会的に考えるための物の見方と、社会学の基礎概念・用語・理論を示していく。とりわけ格差や自分探し、愛情中心主義、自己責任論の目立つ現代社会において、「社会的想像力」がなぜ重要なのかに注目しつつ、講義を進める。
到達目標	(1)社会学の基本的な概念や用語、理論を理解する。 (2)現代日本におけるさまざまな社会問題について、具体的に知識をつけ、社会的な視点で論じることができる。 (3)現代社会における「社会的想像力」の重要性について理解する。
学習内容	①授業実施形態:対面授業を行う。 ②使用するツール:本科目は対面授業だが、資料の配付や課題の管理のため、Google Classroomも併用する。必ず履修登録期間に公開される「講義連絡」を確認して、授業開始までにGoogle Classroomの登録を行うこと。 授業は講義形式で行う。前期の社会学概論Ⅰに引き続き、さまざまな理論や専門用語、事例の学習を通じて、社会学についての基本的な知識をつけ、現代社会における社会的想像力の重要性について理解を深めていく。また受講者の皆さんには、講義で学んだ知識や考えたことなどについて、毎回の授業内でリアクションコメントを提出してもらい、それに対して翌週の授業冒頭で教員からフィードバックをおこなう。
成績評価の方法・基準	定期試験をおこなう。 成績は、定期試験(80%)および授業への参加態度(20%)で評価する。 定期試験における具体的な評価基準は、①基本的な分析概念や専門用語の習得、②データや事例にもとづいた事実関係の正しい把握、③社会的な視点をもって広い視野で物事を把握する能力の3点である。 授業への参加態度は、④毎回のリアクションコメントの提出状況によって評価する。
教科書	特に指定しない。ただし講義中に適宜、必要資料を配布する。
参考書	アンソニー・ギデンズ『社会学 第五版』而立書房、2009年
授業計画第1回 授業内容	社会学の分析視角～社会的想像力とは何か

授業計画第2回 授業内容	さまざまな個人と「社会的秩序」～役割・規範・逸脱
授業計画第3回 授業内容	人はどのようにして「社会的存在」となるか～社会化のプロセス
授業計画第4回 授業内容	「自己」とは何か～アイデンティティと他者
授業計画第5回 授業内容	多元化する自己～「私」の多様性について
授業計画第6回 授業内容	社会の価値観は変化する①～「子ども」イメージの変容
授業計画第7回 授業内容	社会の価値観は変化する②～「教育する家族」の誕生
授業計画第8回 授業内容	教育と格差～大衆教育社会と家庭教育
授業計画第9回 授業内容	不平等とは何か～階層についての諸理論
授業計画第10回 授業内容	現代日本の格差問題～データや時事問題から
授業計画第11回 授業内容	ライフスタイルの多様化～さまざまな事例から考える
授業計画第12回 授業内容	多様化にまつわる現代日本の課題～選択肢の拡大としての多様化なのか、状況制約的な多様化なのか
授業計画第13回 授業内容	親密性の変容と再帰的近代～アンソニー・ギデンズの理論／親密性の価値の高まり
授業計画第14回 授業内容	個人化と第二の近代～ウルリッヒ・ベックの理論／個人の「選択」への焦点化
授業計画第15回 授業内容	個人化社会の問題と課題～今なぜ社会学的想像力が重要なのか

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	ジェンダースタディーズ B
担当教員	野田 潤
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	性別とは、私たちがふだん最も「当たり前」「自然」「常識」と思いがちな分野である。しかし本講義では、性別に関する私たちの「当たり前」が、いかに当たり前ではなく「不思議なこと」なのかについて、身近なトピックを用いながらさまざまに分析する。本講義ではとりわけ「社会問題とジェンダー」について注目する。女性が現代社会を生きていく上で経験するさまざまな問題が、いかに社会的な問題とつながっているのかを理解し、それに対応する力を養っていく。
到達目標	(1)「社会的に既定される性別」という、「ジェンダー」の考え方を理解できる。 (2)現代日本社会において、性別に関して具体的にどのような問題があるのか、根拠となるデータを引用しながら例を挙げることができる。 (3)性別に関わる身の回りの個人的な問題を、社会的な問題とつなげて考えることができる。
学習内容	①授業実施形態:対面授業を行う。 ②使用するツール:本科目は対面授業だが、資料の配付や課題の管理のため、Google Classroom も併用する。必ず履修登録期間に公開される「講義連絡」を確認して、授業開始までに Google Classroom の登録を行うこと。 授業は講義形式で行う。さまざまな事例やデータを通じてジェンダーについての基礎的な知識をつけると共に、現代日本社会における様々なジェンダー格差・ジェンダー問題への気づき、それに対する社会的課題についても考えていく。また、受講者の皆さんには、講義で学んだ知識や考えたことなどについて、毎回の授業内でリアクションコメントを提出してもらい、それに対して翌週の授業冒頭で教員からフィードバックをおこなう。
成績評価の方法・基準	定期試験をおこなう。 成績は、定期試験(80%)および授業への参加態度(20%)で評価する。 定期試験における具体的な評価基準は、①基本的な分析概念や専門用語の習得、②データや事例に裏付けされた事実関係の的確な把握、③社会的な視点をもって広い視野で物事を把握する能力の3点である。 授業への参加態度は、④毎回のリアクションコメントの提出状況によって評価する。
教科書	特に指定しない。講義中に適宜、必要資料を配布する。
参考書	伊藤公雄・牟田和恵・丸山里美編『ジェンダーで学ぶ社会学 第4版』世界思想社、2025年
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション——ガイダンス／「ジェンダー」について学ぶ意味

授業計画第2回 授業内容	ジェンダーとは何か——セックスとジェンダー／「女性であること」と「社会」の関係
授業計画第3回 授業内容	ジェンダーと社会——「役割」としてのジェンダー／ジェンダーは社会的に構築される
授業計画第4回 授業内容	多様なセックスと二分法のジェンダー——生物学的性差の多様性／セックスに作用するジェンダー
授業計画第5回 授業内容	ジェンダーギャップ指数を考える——ジェンダーギャップ指数とは何か／統計データの紹介
授業計画第6回 授業内容	教育・研究・政治の場におけるジェンダー——統計データの紹介／現代日本の傾向／社会的な課題
授業計画第7回 授業内容	就労の場におけるジェンダー——統計データの紹介／雇用・労働のジェンダー格差／原因と課題
授業計画第8回 授業内容	家庭におけるジェンダー——統計データの紹介／家庭におけるジェンダー問題／原因と課題
授業計画第9回 授業内容	ワークライフバランスを支える仕組み——賃金労働と無償労働の国際比較／制度の重要性
授業計画第10回 授業内容	性別役割分業と社会の変化——「主婦」の成立とゆらぎ／変化したこと・していないこと／展望と課題
授業計画第11回 授業内容	社会問題としてのジェンダー——社会構造的な要因を考えることの重要性
授業計画第12回 授業内容	貧困とジェンダー——統計データの紹介／女性と貧困／シングルマザーの日本的困難／展望と課題
授業計画第13回 授業内容	性差別とは何か——直接差別と間接差別／性暴力とジェンダー
授業計画第14回 授業内容	ライフスタイルの多様化とジェンダー問題——多様性が意識される時代／具体的事例／現状と課題
授業計画第15回 授業内容	ジェンダー問題のこれから——性差をめぐる諸問題のゆくえ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	家族と社会
担当教員	野田 潤
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	この講義では、家族社会学の基本的なことがらを学びつつ、「家族」という身近でプライベートだと思われがちな存在が、いかに社会的な文脈と深くつながっているのかを理解する。具体的には、基本的な分析概念や専門用語を学びつつ、結婚・仕事・家事・育児・ジェンダーといったトピックを通じて、現代日本の家族に特有な問題を社会学的な視点から考えていく。
到達目標	(1)家族にまつわる身近な個人的な問題を、社会的な文脈の中に位置づけて考えることができる。 (2)現代の日本における家族の現状と、それをとりまく社会的環境を理解する。 (3)現代の日本に見られる家族問題について、根拠となるデータや事例を挙げつつ、課題と対策を分析的に考えることができる。
学習内容	①授業実施形態:対面授業を行う。 ②使用するツール:本科目は対面授業だが、資料の配付や課題の管理のため、Google Classroomも併用する。必ず履修登録期間に公開される「講義連絡」を確認して、授業開始までに Google Classroom の登録を行うこと。 授業は講義形式で行う。さまざまな具体例を通じて「家族」と「社会」の連関について理解を深めると同時に、現代日本社会が抱える問題への気づき、それに対する社会的課題についても考えていく。また、受講者の皆さんには、講義で学んだ知識や考えたことなどについて、毎回の授業内でリアクションコメントを提出してもらい、それに対して翌週の授業冒頭で教員からフィードバックをおこなう。
成績評価の方法・基準	定期試験をおこなう。 成績は、定期試験(80%)および授業への参加態度(20%)で評価する。 定期試験における具体的な評価基準は、①基本的な分析概念や専門用語の習得、②データや事例に裏付けされた正しい現状把握、③社会的な視点をもって広い視野で物事を把握する能力の3点である。 授業への参加態度は、④毎回のリアクションコメントの提出状況によって評価する。
教科書	特に指定しない。ただし講義中に適宜、必要資料を配布する。
参考書	橋爪大三郎・大澤真幸ほか 2016『社会学講義』ちくま新書(第5章「家族社会学」pp.169-211)
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション～「社会」という視角から家族を考える
授業計画第2回 授業内容	家族と社会はつながっている①～地域が変われば家族も変わる

授業計画第3回 授業内容	家族と社会はつながっている②～時代が変われば家族も変わる
授業計画第4回 授業内容	「近代家族」の成立と広まり～今の「当たり前」はいつできたのか？
授業計画第5回 授業内容	現代日本の家族の多様性
授業計画第6回 授業内容	現代日本における未婚化の諸相～若者は本当に結婚に興味がないのか？
授業計画第7回 授業内容	社会経済的環境の激変と現代家族～低成長期のわたしたち
授業計画第8回 授業内容	共働きの進行と「新・性別役割分業」～従来のシステムの機能不全
授業計画第9回 授業内容	現代日本における働き方と家族～無限定正社員とケア労働
授業計画第10回 授業内容	現代日本における少子化の諸相～子育ては「無理ゲー」なのか？
授業計画第11回 授業内容	近代家族の問題点と限界①～孤立化する家族
授業計画第12回 授業内容	近代家族の問題点と限界②～性別役割分業の逆機能
授業計画第13回 授業内容	これからの社会的課題と対策①～新しい時代に即した仕組みとは
授業計画第14回 授業内容	これからの社会的課題と対策②～ケアの社会化をどう考えるか
授業計画第15回 授業内容	これからの社会的課題と対策③～社会問題の不可視化を起こさないために

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	家族関係論
担当教員	野田 潤
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	この講義では、家族社会学の基本的なことがらを学びつつ、変貌する現代社会におけるさまざまな家族関係について理解する。具体的には、基本的な分析概念や専門用語を学びつつ、家族形態・結婚・離婚・子育て・介護などといったトピックに関して、時代的・地域的多様性をふまえた日本の現状、今後の展望などについて理解する。また、これからの時代における多様な家族関係のあり方や、それを支えていくための社会的なサポートの必要性についても考えていく。
到達目標	(1)現代日本における多様な家族関係のあり方を理解する。 (2)家族関係のあり方は、時代や地域によっても大きく変化することを理解する。 (3)多様な家族関係のあり方を支えるためには、様々な社会的制度やサポート体制が必要であることを理解する。
学習内容	①授業実施形態:対面授業を行う。 ②使用するツール:本科目は対面授業だが、資料の配付や課題の管理のため、Google Classroomも併用する。必ず履修登録期間に公開される「講義連絡」を確認して、授業開始までに Google Classroom の登録を行うこと。 授業は講義形式で行う。さまざまな具体例を通じて多様な家族関係のあり方について理解を深めると同時に、現代日本社会が抱える問題への気づき、それに対する社会的課題についても考えていく。また、受講者の皆さんには、講義で学んだ知識や考えたことなどについて、毎回の授業内でリアクションコメントを提出してもらい、それに対して翌週の授業冒頭で教員からフィードバックをおこなう。
成績評価の方法・基準	定期試験をおこなう。 成績は、定期試験(80%)および授業への参加態度(20%)で評価する。定期試験における具体的な評価基準は、①基本的な分析概念や専門用語の習得、②データや事例に裏付けされた正しい現状把握、③根拠をもって広い視野で物事を考える能力の3点である。 授業への参加態度は、④毎回のリアクションコメントの提出状況によって評価する。
教科書	特に指定しない。ただし講義中に適宜、必要資料を配布する。
参考書	橋爪大三郎・大澤真幸ほか 2016『社会学講義』ちくま新書(第5章「家族社会学」pp.169-211)
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション～さまざまな家族関係のあり方
授業計画第2回 授業内容	家族の多様性①～「家族の定義」は可能か／事例研究の紹介

授業計画第3回 授業内容	家族の多様性②～価値の多元性と「社会」／事例研究の紹介
授業計画第4回 授業内容	結婚①～様々な結婚のかたち／データの紹介
授業計画第5回 授業内容	結婚②～現代日本における結婚の理想と現実／データの紹介
授業計画第6回 授業内容	離婚①～様々な離婚のかたち／データの紹介
授業計画第7回 授業内容	離婚②～現代日本におけるひとり親家庭の現状と社会的課題／データの紹介
授業計画第8回 授業内容	家事と育児①～女は昔から主婦だったのか／時代比較と国際比較
授業計画第9回 授業内容	家事と育児②～「育児はやっぱりお母さん」なのか／父の育児・家族以外の育児の歴史
授業計画第10回 授業内容	家事と育児③～「ワンオペ育児」はどこから来たか／働き方・家族形態・コミュニティ・社会意識
授業計画第11回 授業内容	介護①～超高齢社会における家族介護とその限界
授業計画第12回 授業内容	介護②～家族ならではの注意点
授業計画第13回 授業内容	愛情中心主義の時代へ①～親密性の価値の上昇
授業計画第14回 授業内容	愛情中心主義の時代へ②～何に注意すべきか
授業計画第15回 授業内容	これからの「家族」を考える／固定観念を「うまく」手放す

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	文化人類学
担当教員	片上 英俊
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>「文化人類学」では、文化というキーワードを手がかりにして、私たち人間という存在の独特のあり方について、学んでいきます。</p> <p>人間が作り出した生活の手段や考え方を「文化」といいます。</p> <p>文化人類学は、文化の研究をとおして、人間理解を試みる欧米の学問です。そして、今日の文化人類学は、特定の間人集団とその文化内容の研究とともに、政治・経済・宗教などの文化内容についての比較研究を、世界的な規模で行なっています。</p> <p>生物は遺伝によって、生きるために必要な姿形を手に入れ、それをもとに生きています。それに対して、人間という生物は驚くべきことに、自分じしんで生きる手段を作り出して、それをもとに生きています。そして、人間は集団ごとに、独自の文化内容を生み出し、それを伝えてきました。そのため、人間という生物の間では、自分たちが考え作り出した文化の違いから、生き方の多様化が進んでいます。</p> <p>そして、人間は現在に至るまで、文化を無数に生み出してきましたが、(1)農耕と牧畜、(2)西アジアの一神教、(3)西欧の文化が、人間の多様なあり方を理解する上で、特に重要です。なかでも、文化をめぐる現在の状況を振り返ると、例えば、資本主義の経済や主権国家の政治体制のように、西欧で特殊な発展を遂げた文化が世界の標準となり、私たちの生活に影響を及ぼしています。</p> <p>そこで、「文化人類学」では、私たち人間とその文化について、西欧の文化を含めて、学んでいきます。また、そのために必要な知識や考え方を、習得していきます。</p>
到達目標	<p>【到達目標】</p> <p>「文化人類学」では、教室での講義形式の学習をとおして、以下の3つの目標の達成をめざしていきます。</p> <p>(1)「文化」という概念を生物の次元から理解できるようになること</p> <p>(2)文化の視点から人間とその生活のあり方について説明できるようになること</p> <p>(3)学習内容を毎回、順序立てて学んでいくことで、物事を筋道を立てて述べる、という表現技術を習得すること</p> <p>【授業方法】</p> <p>最後に、この授業科目では、以下の授業方法によって、学習目標の達成をめざしていきます。</p> <p>各回の授業は、パワーポイントや教材提示装置を使って、講義形式を進めていきます。</p> <p>そして、教室では、作業シートの作成とリアクションペーパーの提出をとおして、学習目標の達成を図ります。この作業シートとは、講義内容の記録や図解を作成するための A4 サイズのプリント教材のことです。具体的には、以下の作業をおこないます。</p> <p>(1)作業シートの空欄や余白に語句や図解を書き写す</p> <p>(2)講義を聞いて、作業シートに補足を加える</p>

	<p>(3)リアクションペーパーに、当日の講義で重要だと思った点、印象に残った点を書き出す</p> <p>(4)リアクションペーパーに、当日の講義で疑問に思った点、よく理解できなかった点を書き出して、授業終了時に提出する</p> <p>(5)授業終了後、作業シートを用いて、論述形式の課題に取り組み、次回の授業で提出する。</p>
学習内容	<p>「文化人類学」では、文化の視点から人間を理解するために、人間の文化について、総論と各論に分けて学んでいきます。</p> <p>まず、総論では、「文化」という言葉の定義を行なったあと、私たち人間がなぜ、他の生物とは異なり、文化という特別な生き方で生きることができるのか、ということについて学びます。</p> <p>そして、各論では、人間の文化のなかでも、私たちの日常生活の土台になっている重要な文化内容について、学んでいきます。今年度は農耕と牧畜、ヒトの分配行動、西欧の文化について、とりあげます。</p> <p>なお、具体的な学習内容については、以下の授業計画をご覧ください。</p> <p>授業形態：対面授業</p>
成績評価の方法・基準	<p>成績評価は、100点満点法で行ないます。</p> <p>平常点(60点)、課題レポート(40点)の得点の合計を、この授業科目の成績として登録します。そして、60点以上を合格と判定し、合格の程度を10点ごとの段階評価で示します。</p> <p>平常点・課題レポートでは、以下の基準をもとに、学習内容に対する理解の程度について、段階的に評価します。</p> <p>(1) [平常点]授業で学んだ知識や考え方について、どの程度まで、正確に理解できているか(基礎)</p> <p>(2) [課題レポート]授業で学んだ文化に関する知識や考え方をういて、人間とその生活のあり方について、どの程度まで、説明することができるか(応用)</p> <p>なお、履修者の人数が30名以上のばあい、本学の評価指針にしたがい、「秀」と「優」の合計は、全体の40%が上限になります。くわしくは、本学の「成績評価のガイドライン」を参照してください。また、この授業科目では追試験を実施せず、平常点と課題レポートの得点の合計を、成績として登録します。</p> <p>最後に、大学の授業科目は教室での学習活動によって、目標の達成をめざします。そこで、この授業科目の成績評価では、教室での学習への意欲がもてるように、平常点の難易度を低くするとともに、配点を多くしています。</p>
教科書	教科書は使用しません。複数の文献から要点をまとめた講義ノートをもとに、授業を行ないます。
参考書	<p>[導入]戸川達男『動物の生き方 人間の生き方—人間科学へのアプローチ—』コロナ社、2004年</p> <p>[総論]北原隆・乗越皓司『道具の起源—類人猿から初期人類への道具行動の発展—』東海大学出版会、1986年</p> <p>[各論]中尾佐助『農耕文化(日本大百科全書)』、http://libweb.toyoeiwa.ac.jp/lib/database.html</p> <p>『ジャパナレッジ Lib』(参照 2017-02-10)</p> <p>[各論]中川洋一郎『ムギ・ヒツジ・奴隷』学文社、2011年</p> <p>[各論]阿部謹也『近代化と世間—私が見たヨーロッパと日本—』朝日文庫、2014年</p>
授業計画第1回 授業内容	[はじめに]「文化人類学」は学習目標の達成をどのようにめざすか

授業計画第2回 授業内容	[導入]文化とは何か
授業計画第3回 授業内容	[総論]人類はいかに文化という生き方を手に入れたか—ヒト科のほ乳類における道具行動とその意義—
授業計画第4回 授業内容	[総論]言語の獲得とその意義—ヒトの心に何がおきたか—
授業計画第5回 授業内容	[総論]人間は世界観をとおして、世界をどのように認識してきたか
授業計画第6回 授業内容	[農耕]栽培植物と農耕の起源
授業計画第7回 授業内容	[農耕]ムギと文明—西アジアでの農耕の展開と古代文明の誕生—
授業計画第8回 授業内容	[農耕]西アジアの遊牧と奴隷制
授業計画第9回 授業内容	[交換]人間はなぜ分かち合うことができるか—ヒトの分配行動とその特殊性—
授業計画第10回 授業内容	[交換]贈与交換とその役割
授業計画第11回 授業内容	[交換]日本人は交換をとおしてどんな生活空間のなかで生きてきたか
授業計画第12回 授業内容	[西欧]キリスト教と世界観の一元化
授業計画第13回 授業内容	[西欧]西欧における個人の誕生
授業計画第14回 授業内容	[西欧]贈与から取引へ—西欧における資本主義経済の発展—
授業計画第15回 授業内容	[おわりに]「文化人類学」は学習目標の達成をどのようにめざしてきたか

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	哲学概論
担当教員	比留間 亮平
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	バートランド・ラッセルはその『西洋哲学史』において、さまざまな哲学者たちはそれぞれの時代の政治や社会が産んだ「結果」であり、また後の時代の政治や社会を形成していく「原因」でもあると述べている。実際、あらゆる哲学者はその時代における様々な問題と向き合い、それと苦闘する中でその思想を形成していった人々であり、そうした時代状況を抜きにしてそれぞれの思想を理解することはできない。本講義では、古代から現代までの西洋哲学の基本的な学説のいくつかを、それぞれの時代状況との関連の下で学んでいく。同時に、それぞれの思想が後の時代にどのような影響を与え、引き継がれていったのかも考察していくこととなる。
到達目標	西洋哲学の基本的な知識を身に付けること。同時に西洋史一般についてその基本的な流れを理解すること。
学習内容	①授業実施形態:対面 ②使用するツール:特になし ③授業の進め方:講義レジュメとスライドを用いながら授業を進め、各回の最後に課題を提出する。 ④その他:連絡・質問の方法や、教員の連絡先などは後日 e-pass に掲示する。
成績評価の方法・基準	各回の課題を50%、期末レポートを50%として評価する。 課題の提出回数が規定に満たない場合は成績評価の対象とならないので、注意すること。
教科書	特になし。
参考書	内山勝利編 『哲学の歴史1 哲学誕生』中央公論新社 2008年
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス
授業計画第2回 授業内容	プラトンと「あの世」の哲学
授業計画第3回 授業内容	アリストテレスと「この世」の哲学
授業計画第4回 授業内容	ストア主義とエピクロス主義

授業計画第5回 授業内容	イスラーム世界の哲学
授業計画第6回 授業内容	中世哲学と普遍論争
授業計画第7回 授業内容	ルネサンス哲学:世界と人間の発見
授業計画第8回 授業内容	デカルトと近代哲学
授業計画第9回 授業内容	カントの理性批判
授業計画第10回 授業内容	啓蒙主義とロマン主義
授業計画第11回 授業内容	功利主義と近代社会
授業計画第12回 授業内容	ニーチェの反哲学と近代の危機
授業計画第13回 授業内容	マルクスと史的唯物論
授業計画第14回 授業内容	サルトルと実存主義
授業計画第15回 授業内容	まとめ:西洋思想史における「正しさ」の系譜

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	生命倫理
担当教員	田中 智彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>この授業では、「生命倫理とは何か」について学ぶとともに、そのことを通じて、「生命の倫理を問うとはどういうことか」について探究していきます。</p> <p>「生命倫理」という学問・制度が「誕生」してから約半世紀がたちました。この間、医学・医療や生命科学をめぐってさまざまな議論が行われ、実際にもさまざまな制度や法律、ルールが作られてきました。今日では、ひとのいのちに関わること(誕生、病い、老い、障害、死)や先端的な治療・研究が話題にされるときには、「いま倫理が問われている」「新しい倫理が求められている」と語られるのが常ともなっています。</p> <p>今後も医学・医療、生命科学は発展してゆくことをやめないでしょうし、それにともない、たえず新たな問題が起こり、そのたびに「倫理が問われる」ことになるでしょう。ですから、これからの時代を生きていくためには、「生命倫理とは何か」について学んでおくことは大切なことです。けれども、それだけでは十分ではありません。というも、法律やルールを守ることと、倫理的にふるまうことが同じではないように、「生命倫理について知る」と、「生命について倫理的に考える」とは同じではないからです。そしてそうであればこそ、「生命の倫理を問うとはどういうことか」について、あらためて問う必要があるのです。</p> <p>「生命(の)倫理」をめぐろうとした問いかけに、一人ひとりが自分の答えを見いだしていく——そうすることによって、「ひとのいのち」をどう考えるかについて、また「自分のいのち」をどう生きるかについても、新たな視点が開かれてくるはずです。そのために、哲学や歴史学などのさまざまな助けも借りながら、議論を進めていきたいと思えます。</p>
到達目標	<p>1)「生命倫理」とはどのようなものか、その意義は何であり、限界はどこにあるのかについて理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2)「生命」について倫理的に考える視点をもち、そこから社会や科学はどうあるのが望ましいのか、自分なりの見解をもつことができるようになる。</p>
学習内容	<p>対面で実施します。</p> <p>生命倫理(bioethics)はアメリカで1960年代末に「誕生」し、70年代から80年代にかけて確立されました。それゆえ生命倫理には、アメリカの歴史的・文化的・社会的な影響が強く刻印されています。つまり「生命について倫理的に考える」と言っても、そこには目に見えない「考え方の枠組み」というものがあり、よくよく気をつけないと、その「枠組み」におさまることがただけを考えて(＝おさまらないことがらは考えようともしないで)、それで「考えたつもり」になってしまうということが起こります。そしてこのことは、現代に生きる私たちにも当てはまることなのです。</p> <p>そこでこの授業では、まず生命倫理の「考え方の枠組み」に目を向け、次に視線を転じて近代から現代へと至る歴史を見つめ、そうして私たち自身がどのような「枠組み」で——自分ではそうとは気づかな</p>

	い仕方——「生命」について考えるようになっているのかを検討します。そしてそのことをふまえた上で、生命倫理で「問題」とされることがらに立ち戻り、「生命について倫理的に考える」とはどういうことなのかを考察します。こうすることによって、私たち自身の「考え方の枠組み」を明るみに出し、批判的に捉え返すことが可能になるでしょう。その「枠組み」をよりよいものにするにはどうすればよいのか——自分なりの答えを出すことが、この授業の目標です。
成績評価の方法・基準	期末レポート(55%)、毎回の授業の振り返り(30%)、授業への参加態度(15%)
教科書	教科書は用いません。授業では随時、レジュメや文献資料を配布します。
参考書	香川知晶『命は誰のものか 増補改訂版』ディスカヴァー携書、2021年。 香川知晶・榎則章責任編集『生命倫理の基本概念』丸善出版、2012年。
授業計画第1回 授業内容	「倫理」とは何か／何でないのか①——科学技術と法
授業計画第2回 授業内容	「倫理」とは何か／何でないのか②——法と倫理
授業計画第3回 授業内容	わたしの「いのち」「からだ」は誰のもの？①——「自己決定権」の来歴
授業計画第4回 授業内容	わたしの「いのち」「からだ」は誰のもの？②——「自己決定権」と現実
授業計画第5回 授業内容	死の自己決定権？①——安楽死・尊厳死の現在
授業計画第6回 授業内容	死の自己決定権？②——安楽死・尊厳死の背景
授業計画第7回 授業内容	死の自己決定権？③——「会員制クラブ〈この世〉」
授業計画第8回 授業内容	「いのち」の査定とその歴史①——「資源」としての人間
授業計画第9回 授業内容	「いのち」の査定とその歴史②——「優生」とアメリカ
授業計画第10回 授業内容	「いのち」の査定とその歴史③——「優生」と世界
授業計画第11回 授業内容	産むこと／生まれることをめぐって①——優生保護法と日本社会
授業計画第12回 授業内容	産むこと／生まれることをめぐって②——ハンセン病と日本社会
授業計画第13回 授業内容	「いのち」「からだ」と政治・経済①——「資源」としての身体

授業計画第 14 回 授業内容	「いのち」「からだ」と政治・経済②——生を選び、死を与える
授業計画第 15 回 授業内容	「生命の倫理」を問うとはどういうことか

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	宗教学概論 I
担当教員	奥山 倫明
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	宗教学・宗教社会学を通じて、現代日本の宗教現象の捉え方を学ぶ。
到達目標	1、現代日本の宗教状況について概観することにより、一般的な知識を得ることができる。 2、日本の宗教を考えるうえで役立つ、さまざまな概念を習得する。 3、現代日本の宗教と、それに関連する文化社会現象が提起する諸問題について理解が深まる。
学習内容	・講義形式のオンデマンド型オンライン授業。 ・Google Classroom、e-pass と英和メールで連絡を行なう。 ・予習、講義、講義に基づいた課題学習を通じて、教科書の内容理解に努める。
成績評価の方法・基準	・11 回以上の出席を評価の前提とする。 ・授業後に実施する課題の提出 40%、最終レポート 60%
教科書	高橋典史・塚田穂高・岡本亮輔編『宗教と社会のフロンティア—宗教社会学からみる現代日本』勁草書房、2012
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	総論—日本社会における宗教の特徴
授業計画第2回 授業内容	新宗教の展開と現状
授業計画第3回 授業内容	社会問題化する宗教—「カルト問題」の諸相
授業計画第4回 授業内容	生きづらさと宗教—宗教の新しい社会参加のかたち
授業計画第5回 授業内容	拡散・遍在化する宗教—大衆文化のなかの「スピリチュアル」
授業計画第6回 授業内容	聖地巡礼とツーリズム

授業計画第7回 授業内容	日常／生活のなかの宗教―〈民俗〉を越えて
授業計画第8回 授業内容	変わりゆく葬儀・墓
授業計画第9回 授業内容	生命倫理学とスピリチュアルケア―死生の臨床と宗教
授業計画第10回 授業内容	政治と宗教―現代日本の政教問題
授業計画第11回 授業内容	日本における宗教教育の歴史とその課題
授業計画第12回 授業内容	グローバル化する日本の宗教―日本宗教の海外進出と外来宗教の到来
授業計画第13回 授業内容	社会を読み解くツールとしての宗教社会学
授業計画第14回 授業内容	宗教法人とは何か／沖縄の宗教／現代日本の「宗教と社会」についてさらに学ぶ・調べるには
授業計画第15回 授業内容	まとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	宗教学概論 I
担当教員	中西(高久) 恭子
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	宗教学から見た宗教現象の諸相
到達目標	(1)宗教学的なものの考え方を理解する。 (2)身近な宗教現象の観察方法を知る。 (3)宗教現象と隣接する「世俗」の諸現象についての知見と洞察を深める。
学習内容	この授業では、宗教学のさまざまな方法論を通して宗教現象とその類似現象を観察し、洞察する方法を概説する。 (1)宗教学は宗教の多元性をどのように観察しているか (2)宗教学は宗教と争いをどのように理解しているか (3)宗教は学問や科学とどのような関係にあるのか (4)宗教とジェンダーとセクシュアリティ (5)宗教現象と芸術／サブカルチャーと身体表現 (6)宗教とパブリック・ヒストリーと記憶 の各テーマに沿って、宗教を学問的に理解する手がかりを得る。 この授業はオンデマンドで開講する。配信動画・資料とリアクションペーパーは Google Classroom 上で配布し、提出物も Google Classroom で管理するので、指示に従って必ず Google Classroom に登録すること。
成績評価の方法・基準	リアクションペーパーの内容 20%、期末レポート 80% オンライン開講のため、リアクションペーパー(各回の授業課題)を Google Form 形式で Google Classroom 上に掲出する。出席者は必ず取り組み、提出すること。 期末レポートを必ず提出すること。期末レポートを提出しない場合は失格とする。 期末レポートの成績評価は(1) 授業と課題の趣旨を理解し、適切なテーマの選択ができているか(2) 事例の紹介を論理立てて行っているか を重視する。
教科書	特に指定しない
参考書	岩田文昭・碧海寿広編『知っておきたい 日本の宗教』ミネルヴァ書房、2020 年
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス 宗教学とはどのような学問か この授業の受講方法・問題関心について

授業計画第2回 授業内容	宗教とはなにか 初回の授業のリアクションペーパーへの質疑応答と受講生諸君の問題意識の共有
授業計画第3回 授業内容	宗教学は宗教の多元性・多様性をどのように理解しているか
授業計画第4回 授業内容	宗教学は「宗教と争い」をどのように考えているか
授業計画第5回 授業内容	宗教は学問や科学をどのような関係にあるか(1) 宗教学という学問はいかにして出現したか
授業計画第6回 授業内容	宗教は学問や科学とどのような関係にあるか(2) 宗教学は宗教と科学の関係をどのように理解しているか
授業計画第7回 授業内容	宗教は学問と科学とどのような関係にあるか(3) 世界の諸宗教と生命倫理・環境倫理
授業計画第8回 授業内容	宗教とジェンダーとセクシュアリティ(1) 論点を整理する
授業計画第9回 授業内容	宗教とジェンダーとセクシュアリティ(2) 世界の諸宗教はジェンダーとセクシュアリティをめぐる課題をどのようにとらえているか
授業計画第10回 授業内容	宗教現象と芸術／サブカルチャーと身体表現(1) 祈りと祭り
授業計画第11回 授業内容	宗教現象と芸術／サブカルチャーと身体表現(2) 物語・詩歌と宗教
授業計画第12回 授業内容	宗教現象と芸術／サブカルチャーと身体表現(3) 宗教と疑似宗教:「推し活」は「宗教」なのか?
授業計画第13回 授業内容	宗教とパブリック・ヒストリー(1) 宗教学は集会的記憶とその保存をどのように理解しているか
授業計画第14回 授業内容	宗教とパブリック・ヒストリー(2) 宗教学は人間と宗教の関係の歴史をどのように把握するか
授業計画第15回 授業内容	まとめと質疑応答(授業の進み具合・受講生の関心によって予定が変わることがあります)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	宗教学概論Ⅱ
担当教員	奥山 倫明
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	比較宗教学的な観点から見た日本の宗教
到達目標	1、日本の宗教を客観的に説明することができるようになるための基礎知識を身に付ける。 2、一般的な概説書の読解と要約ができるようになる。
学習内容	・対面授業で、講義形式で実施する。 ・通知連絡は e-pass により、問い合わせは英和メールにより行なう。 ・概説的な書物の読解を通じて、日本の宗教をめぐる基礎知識を身に付け、それをもとに説明ができるようになることを目指していく。
成績評価の方法・基準	・11 回以上の出席を評価の前提とする。 ・授業の参加態度 50%と、最終レポート 50%による総合評価。
教科書	岩田文昭・碧海寿広編『知っておきたい 日本の宗教』ミネルヴァ書房、2020 年
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション
授業計画第2回 授業内容	日本人は無宗教なのか 日本人の休日とは
授業計画第3回 授業内容	京都の宗教施設を外国人に案内しよう 東京の宗教施設を外国人に案内しよう
授業計画第4回 授業内容	日本人は岩や山を拝んでいるのか 日本にはどんな聖地や巡礼があるのか
授業計画第5回 授業内容	正月やお盆の行事とはなんなのか 日本の祭りや儀式とは
授業計画第6回 授業内容	日本では終活が盛んときいたが 日本の墓とはどんなものか

授業計画第7回 授業内容	日本の政治と宗教の関係はどうか 天皇制とはなにか
授業計画第8回 授業内容	学校に「宗教」の時間はないのか 日本の大学に危険な宗教サークルはあるのか
授業計画第9回 授業内容	日本人は戦死者をどのように追悼してきたのか 東アジアとの関係はどうか
授業計画第10回 授業内容	新宗教とはなにか 日本の宗教は苦しむ人をたすけているか
授業計画第11回 授業内容	キリスト教はどのように受容されているのか イスラム教徒用のレストランはあるのか
授業計画第12回 授業内容	坐禅する外国人が多いのか 日本人はどんな瞑想をしているのか
授業計画第13回 授業内容	なぜオカルトブームが起こるのか 日本の神話や物語にはどんなものがあるか
授業計画第14回 授業内容	日本の僧侶は結婚しているのか 女人禁制とはなにか
授業計画第15回 授業内容	水子供養とはなにか クローン人間をつくっていいのか まとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	宗教社会学
担当教員	橋迫 瑞穂
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>本授業科目は 社会学の理論と方法に基づきながら、現代日本社会における宗教／スピリチュアリティのあり様について、個人のアイデンティティや社会のありようどのような関係にあったのかに注目して検討することを目的とする。</p> <p>70年代に日本社会に到来した「宗教ブーム」は消費社会のなかで様々な影響を個人に与えてきた。そのなかで、時に宗教教団が暴力を社会に引き起こしたりもしている。他方でスピリチュアリティも浸透してきた。スピリチュアリティとは個人が直接的に聖性や超越性に接近しようとする宗教的・文化的な動向のことを指すが、市場を形成するなかで他の文化と接合することでより広まりを示してきた。占いやヒーリングなどが今でも人気を集めているが、それはなぜなのかを考察する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会学の理論と方法を踏まえながら、社会の宗教的事象について理解することができる。 ・現代社会における宗教の諸相とその特質を、社会学の見地からとらえることができる。 ・宗教と暴力の関係性について考えを深めることができる。 ・スピリチュアリティが 現代社会の文化やジェンダー、フェミニズムとどのようにかかわっているかについて理解している。
学習内容	<p>社会学や宗教社会学の基礎を検討した上で、具体的な事例を取り上げながら現代日本社会におけるスピリチュアリティのあり様や、他の文化との関わり方、さらにはジェンダーやフェミニズムとの結びつきについて検討する。また、宗教と暴力という根本的な論理についても取り上げたい。社会学の見地から宗教を取り上げることの意義や面白さについて、理解することが目標である。</p> <p>対面授業で行う。</p>
成績評価の方法・基準	試験(16週目の定期試験期間に実施)50%、出席カードの内容 30%、授業への参加態度 20%
教科書	授業中に指示する
参考書	橋迫 瑞穂『妊娠・出産をめぐるスピリチュアリティ』集英社新書
授業計画第1回 授業内容	社会学とは何か: 社会学のものの見方や基礎を学びつつ、社会学から宗教／スピリチュアリティを取り上げる意味について紹介する。
授業計画第2回 授業内容	宗教社会学の基礎①: 近代における宗教の変遷について、社会学の理論を踏まえながら検討する。

授業計画第3回 授業内容	宗教社会学の基礎②:引き続き、宗教社会学の理論に立脚しながら、現代における宗教の社会的役割について検討する。
授業計画第4回 授業内容	現代日本社会と宗教ブーム①:70年代から80年代に起こった「宗教ブーム」について具体的な事例を踏まえつつ理解する。
授業計画第5回 授業内容	現代日本社会と宗教ブーム②:80年代の情報化社会と宗教ブームの結びつきについて事例を踏まえつつ理解する。
授業計画第6回 授業内容	現代日本社会の宗教と暴力①:オウム真理教に注目しつつ、現代社会における宗教と暴力の関係について検討する。
授業計画第7回 授業内容	現代日本社会の宗教と暴力②:オウム真理教を取り上げつつ宗教の魅力と暴力のあやうい関係性について理解する。
授業計画第8回 授業内容	現代日本社会の宗教と暴力③:暴力と宗教についての理論を取り上げ整理しつつ理解する。
授業計画第9回 授業内容	スピリチュアリティの社会学①:スピリチュアリティに注目して、スピリチュアリティとはどのようなものであり、社会においてどのように受容され広まってきたのかを検討する。
授業計画第10回 授業内容	スピリチュアリティの社会学②:具体的な資料を交えつつ、スピリチュアリティについて特に占いに注目して検討を進める。
授業計画第11回 授業内容	「遊び」の理論社会学①:宗教／スピリチュアリティの根本にあるものとして、「遊び」という概念がある。この「遊び」の概念を紹介しつつ、宗教／スピリチュアリティと個人の関係について検討する。
授業計画第12回 授業内容	「遊び」の理論社会学②:引き続き「遊び」の概念について検討しつつ、自己と宗教の関係について理解する。
授業計画第13回 授業内容	メディアのなかの「魔女」 現代における魔女の存在に着目しつつ、雑誌やネットなどといったメディアとスピリチュアリティの関係について考える。
授業計画第14回 授業内容	フェミニズムとスピリチュアリティ:フェミニズムとスピリチュアリティが複雑な関係をなしていることに注目して事例を交えつつ理解する。
授業計画第15回 授業内容	まとめ:これまでの授業をふりかえりつつ、スピリチュアリティ／宗教を社会学から検討することの意義や、暴力、「遊び」との関係について改めて精査する。

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	死生学概論
担当教員	田中 智彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>最近では医療や病気が話題になるとき、「ふだんから死について考えておかなければならない」と言われるのをよく耳にします。「自分の死は自分で決められるようにするべきだ」という声もあります。また実際にも、保険証や運転免許証の裏面に「臓器提供に関する意思を表示する」欄が設けられていたり、「終活」や「人生会議」をすること、「エンディングノート」を作ることが推奨されたりしています。たしかに一般論としては、「死について考える」ことは大事なことなのでしょう。しかしその一方で、「もし脳死になったらどうするか」「もし寝たきりになったらどうするか」を考えておくことが、はたして「死について考える」ことなのかどうか、疑問に思われなくもありません。</p> <p>というも、日ごろから「死について考える」よう求める現代社会は、同時に、その日ごろの暮らしから「死」という出来事がかつてないほど遠ざけられている社会でもあるからです。言い換えるなら、この社会では「死について考える」にしても、メディアで語られる「死」と医療機関で判断・処理される「死」のほかには、手がかりとなるものがほとんどありません。そこでは「死」は、「死のイメージ」のそのまた断片として見聞きされるだけであり、それゆえ「死について考える」ことも、その見聞きされた範囲のなかでしか行われないうことになりません。しかしそうであるとするならば、私たちは「死」について、ただ社会の求めるままに「考える」ことで満足してはならないでしょう。むしろその社会のありようをも問いながら、そもそも「死について考える」とはどのようなことなのかを「考える」、というところから始めなければならないはずです。</p> <p>この授業ではこうした視点から、「死」と「生」と「社会」について、さまざまな学問領域を行き来しながら考察し、探究を進めていきます。</p>
到達目標	<p>1)現代社会の死生観にはどのような来歴と特徴があるのか、またどのような問題があるのかについて理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2)「死について考える」とはどのようなことかについて、また死生学の意義と今後の課題について、自分なりの見解をもつことができるようになる。</p>
学習内容	<p>対面で実施します。</p> <p>「死」について知り、考えることができるのは、すべての生き物のなかで人間だけだと言われます。なぜ、そしてどのような意味でそう言えるのか、というところからこの授業は出発します。古今東西さまざまな人間の文化があり、社会がありますが、「死」をめぐるそのどれもに共通すると考えうる特徴が、そこから導き出されることとなります。</p> <p>しかし他方で、「死」をめぐる歴史的・文化的・社会的にさまざまな違いもあります。それゆえ次に、そうした違いに目を向けていきます。そこでとりわけ重要になるのは、近代という時代が訪れ、近代社会という社会が成立することで、死生観にどのような変化がもたらされたのかということです。そしてその変化について知ることが、私たちの生きる現代社会の死生観がどのようにしてできあがったのか、どのような特徴をもっているのかについて知ることにつながります。</p>

	現代社会に生まれ落ちた私たちには、現代社会の死生観が当たり前になっているために、そのどこに問題があるのかがかえって見えにくくなっています。ここまでの一連の考察が、そうした問題のありかを照らし出してくれるでしょう。その成果をふまえて、現代社会において「死について考える」には何が必要なかを考察していきます。
成績評価の方法・基準	期末レポート(55%)、毎回の授業の振り返り(30%)、授業への参加態度(15%)
教科書	教科書は用いません。授業では随時、レジュメや文献資料を配布します。
参考書	清水 哲郎， 島蘭 進(編集)『ケア従事者のための死生学』ヌーヴェルヒロカワ
授業計画第1回 授業内容	「死」と「死者」
授業計画第2回 授業内容	「死者」と「生者」①——「死」と「死者」
授業計画第3回 授業内容	「死者」と「生者」②——「死者」と「生者」
授業計画第4回 授業内容	「死者」の世界
授業計画第5回 授業内容	「死」と「生」
授業計画第6回 授業内容	「死」と近代
授業計画第7回 授業内容	「死」と医学
授業計画第8回 授業内容	「死」と国家
授業計画第9回 授業内容	「死」と戦争
授業計画第10回 授業内容	「死」と現代社会①——「死」と社会構造
授業計画第11回 授業内容	「死」と現代社会②——「死」と現代医学
授業計画第12回 授業内容	「死」と自己決定権①——「自己所有」の錯覚
授業計画第13回 授業内容	「死」と自己決定権②——「自己責任」の重荷
授業計画第14回 授業内容	死者・生者・他者①——「メメント・モリ」再考
授業計画第15回 授業内容	死者・生者・他者②——「死者を想う」ということ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	臨床死生学
担当教員	古澤 有峰
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	人間にとって生と死は永遠のテーマである。文化や心理、医学や宗教をはじめとした広い分野で 古くから扱われてきたが、死生の学問的研究が始まったのはまだ比較的近年になってからのことである。この授業では死生学(death and life studies)の観点から、死生観、死と文化、生命倫理、臓器移植、尊厳死、リビングウィル、デスエデュケーション、ターミナル・ケア、死の心理等、死にまつわる諸問題を学ぶことを通して、生のあり方を考えたい。
到達目標	多様な視点から人間の死生の問題を捉えられるようになる事・現代社会における死生をめぐる現在進行形の課題についての知見や見識を深める事・本授業におけるテーマについて自分なりの意見をまとめ論述出来るようになる事
学習内容	デスエデュケーション、ターミナルケア、死にまつわる心理、死と文化、諸宗教の死生観、日本人の死生観、死生観と生命倫理、死への心理学的アプローチについて学ぶ
成績評価の方法・基準	授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。
教科書	教科書は使用しない(授業内容をパワーポイント資料で随時配布)
参考書	島藺進・竹内整一編『死生学[1]死生学とは何か』東京大学出版会、2008年 ほか (授業中に随時紹介)
授業計画第1回 授業内容	死生学とは(1): 死生学の定義、死生学の対象、死生学の分野・領域
授業計画第2回 授業内容	死生学とは(2): 死生学と死生観、ライフサイクル、隣接関連領域
授業計画第3回 授業内容	デスエデュケーションについて: 生涯教育の文脈から
授業計画第4回 授業内容	デスエデュケーションについて: 医療看護ケアの文脈から
授業計画第5回 授業内容	ターミナル・ケアについて: 医療倫理・宗教学的観点から

授業計画第6回 授業内容	ターミナル・ケアについて:ホスピス等での事例から
授業計画第7回 授業内容	死にまつわる心理について:スピリチュアルケアの観点から
授業計画第8回 授業内容	死にまつわる心理について:アニマル・セラピーの観点から
授業計画第9回 授業内容	死と文化について:葬儀の変遷から
授業計画第10回 授業内容	死と文化について:遺体についての観点から
授業計画第11回 授業内容	諸宗教の死生観:仏教の死生観、キリスト教の死生観、イスラム教の死生観
授業計画第12回 授業内容	日本人の死生観:古代社会、神道、仏教伝来以降、民俗宗教、現代の日本人
授業計画第13回 授業内容	死生観と生命倫理:臓器移植と生命倫理、安楽死、尊厳死、リビングウィル・遺言
授業計画第14回 授業内容	死への心理学的アプローチ:ユング、 فرانクル、キューブラー・ロス
授業計画第15回 授業内容	まとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会科・地歴科教育法Ⅰ
担当教員	水谷 悟
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学社会・高校地理歴史
単位数	2
テーマ・内容	実践的な授業方法を体得するため、大学と中学部・高等部との連携をはかりつつ、学校現場を活用して講義および演習を行う。 1) 中学部・高等部で社会科・地歴科に関わる複数の授業を見学し、授業の方法や教材の活用を実践的に学ぶ。 2) 教育現場に立つ先生方と相談し、関連業務について概説し、可能な範囲で業務をサポートする場面を設ける。 3) 学生各自で授業案を作成し、より実践的な模擬授業を行い、教育実習に必要なレベルに到達する。
到達目標	1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 中学校社会および高等学校地理歴史科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 5) 中学校社会および高等学校地理歴史科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
学習内容	中学校社会科・高校地理歴史科の意義と課題について、中高部の教育「現場」において優れた実践例や教材活用に接することで具体的に理解する。学生は授業見学や業務補助を通じて教師の仕事を体験する。その上で学習指導案を作成し、模擬授業を行い、より実践的な力を身に付ける。
成績評価の方法・基準	授業内での取り組みを重視する。平常点(小レポート等の提出、業務サポート)40%、学習指導案と模擬授業 30%、最終レポート・テスト 30%で評価する。
教科書	『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』
参考書	『中学校社会科の検定済教科書』『高等学校地歴科の検定済教科書』
授業計画第1回 授業内容	学校の歴史と社会科・地歴科教育の意義①: 学校および社会科・地歴科教育の歴史について概説し、私学にとっての「建学精神」を解説する。加えて、「学習指導要領」における中学校社会科の目標について学生たちとの意見交換を通じて考察し、学習評価の考え方についても事例を挙げて説明する。
授業計画第2回 授業内容	授業見学と指導案作成①: 中学校社会(地理的分野)の授業を見学し、情報機器及び教材の効果的な活用法を学び、生徒の認識・思考、学力の実態を視野に入れた授業設計の重要性を学び、学習指導案の作成に活用する。また、地理的分野で扱う範囲には、現代の差別や格差の問題に列なる内容も含まれているため、個別の学習内容について指導上の留意点を理解するとともに、その背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することを指導する。
授業計画第3回 授業内容	授業見学と指導案作成②: 中学校社会(歴史的分野)の授業を見学し、情報機器及び教材の効果的な活用法を学び、生徒の認識・思考、学力の実態を視野に入れた授業設計の重要性を学び、学習指導案の作成に活用する。さらに「学習指導要領」における中学校社会科(歴史的分野)の主な内容について学生たちのグループワークをもとにしながら分析し、学習評価の考え方についての理解を深める。
授業計画第4回 授業内容	授業見学と指導案作成③: 中学校社会(公民的分野)の授業を見学し、情報機器及び教材の効果的な活用法を学び、生徒の認識・思考、学力の実態を視野に入れた授業設計の重要性を学び、学習指導案の作成に活用する。特に政治や宗教に関わる複雑な問題を扱うため、個別の学習内容について指導上の留意点を理解した上で、発展的な学習内容について探究するように指導していく。
授業計画第5回 授業内容	職務の概説と業務補助①: 中学校・高等学校における教員の職務を概説し、実際に教科指導の一部(歴史的分野のコメントペーパー点検)を体験してみる。(生徒の個人情報管理には十分に注意します)ただし、その作業を進めるには、個別の学習内容について指導上の留意点を理解すると同時に、中学校社会科(歴史的分野)の学習評価の考え方ならびにその背景となる学問領域との関係も理解する必要があるため、改めてそれらの解説を加えながら進めていく。

授業計画第6回 授業内容	授業見学と指導案作成④: 高校地理歴史科(世界史探究)の授業を見学した上で、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を試みる。その際、高校地理歴史科「学習指導要領」における「世界史探究」の目標、主な内容、そして全体構造を理解するとともに、発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察できるように指導する。
授業計画第7回 授業内容	授業見学と指導案作成⑤: 高校地理歴史科(日本史探究)の授業を見学した上で、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を試みる。その際、学習指導要領における「日本史探究」の目標・主な内容・全体構造を理解するとともに、個別の学習内容について指導上の留意点および当該教科の背景をなす学問領域との関係を理解した上で、教材研究に活用するように指導する。
授業計画第8回 授業内容	授業見学と指導案作成⑥: 高校地理歴史科(地理探究)の授業を見学した上で、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成を試みる。その際、学習指導要領における「地理探究」の目標・主な内容・全体構造を理解するとともに、個別の学習内容について指導上の留意点および④当該教科の背景をなす学問領域との関係を理解した上で、教材研究に活用するように指導する。
授業計画第9回 授業内容	職務の概説と業務補助②: 中学校・高等学校における教員の職務を概説し、実際に教科指導の一部(日本史探究の課題レポート点検)を体験してみる。(生徒の個人情報管理には十分に注意します) ただし、その前提として、個別の学習内容について指導上の留意点を理解すると同時に、「日本史探究」の背景となる学問領域との関係を理解する必要があるため、改めてそれらの解説を加える。さらに、生徒の書いたレポートの内容を踏まえつつ、発展的な学習内容について探究する「種」を探し、学習指導への位置付けを考察することができるように指導する。
授業計画第10回 授業内容	模擬授業と講評①: 中学校社会(歴史的分野)について模擬授業を行い、内容や方法、情報機器及び教材の活用法について意見を交換し、授業の成果と課題を確認する。特に映像資料の取扱いについて②指導上の留意点を理解すると同時に、「歴史的分野」の背景となる学問領域との関係を理解し、発展的な学習内容について探究するため、図書館で学術書や概説書を検索し、そこで読んだ内容をできる限り学習指導に繋がられるように指導する。
授業計画第11回 授業内容	模擬授業と講評②: 中学校社会(公民的分野)について模擬授業を行い、内容や方法、情報機器及び教材の活用法について意見を交換し、授業の成果と課題を確認する。特に政治や選挙に関する内容については偏りを避けるように指導上の留意点を理解すると同時に、「公民的分野」の背景となる学問領域との関係を理解し、発展的な学習内容について探究するため、図書館で学術書や概説書を検索し、そこで読んだ内容をできる限り学習指導に繋がられるように指導する。
授業計画第12回 授業内容	模擬授業と講評③: 高校地理歴史科(日本史探究: 単元「明治維新」)について学習指導要領における当該教科の目標・主な内容・全体構造を理解した上で模擬授業を行い、その内容や方法、情報機器及び教材の活用法について意見を交換し、江戸から明治へと時代が移り変わっていくことの本質を捉えつつ、中・高教育の「架橋」を考える。模擬授業の直後に授業を受けた他の学生たちにコメントペーパー(感想および質問)を書いてもらい、授業をした学生本人に「評価」させ、ペーパーの内容にコメントを加えながら全体に紹介することを体験させる。さらに、出た「質問」に基づき発展的な学習内容について探究できる要点について全体で意見を出し合い、よりよい授業づくりのステップを経験させる。
授業計画第13回 授業内容	模擬授業と講評④: 高校地理歴史科(日本史探究: 単元「大正デモクラシー」)について学習指導要領における当該教科の目標・主な内容・全体構造を理解した上で模擬授業を行い、その内容や方法、情報機器及び教材の活用法について意見を交換し、第一次世界大戦が日本にもたらした政治・経済・文化的影響を押さえつつ、中・高教育の「架橋」を考える。模擬授業の直後に授業を受けた他の学生たちにコメントペーパー(感想および質問)を書いてもらい、授業をした学生本人に「評価」させ、ペーパーの内容にコメントを加えながら全体に紹介することを体験させる。さらに、出た「質問」に基づき発展的な学習内容について探究できる要点について全体で意見を出し合い、よりよい授業づくりのステップを経験させる。
授業計画第14回 授業内容	模擬授業と講評⑤: 高校地理歴史科(日本史探究: 単元「アジア・太平洋戦争」)について学習指導要領における当該教科の目標・主な内容・全体構造を理解した上で模擬授業を行い、その内容や方法、情報機器及び教材の活用法について意見を交換し、アジア・太平洋戦争が世界および日本に及ぼした政治・経済・文化的影響を確認しながら、中・高教育の「架橋」を考える。模擬授業の直後に授業を受けた他の学生たちにコメントペーパー(感想および質問)を書かせ、授業をした学生本人に「評価」させ、ペーパーの内容に一言ずつコメントを加えながら全体に紹介することを体験してもらう。さらに、出た「質問」に基づいて発展的な学習内容について探究できるポイントについて全体で意見を出し合い、よりよい授業づくりのステップを経験させる。
授業計画第15回 授業内容	学校の歴史と社会科・地歴科教育の意義②: 史料室を見学し、関係史料の整理作業をサポートすることで学校の歴史を学び、教材として授業に活用する方法を考える。加えて、本授業の「まとめ」として、学習指導要領における当該教科の目標・内容・全体構造を理解し、学習評価の考え方について理解し、そして発展的な学習内容に関する探究と学習指導への位置付けを理解・実践することの重要性を改めて解説する。定期試験および最終レポートの提出: 具体的な方法およびテーマについては授業内で説明する。

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会科・地歴科教育法Ⅱ
担当教員	山田 亮
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学社会・高校地理歴史
単位数	2
テーマ・内容	社会科・地歴科教育法Ⅱでは、前期Ⅰでの学修事項を踏まえて、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野および高等学校の地理歴史科の指導法について実践的に学ぶ。主な学習内容としては、教育課程における中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)、高等学校地理歴史科の位置づけと歴史の変遷、目標・内容・方法・評価・留意点、学習指導案の内容と作成方法、授業の内容と構成、等である。また、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を実施することを通して、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野および高等学校の地理歴史科の授業に必要な基本的技能等について修得する。【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。
到達目標	①中学校社会科の地理的分野・歴史的分野および高等学校地理歴史科の意義を理解する。 ②学習指導要領における目標、内容、方法、評価・留意点を理解する。 ③学習指導案作成と模擬授業を実施することを通して、授業に必要な基本的技能を修得する。
学習内容	学習指導要領や教科書・資料集等の教材を用いながら、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野および高等学校地理歴史科の目標・内容・方法・評価・留意点等について学ぶ。また、学習指導案の作成や模擬授業の実施、実践例の検討や模擬授業の自己評価や相互評価等を個人及びグループで行う。くわえて、履修者自身の中学校・高等学校時代の学習経験等を振り返りながら、地理的分野・歴史的分野・地理歴史科の授業者として必要な知識・技能等についても考察する。 ◆上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める。
成績評価の方法・基準	①授業での発表・議論・提出物(30%)、②学習指導案と模擬授業(40%)、③学期末レポート(または試験)(30%)とする。評価基準は、到達目標に照らし、知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。
教科書	『中学校社会科教育・高等学校地理歴史科教育』(学術図書出版社、2020)
参考書	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』 中学校教科書(地理的分野、歴史的分野)、高等学校教科書(地理総合、歴史総合、地理探究、日本史探究、世界史探究)
授業計画第1回 授業内容	「社会科・地歴科教育法Ⅱ」オリエンテーション 授業の進め方・受け方・テキストの使用法等を説明する。 「社会科・地歴科教育法Ⅱ」の導入として履修者自身の学習経験を振り返る。 また、小学校・中学校・高等学校の目標を確認し、社会的な見方・考え方の構造を理解する。

授業計画第2回 授業内容	教育課程における中学校社会科(地理的分野・歴史的分野)及び高等学校地理歴史科の位置づけ 中学校・高等学校の教育課程全体構造において、社会科(地理的分野・歴史的分野)及び地理歴史科はどのように位置づけられているか、また、その歴史の変遷について学ぶ。
授業計画第3回 授業内容	「目標」と「内容」の構成および指導上の留意点 地理的分野(中学校)、地理(高等学校)の目標と内容の構成について、 現行学習指導要領と新学習指導要領の比較を通して学ぶ(例「社会的(地理的)な見方・考え方」等) さらには指導上の留意点について、科目を通じての共通点および科目間の相違について学ぶ。
授業計画第4回 授業内容	「評価」の考え方と方法 歴史的分野(中学校)、世界史・日本史・歴史総合等(高等学校)の評価の考え方と方法について、 指導と評価の一体化の観点から学ぶ。また、育成する資質・能力に着目する重要性も理解する。 また、多面的評価の方法の実際と留意点を具体的な授業場面の例示をもとに理解する。なお、評価法には関連する諸学問(教育方法学・教育心理学・教育測定など)が背景にあることを理解する。
授業計画第5回 授業内容	学習指導案の実際と作成(1)-地理的分野(中学校)、地理総合・地理探究(高等学校)を中心に- 地理的分野(中学校)及び地理総合・地理探究(高等学校)の実例を参考にしながら、「主体的・対話 的で深い学び」を意識した模擬授業に向けて学習指導案を実際に作成する。また、新学習指導要領に おける「地理総合」「地理探究」も見据えた内容にする。ICT 機器を活用した効果的な授業設計を行う。
授業計画第6回 授業内容	学習指導案の実際と作成(2)-歴史的分野(中学校)、歴史総合・日本史探究・世界史探究(高等学 校)を中心に- 歴史的分野(中学校)及び歴史総合・日本史探究・世界史探究(高等学校)の実例を参考にしながら、 「主体的・対話的で深い学び」を意識した模擬授業に向けて学習指導案を実際に作成する。また、新学 習指導要領における「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」も見据えた内容にする。ICT 機器を活 用した効果的な授業設計を行う。
授業計画第7回 授業内容	模擬授業の実施(1):中学校 社会科(地理的分野)「A 世界と日本の地域構成」「B 世界の様々な地 域」 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 (内容例:「A 世界と日本の地域構成」「B 世界の様々な地域」を中心に扱う。) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授 業設計を行う。
授業計画第8回 授業内容	模擬授業の実施(2):中学校 社会科(地理的分野)「C 日本の様々な地域」 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。また、「社会的な見方・考え方」の観点から小学校 「社会科」と高等学校「地理総合」との接続を意識するように授業設計を行う。 (内容例:「C 日本の様々な地域」を中心に扱う。) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授 業設計を行う。
授業計画第9回 授業内容	模擬授業の実施(3):高等学校 地理総合、地理探究 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 (内容例:「A 地図や地理情報システムで捉える現代社会」「B 国際理解と国際協力」「C 持続可能な 地域づくりと私たち」) (内容例:「A 現代世界の系統地理的考察」「B 現代世界の地誌的考察」「C 現代世界におけるこれか らの日本の国土像」)

	<p>また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授業設計を行う。</p>
<p>授業計画第 10 回 授業内容</p>	<p>模擬授業の実施(4): 高等学校 歴史総合 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。</p> <p>(内容例:「A 歴史の扉」(1)歴史と私たち(2)歴史の特質と資料、「B 近代化と私たち」(1)近代化への問い、(2)結び付く世界と日本の開国、「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」(1)国際秩序の変化や大衆化と私たち(2)第一次世界大戦と大衆社会(3)経済危機と第二次世界大戦、「D グローバル化と私たち」(1)グローバル化への問い(2)冷戦と世界経済(3)世界秩序の変容と日本(4)現代的な諸課題の形成と展望)</p> <p>また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授業設計を行う。</p>
<p>授業計画第 11 回 授業内容</p>	<p>模擬授業の実施(5): 高等学校 日本史探究 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。</p> <p>(内容例:「A 原始・古代の日本と東アジア」「B 中世の日本と世界」「C 近世の日本と世界」「D 近現代の地域・日本と世界」)</p> <p>また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授業設計を行う。</p>
<p>授業計画第 12 回 授業内容</p>	<p>模擬授業の実施(6): 高等学校 世界史探究 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。</p> <p>(内容例:「A 世界史へのまなざし」「B 諸地域の歴史的特質の形成」「C 諸地域の交流・再編」「D 諸地域の結合・変容」)</p> <p>また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。ICT 機器を活用した効果的な授業設計を行う。</p>
<p>授業計画第 13 回 授業内容</p>	<p>模擬授業の振り返り、課題の明確化(1)</p> <p>模擬授業の省察、議論を通して成果と課題を明らかにする。また、相互参観による気付きをもとにして、再度「学習指導案の修正作成」を行い、学習指導案と照らし合わせながら育成する資質・能力を意識した発展的な授業実践を目指すよう意識する。</p>
<p>授業計画第 14 回 授業内容</p>	<p>模擬授業の振り返り、課題の明確化(2)</p> <p>模擬授業の省察、議論を通して成果と課題を明らかにして、次年度の教育実習・教育実践演習(中・高)に向けて問題意識を発展的に深める。大学で学んだ教育に関する理論と学校現場で必要とされる実践の両面の統合を自己の中で目指す。</p>
<p>授業計画第 15 回 授業内容</p>	<p>【これまでに学修した重要事項の再確認・振り返り】</p> <p>「社会科・地歴科教育法Ⅱ」で学んだ重要事項についての再確認および定期レポートの書き方の指示・指導を行う。また、教育実習校の使用教材に即した学習指導案の作成、発表、議論も行う。</p> <p>なお、これまでの学習を統合して、より発展的な授業内容・設計となるよう留意する。</p>

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会科・公民科教育法Ⅰ
担当教員	山田 亮
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学社会・高校公民
単位数	2
テーマ・内容	<p>本授業では、中学校社会科の公民的分野および高等学校の公民科の指導法について、理論的・実践的に学ぶ。主な学習内容として、教育課程における公民的分野・公民科の位置づけと歴史的変遷、目標・内容・方法・評価、学習指導案の内容と作成方法、授業の内容と構成、等を取り上げる。また、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を実施することを通して、中学校社会科(公民的分野)および高等学校公民科の授業に必要な基本的技能等について修得する。</p> <p>【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。</p>
到達目標	<p>①中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の意義を理解する。</p> <p>②学習指導要領における目標、内容、方法、評価を理解する。</p> <p>③学習指導案作成と模擬授業を実施することを通して、授業に必要な基本的技能を修得する</p>
学習内容	<p>学習指導要領や教科書・資料集等の教材を用いながら、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の目標・内容・方法・評価等について学ぶ。また、学習指導案の作成や模擬授業の実施、実践例の検討や模擬授業の自己評価や相互評価等を個人及びグループで行う。くわえて、履修者自身の中学校・高等学校時代の学習経験等を振り返りながら、公民的分野・公民科の授業者として必要な知識・技能等についても考察する。</p> <p>◆上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める。</p>
成績評価の方法・基準	<p>①授業での発表・議論・提出物(40%)、②学習指導案と模擬授業(30%)、③学期末レポート(または試験)(30%)とする。評価基準は、到達目標に照らし、知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。</p>
教科書	『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』(学術図書出版社、2020) 中学校教科書(公民)、高等学校教科書(公共、倫理、政治・経済)
参考書	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』
授業計画第1回 授業内容	<p>「社会科・公民科教育法Ⅰ」オリエンテーション</p> <p>授業の進め方・受け方・テキストの使用法等を説明する。</p> <p>「社会科・公民科教育法」の導入として履修者自身の学習経験を振り返る。</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>公民的分野・公民科教育の意義</p> <p>中学校及び高等学校において、何のために社会科(公民的分野)・公民科が設定されているのか等について考える。</p>

授業計画第3回 授業内容	教育課程における中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の位置づけ 中学校・高等学校の教育課程全体において、社会科(公民的分野)及び公民科はどのように位置づけられているか、また、その歴史的変遷について学ぶ。
授業計画第4回 授業内容	公民的分野・公民科の「目標」について 現行学習指導要領と新学習指導要領の比較を通して学ぶ(例「社会的な見方・考え方」等)
授業計画第5回 授業内容	公民的分野・公民科の「内容」の構成について 例として中学校社会科(公民的分野)を取り上げて、内容を概観する (例「A 私たちと現代社会」「B 私たちと経済」「C 私たちと政治」「D 私たちと国際社会の諸課題」)
授業計画第6回 授業内容	「指導計画の作成と内容の取扱い」について 例として「主体的・対話的で深い学び」や「小中高の接続」「道德教育・特別活動との関連」等について学ぶ。ICT 機器を活用した効果的な授業方法を検討する。
授業計画第7回 授業内容	「評価」の考え方・観点・方法について 例として「目標に準拠した評価」や「指導と評価の一体化」等の考え方や観点、方法について学ぶ
授業計画第8回 授業内容	学習指導案の実際と作成(1) 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、模擬授業に向けて学習指導案を実際に作成する。
授業計画第9回 授業内容	学習指導案の実際と作成(2) 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、作成した学習指導要領についての発表・議論を通して深める。
授業計画第10回 授業内容	模擬授業の実施(1): 中学校社会科(公民的分野) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。(内容例「A 私たちと現代社会」「B 私たちと経済」) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第11回 授業内容	模擬授業の実施(2): 中学校社会科(公民的分野) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。(内容例「C 私たちと政治」「D 私たちと国際社会の諸課題」) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第12回 授業内容	模擬授業の実施(3): 高等学校公民科(政治・経済・公共) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第13回 授業内容	模擬授業の実施(4): 高等学校公民科(倫理) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第14回 授業内容	模擬授業の振り返り、課題の明確化 模擬授業の省察、議論を通して成果と課題を明らかにして、後期の「社会科・公民科教育法Ⅱ」での問題意識を深める。
授業計画第15回 授業内容	【これまでに学修した重要事項の再確認・振り返り】 「社会科・公民科教育法Ⅰ」で学んだ重要事項についての再確認および定期レポートの書き方の指示・指導を行う。

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	社会科・公民科教育法Ⅱ
担当教員	山田 亮
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学社会・高校公民
単位数	2
テーマ・内容	<p>本授業では、「社会科・公民科教育法Ⅰ」を踏まえて、中学校社会科の公民的分野および高等学校の公民科の指導法について、理論的・実践的に学ぶ。主な学習内容として、教育課程における公民的分野・公民科の位置づけと歴史の変遷、目標・内容・方法・評価、学習指導案の内容と作成方法、授業の内容と構成、等を取り上げる。また、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を実施することを通して、中学校社会科(公民的分野)および高等学校公民科の授業に必要な基本的技能等について修得する。また、前期の授業を踏まえて、自身の実習校種(中高)を想定して、中学校の公民的分野または高等学校の公民科の中から、各自が重み付けを行って学習指導案作成および模擬授業を行う。</p> <p>【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。</p>
到達目標	<p>①中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の意義を理解する。</p> <p>②学習指導要領における目標、内容、方法、評価を理解する。</p> <p>③学習指導案作成と模擬授業を実施することを通して、授業に必要な基本的技能を修得する。</p>
学習内容	<p>学習指導要領や教科書・資料集等の教材を用いながら、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の目標・内容・方法・評価等について学ぶ。また、学習指導案の作成や模擬授業の実施、実践例の検討や模擬授業の自己評価や相互評価等を個人及びグループで行う。くわえて、履修者自身の中学校・高等学校時代の学習経験等を振り返りながら、公民的分野・公民科の授業者として必要な知識・技能等についても考察する。</p> <p>◆上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める。</p>
成績評価の方法・基準	<p>①授業での発表・議論・提出物(40%)、②学習指導案と模擬授業(30%)、③学期末レポート(または試験)(30%)とする。評価基準は、到達目標に照らし、知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。</p>
教科書	『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』(学術図書出版社、2020) 中学校教科書(公民)、高等学校教科書(公共、倫理、政治・経済)
参考書	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』
授業計画第1回 授業内容	<p>「社会科・公民科教育法Ⅱ」オリエンテーション</p> <p>授業の進め方・受け方・テキストの使用法等を説明する。</p> <p>前期の「社会科・公民科教育法Ⅰ」を踏まえて、実習校の校種に見合った学習計画を立てる。</p>

授業計画第2回 授業内容	公民的分野・公民科教育の現状と課題 中学校及び高等学校の公民科における現状と課題について、文献等を通じて理解する。
授業計画第3回 授業内容	教育課程における中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の位置づけ 中学校・高等学校の教育課程全体において、社会科(公民的分野)及び公民科はどのように位置づけられているか、また、その歴史的変遷について学ぶ。特に、高等学校における新科目「公共」の新設経緯に焦点を当てる。
授業計画第4回 授業内容	公民的分野・公民科の「目標」について 現行学習指導要領と新学習指導要領の比較を通して学ぶ(例「社会的な見方・考え方」等) また、目標の変遷と次期学習指導要領の見直しについても取り上げる。
授業計画第5回 授業内容	公民的分野・公民科の「内容」の構成について 例として中学校社会科(公民的分野)を取り上げて、内容を概観する (例「A 私たちと現代社会」「B 私たちと経済」「C 私たちと政治」「D 私たちと国際社会の諸課題」) 例として高等学校公民科「公共」を取り上げて、内容を概観する。特に、旧科目「現代社会」との比較を通して新設の内容を理解する。
授業計画第6回 授業内容	「指導計画の作成と内容の取扱い」について 例として「主体的・対話的で深い学び」や「小中高の接続」「道德教育・特別活動との関連」等について学ぶ。
授業計画第7回 授業内容	「評価」の考え方・観点・方法について 例として「目標に準拠した評価」や「指導と評価の一体化」等の考え方や観点、方法について学ぶ。
授業計画第8回 授業内容	学習指導案の実際と作成(1) 前期に作成した学習指導案の振り返りと実習校に合わせた再構成に重点を置く。 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、模擬授業に向けて学習指導案を実際に作成する。 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、作成した学習指導要領についての発表・議論を通して深める。
授業計画第9回 授業内容	学習指導案の実際と作成(2) 次年度の実習校の使用教科書の教材研究に基づく指導案作りを行う。 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、作成した学習指導要領についての発表・議論を通して深める。 中学校社会科(公民的分野)及び高等学校公民科の実例を参考にしながら、作成した学習指導要領についての発表・議論を通して深める。
授業計画第10回 授業内容	模擬授業の実施(1):中学校社会科(公民的分野) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。(内容例「A 私たちと現代社会」「B 私たちと経済」) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第11回 授業内容	模擬授業の実施(2):中学校社会科(公民的分野) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。(内容例「C 私たちと政治」「D 私たちと国際社会の諸課題」) また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第12回 授業内容	模擬授業の実施(3):高等学校公民科(政治・経済・公共) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。

	また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第 13 回 授業内容	模擬授業の実施(4): 高等学校公民科(倫理) 作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行う。 また、実施後の自己評価・相互評価を通じて、模擬授業を省察する。
授業計画第 14 回 授業内容	模擬授業の振り返り、課題の明確化 模擬授業の省察、議論を通して成果と課題を明らかにして、教育実習校での授業実習に向けて自己の課題を理解する。
授業計画第 15 回 授業内容	【これまでに学修した重要事項の再確認・振り返り】 「社会科・公民科教育法Ⅰ・Ⅱ」で学んだ重要事項についての再確認および定期レポートの書き方の指示・指導を行う。また、教育実習校の使用教材に即した学習指導案の作成、発表、議論も行う。

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	発達心理学
担当教員	久保田(木村) まり
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>人間の発達を生涯発達の視点で捉え、誕生から死に至るまでの各発達段階における認知発達、社会・情動発達、対人関係(自己と他者の関係性)の特徴を具体的に把握することを目的とする。</p> <p>また、発達心理学の知識を様々な発達段階にある対象への教育実践につなげられるべく学習することをも目的とする。また、発達障害等の非定型発達についての基礎的な知識および考え方を学ぶ。</p> <p>具体的には、乳児期の認知発達と対人関係(愛着関係)の発達、幼児期の知的能力としての表象機能の発達と自己・自我の発達、児童期の科学的思考の発達と仲間関係の重要性、青年期の発達課題である自我同一性(アイデンティティ)の問題、成人期における「次世代の育み」の問題と自己の再構成の問題、人生後半の意味と生涯発達の概念、ASD や ADHD などの発達障害などについて、各回講義をし、「人間発達についての見方」を形成できるように、現代社会における生涯発達について考究していく。</p>
到達目標	<p>①乳幼児期から老年期までの生涯発達の視点を持つ。</p> <p>②各発達段階の基本的特徴(認知、社会情動、自己・自我などの発達)を理解する。</p> <p>③各発達段階の発達の危機と乗り越えについて、理解する。</p> <p>④発達障害など、非定型発達についての知識を習得し、対応を理解する。</p>
学習内容	<p>提示のテキスト、視聴資料に基づいて、各発達段階の諸特徴や、発達の危機とその乗り越え、生涯発達の理論と実際について学習する。</p> <p>①授業実施形態 オンデマンド授業</p> <p>②使用するツール オンデマンドの視聴資料は、Google Classroom 上で配信。 講義連絡事項は、Google Classroom 以外に、e-pass 上でも発信することがあります。</p> <p>③連絡のとりかた 英和メール</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価方法 課題等の提出率、提出物の内容(分量と質) などによって総合的に評価する。</p> <p>評価基準 ①生涯発達の視点をどのくらい理解しているか ②各発達段階の諸特徴をどのくらい理解しているか ③「発達の危機と乗り越えの繰り返し」の視点で発達を捉えているか ④非定型発達についてどのくらい理解しているか。 など</p>
教科書	無藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦『現代心理学入門2 発達心理学』(岩波書店)
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	発達概念の再検討

授業計画第2回 授業内容	乳児期の知覚・認知の発達
授業計画第3回 授業内容	乳幼児期の知的世界
授業計画第4回 授業内容	乳児期の対人世界①:愛着関係の成立と発展
授業計画第5回 授業内容	乳児期の対人世界②:親子関係から仲間関係へ
授業計画第6回 授業内容	幼児期の自己の発達:自己の発達と情動の展開、自他の理解
授業計画第7回 授業内容	幼児期の知的世界:表象機能の発達、心の理論
授業計画第8回 授業内容	児童期の科学的思考:科学的思考と知的世界の拡大
授業計画第9回 授業内容	児童期の社会的関係:学校社会への移行、ギャングエイジ
授業計画第10回 授業内容	青年期における自我同一性の確立と拡散
授業計画第11回 授業内容	成人期の世代性:世代性と相互性
授業計画第12回 授業内容	老年期の心理的特性と発達課題
授業計画第13回 授業内容	生涯発達における老年期の意味
授業計画第14回 授業内容	発達障害の理解と resilience について
授業計画第15回 授業内容	生涯発達の意味:獲得と喪失の過程

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	メディア心理学
担当教員	小寺 敦之
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>【人間のメディア利用や情報行動を理解する】</p> <p>私たちは、新聞やテレビといったマスメディアだけでなく、スマートフォンといったモバイルメディアに囲まれた生活をしています。インターネットの普及は、情報収集の方法や他者とのコミュニケーションにも大きな変化をもたらしました。</p> <p>このクラスでは、社会学・社会心理学領域で展開されてきたメディアの利用・メディアの影響に関する研究や理論を紹介しながら、現代社会におけるメディアと私たちのところや行動との関係について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①メディアの影響力に関する理論の基礎的知識を得る</p> <p>②メディアコミュニケーションをめぐる諸問題を社会心理学的視点から理解する</p> <p>③メディア利用行動を分析するための科学的な見方を会得する</p>
学習内容	<p>【授業の実施形式＝対面授業】</p> <p>講義形式のクラスですが、可能な限りインタラクティブな進行に努めます。積極的な発言を歓迎します。主体的に取り組んでもらうことで、メディアに対する関心向上につなげてもらいたいと思います。</p> <p>【教員への連絡方法】</p> <p>授業前後またはオフィスアワーに対応します。メールでの相談もお受けします。</p>
成績評価の方法・基準	<p>【成績評価の方法】 ①期末試験(100%) ②授業内コメントワーク(加点)</p> <p>【成績評価の基準】 期末試験は、応用的な論述問題を予定しています。授業内容(理論・考え方・キーワード)を交えて論理的に回答できているかで評価します。</p>
教科書	特に指定しません
参考書	<p>辻大介・是永論・関谷直也(2014)『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣、</p> <p>李光鎬・渋谷明子・鈴木万希枝ほか(2021)『メディア・オーディエンスの社会心理学(改訂版)』新曜社、</p> <p>三浦麻子・森尾博昭・川浦康至(2009)『インターネット心理学のフロンティア—個人・集団・社会』誠信書房</p> <p>橋元良明(2008)『メディア・コミュニケーション学』大修館書店</p>
授業計画第1回 授業内容	メディア・コミュニケーションとは何か = 社会におけるメディアの位置を確認しつつ、基本概念と心理学的な考え方の説明をします
授業計画第2回 授業内容	プロパガンダとメディア(1)プロパガンダの定義 = 大衆説得技術としてのプロパガンダの概念や起源を紹介します
授業計画第3回 授業内容	プロパガンダとメディア(2)戦争とプロパガンダ = プロパガンダが最も威力を発揮するとされる戦争での活用事例を見ていきます

授業計画第4回 授業内容	プロパガンダとメディア(3)プロパガンダの技法 =現代社会におけるプロパガンダやそこで用いられているテクニックを理解します
授業計画第5回 授業内容	私たちはメディアに受け身か—認知的整合性理論 =メディアの影響力を受ける人と受けない人がなぜ生まれるのかについて考えます
授業計画第6回 授業内容	私たちが見ている世界—社会的現実の構成と認知効果 =現代社会におけるメディアの絶大な影響力について理解します
授業計画第7回 授業内容	メディアと暴力・性表現 =メディアで表現される暴力や性表現は本当に悪影響を及ぼすのかを検討します
授業計画第8回 授業内容	災害時のメディア利用と情報行動 =災害時に役立つメディアは何か、どのような準備をすれば良いかについて考えます
授業計画第9回 授業内容	うわさと流言 =うわさ話が生じる背景や伝達のメカニズムを理解します
授業計画第10回 授業内容	流行と普及 =社会にモノや情報が広がっていくプロセスについて考えます
授業計画第11回 授業内容	オンラインコミュニケーションと対人関係の構築 =オンラインで対人関係を構築することはできないのかについて検討します
授業計画第12回 授業内容	オンラインコミュニケーションにおける社会的行動 =インターネット上で見られる攻撃行動や援助行動のメカニズムについて理解します
授業計画第13回 授業内容	オンラインコミュニケーションにおける精神的影響 =インターネットは人の心を豊かにするのかについて考えます
授業計画第14回 授業内容	モバイルコミュニケーションの心理 =いつでもどこでもコミュニケーションできることが持つ意味を考えます
授業計画第15回 授業内容	ライフステージとメディア利用 =30年後の皆さんのメディア利用を想像してみましょう

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	社会・集団・家族心理学
担当教員	渡部(松見) 麻美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>テーマ: 社会・集団・家族心理学の基礎と重要研究</p> <p>内容: 人は生活する上で、家族や学校、職場など様々な集団に所属し、他者から様々な影響を受けています。集団に所属し、他者と関わることによって、良い結果だけでなくトラブルが発生することもあります。</p> <p>この授業では、当該領域の重要な研究を取り上げ、社会心理学の視点から対人関係や集団の仕組みおよび影響過程について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①社会心理学に関する基礎的な知識を習得し、説明できるようになる。</p> <p>②他者や集団による影響過程や人の社会的行動のメカニズムを理解し、説明できるようになる。</p>
学習内容	<p>配布資料を使用し、社会心理学の重要理論や研究事例について学びます。</p> <p>授業形態: 対面授業</p> <p>対面授業ですが、資料配布や課題提出のために Google Classroom を使用します。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価方法: 毎回の授業内容確認課題 30%、まとめ課題(論述式) 70%</p> <p>評価基準: ①社会心理学に関する基礎的な知識を習得しているか。</p> <p>②他者や集団による影響過程や人の社会的行動のメカニズムを理解しているか。</p>
教科書	特になし
参考書	李光鎬・渋谷明子・鈴木万希枝ほか(2021)『メディア・オーディエンスの社会心理学(改訂版)』新曜社
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション 社会心理学における問題意識と研究方法
授業計画第2回 授業内容	社会的推論
授業計画第3回 授業内容	ステレオタイプ・偏見・差別
授業計画第4回 授業内容	感情の影響
授業計画第5回 授業内容	社会的相互依存と社会的ジレンマ

授業計画第6回 授業内容	態度と態度変容
授業計画第7回 授業内容	対人的影響
授業計画第8回 授業内容	社会的アイデンティティ
授業計画第9回 授業内容	集団における個人
授業計画第10回 授業内容	社会的促進と社会的抑制
授業計画第11回 授業内容	集合現象
授業計画第12回 授業内容	文化の影響
授業計画第13回 授業内容	ソーシャル・サポート
授業計画第14回 授業内容	家族の機能と家族システム
授業計画第15回 授業内容	授業のふりかえり・まとめ

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	知覚・認知心理学
担当教員	小野 洋平
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>メイクや髪形を変えればまるで別人のように印象が変わるものです。また、味に違いはないのに盛り付けを変えるだけでおいしく感じたり、子供のころは苦くて嫌いだった食べ物が大人になるにつれて食べられるようになることもあります。このように、私たちは五感などの感覚を通じて様々な情報を受け取っています。一方、受け取る情報が同じでも、人によって、状況によって、年齢によって感じ方が異なるのはなぜでしょうか？また、どうすれば他者の印象やおいしさを変えられるのでしょうか？</p> <p>本講義では、日常例を挙げながらものの見方や感じ方、考え方を心理学的にわかりやすく説明し、多くの人に当てはまるころの一般的な法則を学びます。そして、ころがどのような要因によって影響を受けるかや、日常への応用方法を考えていきます。本科目の学習により、自己と他者の理解を深め、習得した知識を今後の生活に役立ててください。</p>
到達目標	<p>知覚と認知のメカニズム、機能について説明できる。</p> <p>学んだ知識を日常の具体例に当てはめて心理学的に捉えることができる。</p> <p>学んだ知識を使って自他のころの働きを推測することができる。</p> <p>学んだ知識を日常の生活に活用する方法について考えることができる。</p>
学習内容	<p>この講義はオンデマンドのオンライン講義です。</p> <p>パワーポイントを使った講義動画、パワーポイントのPDF、課題等は Google Classroom や e-pass を用いて配信します。これらの資料等は講義日前日までは公開します。</p> <p>まず、ころの働きを理解するために、私たちが外界の情報をどのように受け取っているか(ものの見方や感じ方)について説明します。</p> <p>次に、どのような情報を取り入れ(注意)、保持し(記憶)、どう考えるか(思考)について説明します。</p> <p>多くの人に当てはまるころの法則を学ぶことで、自他のころの働きを推測することを目指しましょう。さらに、日常にいかん心理学が応用されているかを具体的な事例を挙げて説明します。</p> <p>本科目は基本的に講義形式ですが、随時映像コンテンツの提示や体験学習を行って理解を深めます。</p>
成績評価の方法・基準	<p>・講義への参加度(40%)</p> <p>体験学習、双方向学習への参加度、予復習への自主的な取り組み度合いを客観的に評価します。</p> <p>また、</p> <p>・定期考査(60%) 定期考査は試験により行います。</p>
教科書	特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。
参考書	三浦麻子・森尾博昭・川浦康至(2009)『インターネット心理学のフロンティア—個人・集団・社会』誠信書房

<p>授業計画第1回 授業内容</p>	<p>【心理学を学んで何ができるようになるか?】 講義のオリエンテーション、心理学とはどのような学問かを説明します。 簡単な体験学習を通じて、半期受講の自身の到達目標を明確化しましょう。</p>
<p>授業計画第2回 授業内容</p>	<p>【百聞は一見に如かず?】 私たちは見たり聞いたりして情報を得て物事を理解し考えています(知覚・認知)。そこで、本単元では、感覚情報をどのように受け取っているかを5感を中心に説明します。この単元を通じて、人の感覚の特徴や精度について理解しましょう。</p>
<p>授業計画第3回 授業内容</p>	<p>【見えないところを見るようにするには?】 本単元では、目に見えないところの働きをいかに見える化するかを体験学習を行って理解していきます。この経験をふまえて、自分でこころの検証を実践していきましょう。</p>
<p>授業計画第4回 授業内容</p>	<p>【赤いものを身に着けると魅力的に見える?】 本単元では、色をどのように知覚しているか、色がこころにどのような影響を及ぼすかを学びます。普段何気なく着色されているものにも心理学的な理由があることを理解しましょう。</p>
<p>授業計画第5回 授業内容</p>	<p>【マスカラやアイラインで目が大きく見えるのはなぜか?】 本単元では、ありのままの世界をこころがどのように感じているかを錯覚のメカニズムを説明しながら理解します。ファッションやメイクに生かす、子供の知覚の特徴を把握する、錯覚をマーケティングに生かす、錯覚の文化差など、個々人の興味関心に当てはめて学習内容を応用しましょう。</p>
<p>授業計画第6回 授業内容</p>	<p>【この文字に色がついて見えますか?】 本単元では、感覚情報が組み合わせることで本来とは異なった感覚が生じることを日常例を挙げながら説明します。また、「文字に色が見える」共感覚現象に関して担当者の研究成果などを引用して説明します。前単元も踏まえ、こころの世界が必ずしもありのままの世界と一致しないことを理解し、他者理解に役立てていきましょう。</p>
<p>授業計画第7回 授業内容</p>	<p>【見間違い、聞き間違い、勘違いが起こるのはなぜ?】 私たちは情報をすべて受け取ることができるわけではありません。にもかかわらず、外界をうまく認識できるのは、過去の経験や知識によるものと考えられます。その機能が備わっているがゆえに間違いも起こります。本単元では、経験が私たちの認識に果たす役割を理解します。この学習を通じて、いったん立ち止まって考えたり、ヒューマンエラーを防止するにはどうするかを考えていきましょう。</p>
<p>授業計画第8回 授業内容</p>	<p>【注意力や集中力を高めるには?】 2019年、ながら運転に対する罰則が定められました。なぜながら運転が危険なのでしょう?また、聖徳太子は複数の人が同時に話してもすべての人の話を理解したという逸話が残っています。これは人の認知機能から考えて可能なのでしょうか? 本単元では、人の注意機能を学び、体験学習から注意の範囲や限界などを理解します。また、注意に影響を及ぼす要因や注意集中力を高めるにはどうしたらよいかを考え、普段の生活に生かしていただく。</p>
<p>授業計画第9回 授業内容</p>	<p>【効率よい覚え方とは?】 記憶は未来の自分へのメッセージです。つまり、今の自分が未来の自分に役立ててもらうために覚えたものが記憶ということです。本単元では、記憶の構造と機能について概観します。この講義をふまえて、効率よく勉強すること、他者に覚えてもらうためにはどうしたらよいか、人の顔と名前を一致させるには・・・など、日常に活かしていきましょう。</p>

<p>授業計画第 10 回 授業内容</p>	<p>【 一生懸命勉強したのになぜおもいだせないのだろう？ 】</p> <p>思い出せないことで困ることもありますが、思い出したくないことを思い出して困ることもあります。また、胎児の頃の記憶があるという人もいれば、子供の頃の記憶が思い出せない人もいます。本単元では、記憶の保持と忘却の過程、忘却の理論について説明します。この学習を通じて、自身の記憶を振り返り、心理学的に解釈できるようになりましょう。</p>
<p>授業計画第 11 回 授業内容</p>	<p>【 記憶違い、デジャブが生じる理由は？ 】</p> <p>なぜ誤った噂が真実のように広まるか、なぜ課題を先のばしてしまうか、初めて行った場所なのになんだか行ったことがある…。本単元では様々な日常の不思議をこれまでの記憶の単元を総括しながら考えます。この学習を通じて、日々の不思議や問題発見をし、その背景にあるところを分析する力を培ってください。</p>
<p>授業計画第 12 回 授業内容</p>	<p>【 論理的な思考力はどのように身につくのか？ 】</p> <p>こころは生涯成長していくという考え方があります。今の自分のこころは過去の自分から影響を受け、未来の自分へも影響を与えます。本単元では、乳幼児期から青年期を中心に知覚・認知機能の変化を学びます。育児や幼児教育に活かす、これまでの自己を振り返り今後の成長を予想する、両親や祖父母のこころの状態を把握するなど、自他のこころの理解と応用・実践を考えましょう。</p>
<p>授業計画第 13 回 授業内容</p>	<p>【 限定品を買う心理、端数の価格設定の理由とは？ 】</p> <p>人は必ずしもすべての情報を得て物事を判断しているわけではありません。適度に情報を取捨選択してもっともらしい判断を下します。また、なくて七癖といい、癖は他者から指摘されて初めて気づくことも多いです。本単元では思考のメカニズムや意思決定について学び、自身の考え方の癖を客観的に理解しましょう。</p>
<p>授業計画第 14 回 授業内容</p>	<p>【 就職面接や恋愛に心理学を応用するには？ 】</p> <p>出会ってばかりの相手でも、何らかの印象を持つことはあるでしょう。こうした第一印象が形成されるためには、相手に対して何らかの情報に「注意」をむけ、その情報を「知覚」し、印象について考えることとなります。つまり、これまでの講義で学んできた知覚・認知機能が複合して印象が形成されます。より良い印象を形成するためのヒントを学び、良い就活、良い恋愛に活かしていきましょう。</p>
<p>授業計画第 15 回 授業内容</p>	<p>【 知覚・認知の問題に心理学を活かすには？ 】</p> <p>学校生活や社会生活にうまく適応できずに悩まれる方は多くいらっしゃいます。本単元では、発達障害や認知症の概要や症状を説明し、こころの問題に対する理解を深めます。また、こころのケアの具体的な方法を学び、こころの問題を抱える人にどのように寄り添っていくかを考えていきましょう。</p>

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	対人社会心理学
担当教員	渡部(松見) 麻美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>テーマ: 対人関係・対人行動の基礎と重要研究</p> <p>内容: 人は日常生活を送るうえで、必ず何らかの形で他者と関わります。社会心理学では、人と人との関わりがどのような過程から成り立っているのか、その背後にどのような要因が隠されているのか、多様な観点から研究されてきました。</p> <p>この授業では、対人関係・対人行動に関する重要な研究や理論を取り上げ、社会心理学の視点から人が他者と関わる際の心理的背景や影響因について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①対人関係・対人行動の基礎的なメカニズムや要因について理解し、説明できるようになる。</p> <p>②対人関係・対人行動の基礎研究について理解し、説明できるようになる。</p>
学習内容	<p>配布資料を使用し、社会心理学における対人関係・対人行動に関する理論や研究事例について学びます。</p> <p>授業形態: 対面授業</p> <p>対面授業ですが、資料配布や課題提出のために Google Classroom を利用します。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価方法: 毎回の授業内容確認課題 30%、まとめ課題(論述式)70%</p> <p>評価基準: ①対人関係・対人行動に関する基礎的なメカニズムや要因について理解しているか。</p> <p>②対人関係・対人行動の基礎研究について理解しているか。</p>
教科書	特になし
参考書	橋元良明(2008)『メディア・コミュニケーション学』大修館書店
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション 社会心理学における対人関係・対人行動
授業計画第2回 授業内容	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション
授業計画第3回 授業内容	対人行動と自己意識
授業計画第4回 授業内容	社会的比較と自己評価
授業計画第5回 授業内容	対人場面における自己呈示・自己開示

授業計画第6回 授業内容	対人認知と印象形成
授業計画第7回 授業内容	対人魅力と対人関係の形成 1 (SVR 理論, 生理的興奮, 態度の類似性)
授業計画第8回 授業内容	対人魅力と対人関係の形成 2 (近接性, 単純接触効果, 関係の進展)
授業計画第9回 授業内容	攻撃と援助
授業計画第 10 回 授業内容	対人関係と適応
授業計画第 11 回 授業内容	対人関係のスキルの概念
授業計画第 12 回 授業内容	対人関係のスキルの影響
授業計画第 13 回 授業内容	対人コミュニケーションにおけるうそ
授業計画第 14 回 授業内容	対人行動とジェンダー
授業計画第 15 回 授業内容	授業のふりかえり・まとめ

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	臨床心理学概論
担当教員	前川 美行
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>* 公認心理師希望者の必修科目である。</p> <p>※【実務経験】医療機関・教育相談機関・企業内相談室等での心理職としての幅広い実践経験をもとに事例等を生かして、実践的な視点で授業を進める。</p> <p>「臨床心理学」とは、よりよく生きるため、人と人との関係をもとに支援するための学問です。単に理論や技法を覚えるだけではなく、支援者自身が自分の心と向き合う必要があります。身近な心をつつめ、向き合うことから培われた、深い人間理解と支援方法を学びましょう。</p> <p>授業では、臨床現場における最近の話題を紹介しながら、臨床心理学の基礎と実践について初歩的知識を概論的に講義します。自分自身の心や日常に当てはめながら考えてみてください。</p>
到達目標	<p>1) 臨床心理学の歴史・鍵となる概念・心理学的支援の基本的理論を理解し、説明できること。</p> <p>2) 人間理解を深め、力動的心理学をもとに心を重層的に理解する視点を持つこと。</p> <p>3) 心理的問題を人に共通の普遍的なものとしてとらえ、悩みや苦悩に対する共感や気づきを得ること。</p>
学習内容	<p>【授業形態】(対面型)</p> <p>出席者にはプリントを配布する。</p> <p>臨床心理学の成り立ち・基礎理論・人間理解の方法(アセスメント)・心理療法技法と実践等を学ぶ。</p> <p>概念や専門用語の意味を正確に理解することが必要である。さらに、知識の定着のために、身近な例に当てはめながら理解することが望ましい。</p> <p>授業中に質問紙検査と描画法を実施し、自己理解をもとに人格理論や性格検査を体験的に理解する。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価方法は、適宜行う提出課題と40%と学期末課題60%の割合で総合的に評価する。</p> <p>評価基準は、</p> <p>① 専門用語や理論を正しく理解し、説明できる</p> <p>② 学んだ理論を実際の日常生活の事象や心理との関連で理解できる。</p>
教科書	出席者にはプリントを配布する。 また、適宜文献を紹介する。
参考書	<p>『よくわかる臨床心理学(改訂版)』 下山晴彦 ミネルヴァ書房 2009 ISBN:4623054357</p> <p>『臨床心理学—心の専門家の教育と心の支援』 鐘幹八郎ほか、培風館 2009 ISBN:978-4-563-05874-6</p>
授業計画第1回 授業内容	<p>※以下のような章に分けて講義を行う。各回の内容は理解度に応じて変えることがある。</p> <p>第1章 オリエンテーション—臨床心理学とは何か</p> <p>1. 人間理解 2. 援助の歴史 3. 実践の現場</p>

授業計画第2回 授業内容	第2章 悩みをとおした心の理解(自己感・自己意識) 1. 対人関係の悩み 2. 不安障害 3. 摂食障害
授業計画第3回 授業内容	第3章 人間理解の理論 1. 人格論
授業計画第4回 授業内容	2. 発達論:【こころの発達】
授業計画第5回 授業内容	2. 発達論:【脳と情緒・言語の発達】
授業計画第6回 授業内容	第4章 アセスメント (臨床心理学的見立て) 1. インテーク面接(成育歴・家族・知的発達・情緒的問題) 2. 心理検査①:質問紙法 3. 心理検査②:投影法・描画テスト 4. 心理検査③:発達検査ほか
授業計画第7回 授業内容	第5章 アセスメントの実際(自分を知る) 1. 質問紙法 2. 描画法 3. 心理検査の解釈 4. アセスメントの例
授業計画第8回 授業内容	第6章 心理学的援助(心理療法)の理論と技法 1. 精神分析(フロイト) 2. 分析心理学(ユング) 3. 行動療法・認知行動療法
授業計画第9回 授業内容	4. 来談者中心療法(ロジャース) 5. 遊戯療法 6. 箱庭療法 7. さらなる発展
授業計画第10回 授業内容	第7章 心理的問題の理解 1. 統合失調症(妄想・幻覚) 2. 気分障害(抑うつと躁)
授業計画第11回 授業内容	3. 人格障害(パーソナリティの問題) 4. 不安障害・強迫性障害 5. 乳幼児期の問題(分離不安・愛着障害・被虐待)
授業計画第12回 授業内容	6. 中高年～老年期の問題 (心身の悩み・喪失感・認知症) 7. 不登校・いじめ・DVなどの問題
授業計画第13回 授業内容	第8章 発達をめぐる問題 1. 発達相談 2. 自閉性スペクトラム 3. コミュニケーション障害 4. AD/HD、学習障害 5. 自己感の混乱:アイデンティティ
授業計画第14回 授業内容	第9章 心理相談・支援の実際 1. 教育相談(スクールカウンセリング) 2. 医療保健領域(病院臨床) 3. 産業領域(産業カウンセリング) 4. 福祉・司法領域 5. 子育て支援など
授業計画第15回 授業内容	第10章 まとめ 1. 研究と実践 2. 倫理と訓練

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	臨床心理学各論 B
担当教員	福田 周
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>公認心理師及び臨床心理士としての臨床実務経験における芸術療法の活用と芸術の臨床心理学的研究に基づいて授業を行う。</p> <p>古来芸術は数学、幾何学、天文学にならぶ重要な学問として人間の社会において重要視されていた。それは芸術が単なる技術ではなく、人間の精神や営みに直接大きな影響を与える心理的作用を及ぼすものだからである。近代にいたって、この芸術の意義は細分化され専門化されていき、いわゆる芸術と今日呼ばれているものは、人間の文化的営みとして特に美と関連付けて「作品」として語られるようになる。一方芸術の持つ心理的作用は、医療としてテクノロジー(技術)の進歩とともに分化・発展し、今日科学的技術として様々な心理的効能をうたう「製品」として世にあふれている。心理学の分野においては、そうした芸術の持つ古来の2重性を失うことなく、「作りかつ癒す」という精神的カタルシスの効果を療法として取り入れてきた経緯がある。またそれを通して人間の様々な心の現象をひも解くという学問的意義も併せ持っている。本講座では芸術とは何か、心理療法とは何かという視点から、芸術と心理学の関係を提示していく。</p>
到達目標	芸術の心理学的意義を、これまでの歴史的背景の学びを通して理解し、臨床心理学における芸術療法の理論的基盤を習得する。
学習内容	<p>①『対面授業』</p> <p>②『使用するツール』: GoogleClassroom</p> <p>③『連絡の取り方』: 英和メール</p> <p>④『学習の進め方』授業時の資料は Google classroom に事前配布する。各自印刷をして授業に持参すること。また、授業後の復習課題は Google classroom で行い、提出をする。</p>
成績評価の方法・基準	授業での小テスト・コメントシート等 50 点、定期試験 50 点。
教科書	特になし
参考書	<p>アンリ・エレンベルガー『無意識の発見』上 木村敏監訳 弘文堂 1980 年、</p> <p>越宏一『ヨーロッパ美術史講義 風景画の出現』岩波書店 2004 年、</p> <p>高階秀爾監修『西洋美術史』美術出版社 1990 年、</p> <p>河合隼雄『イメージの心理学』青土社 1991 年</p>

授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション /概説:芸術療法とは
授業計画第2回 授業内容	芸術の歴史 「古代における芸術-洞窟画」
授業計画第3回 授業内容	芸術の歴史 「古代における芸術-宗教的儀式」
授業計画第4回 授業内容	芸術の歴史 「古代における芸術-シャーマン」
授業計画第5回 授業内容	芸術の歴史 「古代における芸術-古代ギリシャ・ローマの芸術と医術」
授業計画第6回 授業内容	芸術の歴史 「中世における芸術-キリスト教美術」
授業計画第7回 授業内容	芸術の歴史 「中世における芸術-風景画の誕生」
授業計画第8回 授業内容	芸術の歴史 「近代における芸術-ルネッサンス芸術」
授業計画第9回 授業内容	芸術の歴史 「近代における芸術-近代力動精神医学の誕生」
授業計画第10回 授業内容	芸術の歴史 「現代における芸術-現代芸術と無意識」
授業計画第11回 授業内容	芸術の歴史 「現代における芸術-現代芸術の意識」
授業計画第12回 授業内容	心理学における芸術 「芸術療法の基礎理論」
授業計画第13回 授業内容	心理学における芸術 「芸術療法の実際」
授業計画第14回 授業内容	芸術と心の病 「病跡学的アプローチ」
授業計画第15回 授業内容	まとめ

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	臨床心理学各論 C
担当教員	前川 美行
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	この授業では、心の深層にある普遍的あるいは個人特有の「何か」を震わせる、イメージ表現の持つ力をユング心理学的分析により考察します。現代作品や夢のイメージ像を題材にして学びを深めます。
到達目標	1.作品に触れ、表されているイメージ像を臨床心理学的に理解できること。 2.先入観を持たずに自由な発想で心の動きを感じることができること。 3.夢などのイメージ表現が人の心に働きかけ、変容と成長を促す機序を理解できること。
学習内容	素材となる映像作品や物語、夢などを提示し、ユング心理学的なイメージ理解法を解説します。学生は自由な発想でイメージを理解することが求められます。
成績評価の方法・基準	・評価方法: 毎回の課題 40%、学期末課題レポート 60% ・評価基準: 専門用語と考察視点の習熟度、発想のオリジナリティ
教科書	プリント配付
参考書	河合隼雄『ユング心理学入門』岩波書店(岩波現代文庫) 河合隼雄『昔話の深層—ユング心理学とグリム童話—』講談社(+α 文庫) その他、随時紹介します。
授業計画第1回 授業内容	1.オリエンテーション(授業の進め方)—連想について—
授業計画第2回 授業内容	2.「夢」体験とその理解
授業計画第3回 授業内容	3.妖怪を生み出す心—向こう側の世界と心—
授業計画第4回 授業内容	4.「子ども」: イメージが表すもの
授業計画第5回 授業内容	5.「お姫様」: 日本と西洋の違い
授業計画第6回 授業内容	6.「王子様」: ヒーローと龍退治

授業計画第7回 授業内容	7.戦う少女:思春期と世界崩壊・アイドルは何を背負うのか
授業計画第8回 授業内容	8.カオナシとは何者か「千と千尋の神隠し」から
授業計画第9回 授業内容	9.医者(ヒーラー)イメージ :「ブラックジャック」
授業計画第10回 授業内容	10.夢のイメージから夢見手の心を理解する
授業計画第11回 授業内容	11.10歳の冒険:「スタンドバイミー」
授業計画第12回 授業内容	12.死への興味「夏の庭」「禁じられた遊び」
授業計画第13回 授業内容	13.道化・トリックスター
授業計画第14回 授業内容	14.魔法のカ「ハリーポッター」
授業計画第15回 授業内容	15.まとめ 一生きることと想像力

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	親子の臨床心理学
担当教員	前川 美行
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>※【実務経験】医療機関・教育相談機関・企業内相談室等での心理職としての幅広い実践経験をもとに事例等を生かして実践的視点で授業を進める。</p> <p>* 本授業では、「親子」に注目して臨床心理学を学びます。「認知」「対人交流」「自己感」という3つの軸で発達をとらえ、養育する親の心理、親子関係、環境の問題などを取り上げます。そして、親子の心理的支援について考えます。</p> <p>①乳幼児期から思春期までに生じやすい心理的問題を挙げ、要因と支援方法について紹介します。</p> <p>②特に最近話題となることの多い、発達障害・自閉症スペクトラムについて、特性やアセスメントを学びます。</p> <p>③さらに、「虐待」「いじめ」「ネットの問題」「ひきこもり」など、現代社会の持つ影の問題を事例を通して考えます。</p> <p>* 親子をテーマにしなが、人の心の成り立ちを学ぶ授業です。</p>
到達目標	<p>1)子どもの心の発達と人格形成過程を理解し、子ども時代の成育環境の重要性を理解する。</p> <p>2)子育てをする親の心理状態を理解し、安定した親子関係を支える環境の必要性を理解する。</p> <p>3)社会の一員として子どもを育てる意識を持ち、養育環境に果たす他者の役割を学ぶ。</p>
学習内容	<p>教員アドレスは「講義連絡」でお知らせします。</p> <p>【注意事項】オンライン授業のため、テストではなく最後は期末課題です。</p> <p>* 基本的な理論や概念学習を事例を通して学ぶ。学生は、教員が紹介する事例を読み込み、自分の考えを述べるように求められる。その過程の中で、子ども時代の心の成長を学び、青年期の自分の心を見つめ、親世代になる大人としてのあり方を学ぶ。</p> <p>素材は、心理療法などの事例(本に紹介されたもの)、映画や物語、コミックなども使用予定。</p>
成績評価の方法・基準	<p>★評価方法: ①毎回の課題 40%、②学期末課題 60%</p> <p>★評価基準: 理論や概念の理解度、思考の論理性、事例を理解する視点の柔軟性</p>
教科書	プリント配布
参考書	<p>近藤俊明(2014)『子ども臨床心理学』サイエンス社</p> <p>内海新祐(2013)『児童養護施設の心理臨床:「虐待」のその後を生きる』日本評論社</p> <p>ダニエル・スターン(亀井よし子訳)(1992)『もし、赤ちゃんが日記を書いたら』草思社</p> <p>滝川一廣(2017)『子どものための精神医学』医学書院</p>
授業計画第1回 授業内容	<p>1. オリエンテーション 一子ども、親子について一 (受講生の授業への希望、これまでに修得した知識について確認)</p>

授業計画第2回 授業内容	2. 妊娠と出産—親になること— 妊娠期の不安、親になることについて考える。
授業計画第3回 授業内容	3. NICUにおける親子の船出 早産、低体重などにより、母親から離れてNICUという環境で治療を受けながら成長する子どもたちと母親・父親の心理について学び、親になることについて考える。
授業計画第4回 授業内容	4. 0歳の心と子育て支援 ”Stern, D.”の自己感とこころの発達、0歳の発達について学び、0歳の心と交流を考える。
授業計画第5回 授業内容	5. 1歳から2歳—赤ちゃんの視点— 赤ちゃんの脳の発達などの認知科学の知見を紹介し、赤ちゃんから見た世界について想像する。
授業計画第6回 授業内容	6. 乳幼児期の心—言葉の始まり— 言葉を獲得する過程は、親にとって喜びでもあり、不安の大きい時期でもある。その頃の問題について、言葉を話すことがどのような能力によって可能となっているかを学び、考える。
授業計画第7回 授業内容	7. 3歳の自我と反抗—自律と虐待— 2歳を過ぎ、トイレトレーニングが始まる頃は、親子にとって大きなハードルでもある。虐待も起こりやすく、健やかな発達とは何かを考える。
授業計画第8回 授業内容	8. 遊びの発達と遊べない子ども 遊びは、子どもの能力と関係している。言葉も遊びも発達の指標でもある。遊べる、遊べないということから遊びについて学ぶ。
授業計画第9回 授業内容	9. 幼児期の自立と依存—親子のイライラと分離不安— 保育園や幼稚園など、子どもは親から離れた生活時間が多くなる。そこで見られやすい分離不安等の心理について考える。
授業計画第10回 授業内容	10. 5歳の心—対人交流と緊張— 集団に入ると固まってしまう、緊張が強い、夜に泣き叫ぶ、など起こりやすい問題と心理について考える。
授業計画第11回 授業内容	11. 小さな社会人—小1プロブレム— 小学校に入学すると、「小さな社会」の一員になる。そこで起こる小1プロブレム、今小学校で起こっている問題を考える。
授業計画第12回 授業内容	12. 10歳の心と子どもをめぐる人々Ⅰ—さつきと千尋— 10歳は、子どもにとって大きな転換期である。それはなぜか。映画や物語から、考える。
授業計画第13回 授業内容	13. 10歳の心と子どもをめぐる人々Ⅱ—スタンドバイミー・夏の庭— 10歳は、子どもにとって大きな転換期である。それはなぜか。映画や物語から、考える。
授業計画第14回 授業内容	14. 前思春期～思春期の心—仲間と孤独・友だち地獄— 小学校高学年は、1人の人としての内面の成長が始まる頃である。秘密を持ち、仲間を持ち、人と共有することに喜びを感じるとともに、孤独であると感じることも増える。また、人と繋がりたいとつながりを希求すると同時に、つながりに縛られてしまう。そんな心について考える。
授業計画第15回 授業内容	15.まとめとディスカッション—期末課題—

	教員免許のための選択科目(高等学校)
授業名	司法・犯罪心理学
担当教員	藤田 悟郎
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	犯罪心理学に関する最近の主要な研究と実践を知り、現代人にとって身近な現象である犯罪についての理解を深めるとともに、心理学が、犯罪の捜査、被害者の支援、犯罪の防止などに貢献している様子を学びます。
到達目標	一般の人が持っている犯罪についてのイメージと、犯罪の実態との違いを指摘できる。 犯罪心理学における、主要な理論と実践の概要を説明できる。 現代社会が直面している犯罪に関する諸課題について、自分の意見を説明できる。
学習内容	講義形式の授業により、正しい知識を得るとともに、犯罪に対する自分の理解と意見を整理しながら学んでいきます。受講者が学習する助けとするために、犯罪に関するビデオや新聞記事などを題材にした解説を行うほか、授業中に各自が行う小課題を実施します。
成績評価の方法・基準	授業への参加状況と授業中の小課題(50%)、定期試験(50%)に基づき総合的に評価します。 なお、授業の3分の2以上に出席していないと、定期試験を受けることはできません。
教科書	特になし
参考書	岡本吉生(編)司法・犯罪心理学 遠見書房 2023 矢島正見, 山本功, 丸秀康(編著) 改訂版よくわかる犯罪社会学入門 学陽書房 2009 犯罪心理学会(編)犯罪心理学事典 丸善出版 2016 ロバート・K・レスラー、トム・ジャットマン(著) 相原真里子(訳) FBI心理分析官 早川文庫 NF 2000
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション、司法・犯罪心理学の概要
授業計画第2回 授業内容	日本における犯罪の実態、刑事手続、刑法犯、刑事責任能力、少年事件、家事事件
授業計画第3回 授業内容	犯罪学の理論
授業計画第4回 授業内容	捜査心理学1(犯罪者プロファイリングの概要、FBI方式、リバプール方式)
授業計画第5回 授業内容	捜査心理学2(殺人、犯人像推定)

授業計画第6回 授業内容	捜査心理学3(統計プロファイリング、事件リンク分析、地理的プロファイリング)
授業計画第7回 授業内容	捜査心理学4(人質事件、立てこもり事件、説得交渉、ストックホルム症候群)
授業計画第8回 授業内容	捜査心理学5(目撃証言、代表者聴取、ポリグラフ検査)
授業計画第9回 授業内容	犯罪被害者の支援1(犯罪被害者等基本法、犯罪被害者等早期援助団体、被害者学)
授業計画第10回 授業内容	犯罪被害者の支援2(心的外傷後ストレス症、遷延性悲嘆症)
授業計画第11回 授業内容	犯罪被害者の支援3(社会の理解、犯罪被害者のための諸制度)
授業計画第12回 授業内容	犯罪の予防・被害防止1(犯罪の一般予防と特別予防、施設内処遇、矯正)
授業計画第13回 授業内容	犯罪の予防・被害防止2(社会内処遇、更生保護、認知行動モデルによる心理支援)
授業計画第14回 授業内容	犯罪の予防・被害防止3(広報、市民参加による防犯、リスク知覚、リスク・コミュニケーション)
授業計画第15回 授業内容	まとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	国際関係史
担当教員	小久保 康之
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	本講義では、17世紀に主権国家体制が構築されてから、21世紀の今日に至るまでの国際関係の歴史について学ぶことを目的とする。 現代の国際社会で生じている様々な問題を理解するためには、国際体系がどのように変遷してきたのかを理解しなくてはならない。更に、そのような変遷は、各国の国内政治の変化とも密接に結びついており、国際秩序と主要国家の国内政治がいつの時代においても連動してきたことに留意することが必要である。本講義では、産業革命、市民革命、植民地政策、帝国主義、共産主義の台頭といった世界史の大きな流れを背景とした主要国の国内政治と外交の動向を踏まえつつ、国際秩序全体がどのように変遷してきたのかを学ぶことにより、21世紀の国際秩序の在り方について考える基礎を構築する。
到達目標	①17世紀以降の世界史の大きな流れを理解する。 ②国際秩序がどのように変遷してきたのかを理解する。 ③各国の国内政治と国際秩序の形成が密接に連動していることを理解する。 ④国際関係の歴史を学び、現下の国際情勢をより広い視点から考える力を身に付ける。
学習内容	授業形態: 対面授業 毎回の授業で、リアクションペーパーを提出してもらい、授業に対するコメント、質問等を記入する。
成績評価の方法・基準	リアクションペーパーは毎回3点満点とし、全15回で45点満点の平常点とする。 期末試験を実施し、55点満点で採点し、平常点と合わせて、100点満点とする。 期末試験は、教科書、配布資料、手書きノート、印刷資料の持込可、60分、論述式とする。
教科書	小川浩之・板橋巧己・青野利彦(著)『国際政治史』有斐閣、2018年。 渡邊啓貴(編)『ヨーロッパ国際関係史(新版)』有斐閣、2008年。
参考書	有賀貞『国際関係史』東京大学出版会、2010年。 有賀貞『現代国際関係史』東京大学出版会、2019年。 佐々木雄太『国際政治史』名古屋大学出版会、2011年。
授業計画第1回 授業内容	国際関係史を学ぶことの意義 国際秩序の変遷(17世紀のウェストファリア体制から21世紀の国際体制まで) 政治思想、経済、イデオロギー、科学技術の発展と国際秩序の変容、覇権国家の変遷
授業計画第2回 授業内容	30年戦争とウェストファリア体制の確立 主権国家体制と勢力均衡の原則 国際法の誕生: アナーキーな国際社会での「法の支配」への道
授業計画第3回 授業内容	絶対王政の出現と近代ヨーロッパの勢力均衡 一連の王位継承戦争とヨーロッパ主要国間の勢力均衡 近代ヨーロッパの勢力均衡の評価

授業計画第4回 授業内容	市民革命とナショナリズムの誕生 イギリス革命、アメリカ独立革命、フランス大革命 王政から主権在民へ
授業計画第5回 授業内容	ナポレオン戦争とウィーン会議 正統主義と勢力均衡 ウィーン体制の確立:ウィーン条約、神聖同盟、四国同盟
授業計画第6回 授業内容	ウィーン体制の崩壊 クリミア戦争、普仏戦争とドイツ統一、イタリア統一 1871年の重要性:ウィーン体制から帝国主義時代へ
授業計画第7回 授業内容	帝国主義と第1次世界大戦 ビスマルク体制、3国同盟と3国協商 世界覇権をめぐる主要国間の争い
授業計画第8回 授業内容	第1次世界大戦の勃発、展開、終戦 サラエヴォ事件と世界大戦の勃発 戦争の展開と1918年の終戦、第1次世界大戦の特徴
授業計画第9回 授業内容	第1次世界大戦の終戦と講和条約 ヴェルサイユ講和会議とヴェルサイユ条約 ヴェルサイユ体制の特徴
授業計画第10回 授業内容	戦間期の国際政治 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ドイツ、イタリア、日本の暴走
授業計画第11回 授業内容	第2次世界大戦の勃発 ナチスドイツによるヨーロッパ戦線 日本による太平洋戦線
授業計画第12回 授業内容	第2次世界大戦の終戦 ニュールンベルグ裁判と極東裁判 米ソによる覇権争い:ヤルタ会談
授業計画第13回 授業内容	東西冷戦体制の確立 米ソによるイデオロギー対立 緊張緩和と新冷戦
授業計画第14回 授業内容	冷戦体制の崩壊 ソ連崩壊とアメリカ1極体制 急速なグローバリゼーションと技術革新による国際秩序への影響
授業計画第15回 授業内容	アメリカの地盤沈下と新たな挑戦国の台頭 文明の衝突、民族対立、宗教対立の激化 軍事力、経済力、技術力を結集した新たな覇権争いに直面する21世紀の国際社会

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	北米入門
担当教員	平体(津田) 由美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	アメリカ合衆国を理解する上で基本となる地理、社会、歴史を扱う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの地理を歴史と結びつけて理解する。 ・産業化のプロセスを理解する。 ・国際社会における立ち位置の変化を説明できる。 ・アメリカ社会の基底にある思想を現代の問題と結びつけて説明できる。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植民地の成り立ちと特徴 ・イギリスとの対立と13植民地の独立 ・アメリカ合衆国の成立 ・産業革命の進行 ・セクショナリズム ・南北戦争と南部再建 ・移民とアメリカ社会 ・第一次世界大戦 ・第二次世界大戦 ・冷戦期の国内社会と対外関係 ・権利革命 ・多文化主義と保守主義 ・テロとの闘いとアメリカ的自由
成績評価の方法・基準	小テスト 30%、中間課題 30%、期末課題 40%
教科書	講義時に指示する。
参考書	<p>和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年</p> <p>アメリカ学会編『アメリカ文化事典』丸善出版、2018年</p>
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション アメリカのイメージ 英領北アメリカ植民地の展開
授業計画第2回 授業内容	18世紀後半の英領北アメリカ植民地と英仏関係 アメリカ独立戦争
授業計画第3回 授業内容	アメリカ合衆国建国と初期共和国
授業計画第4回 授業内容	アメリカの地域と歴史がもたらす記憶——北部、東部、南部、西部、中西部、都市、農村
授業計画第5回 授業内容	産業革命のインパクト

授業計画第6回 授業内容	南北戦争と南部再建
授業計画第7回 授業内容	「大量移民」の時代と人種秩序
授業計画第8回 授業内容	前半のまとめと中間課題
授業計画第9回 授業内容	第一次世界大戦 好況と大恐慌の両大戦間期
授業計画第10回 授業内容	大恐慌からニューディール 第二次世界大戦
授業計画第11回 授業内容	冷戦期のアメリカの社会状況と対外関係
授業計画第12回 授業内容	権利革命時代のアメリカ(1)——公民権運動
授業計画第13回 授業内容	権利革命時代のアメリカ(2)——フェミニズムと身体をめぐる政治
授業計画第14回 授業内容	保守化するアメリカ——モラル、家族の価値、一国主義
授業計画第15回 授業内容	現代アメリカが直面する諸問題——分極化を中心に

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	現代の北米
担当教員	平体(津田) 由美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	多文化社会アメリカでは、公共政策はどのように決定されるのか。内側に民主主義、リベラリズム、ポピュリズム、外側にグローバル化と安全保障上の圧力を抱える中で、アメリカにおける「ものの決め方」「決めたことの実行」「そこに働く諸力」について考える。 前半は国家構造の理論を、後半は構造の理解に基づきケーススタディとして人種・移民・身体などを取り上げる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国憲法の仕組みを説明できる。 ・民主主義、リベラリズム、ポピュリズムを定義できる。 ・チェック・アンド・バランスがどのように機能しているか説明できる。 ・大統領の権限について説明できる。 ・分極化の実態を理解する。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合衆国の憲法 ・民主主義、リベラリズム、ポピュリズムの定義とコントロール ・チェック・アンド・バランスの機能の仕方 ・大統領の役割 ・議会の役割 ・最高裁判所の役割 ・人種秩序(アフーマティブ・アクション、レイシヤル・プロファイリング) ・移民 ・外交 ・教育 ・身体をめぐるトピック(妊娠中絶、医療と健康)
成績評価の方法・基準	<p>専門用語と分析概念を適切に理解し、それらを使用して実際の動きを説明できるかどうかを問う。</p> <p>小テスト 30%、中間試験 30%、期末 40%(16 週目に定期試験を実施します。)</p>
教科書	授業内で指示する。
参考書	<p>待鳥聡史『アメリカ大統領制の現在——権限の弱さをどう乗り越えるか』NHK 出版、2016 年</p> <p>友原章典『移民の経済学』中公新書、2020 年</p> <p>三牧聖子『Z 世代のアメリカ』NHK 出版新書、2023 年</p> <p>平体由美『病が分断するアメリカ——公衆衛生と「自由」のジレンマ』ちくま新書、2023 年</p>
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス 大統領が作る／作らない政治
授業計画第2回 授業内容	アメリカ合衆国憲法が定める連邦政府の形

授業計画第3回 授業内容	連邦政府と州政府の管轄権
授業計画第4回 授業内容	大統領の権力、権威、影響力
授業計画第5回 授業内容	「選挙で選ぶ」ことの背後に——議会、政党、圧力団体、メディア
授業計画第6回 授業内容	ジョーカーとしての連邦最高裁
授業計画第7回 授業内容	中間試験と振り返り
授業計画第8回 授業内容	ケーススタディ(1)人種秩序の歴史と現状
授業計画第9回 授業内容	ケーススタディ(2)移民をめぐる国内議論
授業計画第10回 授業内容	ケーススタディ(3)外交と安全保障
授業計画第11回 授業内容	ケーススタディ(4)子どもの教育——NCLB 法とその後
授業計画第12回 授業内容	ケーススタディ(5)キリスト教ナショナリズム
授業計画第13回 授業内容	ケーススタディ(6)妊娠中絶とプライバシー
授業計画第14回 授業内容	ケーススタディ(7)コミュニティの健康と個人の健康の相克
授業計画第15回 授業内容	総括——基本用語と概念の再確認

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	ヨーロッパ・EU 入門
担当教員	小久保 康之
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	<p>本講義では、第2次世界大戦後から今日に至る現代ヨーロッパ史を学ぶことで、現在のヨーロッパを理解するための基礎を養う。</p> <p>東西冷戦下の西ヨーロッパは、NATO(北大西洋条約機構)、EU(欧州連合)、CoE(欧州審議会)という地域機構を軸として、東ヨーロッパは、WTO(ワルシャワ条約機構)、COMECON(経済相互援助会議)、ソ連による共産党独裁を軸として構築されていた。西ヨーロッパにおけるEU設立は、加盟国の主権を制限し、EUに委譲された主権を共同行使する仕組みを作ることで、西ヨーロッパの平和と経済的繁栄を確保することに成功した。</p> <p>1989年の東西冷戦崩壊後、ヨーロッパはEUを中核とした地域国際秩序の構築を進め、単一通貨ユーロの発行まで経済統合を深化させ、EU加盟国数も27カ国に拡大して、文字通りヨーロッパ全域を網羅する地域国際機構となった。それ故、現在のヨーロッパを理解するためには、歴史の実験と言われるEU統合の軌跡を学ぶことが重要となる。</p> <p>ところが、2010年代以降、ヨーロッパはユーロ危機、移民難民問題、テロの脅威、英国のEU離脱、極右政党の台頭、ウクライナ危機といった複合危機に襲われる。更に、2022年2月24日のロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、ヨーロッパは再び戦争に直面している。</p> <p>そこで、本講義では、国際政治全体の動きやヨーロッパ各国の政治経済状況との連動にも言及しながら、80年間の現代ヨーロッパ史を包括的に学ぶ。</p> <p>尚、ロシア・ウクライナ戦争の進捗状況如何では、終盤の講義内容がシラバス通りにはならないことも予想されるので、あらかじめご了承ください。</p>
到達目標	<p>①ヨーロッパの現状を理解するための、基礎的知識を習得する。</p> <p>②現在のヨーロッパはEU統合が中核にあり、EUと加盟国との共存体制であることを理解する。</p> <p>③EU統合は、万能薬ではなく、まだまだ課題も多いが、世界で初めての新しい国際政治システムの構築に挑戦していることを理解する。</p> <p>④ヨーロッパはEUだけでなく、NATOを始めとして、様々な地域的枠組みと諸国家が連携していることを理解する。</p> <p>⑤ヨーロッパがこれまでにない危機に直面していることを理解する。</p>
学習内容	<p>①授業形態:対面授業</p> <p>②担当教員への連絡の取り方:英和のメールアドレス</p> <p>③教科書・参考書、配布資料、毎回の講義を踏まえて理解を深めていく。</p>
成績評価の方法・基準	<p>期末試験期間に期末試験(論述式、教科書・配布資料・ノート・参考図書および自分で印刷した参考資料の持込みは許可する。デジタル機器は持ち込み不可とする。)を実施する。</p>

	<p>授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出してもらい、各3点満点で採点し、平常点とする。</p> <p>(15回の授業の内、第1回はまだ履修登録が確定していないので、2回目から15回目までの14回分の合計として42点満点とする。)リアクションペーパーには、授業等で得られた新たな知見や感想、質問などを記載すること。</p> <p>成績は、期末試験(58点満点)とリアクションペーパー(42点満点)を合計して100点満点とし、更に期末試験やリアクションペーパーの回答内容を含めて、総合的に判断する。</p> <p>尚、正当な事由(感染症、身内の不幸、教職課程等の実習、就職活動等)により授業を欠席せざるを得ない場合は、理由を明記して、メールもしくは文書にて連絡すること。総合的に最終評価をする際に勘案する。</p>
教科書	<p>遠藤乾(編)『ヨーロッパ統合史[第2版]』名古屋大学出版会、2024年、ISBN978-4-8158-1165-5 ([第2版]を購入すること。¥3,600+税。本学ブックセンターにて1割引きで購入できます。) 図書館にも配架するようにします。また、教科書を期末試験において持ち込むことを許可します。</p>
参考書	<p>『ヨーロッパの政治経済・入門[新版]』(森井裕一編、有斐閣、2022年)ISBN978-4-641-18457-2 『はじめて学ぶEU』(井上淳著、法律文化社、2020年)ISBN978-4-589-04060-2 『欧州統合史』(益田実・山本健編著、ミネルヴァ書房、2019年)ISBN978-4-623-08491-3 など。</p>
授業計画第1回 授業内容	<p>イントロダクション: 講義内容および講義の進め方についての説明 ユーロッパ・EUを理解することの重要性 現在ヨーロッパが直面している様々な危機 (教科書:序章、1-19頁)</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>第二次世界大戦の終了後のヨーロッパにおける東西冷戦構造の固定化: NATOによる軍事的安全保障体制の確立と欧州統合に向けた萌芽的動き 東ヨーロッパにおけるスターリン独裁体制の確立 (教科書:第3章、90-125頁)(第1章、第3章を読むことで更に理解が深まります。)</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>外部講師による特別講義:ヨーロッパの世界遺産について</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>1950年代のヨーロッパ: ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)の設立とEDC(欧州防衛共同体)の失敗 西ドイツの主権回復とNATO体制の確立 EEC(欧州経済共同体)とEURATOM(欧州原子力共同体)の設立 ヨーロッパが支配していた植民地での独立運動の激化 東ヨーロッパにおけるソ連による弾圧:ハンガリー動乱 (教科書:第4章、126-152頁)</p>
授業計画第5回 授業内容	<p>1960年代のヨーロッパ: 戦後の経済復興と学生・労働者の反乱 ド・ゴール仏大統領の欧州統合への挑戦 東ヨーロッパにおけるソ連の弾圧:プラハの春 (教科書:第5章、153-189頁)</p>
授業計画第6回 授業内容	<p>1970年代のヨーロッパ: 経済的低迷と欧州統合の停滞と再生への試み デタント期におけるヨーロッパ政治、東西緊張関係の緩和 CSCE(欧州安全保障協力会議)の発足 (教科書:第6章、190-224頁)</p>
授業計画第7回 授業内容	<p>1980年代のヨーロッパ: 1992年EC市場統合計画の発進と西ヨーロッパ経済の復活</p>

	衰退するソ連・東ヨーロッパ経済とゴルバチョフによる改革 (教科書: 第 7 章、225-246 頁)
授業計画第 8 回 授業内容	冷戦の崩壊と EU の誕生: 1989 年の東欧革命と東ヨーロッパ諸国の体制転換 東西ドイツの再統一と EU を中核としたヨーロッパ新秩序構築の試み マーストリヒト条約による EU の 3 支柱構造 (教科書: 第 7 章、246-259 頁及び第 8 章、260-268 頁)
授業計画第 9 回 授業内容	ベルリンの壁はどのようにして崩壊したのか: 1980 年代後半から 1989 年 11 月 9 日のベルリンの壁崩壊に至るドキュメンタリーの視聴
授業計画第 10 回 授業内容	1990 年代のヨーロッパ: EU 統合の深化(アムステルダム条約の調印、単一通貨ユーロの発足など) 旧ユーゴ紛争と NATO の見直し (教科書第 8 章、269-284 頁)
授業計画第 11 回 授業内容	2000 年代前半のヨーロッパ: EU 加盟国の急増(ビッグバン)とニース条約 単一通貨ユーロの発行と流通 コソボ紛争、9.11 を踏まえたヨーロッパの新たな安全保障政策 (教科書: 第 9 章、285-301 頁)
授業計画第 12 回 授業内容	2000 年代後半のヨーロッパ: 欧州憲法条約の失敗と現行のリスボン条約(EU 基本条約)の制定 現在の EU 体制の確立 (教科書: 第 9 章、301-310 頁)
授業計画第 13 回 授業内容	2010 年代のヨーロッパ複合危機: ユーロ危機、難民危機、欧州懐疑主義、極右勢力の台頭、英国の EU 離脱、コロナ、ウクライナ危機 (教科書: 第 10 章、311-322 頁)
授業計画第 14 回 授業内容	2020 年代のヨーロッパ: 2016 年の米トランプ政権の誕生とヨーロッパの対応 コロナ危機と EU における復興基金の創設 2022 年 2 月 24 日のロシア・ウクライナ戦争の勃発 (教科書: 第 10 章、322-337 頁)
授業計画第 15 回 授業内容	総括と展望: ヨーロッパ統合が意味するところはなにか 超国家機構としての EU と各加盟国の主権の共存 国際政治の変動の中でヨーロッパ統合を位置付ける これからのヨーロッパはどこに向かうのか (教科書: 終章、338-359 頁)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	現代のヨーロッパ・EU
担当教員	小久保 康之
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	<p>現代のヨーロッパを理解するためには、EU(欧州連合)の現状、NATO(北大西洋条約機構)の現状、ヨーロッパ各国の状況、更には国際社会全体の動向のすべてを網羅的に見ていく必要がある。</p> <p>その中でも超国家的機構であるEUが全ヨーロッパ地域の秩序の基盤となっているので、EUという新しい政治体の概要を学ぶ。EU加盟国は現在27カ国となり、人口4億5,000万人を超える巨大な単一市場を形成し、GDPも米国を上回る。しかし、単一通貨「ユーロ」を採用しているEU加盟国は19カ国に留まり、非EU加盟国でも国境検問なしで移動できるシェンゲン圏入っている国があるなど、ヨーロッパ情勢は複雑であるため、丁寧にヨーロッパ・EUの現状を説明する。更に、EUの諸機関とEUにおける政策決定プロセスについて概説し、EU27カ国がどのように共通政策を進め、どのような制度・仕組みの下でEUの政治的正統性が確保されているのかを検討する。</p> <p>その上で、ユーロ危機、英国のEU離脱問題、移民・難民問題、欧州懐疑主義の台頭、南欧諸国の経済危機、ロシア・ウクライナ戦争など、現在ヨーロッパで起こっている様々な問題について解説し、それらが相互に連動している複合危機であることを説明する。</p> <p>現在進行形のテーマを取り上げるため、本シラバス通りの授業展開にならない部分が必要出てくることをあらかじめ了承しておいて欲しい。特に、2022年2月24日に勃発したロシア・ウクライナ戦争の展開は予測不可能であり、その時々状況について解説を加えるので、毎回の授業でしっかり理解して欲しい。</p>
到達目標	<p>①EU統合、NATO、ヨーロッパ各国の動向を並行して見ていく必要性を理解する。</p> <p>②EUの超国家的な制度的枠組みや政策決定プロセスを理解する。</p> <p>③ヨーロッパの平和と繁栄を支えてきたEU統合が難しい局面に来ていることを理解する。</p> <p>④国際情勢の変化との連動でヨーロッパを見ていくことで、視野を広める。</p>
学習内容	<p>①授業形態:対面授業</p> <p>②注意事項:毎回授業についてのリアクションペーパーを提出してもらい、授業で得た新しい知見や感想、質問などを記入すること。誠意あるペーパーかどうか評価するので注意すること。</p>
成績評価の方法・基準	<p>期末試験期間に期末試験(論述式、教科書・配布資料・ノート、参考図書および自分で印刷した参考資料の持込みは許可する。デジタル機器は持ち込み不可とする。)を実施する。</p> <p>授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出してもらい、各3点満点で採点し、平常点とする。(15回の授業の内、第1回はまだ履修登録が確定していないので、2回目から15回目までの14回分の合計として42点満点とする。)リアクションペーパーには、授業等で得られた新たな知見や感想、質問などを記載すること。</p> <p>成績は、期末試験(58点満点)とリアクションペーパー(42点満点)を合計して100点満点とし、更に期末試験やリアクションペーパーの回答内容を含めて、総合的に判断する。</p>

	尚、正当な事由(感染症、身内の不幸、教職課程等の実習、就職活動等)により授業を欠席せざるを得ない場合は、理由を明記して、メールもしくは文書にて連絡すること。総合的に最終評価をする際に勘案する。
教科書	広瀬佳一・小久保康之編『現代ヨーロッパの国際政治』(法律文化社)、2023年。 ISBN978-4-589-04288-0、¥2,800+税(本学ブックセンターにて1割引きで購入できます。) 図書館にも配架するようにします。また、教科書を期末試験において持ち込むことを許可します。
参考書	『よくわかるEU政治』(坂井・八十田編著、ミネルヴァ書房、2020年) 『EU政治論』(池本大輔他著、有斐閣、2020年) 『はじめて学ぶEU』(井上淳著、法律文化社、2020年) 『現代ヨーロッパの安全保障』(広瀬佳一編著、ミネルヴァ書房、2019年) など。
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション: 講義内容および講義の進め方についての説明 現代ヨーロッパ・EUが抱える課題についての概要説明 (配布資料が教科書代わり)
授業計画第2回 授業内容	地図から見るヨーロッパ: EU、ユーロ圏、シェンゲン圏、EFTA(欧州自由貿易連合)、CoE(欧州審議会)、NATO (配布資料が教科書代わり)
授業計画第3回 授業内容	EU統合の今日までの歩み (教科書:第1章および第2章、3-33頁)
授業計画第4回 授業内容	EUの拡大プロセス (教科書:第2章、18-33頁)
授業計画第5回 授業内容	EUの経済統合とその課題:ユーロ危機 (教科書:第5章、69-84頁)
授業計画第6回 授業内容	EUの諸機関とその特徴 (配布資料が教科書代わり)
授業計画第7回 授業内容	EUの政治的正統性とEUにおける民主主義の赤字議論 (配布資料が教科書代わり)
授業計画第8回 授業内容	冷戦後のNATOの変容と拡大 OSCE(欧州安全保障協力会議)、CoE(欧州審議会)の説明 (教科書:第3章と第4章、34-66頁)
授業計画第9回 授業内容	EUにおける移民・難民問題 (教科書:第6章、85-100頁)
授業計画第10回 授業内容	ヨーロッパを目指す難民の苦悩についてのドキュメンタリーの視聴
授業計画第11回 授業内容	英国のEU離脱問題 (教科書:第10章、151-167頁)
授業計画第12回 授業内容	2010年代以降にEUが直面してきた複合危機: ユーロ危機、難民危機、ウクライナ危機、テロの危機、英国のEU離脱 (配布資料が教科書代わり)

授業計画第 13 回 授業内容	ロシア・ウクライナ戦争の発端、経過、その影響 (教科書: 第 13 章、201-218 頁 + 第 15 章、236-253 頁)
授業計画第 14 回 授業内容	EU が目指す持続可能な発展 (配布資料 + 教科書: 第 11 章、168-184 頁)
授業計画第 15 回 授業内容	総括: トランプ政権の 1 年間とヨーロッパ・EU の対応 ロシア・ウクライナ戦争の行方 中国・台湾と EU 日本はヨーロッパとどのように付き合うべきか EU は安全保障領域まで統合を進めるのか? (配布資料 + 教科書: 第 14 章、219-235 頁、第 15 章、254-266 頁、第 9 章、135-150 頁、第 12 章、185-197 頁)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	北東アジア入門
担当教員	望月 敏弘
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	<p>テーマ:現代中国はどのように歩んできたのか—社会主義国家の建設</p> <p>内 容:1949年に誕生した中華人民共和国はいかなる歴史的背景から成立したのか、建国後の社会主義国家としての歩みはどのようなものであったのかを学習します。いま日本国民の中国への親近感がかつてないほど低いレベルにありますが、一方で、重要な隣国であり、日本に大きな影響を及ぼす現実を無視することはできません。グローバル化する巨大国家・中国を理解することはかなりの難題です。受講者が、感情的な次元を超えて、この隣国を客観的・理性的に考える機会を提供したいと思いません。</p> <p>実務経験:外務省在上海日本国総領事館での勤務経験(専門調査員)を活かし、現地での体験に基づいた現代中国の政治・経済・社会・外交の実態を踏まえた授業を行います。</p>
到達目標	現代中国を中心に、台湾・香港への基礎知識を修得します。加えて、現代中国の歴史的歩みを、主に政治・経済・外交・社会といった観点から全体的に理解します。
学習内容	まず、中国・台湾・香港など中華世界への基礎的な理解を深めます。次に、現在の中国の土台となった、1949年の建国から1970年代末に近代化政策が始まるまでの社会主義国家を建設してゆく過程を詳細に見ていきます。なお、不定期で、小課題を求めます。学期末には、定期試験を実施します。 授業形態:対面授業
成績評価の方法・基準	平常点(不定期の小課題)30%、期末試験70%で成績評価をします。 不定期の小課題が不十分な場合、授業内容への理解度が低い場合、厳しい評価となります。
教科書	特になし
参考書	川島真・小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年。
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション
授業計画第2回 授業内容	中華世界へのアプローチ—地理・人口・歴史
授業計画第3回 授業内容	中華世界へのアプローチ—政治・経済・社会・国際関係

授業計画第4回 授業内容	映像から考える毛沢東時代
授業計画第5回 授業内容	現代中国の歴史—毛沢東時代を概観する
授業計画第6回 授業内容	現代中国の歴史—鄧小平～習近平時代を概観する
授業計画第7回 授業内容	中華人民共和国の成立と経済の復興
授業計画第8回 授業内容	百花斉放・百家争鳴と反右派闘争
授業計画第9回 授業内容	毛沢東による大躍進運動の発動
授業計画第10回 授業内容	大躍進運動の展開とその結末
授業計画第11回 授業内容	経済調整政策の推進と生産の回復
授業計画第12回 授業内容	毛沢東による文化大革命の発動
授業計画第13回 授業内容	文化大革命の展開とその収束
授業計画第14回 授業内容	質疑応答
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	韓国の社会と文化
担当教員	富樫(大庭) あゆみ
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	【朝鮮半島の風俗文化についての知識を得て、現代韓国社会と日韓における諸問題を考察する】 朝鮮半島は「日本と最も遠くて近い地域」と言われます。一見すると姿形は類似しているものの、食文化、宗教文化をはじめとして日本とは全く異なる文化を有しています。本授業では、朝鮮半島の風俗文化や日本とは異なる現代韓国社会のあり方と諸問題を学びます。加えて、文化をめぐって日韓間政治社会問題化している現状を学んでいきます。します。
到達目標	①朝鮮半島の文化と風土、風俗についての知識を得る。 ②現代韓国社会文化における諸問題について認識し、日本との比較を通して問題解決を考えることができる。 ③日韓間において文化が政治問題化していることを認識し、それに対する自らの考えを発展させる。
学習内容	①現代朝鮮半島における文化と風俗について知識を得る。 ②韓国における多文化政策のあり方を学ぶことで問題を認識し、日本との違いを考察する。 ③朝鮮植民地支配という歴史から端を発する日韓間の諸問題を文化の側面から学ぶ。
成績評価の方法・基準	毎回のリアクションペーパーの内容 30% 期末試験 70% ※ 期末試験は事前に問題を提示します。持ち込みは不可です。 ※ 第16週に期末試験を行います。 ※ リアクションペーパーの未提出が5回で放棄とします。
教科書	特に指定しません。
参考書	浅羽祐樹編『はじめて向き合う韓国』、2024年、法律文化社
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス、朝鮮半島の基礎知識
授業計画第2回 授業内容	朝鮮半島の風土、歴史
授業計画第3回 授業内容	朝鮮半島の宗教・風俗文化①: 神話、宗教、巫俗
授業計画第4回 授業内容	朝鮮半島の宗教・風俗文化②: 訓民正音、伝統行事

授業計画第5回 授業内容	韓国のソフトパワー:文化育成産業と韓流
授業計画第6回 授業内容	現代韓国の社会文化:競争社会、格差
授業計画第7回 授業内容	現代韓国社会におけるジェンダー:女性運動と女性の社会進出
授業計画第8回 授業内容	現代韓国社会におけるジェンダー:少子化とミソジニー
授業計画第9回 授業内容	韓国の青年層が抱える問題:「ヘル朝鮮」とは?
授業計画第10回 授業内容	政治をめぐる社会の分断:男女、地域主義
授業計画第11回 授業内容	韓国における多文化共生:韓国における移民者の現状
授業計画第12回 授業内容	韓国における多文化共生:労働移民者政策の変遷と結婚移民者
授業計画第13回 授業内容	韓国における多文化共生:多文化家族政策
授業計画第14回 授業内容	在日コリアンを知る①:”在日コリアン”の歴史
授業計画第15回 授業内容	在日コリアンを知る②:”在日コリアン”が抱えてきた葛藤

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	東南アジア入門
担当教員	福田 保
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	<p>テーマ: 東南アジアの多様性</p> <p>内容: 「東南アジア」と聞くと、「ASEAN」「途上国」「温暖な気候」「治安が悪い」など、共通点が多く、どの国も同じようだと思っている人が少なくないかもしれません。でも実は、東南アジアの1つの大きな特徴は「多様性」です。共通点より、相違点を見出すほうが容易かもしれません。本科目は、東南アジアの多様性に着目します。東南アジア諸国の多様性と共通性を踏まえた後、主要6カ国(インドネシア・マレーシア・シンガポール・フィリピン・タイ・ベトナム)を取り上げ、政治・経済・社会を中心に各国の特徴を学びます。東南アジアは決して一様ではなく、多くの相違点があることがわかるでしょう。</p> <p>実務経験: 外務省に政策提言を行うシンクタンクに務めていた経験を踏まえ、東南アジアの政策担当者や研究者の考えなど、現地の生の声を授業で適宜紹介する。</p>
到達目標	<p>① 東南アジア主要6カ国についての基本的知識を習得すること。</p> <p>② 東南アジア諸国の多様性を「具体的に」説明できるようになること。</p>
学習内容	<p>授業形態: 対面</p> <p>学習内容: 東南アジア主要6カ国を政治・経済・社会・国際関係の4分野から、それぞれの国の特徴を学びます。</p>
成績評価の方法・基準	第1回論述試験: 50% 第2回論述試験: 40% コメントシート: 10%
教科書	特に指定しません。
参考書	明石書店のエリア・スタディーズシリーズ(例:『東南アジアを知るための50章』) めこん社の基礎知識シリーズ(例:『インドネシアの基礎知識』) 岩崎育夫(2017)『入門 東南アジア近現代史』講談社現代新書、講談社。
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス
授業計画第2回 授業内容	東南アジアとは
授業計画第3回 授業内容	インドネシア①地理・自然環境・民族・歴史

授業計画第4回 授業内容	インドネシア②政治・経済・社会
授業計画第5回 授業内容	マレーシア①民族・宗教
授業計画第6回 授業内容	マレーシア②政治・経済
授業計画第7回 授業内容	シンガポール①歴史・政治
授業計画第8回 授業内容	シンガポール②経済・社会
授業計画第9回 授業内容	第1回論述試験
授業計画第10回 授業内容	フィリピン①歴史・政治
授業計画第11回 授業内容	フィリピン②経済・社会
授業計画第12回 授業内容	タイ①社会・文化
授業計画第13回 授業内容	タイ②政治・経済
授業計画第14回 授業内容	ベトナム①地理・歴史
授業計画第15回 授業内容	ベトナム②政治・経済

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	現代のアジア
担当教員	河野 毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	この講義は、北東アジア地域と東南アジアの関係を中心に講義を進めます。 アジア地域の安全保障環境、経済環境など現代の諸問題を学びます。 加えて、戦後の日本と東アジア、東南アジアの関係を通じ、今後のアジアのあり方についての議論も学びます。
到達目標	日本とアジア地域の関係を考えつつアジアが抱える政治経済問題を学び、それらに対する自らの知見を養う。
学習内容	授業形態: 対面授業 講義形式であるが、学生の積極的な発言や質問を歓迎する。
成績評価の方法・基準	①期末テスト: 70% ②授業への参加態度: 30% ※授業態度は 10%を上限として成績評価に反映します。例えば、積極的な授業態度が認められる場合は加点評価対象とします。3分の1以上欠席した場合は成績評価の対象から外します。
教科書	教科書は特に指定しませんが、最新の政治・経済データ、地図と課題は授業中に配布する。
参考書	『入門 東南アジア研究』 上智大学アジア文化研究所 2003年
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション 授業の全体像と自己紹介
授業計画第2回 授業内容	韓国の政治体制
授業計画第3回 授業内容	中国と台湾の政治体制
授業計画第4回 授業内容	フィリピンの政治体制
授業計画第5回 授業内容	インドネシアの政治体制

授業計画第6回 授業内容	マレーシアとシンガポールの政治体制
授業計画第7回 授業内容	タイの政治体制
授業計画第8回 授業内容	韓国の経済体制
授業計画第9回 授業内容	中国と台湾の経済体制
授業計画第10回 授業内容	フィリピンの経済体制
授業計画第11回 授業内容	インドネシアの経済体制
授業計画第12回 授業内容	マレーシアとシンガポールの経済体制
授業計画第13回 授業内容	タイの経済体制
授業計画第14回 授業内容	日本と東アジア関係
授業計画第15回 授業内容	日本と東南アジア関係

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	グローバルサウス論
担当教員	福田 保
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	近年、「グローバルサウス」と呼ばれる国々が国際社会で注目されています。「グローバルサウス」とはどのような国々でしょうか。また、これら諸国はなぜ注目されているのでしょうか。本科目では、アジア・アフリカ会議の発足など、「グローバルサウス」が台頭する歴史をまず振り返ります。歴史を踏まえた後、「グローバルサウス」の一角である東南アジア諸国を中心に、これら諸国の特徴、国際社会における位置付け、国際秩序維持において果たす役割、またグローバルサウスが抱える課題を検討します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 南北問題をはじめとする新興国・途上国が抱えてきた課題を理解すること。 2. グローバルサウスの国々、特に東南アジア諸国の経済発展過程や外交戦略についての知識を得ること。 3. 今日の国際社会におけるグローバルサウスが果たす役割および課題を理解すること。
学習内容	国際社会では先進国ないし大国が果たす役割が大きく、その動向が注目されてきました。しかし、昨今、これまでその重要性が軽視されてきた途上国ないし中小国が注視されるようになりました。後者のグローバルサウスと称される国々が台頭した歴史的背景を学び、今後の国際秩序で果たしうる役割を考察します。
成績評価の方法・基準	授業内課題:100%
教科書	特に指定しません。
参考書	脇祐三『グローバルサウスの時代』光文社、2024年。 マブバニ、キショール／スン、ジェフェリー『ASEANの奇跡—平和の生態系』新日本出版社、2018年。
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス
授業計画第2回 授業内容	グローバルサウスとは何か
授業計画第3回 授業内容	サウスに関する諸理論
授業計画第4回 授業内容	冷戦下のサウス: 第三世界・非同盟・中立

授業計画第5回 授業内容	南北問題
授業計画第6回 授業内容	新興国の経済発展: 東南アジア諸国を事例に
授業計画第7回 授業内容	前半の振り返りと Q&A
授業計画第8回 授業内容	BRICS
授業計画第9回 授業内容	インドネシア
授業計画第 10 回 授業内容	マレーシア、タイ、ベトナム
授業計画第 11 回 授業内容	グローバルサウスとしての ASEAN①ASEAN の成り立ち
授業計画第 12 回 授業内容	グローバルサウスとしての ASEAN②大国間対立と ASEAN
授業計画第 13 回 授業内容	ASEAN と日本
授業計画第 14 回 授業内容	グローバルサウスと国際秩序
授業計画第 15 回 授業内容	後半の振り返りと Q&A、まとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	オセアニア入門
担当教員	高橋 麻奈
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学))
単位数	2
テーマ・内容	<p>「オセアニア入門」では、オセアニア地域の各地域および各国、それぞれの社会・文化・人々についての基本的な知識を習得するとともに、オセアニア地域の地域的特徴について考察する。特にこの授業では、オセアニア地域を構成する国・地域を比較しながら、文化的な共通点と相違点、主要な政治・経済課題に関する協力関係と対立関係等を学ぶことで、オセアニアの一体性と多面性を理解することを目指す。このような俯瞰的な理解に加え、学生のオセアニアへの個別の関心を一層高めるため、それぞれの学生が関心を示す特定の国および地域、または特定の課題に焦点をあてた発表やディスカッションを行うなど、学生自身がオセアニア地域についての関心領域を発見する機会とする。</p> <p>【実務経験】国際連合国際商取引法委員会(United Nations Commission on International Trade Law: UNCITRAL)にてコンサルタントとしてアジア太平洋地域センターに勤務した際、オセアニア地域も包括していたため、その際に得た知見も一部授業の中で紹介する予定である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ オセアニア地域の成り立ちと、各国についての基本的知識を身につける。 ・ オセアニア地域の文化・歴史・社会についての基本的知識を身につける。 ・ オセアニアにおける個々の社会問題や社会現象を歴史的背景から理解する。 ・ 日本社会においてオセアニアの国々がどのように表象・認識されてきたかを批判的に考察することができる。 ・ オセアニア地域の特徴と魅力について、自分自身の言葉で説明ができるようになる。
学習内容	この授業は、原則対面で、基本的に講義形式で行う。授業内で一部アクティブラーニングを取り入れる。具体的には、オセアニア地域における具体的な事例および諸課題について、グループでのディスカッションおよび発表などを行う。また、必要に応じて映画や映像作品を用いるため、それに対するディスカッション・フィードバックなどを求める。なお、授業計画および実施形態については授業の展開および社会情勢によって、変更になることがある。
成績評価の方法・基準	<p>40%: 平常点・授業への参加度(授業及びディスカッションへの貢献、リアクションペーパーの提出状況)</p> <p>60%: 中間プレゼンテーション(ワークショップ)および学期末課題(レポート)</p> <p>※ 他の評価項目については授業内で別途説明する。</p>
教科書	特に指定しない。授業内にて、毎時間講義資料および参考資料を配布する。
参考書	<p>越智 道雄 『オーストラリアを知るための 58 章【第 3 版】』(2010)明石書店</p> <p>ニュージーランド学会編 『ニュージーランド TODAY 単行本』(2019)春風社</p> <p>山本 真鳥 『オセアニアの今 伝統文化とグローバル化』(2023)明石書店</p>

授業計画第1回 授業内容	イントロダクション 授業ガイダンス(講義の目的・進め方などの紹介)、「地域研究」とは何か
授業計画第2回 授業内容	オセアニア地域とは オセアニアとは何か?世界の中での「オセアニア」地域を概観する
授業計画第3回 授業内容	オセアニア地域とは オセアニア基本情報と地域の特徴
授業計画第4回 授業内容	学生によるプレゼンテーション:オセアニアの国探索①
授業計画第5回 授業内容	学生によるプレゼンテーション:オセアニアの国探索②
授業計画第6回 授業内容	オセアニアの大国① オーストラリア 前編 オセアニアの中のオーストラリア
授業計画第7回 授業内容	オセアニアの大国① オーストラリア 後編 オーストラリア社会の特徴・文化・人々
授業計画第8回 授業内容	オセアニアの大国② ニュージーランド 前編 オセアニアの中のニュージーランド
授業計画第9回 授業内容	オセアニアの大国② ニュージーランド 後編 ニュージーランド社会の特徴・文化・人々
授業計画第10回 授業内容	オセアニアの島嶼地域① メラネシア メラネシア地域とはどのような地域課?:特徴・社会・課題
授業計画第11回 授業内容	オセアニアの島嶼地域② ポリネシア ポリネシア地域とはどのような地域課?:特徴・社会・課題
授業計画第12回 授業内容	オセアニアの島嶼地域③ ミクロネシア ミクロネシア地域とはどのような地域課?:特徴・社会・課題
授業計画第13回 授業内容	日本とオセアニアの関わり① 「海を共有する」パートナーとしての日本:歴史的なつながりと課題
授業計画第14回 授業内容	日本とオセアニアの関わり② 「海を共有する」パートナーとしての日本:現在の関係とこれから
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ 授業のふりかえり、「世界の中のオセアニア」を再考する

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	現代のオセアニア
担当教員	高橋 麻奈
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(地理学(地誌を含む。)) 高校地理歴史(人文地理学・自然地理学)
単位数	2
テーマ・内容	<p>「現在のオセアニア」では、オセアニア地域の社会・文化・人々に関する基本的な知識を基礎として、当該地域における現代的課題について考察するとともに、このプロセスを通じて地域研究とはどのようなことなのかについて、理解を深めることを目的とする。</p> <p>特にこの授業では、オセアニアの各国および各地域の現代的課題についての文献や資料を扱いながら、具体的にどのような現代的な課題が起きているのかについて理解し、その背景と社会的特徴、またグローバル社会の中での当該地域の位置づけについて深く考察する。加えて、学生のオセアニアへの個別の関心を一層高めるため、それぞれの学生が関心を示す特定の国および地域、または特定の課題に焦点をあてた発表やディスカッションを行うなど、学生自身がオセアニア地域についての関心領域を発見する機会とする。</p> <p>【実務経験】国際連合国際商取引法委員会(United Nations Commission on International Trade Law: UNCITRAL)にてコンサルタントとしてアジア太平洋地域センターに勤務した際、オセアニア地域も包括していたため、その際に得た知見も一部授業の中で紹介する予定である。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ オセアニア地域の各国および各地域における現代的な課題についての基本的な知識を身に着ける ・ オセアニアに関する学習を通して、グローバル化・植民地主義・多様性に関する理解を深める。 ・ オセアニアにおける個々の社会問題や社会現象を歴史的背景から理解する。 <p>様々な地域的諸課題を通して、グローバル社会の中でのオセアニア地域の特徴について自分の言葉で説明できるようになる。</p>
学習内容	<p>この授業は、原則対面で、基本的に講義形式で行う。授業内で一部アクティブラーニングを取り入れる。具体的には、オセアニア地域における具体的な事例および諸課題について、グループでのディスカッションおよび発表などを行う。また、必要に応じて映画や映像作品を用いるため、それに対するディスカッション・フィードバックなどを求める。なお、授業計画および実施形態については授業の展開および社会情勢によって、変更になることがある。</p>
成績評価の方法・基準	<p>50%: 平常点・授業への参加度(授業及びディスカッションへの貢献、授業内での発表、リアクションペーパーの提出状況)</p> <p>50%: 学期末課題(レポート)</p> <p>※ 他の評価項目については授業内で別途説明する。</p>
教科書	特に指定しない。授業内にて、毎時間講義資料および参考資料を配布する。
参考書	<p>越智 道雄 『オーストラリアを知るための 58 章【第 3 版】』(2010)明石書店</p> <p>ニュージーランド学会編 『ニュージーランド TODAY 単行本』(2019) 春風社</p>

	エペリ・ハウオフア 著、村上清敏・山本卓 訳『おしりに口づけを』（2006）岩波書店 マデリン・チャップマン 著、西田佳子 訳『ニュージーランド アーダーン首相 世界を動かす共感力』（2021）集英社インターナショナル
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション 授業ガイダンス（講義の目的・進め方などの紹介）、「地域研究」とは何か
授業計画第2回 授業内容	オセアニア地域の特徴と構成を概観する
授業計画第3回 授業内容	映画「モアナと伝説の海」で描かれたオセアニアから、この地域を考える
授業計画第4回 授業内容	オセアニアの現代的課題① 政治体制と社会（1）ワイタング条約をめぐる議論
授業計画第5回 授業内容	オセアニアの現代的課題① 政治体制と社会（2）ニュージーランド社会における現代的課題
授業計画第6回 授業内容	オセアニアの現代的課題② ニュージーランドが生み出した女性リーダー（1） （1）ジャシンダ・アーダーン元首相について
授業計画第7回 授業内容	オセアニアの現代的課題② ニュージーランドが生み出した女性リーダー（2） （2）アーダーン内閣の特徴
授業計画第8回 授業内容	オセアニアの現代的課題② ニュージーランドが生み出した女性リーダー（3） （3）アーダーン首相のスピーチを分析する
授業計画第9回 授業内容	オセアニアの現代的課題② ニュージーランドが生み出した女性リーダー（4） （4）クライストチャーチ銃乱射事件から、ニュージーランドを考える
授業計画第10回 授業内容	オセアニアの現代的課題③ 先住民と多文化主義：オーストラリアに存在する人権問題と植民地化 映画「ソウルガールズ」より（1）オーストラリアの状況と映画の背景を知る
授業計画第11回 授業内容	オセアニアの現代的課題③ 先住民と多文化主義：オーストラリアに存在する人権問題と植民地化 映画「ソウルガールズ」より（2）映画本編鑑賞
授業計画第12回 授業内容	オセアニアの現代的課題③ 先住民と多文化主義：オーストラリアに存在する人権問題と植民地化 映画「ソウルガールズ」より（3）映画の内容についてのディスカッション
授業計画第13回 授業内容	オセアニアの現代的課題④ 気候変動とオセアニア地域（1）オーストラリアにおける状況
授業計画第14回 授業内容	オセアニアの現代的課題④ 気候変動とオセアニア地域（2）小島嶼国家における状況
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ 授業のふりかえり、「世界の中のおセアニア」を再考する

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際関係入門
担当教員	福田 保
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	内容: 国際関係論の初学者である皆さんが、今後東洋英和女学院大学国際社会学部で学んでいくうえで必要となる基本的な知識を学びます。講義で学んだ基礎知識をもとに、今日の世界で実際に起きている多様かつ複雑な国際問題を分析していきます。 実務経験: 外務省に政策提言を行うシンクタンクに務めていた経験を踏まえ、アジア太平洋諸国の政策担当者や研究者の考えなど、現地の生の声を授業で適宜紹介する。
到達目標	今日の国際関係を理解するために必要かつ重要となる国際関係論の基礎知識を修得する。
学習内容	対面授業 以下の授業計画に沿って、国際関係学の基本的な概念を学びます。授業は 70～80 分程度の講義を聞いた後、残りの 10～20 分で授業内容に関する課題を Google Classroom で提出してもらいます。
成績評価の方法・基準	授業内課題: 100%
教科書	使用しません。
参考書	広瀬佳一、小笠原高雪、小尾美千代編著(2021)『よくわかる国際政治』ミネルヴァ書房。 Joseph Grieco, G. John Ikenberry and Michael Mastanduno. (2022). Introduction to International Relations: Perspectives, Connections and Enduring Questions. Third edition. Bloomsbury USA Academic.
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス
授業計画第2回 授業内容	国家とは? 国際社会とは?
授業計画第3回 授業内容	国際関係の3つの視点: 個人、国家、国際
授業計画第4回 授業内容	国家: 大国、中堅国、小国
授業計画第5回 授業内容	非国家主体

授業計画第6回 授業内容	対外政策
授業計画第7回 授業内容	安全保障
授業計画第8回 授業内容	国家間戦争
授業計画第9回 授業内容	紛争解決と平和構築
授業計画第10回 授業内容	グローバリゼーション(映像視聴)
授業計画第11回 授業内容	グローバリゼーション(講義)
授業計画第12回 授業内容	国際経済:貿易と通貨体制
授業計画第13回 授業内容	経済成長と経済格差
授業計画第14回 授業内容	国家間協力
授業計画第15回 授業内容	振り返りとまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際関係論
担当教員	福田 保
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>テーマ: 国際政治学の世界</p> <p>内容: 主要大国、中小国、多国籍企業、国際テロ組織など、様々な主体の思惑が複雑に錯綜する国際関係の諸問題を論理的に分析することは容易ではありません。ニュース番組や報道番組をみたり、新聞の記事や社説を読んだり、世界平和の理想を心に思い描くだけでは、複雑で多面的な国際関係の本質を突き止めたり、国際事象に関する判断基準を身につけることは困難です。より深い探究をおこなうためには、分析の手がかりとなる国際関係の諸理論や、豊富な事例(人類の経験)を提供してくれる国際関係史を学び、国際関係の素養を高めていく必要があります。</p> <p>この授業では、国際政治の歴史と理論の基礎を身につけながら、現代世界が抱えている諸問題について学び、国際的政策課題への対応方法について考えていきます。</p>
到達目標	<p>①教科書『国際政治学をつかむ』に書かれている内容を正確に理解できるようになること。</p> <p>②国際政治の諸問題を、論理的に分析する方法を身につけること。</p> <p>③17世紀以降の国際政治の大きな流れを理解すること。</p>
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <p>教科書『国際政治学をつかむ』と、プリント・PowerPoint・映像資料等の補助教材を利用しながら、①国際政治の歴史の変遷、②国際政治学における様々な学派や研究分野、③国際政治や外交のしくみ、④国際秩序のとらえ方、等について学んでいきます。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価の方法: ①授業への参加・貢献度 30% ②学期末試験 70%</p> <p>評価の基準: ①授業内の課題(小テストやリアクション・ペーパー)に真剣に取り組んでいるかどうか。②試験問題の主旨を理解し、論理的で要領を得た答案を書けているかどうか(学期末試験)。</p>
教科書	村田晃嗣・君塚直隆ほか(編)『国際政治学をつかむ』第3版(有斐閣、2023年)
参考書	<p>ジョセフ・S・ナイ、デイヴィッド・ウェルチ『国際紛争[原書第10版]』(有斐閣、2017年)。</p> <p>ポール・ゴードン ローレン、アレキサンダー・L. ジョージ、ゴードン・A. クレイグ『軍事力と現代外交[原書第4版]』(有斐閣、2009年)。</p>
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス / 国際政治を学ぶ意義 [unit 0]
授業計画第2回 授業内容	主権国家体系(ウェストファリア体制)と近代国家 [Unit 1]
授業計画第3回 授業内容	近代ヨーロッパの国際政治(ナポレオン戦争から第一次世界大戦まで) [unit 2]

授業計画第4回 授業内容	第一次世界大戦と戦間期 [unit 3]
授業計画第5回 授業内容	第二次世界大戦と「戦後新秩序」をめぐる論議 [unit 4]
授業計画第6回 授業内容	冷戦 [unit 5]
授業計画第7回 授業内容	リアリズムの国際政治論－悲観的な世界観とパワー・国益の追求 [unit 6]
授業計画第8回 授業内容	リベラリズムの国際政治論－経済的相互依存・民主主義国家間の平和・国際制度 [unit 7]
授業計画第9回 授業内容	マルクス主義の世界政治論－従属論と世界システム論 [unit 8]
授業計画第10回 授業内容	構成主義の国際政治論－規範・文化と対外行動 [unit 9]
授業計画第11回 授業内容	勢力均衡と同盟－安全を追求する手段 [unit 10]
授業計画第12回 授業内容	国際政治経済を分析する視座 [unit 11]
授業計画第13回 授業内容	文明の衝突？－文化・文明と国際政治 [unit 12]
授業計画第14回 授業内容	「地球温暖化」をめぐる国際的な駆け引き [unit 25]
授業計画第15回 授業内容	変化する世界情勢と日本

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	安全保障論
担当教員	田中 極子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	国際安全保障の基礎概念を捉え、国際関係論の3大理論(現実主義、自由主義、社会構成主義)を通じた理論的分析と、国連に代表される集団安全保障体制の実践的側面を学ぶ。
到達目標	①理論的理解力:国際安全保障の主要概念および国際関係論の三大理論の基本前提と主張を理解する ②批判的分析力:理論的枠組みを現実の安全保障問題に応用して議論できる 実践的理解力:集団安全保障体制の成立過程、機能、課題を具体例を通じて説明できる
学習内容	プリントやパワーポイント、映像資料等の補助教材を利用しながら、 ①安全保障研究の重要概念と諸理論、②安全保障を達成する諸手段、③集団安全保障の重要課題について学ぶ。
成績評価の方法・基準	評価の方法:①授業への参加・貢献度 40%、②期末テスト 60%
教科書	今野茂充(編)『国際安全保障—基本的な問いにどう答えるか』(春風社、2024年)
参考書	特に指定しない
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション
授業計画第2回 授業内容	国際安全保障の歴史的背景と変遷
授業計画第3回 授業内容	現実主義の理論①基本前提と主張
授業計画第4回 授業内容	現実主義の理論②応用と批判
授業計画第5回 授業内容	自由主義の理論①国際協力と制度の役割
授業計画第6回 授業内容	自由主義の理論②制度の限界と実践的検証

授業計画第7回 授業内容	構成主義の理論:規範とアイデンティティの視点
授業計画第8回 授業内容	国連と集団安全保障の概論
授業計画第9回 授業内容	国連安全保障理事会の構造と機能
授業計画第10回 授業内容	国連平和維持活動と紛争解決メカニズム
授業計画第11回 授業内容	国連集団安全保障の現実と課題
授業計画第12回 授業内容	現代的脅威と国連の対応
授業計画第13回 授業内容	国連集団安全保障体制の改革と未来
授業計画第14回 授業内容	日本の安全保障と国連
授業計画第15回 授業内容	総括とディスカッション:今後の展望

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際機構論
担当教員	河野 毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>国際機関の最大組織である国際連合を題材に、基礎知識を学び、世界が直面する課題に対し国連がどのように取り組んでいるか理解します。</p> <p>【実務経験】 国連開発計画本部で特別顧問・シニアプログラムアドバイザーとして勤務中に、国連開発グループが実施する多くの地球規模課題プロジェクト(SDGsにつながるプロジェクトの数々含む)の発掘、資金供与(毎年300億円程度)、モニタリングを担当したり、在東ティモール国連常駐代表代行の経験から国連機関の間での協力と競合関係の調整を経験し、さらに、外務省総合政策局国連政策課勤務中に国連外交の実務を担当し内閣総理大臣の国連総会参加に同行するなどの経験を活かし、日本の国連外交の課題を説明する。</p>
到達目標	国連組織の基礎知識を理解し、その可能性と限界を習得する。報道で出てくる国連に関する情報が十分理解できるようになることが目標である。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <p>講義形式であるが、学生の積極的な発言、質問を歓迎する。</p>
成績評価の方法・基準	<p>このクラスでは、中間試験 50%、期末試験 50%(それぞれ 100 点満点、計 200 点割る 2)で成績をつけます。いかなる不正でも適切に処分の対象になります。不正の種類とその内容については『履修の手引き』を参照のこと。</p> <p>成績評価(『履修の手引き』35 ページ) 本学は5段階で成績をつけます。</p> <p>秀 100-90 GPA 4 優 89-80 GPA 3 良 79-70 GPA 2 可 69-60 GPA 1 不可 59 以下 GPA 0 (放棄も同様)</p>
教科書	<p>田 仁揆著 『国連を読む』 The Japan Times (2015)</p> <p>他の資料等はその都度指示し e-pass に掲載する。</p>
参考書	適宜指示する。
授業計画第1回 授業内容	授業の進め方と自己紹介 教科書 プロローグ

授業計画第2回 授業内容	教科書 第1章 二つの顔を持つ国連
授業計画第3回 授業内容	教科書 第2章 総会
授業計画第4回 授業内容	教科書 第3章 安全保障理事会の成り立ちと機能
授業計画第5回 授業内容	教科書 第3章 安全保障理事会と日本の役割
授業計画第6回 授業内容	教科書 第4章 事務局
授業計画第7回 授業内容	教科書 第5章 三八階の住人たち
授業計画第8回 授業内容	前半の授業の続きと振り返りと中間試験
授業計画第9回 授業内容	教科書 第6章 政務局の誕生
授業計画第10回 授業内容	教科書 第7章 平和と安全を求めて ミャンマーの事例
授業計画第11回 授業内容	教科書 第7章 平和と安全を求めて 国連憲章第6章と第7章の間
授業計画第12回 授業内容	教科書 第8章 国連のパートナー
授業計画第13回 授業内容	教科書 第9章 課題と挑戦 安全保障理事会の改革と事務総長選
授業計画第14回 授業内容	教科書 第9章 課題と挑戦 予算獲得と執行の難しさ
授業計画第15回 授業内容	教科書 第9章 課題と挑戦 人事制度と地域配分 授業の振り返り

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際協力論
担当教員	田中 極子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	2015年に国連によって定められた「国連持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」に関する理解によって今日の国際協力のあり方、今後の課題を考えます。2030年までに達成すべきとする17の目標のスローガンは「誰一人取り残さない」です。日本を含む各国政府、国際機関、市民社会団体、民間企業、メディアなど、多くのアクターごとの活動、国際社会でのアクター同士の対話や連携が、どのようにSDGs達成に繋がるのかを、実例を通じて学びます。 【実務経験】外務省、防衛省及び国連にて約20年間勤務した経験を踏まえ、国際関係の実態と様々なアクターの視点を交えながら授業をおこないます。
到達目標	SDGsの基本的な理念と目標を理解する 国際的な課題の構造的問題を理解する 自分たちには何ができるか想像する
学習内容	授業形態: 対面授業 使用するツール: Google Classroom
成績評価の方法・基準	毎回の授業理解確認のための〇×クイズ 10% 授業内での小テスト(3回) 各 30%
教科書	桜井愛子・平体由美編著『社会科学からみるSDGs』小鳥遊書房、2022年
参考書	デイビッド・ヒューム(佐藤寛監訳)『貧しい人を助ける理由—遠くの子とあなたのつながり』日本評論社、2018年 紀谷昌彦・山形辰史『私たちが国際協力する理由』日本評論社、2019年
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション 授業の進め方 なぜ遠くの貧しい人のことを心配しなければならないのか
授業計画第2回 授業内容	国際協力とはなにか
授業計画第3回 授業内容	持続可能な開発目標(SDGs)とはなにか (教科書第12章、13章)
授業計画第4回 授業内容	誰が国際協力のアクターなのか (教科書第10章、11章)

授業計画第5回 授業内容	授業のまとめと小テスト①
授業計画第6回 授業内容	国際協力の諸問題①貧困（教科書第6章、7章、8章）
授業計画第7回 授業内容	国際協力の諸問題②環境（教科書第4章、6章、8章、9章）
授業計画第8回 授業内容	国際協力の諸問題③健康（教科書第3章）
授業計画第9回 授業内容	国際協力の諸問題④ジェンダー（教科書2章、5章）
授業計画第10回 授業内容	授業のまとめと小テスト②
授業計画第11回 授業内容	国際協力の諸問題⑤移民・難民、日本に暮らす外国人（教科書第1章）
授業計画第12回 授業内容	日本と国際協力①国益と国際協力（参考図書 紀谷・山形）
授業計画第13回 授業内容	日本と国際協力②政府開発援助(ODA)と日本の取組み（参考図書、紀谷・山形）
授業計画第14回 授業内容	私たちに何ができるのか
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめと小テスト③とその解説

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際法
担当教員	田中 極子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>国家とは何でしょうか？国家の領土はどのように決められるのでしょうか？国家間の争いを仲介するために国家の上に立つ世界政府はあるのでしょうか？政府が自国民の人権を侵害しているとき、他国は何もすることができないのでしょうか？隣国が核兵器の開発を続けたら、私たちには何ができるのでしょうか？</p> <p>日々ニュースで見るとような様々な国際問題に対して、国際法は国家間の利益を調整したり、共通の課題に対処するために重要な役割を果たしています。この講義は、国際法の入門科目として、国際法に関する基本的な概念や枠組みを学び、国際法という視点から現代の国際社会の課題を考えるための基礎知識を得ることを目標とします。</p> <p>【実務経験】外務省、防衛省及び国連にて約20年間、多国間条約の運用や外交交渉に携わってきた経験を活かし、国際法の成立過程や運用に関する国際政治における経験を踏まえた講義をおこなう。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際法に関する基本的な事項やその仕組みを理解する。 2. 国際社会の構成を国際法の視点から考える。 3. メディアでとりあげられる国際社会の諸問題について、国際法の関連をみつけて自分なりの考えをもつ。
学習内容	基本的には教科書を用いた講義形式で、国際法の基礎知識を学びます。必要に応じて関連する資料を配布してグループ討論を行います。
成績評価の方法・基準	各回での〇×式の小クイズを実施し、各授業での主なテーマに関する理解力を評価します:30% 定期試験を実施し(16週目)授業の理解度を評価します:70%
教科書	加藤信行・植木俊哉他編著『ビジュアルテキスト国際法(第3版)』有斐閣、2023年
参考書	柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義(第4版)』信山社、2023年 岩沢雄司『国際法』東京大学出版会、2020年 浅田正彦編著『国際法』(第5版)東信堂、2022年 大沼保昭『国際法』ちくま新書、2018年 など
授業計画第1回 授業内容	国際法への入り口 インストラクション 国際法をなぜ学ぶのか
授業計画第2回 授業内容	国際社会のルールはこうしてできた 国際社会で守るルール

授業計画第3回 授業内容	国家とは何か？ 国と国が付き合うとは？
授業計画第4回 授業内容	領土のない国はない
授業計画第5回 授業内容	海は誰のもの？
授業計画第6回 授業内容	人権は国際法で守られる？
授業計画第7回 授業内容	地球規模の環境問題に取り組む
授業計画第8回 授業内容	紛争は平和的に解決できるのか？
授業計画第9回 授業内容	国の安全を守る－国際社会と戦争
授業計画第10回 授業内容	戦争にもルールがある
授業計画第11回 授業内容	個人は国際法で裁かれるのか？－国際犯罪
授業計画第12回 授業内容	国際機関－国はなぜグループをつくるのか
授業計画第13回 授業内容	国境を超えるモノ、サービス、資本－国際経済
授業計画第14回 授業内容	国際法の新たな課題－サイバー、データ、AI
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	公共政策論
担当教員	河野 毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「法律学、政治学」) 高校公民(「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	卒業後に責任ある社会人として公共利益の増進に長く貢献できる人材を養成するため、国家による政策策定過程に民主的な国民による参加が必要であること、さらに公共政策実施の課題の一つである「ただのり」問題などの概念を理解する。後半では、現代社会で刻々と変化する人工知能の役割とその課題を含め具体例を挙げながら、授業を進める。 実務経験: 国家公務員、国際公務員としての実務経験を生かし、授業内容の理解に資する。
到達目標	公共利益を理解し、その達成のための国家の組織、財政制度、人事制度など公共利益に必要とされる具体的なツールの理解を習得する。
学習内容	行政組織、ただのり問題、社会保障、市民参加の意味、汚職問題と対策などの具体例を挙げながら公共政策の概念を学習する。
成績評価の方法・基準	学生の授業参加(ディスカッション等)を強く求め、評価基準は、期末試験で評価する。
教科書	秋吉・伊藤・北山 著『公共政策学の基礎』(2020年)有斐閣ブックス
参考書	適宜指示する。
授業計画第1回 授業内容	自己紹介と授業内容の説明
授業計画第2回 授業内容	公共とは何か、政策とは何か、公共政策学とは何か
授業計画第3回 授業内容	政策問題①行政改革
授業計画第4回 授業内容	政策問題②社会保障(少子高齢化、失業対策)
授業計画第5回 授業内容	政策問題③安全保障

授業計画第6回 授業内容	政策問題④汚職問題
授業計画第7回 授業内容	政策問題⑤国際支援と外交
授業計画第8回 授業内容	政策問題⑥メディアと市民参加
授業計画第9回 授業内容	公共政策における倫理規範の確立と維持
授業計画第10回 授業内容	公共政策における合理性の追求
授業計画第11回 授業内容	公共政策における利益の扱い
授業計画第12回 授業内容	公共政策の実施システム
授業計画第13回 授業内容	公共政策の評価
授業計画第14回 授業内容	公共政策における市民参加
授業計画第15回 授業内容	まとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	マクロ経済学
担当教員	中村 周史
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	経済学の基本的な分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に分けられる。ミクロ経済学が個々の財や個々の経済主体(家計・企業)を主に分析するのに対して、マクロ経済学は、一国の経済全体に関わる大きな問題を分析対象としている。具体的には景気や失業、経済成長などである。本講義は、基礎的なマクロ経済学の概念を習得することを目的とする。
到達目標	基礎的なマクロ経済学の概念の理解に基づき、さまざまな事象を理論的・体系的に理解していくことが出来るようになる。
学習内容	マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。 【授業形態・使用ツール】 ・オンデマンド学習形式 ・配布資料を使用した講義を動画で配信する。 ・教材管理や課題提出には Google Classroom を活用する。 【教員への連絡方法】 各回の内容や授業運営に関する連絡は、Google Classroom を通じて行う。 (本授業のクラスコード等、初回の講義連絡は e-pass にて配信予定。)
成績評価の方法・基準	小テスト:30%、中間課題:30%、期末課題:40% ※小テストの未提出が全小テスト実施回数の3分の1を超えた場合、評価の対象外とする。
教科書	特定の教科書は用いず、配布資料に基づいて講義は実施される。
参考書	家森信善(2021)、『マクロ経済学の基礎(第2版) ベーシック+』中央経済社。 伊藤元重(2015)、『入門経済学 第4版』日本評論社。 伊藤元重(2012)、『マクロ経済学 第2版』日本評論社。 福田慎一・照山博司(2011)、『マクロ経済学・入門第4版』有斐閣アルマ。 中谷巖(2007)、『入門マクロ経済学 第5版』、日本評論社。
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション ・マクロ経済学とはどのような学問か?
授業計画第2回 授業内容	GDP(国内総生産) ・一国の経済活動の把握方法とその性質
授業計画第3回 授業内容	様々な物価指標 ・物価指標の特徴と種類
授業計画第4回 授業内容	国際収支統計と為替レート ・対外取引の記録

授業計画第5回 授業内容	家計の消費と貯蓄行動 ・家計の消費・貯蓄決定は何に左右されるのか。
授業計画第6回 授業内容	企業の設備投資 ・企業の設備投資に関する意思決定とマクロ経済環境の関係
授業計画第7回 授業内容	前半のまとめ: 中間課題と解説 ・マクロ経済の基礎知識に関して小テストを実施したうえで復習する。
授業計画第8回 授業内容	景気循環と乗数メカニズム ・景気循環の基礎知識とそれがなぜ生じるのかについて解説。
授業計画第9回 授業内容	伝統的経済政策とその有効性 ・景気循環とマクロ経済政策の関係について 45 度線分析を使って解説。
授業計画第 10 回 授業内容	金融政策と信用創造の仕組み ・貨幣の定義とその管理について解説。
授業計画第 11 回 授業内容	金融経済を分析するための枠組み① ・IS 曲線、LM 曲線がそれぞれ何を表すものなのか解説。
授業計画第 12 回 授業内容	金融経済を分析するための枠組み② ・IS-LM 分析の基礎と、金融・財政政策と経済環境の関係について解説。
授業計画第 13 回 授業内容	労働市場と物価、期待の関係 ・労働市場の需要と供給のずれはなぜ生じるのかを解説。
授業計画第 14 回 授業内容	AD-AS 分析とフィリップス曲線 ・マクロ経済政策は労働市場にどのような影響を与えるのか解説。
授業計画第 15 回 授業内容	全体のまとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	ミクロ経済学
担当教員	長谷川 かおり
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>市場はとても興味深い生き物です。マーケットほど、経済や社会状況を早く敏感に察知し、そこで取引される様々なものの価格にすばやく反映させるものはありません。また、なぜ同じ業種であっても、利益を上げることのできる企業があり、廃業しなければならない企業があるのでしょうか。また、なぜある製品ははやい、別の製品ははやらないのでしょうか。</p> <p>こうしたことを考えるためには、市場のしくみをよく理解するための理論がミクロ経済学です。ミクロ経済学の消費者行動・企業行動・市場均衡分析・不完全競争の行動経済学の理論を学びます。講義は日本語で行いますが、レジメは英語です。米国の大学標準的な教科書をベースに講義します。留学した際の経済学のクラスの雰囲気を味わいたい方にもおすすめです。</p>
到達目標	市場の分析ができるようになる
学習内容	<p>①授業形態:対面 ②使用ツール:Google Classroom(資料の掲載・配布)</p> <p>③連絡の取り方:大学メール Google Classroom のコメント機能 ④注意事項:特になし</p> <p>ミクロ経済理論とそれを応用した経済や市場の分析</p>
成績評価の方法・基準	Google Form による小テストやコメント(45%) 中間(25%)・期末課題(35%)
教科書	N・グレゴリー・マンキュー著「マンキュー経済学」1: ミクロ編 ; 足立英之 [ほか] 訳 第4版 東京: 東洋経済新報社, 2019.10
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション ミクロ経済学とは?
授業計画第2回 授業内容	消費者行動: 効用と予算
授業計画第3回 授業内容	消費者行動: 効用最大化と財の種類
授業計画第4回 授業内容	消費者行動: 価格や所得の変化と消費者の選択

授業計画第5回 授業内容	消費行動のまとめ・質問セッション
授業計画第6回 授業内容	完全競争市場の中の企業
授業計画第7回 授業内容	企業行動: 生産と費用
授業計画第8回 授業内容	企業行動: 短期費用と長期費用
授業計画第9回 授業内容	企業の供給量と損益分岐点
授業計画第10回 授業内容	企業行動のまとめと質問セッション
授業計画第11回 授業内容	市場均衡: 価格の決定と需給の安定
授業計画第12回 授業内容	不完全競争: 市場を独占している企業の行動とは
授業計画第13回 授業内容	不完全競争: 製品差別化と寡占市場
授業計画第14回 授業内容	新しい経済の見方: 行動経済学
授業計画第15回 授業内容	まとめ: 期末課題に向けての質問セッション

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際経済論
担当教員	道満 治彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>今日、経済のグローバル化、あるいはグローバリゼーションと言われる現象が進展してきている。他方で、2016年のアメリカのトランプ大統領の登場以降、各国が保護主義的な対応を取ることが増え、さらに2020年のコロナ禍を経て、グローバルサプライチェーン(国境をまたぐ生産連鎖)が寸断される現象が生じている。</p> <p>本講義では、国境を越えた経済取引について研究する学問である国際経済論の基礎を学ぶ。すなわち、国際貿易・国際金融・開発経済・各国経済の基礎をもとに、現代の国際経済・世界経済を取り巻く現象を考察していく。</p>
到達目標	<p>①国際貿易・国際金融・開発経済に関する基礎理論を理解できること。</p> <p>②国際貿易・国際金融・途上国開発の制度・政策と現状を理解できること。</p> <p>③主要各国の経済を理解した上で、日本経済の状況と比較検討ができること。</p>
学習内容	<p>本講義では、国際経済学で用いられる基礎理論を理解した上で、国際貿易・国際金融・途上国開発の現状やその制度について考えていく。また日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国の各国経済にも焦点を当てていくことで、各国の現状を理解するとともに、国際貿易や国際金融との関連を探っていく。</p>
成績評価の方法・基準	定期試験 60%、平常点(リアクションペーパー、小レポート)40%
教科書	特になし
参考書	<p>大川良文(2024)『入門 国際経済学(第2版)』中央経済社</p> <p>妹尾裕彦・田中綾一・田島陽一(2021)『地球経済入門—人新世時代の世界をとらえる』法律文化社</p> <p>奥田宏司・代田純・櫻井公人(2020)『深く学べる国際金融』法律文化社</p> <p>浅子和美・飯塚信夫・篠原総一(2024)『新 入門・日本経済』有斐閣</p>
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス/イントロダクション: グローバリゼーションとは何か?
授業計画第2回 授業内容	国際収支表の読み方
授業計画第3回 授業内容	国際金融市場と外国為替
授業計画第4回 授業内容	国際貿易の理論(1): リカードウと比較生産費説

授業計画第5回 授業内容	国際貿易の理論(2):ヘクシャー・オリーンモデル
授業計画第6回 授業内容	国際貿易の理論(3):国際貿易の余剰分析
授業計画第7回 授業内容	GATT・WTO と国際貿易ルール
授業計画第8回 授業内容	多国籍企業と対外直接投資
授業計画第9回 授業内容	国際金融制度の歴史
授業計画第10回 授業内容	途上国と開発経済
授業計画第11回 授業内容	日本経済:高度経済成長と「失われた30年」
授業計画第12回 授業内容	アメリカ経済:基軸通貨ドルとアメリカの中での分断
授業計画第13回 授業内容	EU 経済:ヨーロッパ統合と単一通貨ユーロ
授業計画第14回 授業内容	中国経済:中国の経済成長と米中デカップリング
授業計画第15回 授業内容	半期のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	地球規模問題
担当教員	河野 毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	地球温暖化問題、国境を越える課題(難民問題や犯罪等)などの地球規模問題とは何か、それに対する取り組みは何かを考えながら、世界を読み解きます。 【実務経験】 国連開発計画本部で特別顧問・シニアプログラムアドバイザーとして勤務中に、国連開発グループが実施する多くの地球規模課題プロジェクト(SDGsにつながるプロジェクトの数々含む)の発掘、資金供与(毎年300億円程度)、モニタリングを担当した。この経験を活かし、世界が直面する地球規模課題の内容、それに対する世界の対応と対策、それらの課題を説明する。
到達目標	目標は、学生諸君が世界の課題をグローバルな課題として理解しつつ、課題の解決のために実社会で個人として努力できる活動を考えられるようになることです。
学習内容	授業形態: 対面授業 講義形式であるが、学生諸君の積極的な発言を期待する。
成績評価の方法・基準	このクラスでは、中間試験 50%、期末試験 50%(それぞれ 100 点満点、計 200 点割る 2)で成績をつけます。いかなる不正でも適切に処分の対象になります。不正の種類とその内容については『履修の手引き』(特に 32-33 ページ)を参照のこと。 成績評価: 成績評価(『履修の手引き』35 ページ) 本学は5段階で成績をつけます。 秀 100-90 GPA 4 優 89-80 GPA 3 良 79-70 GPA 2 可 69-60 GPA 1 不可 59 以下 GPA 0 (放棄も同様)
教科書	教科書: (1) レイチェル・カーソン『沈黙の春』新潮文庫 2021(2008 年、第 71 刷) ISBN 978-4-10-207401-5(2) 南博、稲葉雅紀共著『SDGs 一危機の時代の羅針盤』岩波新書 1854 (2020 年 11 月) ISBN978-4-00-431854-5 キャンパスの紀伊国屋書店に注文してありますので購入すること。
参考書	桜井愛子・平体由美編著『社会科学からみる SDGs』小島遊書房、2022 年
授業計画第1回 授業内容	授業の進め方と自己紹介

授業計画第2回 授業内容	カーソン 1 明日のための寓話
授業計画第3回 授業内容	2 負担は耐えねばならぬ
授業計画第4回 授業内容	3 死の霊薬
授業計画第5回 授業内容	4 地表の水、地底の海
授業計画第6回 授業内容	14 四人にひとり
授業計画第7回 授業内容	15 自然は逆襲する
授業計画第8回 授業内容	前半の授業の振り返りと中間試験
授業計画第9回 授業内容	南&稲葉 はじめに pp.i-vii
授業計画第10回 授業内容	第1章 SDGs とは何か
授業計画第11回 授業内容	第2章 国連での SDGs 交渉
授業計画第12回 授業内容	第3章 日本の SDGs
授業計画第13回 授業内容	第4章 「地球一個分」の経済社会へ
授業計画第14回 授業内容	第5章 2030年までの「行動の10年」
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめと振り返り

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	国際社会学
担当教員	山本 直子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	グローバル化という大きな社会変動の中で、人やモノはこれまで以上のスピードで、国境を越えて移動をしています。このような状況の中、1つの国の中で考えていかななくてはならない問題がたくさんある一方、国家の枠組みを越えて国際社会全体で決めていくべき事柄もますます増えてきています。この授業では、特に、国境を越えた人の移動(=移民・難民)を中心的に扱い、人の移動が、国の内部や、国際社会にもたらす影響について一緒に考えていきます。国境を越えて移動する人々の権利を守るために作られてきた国際的な取り決めや、国内の制度の整備がどのような議論のもとで展開されてきたのかということについて学び、さらに、日本をはじめ、様々な国での具体的な事例を取り上げ、移民・難民をめぐる課題を多様な視点から考えることでさらに理解を深めていきます。
到達目標	この授業の到達目標は以下のとおりです。 ・国境を越えて影響を与える様々な事例を理解し、国家の枠組みを越えて考える視点を身に付ける。 ・国境を越えた人の移動や、それがもたらした社会の変化について、歴史と現状を理解する。 ・国際社会、人の移動に関する問題について、自分自身で主体的に考え、自分なりの意見を持ち、異なる考えを持つ他者と議論することができるようになる。
学習内容	・この授業は対面で実施します。この授業では、講義のほかに映画やドキュメンタリーの視聴、関連する新聞記事や文献のリーディングなどを行い、それに伴う課題が出されます。毎回の課題に取り組み、指示された期限までに提出することが求められます。 ・授業のテーマに合わせて、グループワークや討論等を行うことがあります。積極的に話し合いに参加し、自分の意見を発表する姿勢や、異なる考えを持つ他者を尊重しながら議論を進めていく態度が求められます。
成績評価の方法・基準	毎回の授業態度および課題(グループディスカッションへの貢献度および授業内課題への取り組み状況)【50%】と、最終課題【50%】を総合的に評価します。
教科書	特に指定しない
参考書	樽本秀樹(2016)『よくわかる国際社会学(第2版)』ミネルヴァ書房
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション:「国際社会学」とは?
授業計画第2回 授業内容	グローバル化と人口移動:移民・難民はどこからどこに移動しているのか

授業計画第3回 授業内容	国民国家と移民: 国籍、アイデンティティ
授業計画第4回 授業内容	人の移動の歴史: 同化主義から多文化主義、そして現在は?
授業計画第5回 授業内容	難民①: 難民ってどんな人? 難民をめぐる世界の状況
授業計画第6回 授業内容	難民②: 日本社会と難民、日本は難民を受け入れているのだろうか?
授業計画第7回 授業内容	国際的な労働市場: 仕事を求めて国境を越えて移動する人々、外国人はどんな仕事をしているか
授業計画第8回 授業内容	国際社会の人権①: 移民・難民の基本的権利、移民に選挙権はある?
授業計画第9回 授業内容	国際社会の人権②: 移民・難民の社会保障、移民は生活保護を受けることができる?
授業計画第10回 授業内容	移民・難民の貧困: データからみる社会経済的格差
授業計画第11回 授業内容	移民・難民と教育: 教育を受ける権利、教育を選択する権利、義務教育
授業計画第12回 授業内容	オーストラリア社会と移民
授業計画第13回 授業内容	カナダ社会と移民
授業計画第14回 授業内容	アメリカ社会と移民
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	データで読む社会
担当教員	山本直子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	私たちが暮らす社会には、人口推移、就業率、企業の売上高データ、外国人人口、子どもの貧困率、感染者数など、様々なデータが溢れています。こうしたデータを正しく読み取ることができる能力は、今後ますます重要になってきます。この授業では、幅広い分野からの多様な資料をもとに、統計資料の読み方を学習します。基礎統計量の意味や分析手法を理解することにより、データを正しく理解し、活用することができる能力を養います。難しい数学の知識がなくても理解できるように授業を進めていきます。
到達目標	本授業の目的は、公的統計や白書、調査報告書、新聞、フィールドワーク論文などのデータを正しく読み取り、分析できるようになるための基礎的な知識を身に付けることです。 具体的な到達目標は以下のとおりです。 ①社会にある主たる統計データの種類と調査方法を理解する。 ②公的統計や各種調査報告書などを正しく読み解くための、データに関する基礎知識を習得する。 ③クロス集計や相関・因果など、データ分析の手法を学び、使えるようになる。 ④データ分析を軸とした客観的で論理的なレポートを書けるようになる。
学習内容	1) 社会にある主たる統計データの読み方を学び、事象に対する理解を深めます。さらに、そこから特徴を掴んで問題点を検討する練習をします。 2) 単純集計・クロス集計・度数分布・基礎統計量・相関係数などの記述データやグラフの読み方、及び、それらの分析方法や作成の仕方を学びます。また、相関と因果の違いを学びます。 3) アンケート調査、インタビュー調査など、自分でデータを取得して分析する方法を学びます。 授業では、実際にデータ分析をしてレポートを多く書きます。それにより、データから論理的に説明する能力を身に着けます。
成績評価の方法・基準	授業内で出される課題が評価対象です。毎回の授業で課題を出します。
教科書	特に指定しない
参考書	篠原清夫(編集)『社会調査の基礎—社会調査士 A・B・C・D 科目対応』弘文堂
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス: データから社会を読むとは? 社会の様々な場面で利用されているデータを実際に見ながら、データを「読む」ことの必要性について学びます。また、世の中に様々なオープンデータがあること、その利用方法を学びます。

授業計画第2回 授業内容	様々なデータ・グラフ: データを示すときに使われる様々な種類のグラフについて、その特徴や読み取り方、作成方法、効果的な使い方を学びます。新聞や論文などで実際に使われているグラフを探し、特徴や効果を考えてみます。
授業計画第3回 授業内容	単純集計、度数分布について学びます。代表値、中央値、平均値、最頻値といったデータを読み取るために必要な基礎的知識を確認し、それぞれどのようなデータで、どう使われているのかを学びます。実際のデータを利用して、地域の人口に関する情報から地域の特徴を読み取ってみます。
授業計画第4回 授業内容	データの特徴を読み取る①: 散布度 標準偏差、分散を理解し、データの全体的な特徴を把握する方法を学びます。 実際のデータで Excel を用いて、標準偏差、分散を算出しグラフ化します。
授業計画第5回 授業内容	関連を読み取る①: 相関と因果 相関と因果の違いについて学びます。 実際のデータや事例を用いて、正しく相関と因果を考えられるようにします。
授業計画第6回 授業内容	関連を読み取る②: 相関係数 相関係数と散布図について学び、実際のデータで Excel を用いて相関係数を算出し、グラフ化します。実際の調査報告書から相関関係を正しく読み取る方法を学びます。
授業計画第7回 授業内容	データに惑わされない: 疑似相関 疑似相関、バイアスなど、陥りがちな落とし穴に気を付けてデータを読む方法を学びます。実際の事例から、疑似相関を検討します。
授業計画第8回 授業内容	クロス分析①: クロス集計表 傾向や関係性を知るのに有効なクロス集計の、概念と手法を学びます。実際のデータや事例を用いて、正しくクロス集計を読み取る方法を学びます。実際の調査報告書から、男女別、年齢別の就業状況をクロス集計から正しく読み取る方法を習得します
授業計画第9回 授業内容	クロス分析②: 分析と検定 傾向や関係性を知るのに有効なクロス集計の、概念と手法を学びます。実際のデータや事例を用いて、正しくクロス集計を読み取る方法を学びます。実際の調査報告書から、男女別、年齢別の就業状況をクロス集計から正しく読み取る方法を習得します。
授業計画第10回 授業内容	クロス分析③: 結果の可視化 演習: クロス分析の結果をグラフ化し、効果的に結果を示す方法を学びます。
授業計画第11回 授業内容	要因を探る①: 重回帰分析 標本と母集団、回帰分析とは何か、係数をどう解釈すればよいのかを学びます。論文や調査報告書から、重回帰分析による検証と解釈、推定結果を正しく読み取る方法、まとめ方を習得します。
授業計画第12回 授業内容	要因を探る②: ロジスティック回帰分析 回帰分析を用いた事例から、ロジスティック回帰分析による検証と解釈、推定結果のまとめ方を習得します。論文や調査報告書から、ロジスティック回帰分析による検証と解釈、推定結果を正しく読み取る方法、まとめ方を習得します。
授業計画第13回 授業内容	質的データ アンケート調査とインタビュー調査方法を学びます。質的な調査の結果をどのようにデータとして示すことができるのかを実際の事例から学びます。

授業計画第 14 回 授業内容	量的データと質的データの関係 一つのテーマについて、質的・量的の両面からデータを見ることの重要性を学びます。社会の状況を、量的データと質的データの両方から検討してみます。
授業計画第 15 回 授業内容	まとめ 授業の振り返りとまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	多様性の社会思想
担当教員	山本直子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	この授業では、現代社会における多様性の意義とその社会的・思想的な背景を学ぶ。異なる文化、性別、民族、宗教、ジェンダー、障がいなど、多様な人々が社会で共に生きていくためには、互いの差異を尊重する視点が不可欠である。本授業では、歴史を通じて多様性を尊重する思想がどのように発展してきたか、またそれが社会にどのような影響を与えてきたかを学ぶ。加えて、現代の多文化共生社会に求められる視点や、差別や偏見を乗り越えるための理論的枠組みについても考えていく。これにより、誰もが生きやすい社会を構築するための基盤となる考え方を習得し、多様性への理解を深める。
到達目標	①近代リベラリズムの基本概念について理解し、リベラリズムの思想の要点を説明できるようになる。 ②多文化主義とはどのような思想かを説明できるようになる。 ③社会の不平等やジェンダーなどに関する議論を正確に理解し、多文化主義の限界を自分の言葉で説明できるようになる。
学習内容	まず、近代リベラリズムの基礎概念を学び、個人の自由、寛容、社会契約といった基本概念を理解します。次に、20世紀にリベラリズムがどのように発展し、多文化主義という思想へと発展してきたのかを学びます。基本的な概念や歴史を学んだうえで、現代社会におけるマイノリティの権利をどのように考えることができるのか、実践的な視点から学んでいきます。
成績評価の方法・基準	毎回の授業で課題を出します。 成績評価は、毎回の授業課題(50%)と最終レポート(50%)で評価します。
教科書	特に指定しない
参考書	山脇直司著『社会思想史を学ぶ』ちくま新書
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション:多様性を考えることの意味
授業計画第2回 授業内容	自由の思想①:ジョン・ロック 個人の自由と平等、寛容の思想
授業計画第3回 授業内容	自由の思想②:イマヌエル・カント 「普遍的な人権」とは?
授業計画第4回 授業内容	自由の思想③:ジョン・スチュアート・ミル 個人の自由と多様性の関係

授業計画第5回 授業内容	現代リベラリズム①:ジョン・ロールズ 公正としての正義、最も弱いものの視点から考えるということ
授業計画第6回 授業内容	現代リベラリズム②:ロナルド・ドゥオーキン 権利とリベラリズム、多様な価値観の共存は可能か
授業計画第7回 授業内容	現代のリベラリズム③:ロバート・ノージック、フリードリヒ・ハイエク、ミルトン・フリードマン リバタリアニズムという思想
授業計画第8回 授業内容	多文化主義①:ウィル・キムリッカ マイノリティの権利と個人の自由の両立は可能か
授業計画第9回 授業内容	多文化主義②:マイケル・ウォルツァー 文化の多様性は尊重されるべきか
授業計画第10回 授業内容	多文化主義③:チャールズ・テイラー 承認の政治
授業計画第11回 授業内容	多文化主義と社会正義・ジェンダー①:アマルティア・セン 貧困、教育、健康を考慮した多文化主義
授業計画第12回 授業内容	多文化主義と社会正義・ジェンダー②:マーサ・ヌスバウム ジェンダーの平等
授業計画第13回 授業内容	多文化主義とリベラリズムへの批判①:ナンシー・フレイザー 多様性の尊重と経済的不平等
授業計画第14回 授業内容	多文化主義とリベラリズムへの批判②:スーザン・モラー・オーキン 多文化主義とジェンダー平等
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	多文化社会論
担当教員	山本 直子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	現代社会では、あらゆる場面で多様化が進んでいます。この授業では、国境を越えた人の移動が移住先の社会やその土地の人々、また移住者自身にもたらす影響について学びます。日本や世界の多文化的状況や多文化社会が直面するさまざまな課題を、統計データや、地域社会や教育実践現場における具体的な事例を通して考えていきます。また、こうした状況への対応として考えられてきた社会の仕組みについて理解を深めます。
到達目標	この授業では、多文化共生を自分自身の問題として捉え、多様性を尊重するとはどういうことであるかを考え続けていく姿勢を身につけてもらうことを目指しています。この授業の最終的な目標は以下の3点です。 ・様々な国や地域で実際に起こっている出来事に関する知識や、統計的なデータから、社会の多文化的状況を正確に把握することができるようになること。 ・多文化社会をめぐる課題と、その解決のための取り組みを理解すること。 ・具体的な事例や統計的データなどの根拠に基づいて、多様性に関する自分自身の意見を持ち、それを他者に伝えることができるようになること。
学習内容	・この授業は対面で実施します。この授業では、講義のほかに映画やドキュメンタリーの視聴、関連する新聞記事や文献のリーディングなどを行い、それに伴う課題が出されます。毎回の課題に取り組み、指示された期限までに提出することが求められます。 ・授業のテーマに合わせて、グループワークや討論等を行うことがあります。積極的に話し合いに参加し、自分の意見を発表する姿勢や、異なる考え方を持つ他者を尊重しながら議論を進めていく態度が求められます。
成績評価の方法・基準	成績評価は、授業への参加態度(グループディスカッションへの貢献度、毎回の授業内課題およびミニテスト)【50%】、最終課題【50%】をもとに総合的に評価をつけます。
教科書	特に指定しない
参考書	塩原良和(2012)『共に生きる―他民族・多文化社会における対話』弘文堂 レス・バックほか(2024)『移民都市』人文書院 山本直子著『「多文化共生」言説を考える』明石書店
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション: 日本と世界の多文化的状況を知ろう
授業計画第2回 授業内容	単一民族神話: 日本社会はどのような社会か

授業計画第3回 授業内容	先住民:世界の先住民、日本の先住民(アイヌの人々)、先住民の権利を考えてみよう
授業計画第4回 授業内容	歴史からみる多文化①:人の移動と人種主義(人種差別)
授業計画第5回 授業内容	歴史からみる多文化②:19世紀末のアメリカへの移民、同化主義
授業計画第6回 授業内容	歴史からみる多文化③:在日コリアン
授業計画第7回 授業内容	多文化主義①:多文化主義とはどのような考え方か
授業計画第8回 授業内容	多文化主義②:1920年代と1960年代の映画やドラマにみられる「多文化」を比べてみよう
授業計画第9回 授業内容	多文化主義③:1990年代と2020年代の映画やドラマにみられる「多文化」を比べてみよう
授業計画第10回 授業内容	多文化社会の教育①:ホスト社会の言語の習得支援と母語の尊重のバランスを考える
授業計画第11回 授業内容	多文化社会の教育②:アファーマティブアクションについて考える
授業計画第12回 授業内容	インターセクショナリティ:女性であることと文化的マイノリティであることの交差点
授業計画第13回 授業内容	多文化社会とは:結婚、子育て、葬儀、埋葬の多様化
授業計画第14回 授業内容	多文化共生:国、地域、学校の取り組み
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	フィールド調査法
担当教員	井上 美砂
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「社会学、経済学」) 高校公民(「社会学、経済学(国際経済を含む。)」)
単位数	2
テーマ・内容	本授業の目的は、主だった質的調査の方法と分析の手法を理解することです。そして、その中から受講生が各自の研究上のテーマに沿って適切な研究手法を選択し、研究計画を立て、データ収集から分析までのプロセスを体系的に学びます。受講生は実際にインタビュー調査を実施し、データ分析の実践を経験し、調査結果をまとめて発表・報告します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・質的調査法の基礎知識・特徴・種類の理解 ・質的データの収集・分析に必要な手続きの習得 ・質的調査の実践と分析結果の示し方の習得
学習内容	<p>参与観察・フィールドワーク・インタビュー調査など、さまざまな質的調査の手法を学びます。</p> <p>受講生は、先行研究のレビュー、研究計画の立案、インタビュー調査を実施し、収集したデータの分析を行い、その結果を報告書にまとめます。</p> <p>授業形態は対面授業ですが、Google Classroom も併用します。</p> <p>講師の連絡先(メールアドレス)などは、e-pass の講義連絡を参照してください。</p>
成績評価の方法・基準	<p>授業内での貢献度と課題(提出物)50%、期末の研究発表とレポート 50%で総合的に評価します。</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席が必要です。また、出席しているだけでは単位の取得できません。出席したうえで、上記の基準から総合的に判断します。</p>
教科書	授業内で適宜指定する。
参考書	<p>『質的研究をはじめのための30の基礎スキル』ジョン・W・クレスウェル、ジョアンナ・クレスウェル・バイアス著 広瀬真理子訳 新曜社</p> <p>『新版質的研究入門—人間科学のための方法論』ウヴェ・フリック著 小田博志監訳 春秋社</p>
授業計画第1回 授業内容	コースガイダンス: 質的社会調査とは何か、社会調査の意義と目的、量的調査と質的調査の違い、研究倫理
授業計画第2回 授業内容	調査法①フィールドワーク: フィールドワークとは何か、フィールドへのアプローチ、フィールドワークの準備(計画)と実践のポイント(観察と記録)
授業計画第3回 授業内容	調査法②参与観察法: 参与観察とは何か、参与観察の手順、実践のポイント、参与観察データのまとめ方
授業計画第4回 授業内容	調査法③インタビュー: インタビュー調査の目的、インタビューの種類、インタビューの準備、インタビューの実際
授業計画第5回 授業内容	研究計画の立案: 各自のテーマの選定、先行研究調査、研究設問(問いの立て方)

授業計画第6回 授業内容	インタビュー調査の実践:各自の研究計画に沿ったインタビュー調査の実践・報告
授業計画第7回 授業内容	分析法① KJ法:KJ法の手順と目的
授業計画第8回 授業内容	分析法② グラウンデッド・セオリー・アプローチ:グラウンデッド・セオリー・アプローチの分析(含む:研究事例の紹介)
授業計画第9回 授業内容	分析法③ 複線径路等至性アプローチ:複線径路等至性アプローチの分析(含む:研究事例の紹介)
授業計画第10回 授業内容	その他の分析法:ライフストーリー分析・会話分析・ビジュアルデータ分析・トライアングレーション
授業計画第11回 授業内容	データ分析の実践①:各自のデータを分析
授業計画第12回 授業内容	データ分析の実践②:各自のデータを分析
授業計画第13回 授業内容	調査結果の発表①:研究成果の発表
授業計画第14回 授業内容	調査結果の発表②:研究成果の発表
授業計画第15回 授業内容	調査結果から論文執筆まで:研究論文の構成、記述・表現方法、論文執筆(課題レポート)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	宗教と国際社会
担当教員	堀川 敏寛
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	テーマ:国際社会の異文化多様性を宗教から理解する。 内 容:国際社会を理解するために、さまざまな宗教圏で暮らす人の生活を具体的事例から学ぶ。
到達目標	1. 国際社会の多文化共生に関する理解を深め、それを宗教の視点から説明することができ、それらにたいする基礎知識を国粋主義との対比から獲得することが可能となる。 2. 国際社会を主題に、特にユダヤ教とユダヤ人問題に関する発展的な知識を修得することができ、異文化理解で卒業論文を作成するための専門性を獲得することが可能となる。
学習内容	1. 授業形態:対面授業 2. 連絡の取り方:教員の学内メール(horikawa.toshihiro@toyoeiwa.ac.jp) 本授業では、「宗教と国際社会」に関して、国粋主義との対比という視座から学んでいく。とくに「グッドワイフ」「サラの鍵」「ハンナ・アレント」「ベルとセバスチャン」「善き人」らの視覚的映像を参照しながら、国際と国粋について、ユダヤ教・ユダヤ人問題の視点から理解を深める。その際、時事的な国際問題や日本の政治状況を取り上げ、受講生に理解の手掛かりを与える。
成績評価の方法・基準	成績評価方法:毎回授業中に行う小テスト 100%(毎回出席していないと単位を取得することはできません) 成績評価の基準:授業の理解度
教科書	指定せず、パワーポイントとレジュメを進める
参考書	芦名 定道 編著『多元的世界における寛容と公共性—東アジアの視点から』晃洋書房
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション:授業計画と評価基準の説明 国際主義と国粋主義(インターナショナルとナショナル)の良き点と悪い点とは。
授業計画第2回 授業内容	現代社会はどちらか国粋主義の時代:多様性より一元化。オンリーワンよりナンバーワン
授業計画第3回 授業内容	ポスト・トゥルース時代の国際社会と国粋主義の時代
授業計画第4回 授業内容	ユダヤ教とユダヤ人の特徴:安息日を理解する
授業計画第5回 授業内容	ドラマ「グッドワイフ」にみるユダヤ人の安息日問題

授業計画第6回 授業内容	ユダヤ教徒の食物規定からみる異文化理解①肉と乳製品
授業計画第7回 授業内容	ユダヤ教徒の食物規定からみる異文化理解②肉と魚
授業計画第8回 授業内容	映画「アンネ・フランク」を見る:ユダヤ人問題の実情
授業計画第9回 授業内容	ユダヤ人の国際性:ユダヤ人問題が拡がっていった理由はなぜか
授業計画第10回 授業内容	映画「ペルとセバスチャン」を視聴し、ナチスとユダヤ人問題を理解する
授業計画第11回 授業内容	映画「サラの鍵」を視聴し、ユダヤ人の一斉検挙を理解する
授業計画第12回 授業内容	映画「善き人」を視聴し、ナチスに取り込まれていく当時の平凡なドイツ人の様子を理解する
授業計画第13回 授業内容	映画「ハンナ・アレント」を視聴し、アイヒマン裁判から国際と国粋を理解する
授業計画第14回 授業内容	国際社会における国粋主義の特徴
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめと内容確認テスト

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	倫理と人権
担当教員	田中 智彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学社会(「哲学、倫理学、宗教学」) 高校公民(「哲学、倫理学、宗教学、心理学」)
単位数	2
テーマ・内容	<p>「倫理」も「人権」も聞き慣れた言葉ですが、あらためて「倫理って何?」「人権って何?」と聞かれると、わかるようなわからないような……、大事なことだと思うけれどもそれ以上のことはちょっと……、と感じるひとは多いかもしれません。それはある意味、自然なことではあるでしょう。というのも、たとえば「健康」はそれをなくした時にどういうもの(だった)かがよくわかるように、つまり、「健康」な時ほど「健康」は意識されないのと同じように、幸いにも「倫理」も「人権」もあるのが当たり前な社会に生まれ、生きていくと、それがどういうものかは考えなくても済んでしまうところがあるからです。</p> <p>とはいえ、それは「幸いにも」であって、「倫理も人権も昔の話」という未来が訪れることは——想像したくはないですが——あっても不思議ではありません。なぜなら、たとえば「人権」が「ある」という考えも、「大事だ」という感覚も、歴史と文化によって生み出され、育まれてきたものであって、それゆえ歴史の進みよう、文化の変わりようによっては、やがて「昔の話」になってもおかしくはないからです。歴史の中から生まれてきたものが、歴史の中へと消えてゆくのはよくあることです。そうであるとするなら、せめて「健康」に気をつかうのと同じくらいには、「倫理」や「人権」にも気をつかった方がよいのではと思われるかもしれません。もっとも、「倫理」や「人権」がもしひとたび「昔の話」になってしまうと、取り戻すのは「健康」よりもはるかに難しいでしょうけれど……。</p> <p>この授業ではこうした視点から、「倫理」と「人権」について考えていきます。理論の話だけでなく、歴史や文化の話、実際の出来事や具体的な事例も、多く取り上げることになるでしょう。「倫理」と「人権」の過去と現在を知ることをつうじて、自分自身と社会の未来を考える機会にしてもらえればと思います。</p>
到達目標	<p>1) 倫理学の主要な理論とその成り立ちについて、また人権思想の来歴と意義・課題について、それぞれ理解し、説明することができるようになる。</p> <p>2) 倫理と人権の視点から現代社会の諸問題を考え、望ましい生き方、そして社会のあり方について自分なりの見解をもつことができるようになる。</p>
学習内容	<p>この授業では「倫理」と「人権」という二つの大きな話をしていきますが、「倫理って何?」という話も、「人権って何?」という話も、「人間って何?」という話と切り離すことができません。そういうわけでこの授業は、まずは「人間って何?」という話から始めることにします。哲学や文化人類学の助けも借りて、「人間」をどう理解するかを視点を手に入れてから、「倫理」と「人権」の話にとりかかります。</p> <p>「倫理」については、近代以降の主要な理論を取り上げて、どのような人間観や社会観にもとづいているのかもふまえ、それらの意義と課題を検討していきます。思想史や文化史、政治史もまじえた話になるでしょう。ここで近代以降にフォーカスするのは、近代にできあがった人間観や社会観が、それから現代に至るまで、大きな影響をもち続けているからです。また「人権」についても、私たちが知るその思想は近代に産声を上げたので、やはり近代以降にフォーカスして検討していくこととなります。こうしたことをつうじて、現代に生きる私たちの考え方や、現代社会の仕組みやありようが、近代以降の歴史と</p>

	文化の中からどのようにして生まれてきたのか、そしてどのような意義をもち、またどのような問題をかかえているのかが、少しずつ、しかしよりくっきりと、見えてくるようになるでしょう。
成績評価の方法・基準	期末レポート(55%)、授業の振り返り(30%)、授業への参加態度(15%)
教科書	教科書は用いません。授業では随時、レジュメや文献資料を配布します。
参考書	鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』講談社現代新書、1996年。 チャールズ・テイラー『〈ほんもの〉という倫理』(田中智彦訳)ちくま学芸文庫、2023年。
授業計画第1回 授業内容	「倫理」って何? 「人権」って何?
授業計画第2回 授業内容	「わたしは〇〇である」の不思議① ——「わたし」なるものへの問い
授業計画第3回 授業内容	「わたしは〇〇である」の不思議② ——「わたし」の生成と「他者」
授業計画第4回 授業内容	「わたしは〇〇である」の不思議③ ——「ペルソナ」の論理と倫理
授業計画第5回 授業内容	「境界」と「鏡」① ——アイデンティティと差別・排除
授業計画第6回 授業内容	「境界」と「鏡」② ——アイデンティティとジェンダー
授業計画第7回 授業内容	「境界」と「鏡」③ ——アイデンティティと自由
授業計画第8回 授業内容	「啓蒙」と「人権」① ——歴史をたどる
授業計画第9回 授業内容	「啓蒙」と「人権」② ——「啓蒙」とは何か
授業計画第10回 授業内容	啓蒙主義・功利主義・ロマン主義
授業計画第11回 授業内容	「人間の権利」と「市民の権利」① ——人権とナショナリズム
授業計画第12回 授業内容	「人間の権利」と「市民の権利」② ——人権の喪失／故郷の喪失
授業計画第13回 授業内容	「人間の権利」と「市民の権利」③ ——人権と「品位ある社会」
授業計画第14回 授業内容	何を問うのか／誰が問われているのか① ——倫理的であるとはどういうことか

授業計画第 15 回

授業内容

何を問うのか／誰が問われているのか② ——「境界」の向こう側から

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	英語学概論A
担当教員	武藤 克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語学)
単位数	2
テーマ・内容	構造面、運用面、英語使用などの側面から「英語」という言葉に対する認識を高める 授業で解決する問い(例): 英語は誰のものなのでしょうか?
到達目標	(1) 構造面(語彙、文法、音韻等)から英語を深く分析できる (2) 運用面(発話行為、ポライトネス等)から英語の機能を知る (3) 英語使用(母語、様々な英語、社会的属性)から英語の種類と特徴を覚える (4) 国際共通語としての英語について正しい知識を身につける
学習内容	【授業形式】この授業は「対面授業」形式で行います。補助ツールとして Google クラウドルームも使用します。 【学習内容】(1) 講義を通じた各章の内容の理解(2) トピックに関するディスカッション(3) 資料の分析と考察
成績評価の方法・基準	成績評価は以下の割合に基づいて行います。 (1) リアクションペーパー等(5%×12回): 60% (2) 中間テスト: 15% (3) 期末テスト: 15% (4) 積極的な授業参加等: 10%
教科書	平賀正子(2016)『ベーシック新しい英語学概論』ひつじ書房. * 必ず初回授業の説明を聞いた上で購入してください。
参考書	酒井志延・他(2017)『社会人のための英語の世界ハンドブック』大修館書店. 原島広至(2021)『英語解剖図鑑』KADOKAWA. 安井稔(2014)『英語とはどんな言語か—より深く英語を知るために—』開拓社.
授業計画第1回 授業内容	授業の概要説明英語・英語学習・英語学
授業計画第2回 授業内容	第1章 英語学の「新しい」概論英語母語話者と公用語話者、英語の構造面と運用面
授業計画第3回 授業内容	第2章 さまざまな英語母語(第一言語)・第二言語・外国語、World Englishes
授業計画第4回 授業内容	第3章 母語英語の特徴(イギリス英語、オーストラリア英語)イギリス英語の歴史、現代イギリス英語の特徴、オーストラリア英語の歴史と特徴
授業計画第5回 授業内容	第4章 母語英語の特徴(アメリカ英語、カナダ英語)アメリカ英語の歴史と特徴、カナダ英語の歴史と特徴

授業計画第6回 授業内容	第5章 英語と社会的属性イギリスの地域方言、階層方言、英語運用にみられるジェンダー
授業計画第7回 授業内容	第6章 英語の発話行為語用論、発話行為とストラテジー(お礼、詫び、依頼)
授業計画第8回 授業内容	講義前半(第1章～第6章)のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	第7章 英語のポライトネスと談話文責ポライトネス、協調の原理、談話分析
授業計画第10回 授業内容	第8章 英語文化とコミュニケーション・スタイル異文化コミュニケーション、国民文化からみる英語圏文化と日本文化
授業計画第11回 授業内容	第9章 英語の非言語コミュニケーション近接空間学、パラ言語学、身体言語学
授業計画第12回 授業内容	第10章 語彙からみる英語らしさ借用語、カテゴリー化、婉曲語法、政治的正しさ(political correctness)
授業計画第13回 授業内容	第11章 文法からみる英語らしさ文法関係、品詞、構文・言い回し
授業計画第14回 授業内容	第12章 音韻からみる英語らしさ音声学と音韻論、アクセント・イントネーション・リズム
授業計画第15回 授業内容	講義全体のまとめ・期末テスト

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	英語学概論 B
担当教員	武藤克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語学)
単位数	2
テーマ・内容	「音声」と「文法」の側面から現代英語学(音声学、音韻論、語用論、統語・意味論、英語史)に関する知識を身につける。
到達目標	(1)英語の子音、母音について理解し、発音できる (2)英語の音変化、強勢とイントネーションを理解し、自然に発声できる (3)英語の品詞に関する知識を深める (4)現代英語を歴史的な観点から理解する
学習内容	(1)講義を通した各章の内容の理解 (2)練習問題への解答とディスカッション (3)映画や洋楽などをを用いた演習
成績評価の方法・基準	(1)リアクションペーパー等(5×12回): 60% (2)中間テスト: 15% (3)期末テスト: 15% (4)積極的な授業参加等: 10%
教科書	長尾純・宗宮喜代子(2021)『英語教師がおさえておきたい音声・文法の基本—現代英語学入門—』くろしお出版.
参考書	白畑知彦(2021)『英語教師がおさえておきたい ことばの基礎的知識』大修館書店. 白畑知彦・中川右也(2020)『英語のしくみと教え方—ところ・ことば・学びの理論をもとにして』くろしお出版. 内田洋子・杉本淳子(2020)『英語教師のための音声指導 Q&A』研究社.
授業計画第1回 授業内容	授業の概要説明 英語の発音と文法
授業計画第2回 授業内容	第1章 英語の子音 有声音と無声音、子音と母音、日本語に無い子音の発音方法
授業計画第3回 授業内容	第2章 英語の母音 母語の種類、二重母音、日本語の母音との比較
授業計画第4回 授業内容	第3章 音変化 音素と異音、同化、連結
授業計画第5回 授業内容	第6章 文法以前の知識 情報構造の原則と文法、話者と主語、語用論

授業計画第6回 授業内容	第7章 文の構造 文型、文要素と修飾語、特殊構文と文型
授業計画第7回 授業内容	第8章 名詞と動詞 名詞の体系、動詞の機能、普通名詞と動態動詞の共通点
授業計画第8回 授業内容	前半(第1～第5章)のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	第4章 強勢とイントネーション(1) 強勢
授業計画第10回 授業内容	第4章 強勢とイントネーション(2) リズム、イントネーション
授業計画第11回 授業内容	第5章 音声学—理論から実践へ— 教材として使える英語の歌、リズム習得に適した曲、海外ドラマを使ったイントネーション習得
授業計画第12回 授業内容	第9章 形容詞と副詞 形容詞の機能・順序、副詞の機能・位置
授業計画第13回 授業内容	第10章 代名詞と法助動詞 代名詞の種類、直示と照応、法助動詞の用法
授業計画第14回 授業内容	第12章 歴史的に見た現代英語 歴史的経緯、SVO 文型、進行形、使役構文
授業計画第15回 授業内容	後半(第6～第12章)のまとめ・期末テスト

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	英語文学入門 A
担当教員	金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語文学)
単位数	2
テーマ・内容	この授業は、イギリス文学史に沿って英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、イギリスの文化について理解することを目的とする。具体的には、古英語の時代から現代にいたるまでの各時代を代表する作品を取り上げ、どのような歴史的背景のもとでいかなる作品が生まれたかを把握し、作品に表象される文化について学ぶとともに、作中で使われている英語表現についての理解を深める。通時的に文学作品を学ぶことにより、内容や表現の変遷もたどる。
到達目標	1) イギリス文学についての基礎知識を身につける 2) 英語文学を読解・解釈できるようになる 3) 時代の異なるイギリス文学作品に使用されている多様な英語表現を理解する 4) 各作品に描かれている時代や地域の文化について理解する
学習内容	・ 古英語の時代から現代にいたるまでのイギリスにおける代表的な作品を通時的に取り上げ、それぞれの作品について学ぶ ・ 各作品の社会・文化的背景を学習する ・ 作品の一部を原文で読み、ワークシートに取り組むことにより、英語文学の表現について理解する ・ イギリス文学史に沿って作品について学ぶことにより、内容や表現形式の大きな流れを理解する
成績評価の方法・基準	① 積極的な授業参加 (20%) ② 小テスト (50%) ③ 学期末レポート (30%) 〔評価基準〕 ・積極的な授業参加: 授業に積極的な姿勢で参加できているか ・小テスト: 授業の内容を確実に習得できているか ・学期末レポート: 授業の内容を踏まえたうえでイギリス文学について論じることができているか
教科書	指定なし
参考書	川崎寿彦、『イギリス文学史入門』、研究社、2013年 相島倫嘉、『イギリス文学の流れ』、南雲堂、2020年 木下卓、窪田憲子、高田賢一、野田研一、久守和子編著、『英語文学事典』、ミネルヴァ書房、2007年
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション: 授業の概要、及びイギリス文学の背景となる地理、歴史について ・授業で扱う作品を見渡す ・作品の一節を用いて、英語文学の読みかたを学ぶ ・地理・歴史的背景について学ぶ
授業計画第2回 授業内容	古英語から中英語の時代へ: Beowulf と The Canterbury Tales ・歴史的背景について学ぶ

	<ul style="list-style-type: none"> ・作品について学ぶ ・英語の変遷について学び、原文の一部に触れる
授業計画第3回 授業内容	<p>活版印刷と Le Morte D'Arthur</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・英文の一部を読み、表現について学ぶ
授業計画第4回 授業内容	<p>ルネサンス、ヒューマンイズムと Utopia</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・英文の一部を読み、表現について学ぶ
授業計画第5回 授業内容	<p>授業内容 エリザベス朝と演劇: William Shakespeare の喜劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第6回 授業内容	<p>エリザベス朝と演劇: William Shakespeare の悲劇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第7回 授業内容	<p>清教徒革命、王政復古と文学: John Milton, John Bunyan</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第8回 授業内容	<p>小テスト、市民社会と小説: Daniel Defoe</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第9回 授業内容	<p>市民社会と小説: Samuel Richardson, Henry Fielding</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第10回 授業内容	<p>ロマン派の詩人: William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge, George Gordon Byron, Percy Bysshe Shelley</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第11回 授業内容	<p>ヴィクトリア朝と小説: Charles Dickens</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第12回 授業内容	<p>ヴィクトリア朝と小説: Charlotte Brontë, Emily Brontë</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ

	<ul style="list-style-type: none"> ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第 13 回 授業内容	世紀末文学: Oscar Wilde <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第 14 回 授業内容	20 世紀とモダニズム: Virginia Woolf <ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第 15 回 授業内容	小テスト まとめ: イギリス文学の表現の変遷や、歴史、文化を振り返る

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	英語文学入門 B
担当教員	金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語文学)
単位数	2
テーマ・内容	この授業は、アメリカ文学史に沿って英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、アメリカの文化について理解することを目的とする。各時代を代表する作品を取り上げ、どのような歴史的背景のもとでいかなる作品が生まれたかを把握し、作品に表象される文化について学ぶとともに、作中で使われている英語表現についての理解を深める。通時的に文学作品を学ぶことにより、内容や表現の変遷もたどる。
到達目標	1) アメリカ文学についての基礎知識を身につける 2) 英語文学を読解・解釈できるようになる 3) 時代の異なるアメリカ文学作品に使用されている多様な英語表現を理解する 4) 各作品に描かれている地域や時代の社会・文化について理解する
学習内容	・ アメリカにおける代表的な作家の作品を通時的に取り上げ、それぞれの作品について学ぶ ・ 各作品の社会・文化的背景を学習する ・ 作品の一部を原文で読み、ワークシートに取り組むことにより、英語文学の表現について理解する ・ アメリカ文学史に沿って作品について学ぶことにより、内容や表現形式の大きな流れを理解する
成績評価の方法・基準	① 積極的な授業参加 (20%) ② 小テスト (50%) ③ 学期末レポート (30%) 〔評価基準〕 ・積極的な授業参加: 授業に積極的な姿勢で参加できているか ・小テスト: 授業の内容を確実に習得できているか ・学期末レポート: 授業の内容を踏まえたうえでアメリカ文学について論じることができているか
教科書	指定なし
参考書	大橋 吉之輔、『アメリカ文学史入門』、研究社、2021 年 High, Peter B. An Outline of American Literature. Longman, 1986. 木下卓、窪田憲子、高田賢一、野田研一、久守和子編著、『英語文学事典』、ミネルヴァ書房、2007 年
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション: 授業の概要、及びアメリカ文学の導入 ・ 授業で扱う作品を見渡す ・ 作品の一節を用いて、英語文学の読みかたを学ぶ ・ 地理・歴史的背景について学ぶ
授業計画第2回 授業内容	アメリカらしさを求めて: Washington Irving ・ 歴史・文化的背景について学ぶ ・ 作品について学ぶ

	・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第3回 授業内容	アメリカン・ルネサンス(1): Henry David Thoreau ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第4回 授業内容	アメリカン・ルネサンス(2): Nathaniel Hawthorne ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第5回 授業内容	アメリカン・ルネサンス(3): Herman Melville ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第6回 授業内容	リアリズム文学(1): Mark Twain ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第7回 授業内容	リアリズム文学(2): Henry James ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第8回 授業内容	自然主義文学: Jack London ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第9回 授業内容	小テスト、ロスト・ジェネレーション(1): F. Scott Fitzgerald ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第10回 授業内容	ロスト・ジェネレーション(2): Ernest Hemingway ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第11回 授業内容	ロスト・ジェネレーション(3): William Faulkner ・歴史・文化的背景について学ぶ ・作品について学ぶ ・原文の一部を読み、英語表現について学ぶ
授業計画第12回 授業内容	ビート・ジェネレーション: Jack Kerouac ・歴史・文化的背景について学ぶ

授業計画第 13 回 授業内容	Unit 14 仮定の話をする(仮定法過去、仮定法過去完了) アカデミック記事(気象学)を読む、感想を書く コミュニケーション活動(人の申し出を断る) 次回授業までの課題: Unit 15
授業計画第 14 回 授業内容	Unit 15 これまでのまとめ(過去の学習文法項目を使用して) アカデミック記事(芸術)を読む、感想を書く コミュニケーション活動(人の意見に反論する)
授業計画第 15 回 授業内容	Unit 10~Unit 15 までの学びの確認 コミュニケーション活動とアカデミック英語における英文法 及び、学習英文法の総括

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	コミュニケーション英文法
担当教員	武藤克彦
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	高校までに学習した基礎文法事項を、様々な活動を通して再確認し、習得する授業。新社会人が日々の課題に取り組むストーリーを通して、日常表現とやさしいビジネス表現を同時に習得します。
到達目標	(1)正確な基礎文法の知識を身につける (2)対話文や読解文の中で使用される英語表現を理解する (3)学習した文法を使用し、自分の考えを英語で表現できる
学習内容	毎授業(1)リスニング、(2)文法問題、(3)リーディング、(4)ライティングの流れの中で、簡単なペアワークも設け、アウトプットを行いながら基本的な英語表現の定着を図ります。また、知識を拡充させるため、宿題として(5)応用問題の学習が課されます。
成績評価の方法・基準	(1)授業外課題(5%×12回):60% (2)中間テスト:10% (3)期末テスト:20% (4)積極的な授業参加等:10%
教科書	Hickling, R. (2025) 『English Spark! 新社会人生活から学ぶ大学基礎英語』 金星堂.
参考書	適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	授業の概要説明と文法力診断
授業計画第2回 授業内容	Unit 1 Nice to Meet You [現在時制(be 動詞と一般動詞)]
授業計画第3回 授業内容	Unit 5 Small Talk with Co-Workers [過去時制(be 動詞と一般動詞)]
授業計画第4回 授業内容	Unit 6 First Contact with a Client [助動詞]
授業計画第5回 授業内容	Unit 7 Client Meeting Preparation [未来時制(will と be going to)]
授業計画第6回 授業内容	Unit 8 Final Preparations [進行形(現在進行形と過去進行形)]

授業計画第7回 授業内容	Unit 9 First Meeting [WH 疑問文]
授業計画第8回 授業内容	前半のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	Unit 10 Time Management [不定詞と動名詞]
授業計画第10回 授業内容	Unit 11 Meeting Follow-Up [現在完了形]
授業計画第11回 授業内容	Unit 12 A Last-Minute Request [比較級と最上級]
授業計画第12回 授業内容	Unit 13 Giving Feedback [接続詞(等位接続詞と従属接続詞)]
授業計画第13回 授業内容	Unit 14 Final Steps [受動態]
授業計画第14回 授業内容	Unit 15 A Job Well Done! [関係詞]
授業計画第15回 授業内容	後半のまとめ・期末テスト

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Study Abroad A
担当教員	佐取 永基
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	TOEFL ITP スコアが要求される協定校・推薦校への留学を目指す学生を対象とした、TOEFL ITP の学習を通じたアカデミックイングリッシュスキルの養成
到達目標	(1) 自分自身の英語学習時間をコントロールしつつ TOEFL ITP のスコアを伸ばす (2) TOEFL ITP で扱われるトピックに対する理解を深める
学習内容	授業の実施方法本授業は「対面授業」形式にて行います。 課題提出用に Google Classroom を併用します。 学習内容:(1) 単語テスト(2) 事前学習内容に基づく解説(3) TOEFL ITP 問題の演習 授業形態: 対面授業
成績評価の方法・基準	・発言を含むクラスへの参加度と課題 20% ・単語テスト 10% ・中間テスト 35% ・期末テスト 35% 第 16 回目の授業にて学期末試験を実施します。試験の範囲は授業内にてお知らせします。 ■出席・遅刻に関して: 欠席は 5 回まで(6 回以上は単位未履修)。遅刻 2 回で欠席 1 回扱い。遅刻扱いは 5 分以内。欠席は減点の対象とします。出席していれば単位が修得できるものではありません。出席した上で上記の評価方法・基準に基づき成績評価をします。
教科書	・TOPIC-FOCUSED APPROACH TO THE TOEFL ITP TEST <SEIBIDO:成美堂出版>
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	・授業概要の説明 (クラスガイダンス)・指定テキストを必ず持参してください。
授業計画第2回 授業内容	UNIT 1: History (1)
授業計画第3回 授業内容	Unit 2: Psychology (1)
授業計画第4回 授業内容	Unit 3 Environment (1)

授業計画第5回 授業内容	UNIT 4 Science and Technology (1)
授業計画第6回 授業内容	UNIT 5 Biology (1)
授業計画第7回 授業内容	UNIT 6 Art (1)
授業計画第8回 授業内容	Midterm Exam(中間テスト):リスニングパート A、文法問題、リーディング問題 UNIT 7 : Economics (1)
授業計画第9回 授業内容	UNIT 7 : Economics (1)・UNIT 8: History (2)
授業計画第10回 授業内容	UNIT 8 History (2)UNIT 9 Psychology (2)
授業計画第11回 授業内容	UNIT 9 Psychology (2)UNIT 10 Environment (2)
授業計画第12回 授業内容	UNIT 10 Environment (2)UNIT 11 Science and Technology (2)
授業計画第13回 授業内容	UNIT 11 Science and Technology (2)UNIT 12 Biology (2)
授業計画第14回 授業内容	UNIT 12 Biology (2)UNIT 13 Art (2)
授業計画第15回 授業内容	UNIT 13 Art (2)UNIT 14 Economics (2)

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Study Abroad B
担当教員	武藤 克彦
担当形態	クラス分け・単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	留学プログラムで必要となる基本的な英語力を身につけることを目標とした授業。出発前から帰国までの場面別に様々なタスクを通じて重要表現の定着や総合的な英語力の育成を目指します。 授業で解決する問い(例): 留学ではどんなで場面で、どんな英語が必要となるのでしょうか?
到達目標	(1)留学準備や海外生活に関する語彙や知識を習得する (2)留学生活の様々な場面に応じたコミュニケーション能力を身に付ける (3)留学に関するテーマについて意見を述べるができる
学習内容	【授業形式】この授業は「対面授業」形式で行います。 補助ツールとして Google クラウドルームも使用します。 【学習内容】(1)留学の場面で目にする文書の理解 (2)留学生活にて対話の聞き取り (3)重要表現の学習 (4)会話練習 (5)[自宅学習課題] YouTube 動画を活用したリスニング
成績評価の方法・基準	成績評価は以下の割合に基づいて行います。 (1)授業内課題(5%×12回):60% (2)中間テスト:10% (3)期末テスト:20% (4)積極的な授業参加等:10%
教科書	Jackson, A. & 内田ひろ子 (2020)『Ready for Takeoff! English for Study Abroad 短期留学・語学研修で学ぶ英語コミュニケーション』金星堂
参考書	適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	授業の概要説明
授業計画第2回 授業内容	Unit 01 – Introducing Yourself – Talk about your university and major 大学と専攻について話す – Talk about your club クラブ活動について話す – Talk about your free-time activities 余暇活動について話す
授業計画第3回 授業内容	Unit 02 – A Geography Lesson – Talk about geographical location 地理的な場所について話す – Talk about climate 気候について話す – Explain your travel schedule 旅行の日程を説明する

授業計画第4回 授業内容	Unit 03 – Arriving <ul style="list-style-type: none"> - Talk about travel experiences 旅行経験について話す - Fill out arrival cards 入国カードに記入する - Understand instructions and advice 指示と助言を理解する
授業計画第5回 授業内容	Unit 04 – People <ul style="list-style-type: none"> - Introduce people 人を紹介する - Talk about jobs and personality 仕事と人柄について話す - Talk about present activities 現在の活動について話す
授業計画第6回 授業内容	Unit 05 – House Rules <ul style="list-style-type: none"> - Describe the location of things 物の場所を説明する - Understand house rules ハウスルール(家の決まり事)を理解する - Understand how to use your room 部屋の使い方を理解する
授業計画第7回 授業内容	Unit 06 – Orientation <ul style="list-style-type: none"> - Explain using “If” sentences If の文を使って説明する - Talk about your schedule 時間割について話す- Ask about meaning 意味を尋ねる
授業計画第8回 授業内容	前半のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	Unit 07 – First Lesson Day <ul style="list-style-type: none"> - Talk about self-study activities 自習活動について話す - Understand directions 道案内を理解する - Talk about location 場所について話す
授業計画第 10 回 授業内容	Unit 08 – Activities and Trips <ul style="list-style-type: none"> - Say what you want to do やりたいことを伝える - Express necessity 必要性を説明する - Express obligation 義務を説明する
授業計画第 11 回 授業内容	Unit 09 – Housework <ul style="list-style-type: none"> - Make requests 依頼する - Ask permission 許可を求める - Offer to help 手伝いを申し出る
授業計画第 12 回 授業内容	Unit 12 – Safety on Campus <ul style="list-style-type: none"> - Talk about an incident トラブルについて話す - Give details about an incident 当時の状況を伝える - Describe lost property 遺失物について説明する
授業計画第 13 回 授業内容	Unit 13 – Talking about Your Hometown <ul style="list-style-type: none"> - Talk about your hometown 出身地について話す - Explain what you can do there そこで何ができるのか説明する - Talk about places of interest 名所について話す
授業計画第 14 回 授業内容	Unit 14 – Information <ul style="list-style-type: none"> - Understand notices and messages 掲示や連絡事項を理解する - Explain the content of notices and messages 掲示や連絡事項の内容を説明する - React to notices and messages 掲示や連絡事項に対応する
授業計画第 15 回 授業内容	後半のまとめ・期末テスト

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Integrated Learning I
担当教員	高橋 基治
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	本授業では、グローバルな課題として「健康」「医療」「環境」「教育」「自然災害」「テロ」「社会」などの身近なテーマを取り上げ、英語の「読み」「聞く」「書く」「話す」の4技能を統合的に活用し、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指します。また、関連テーマに関する語彙や表現はもちろん、背景知識も同時に学習していきます。
到達目標	本授業が目指す目標は以下の3つです。 ①授業で扱う分野の記事を読んだり、ニュースを聞いたりして、英語で自分の意見を書いたり、話したりできる力をつける ②上記分野で使われている語句、表現や言い回しを知り、使いこなせる ③現在世界が直面している問題が認識できる
学習内容	授業は、オリジナルテキストを使って実践的な英語のスキルアップ及び異文化コミュニケーションについて学習します。
成績評価の方法・基準	評価の方法:①課題 20% ②発表 30% ③クラス参加・態度 30%④テスト 20% 評価の基準: ・英語で記事を読み、聞き、それについて意見を書いたり、人前で話す技術が習得できたか。 ・上記分野で使われている語句、表現や言い回しを理解できたか。 ・現在世界が直面している分野での問題を理解できたか。
教科書	毎回、オリジナル作成プリント教材を配布します。
参考書	『世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本』池上彰(監修), モドロカ(イラスト) 学研プラス https://hon.gakken.jp/book/1450129400
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーションー授業内容の説明とスケジュール 現在、世界が直面している問題の解説。
授業計画第2回 授業内容	医療・健康(1) ・Alcohol ・High blood pressure 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第3回 授業内容	医療・健康(2) ・Thumb sucking ・Weight control 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。

	その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第4回 授業内容	健康ライフスタイル(1) ・Inactive lifestyle 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第5回 授業内容	健康ライフスタイル(2) ・Giving blood 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第6回 授業内容	健康ライフスタイル(3) ・Take it easy in the heat ・Depression 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第7回 授業内容	自然災害 ・Natural disasters 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第8回 授業内容	第2回～第7回の復習と学びの確認 過去のテーマに関する内容の記事を再度読み、音声でも確認。 その後、それぞれを英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第9回 授業内容	地域安全 ・Make it tough for Terrorists 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第10回 授業内容	教育(1) ・Time spent with children ・Free and invaluable time 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第11回 授業内容	教育(2) ・Kids damage easily 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第12回 授業内容	日常生活(1) ・Mom's little danger ・Reading the label correctly 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。

授業計画第 13 回 授業内容	日常生活(2) ・card addiction 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第 14 回 授業内容	環境 ・carbon monoxide 上記テーマに関する内容の記事を読み、音声でも確認。 その後、英語で要旨をまとめ、意見交換やディスカッションを行う。
授業計画第 15 回 授業内容	授業の総括、第 9 回～第 14 回の復習 & 学びの確認 過去のテーマの振り返りを、英語で4技能を統合した形で行う。

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Integrated Learning II
担当教員	BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	この授業は前期の「English for Integrated Learning I」で培ったスキルを基に行います。学生は、まず英語学習者として4技能を活用した効果的な英語学習活動を通して英語を学びます。次に、より高次の学習活動について理解を深めるために、実際に行った活動を客観的に分析し、より良い活動へと改善します。最後に、学生は教師またはファシリテーターとなり、模擬授業を通して同様の英語学習活動を自ら計画、開発、実施します。英語で授業をするための英語表現を学ぶことにも重点が置かれます。
到達目標	本授業の主な学習目標は以下の通りです。 1. 4技能について学生の英語運用能力全般を向上させることを目的とし、特に口頭コミュニケーション能力(質問と回答のやり取り、賛否の表明、証拠に基づいた意見の理由付けなど)に重点を置きます。 2. 4技能を活用したさまざまな英語学習活動に対する理解を深めるとともに、リトリーバル・プラクティス(想起練習)、短時間クイズ、体系的なペアワークなど、高次思考スキルの活用を促す効果的な学習活動について学びます。 3. 英語学習活動の実施能力を高め、英語を媒介として学生と円滑にやり取りできる力を養います。
学習内容	学期の前半では、教員が4技能を活用した効果的な英語学習活動を実演し、学生は英語学習者の立場でそれらの活動を体験します。次に、学期の後半では、学生が英語教師となり、同様の英語学習活動を計画・開発・リハーサルした上で、他の学生に対して模擬授業を行います。学生は自身の模擬授業を振り返り、改善を図るとともに、他の学生に対して適切なフィードバックを行います。また、学期を通じて、ワードプロセッサの使用や情報収集、発音練習に関する指導も行います。最後に、学生は英語教師として教室で使用できる英語の語彙や表現を手書きのジャーナルに記録し、継続的に学習を深めます。
成績評価の方法・基準	成績は、毎週の課題の提出状況(40%)、授業への参加(30%)、模擬授業(30%)を基に評価されます
教科書	指定の教科書はありません。授業では担当教員が配布資料を用意し、さまざまな学習リソースへのリンクを提供します。加えて、各学生はB5サイズのノートを用意し、授業内での筆記課題の記入、ノート取り、語彙リストの作成を行い、将来の参考となる「自分だけの教科書」を作成してください。
参考書	English for the Teacher, A Language Development Course, by Mary Spratt, Cambridge University Press, 1994, ISBN: 9780521426763
授業計画第1回 授業内容	授業概要、コミュニケーション活動、アクティブ・ラーニングの四つのレベル
授業計画第2回 授業内容	授業デモンストレーション: 統合的スキルを活用した活動—スピーキング重視、「See, Think, Wonder」アクティビティ

授業計画第3回 授業内容	授業デモンストレーション:統合的スキルを活用した活動-リスニング重視、「Think, Share, Pair」アクティビティ
授業計画第4回 授業内容	授業のデモンストレーション:統合スキルを活用した活動-読解重視、「Think, puzzle, explore」アクティビティ
授業計画第5回 授業内容	授業デモンストレーション:統合的スキルを活用した活動-ライティング重視、「Claim, Support, Question」アクティビティ
授業計画第6回 授業内容	英語教師として学生とのクラス内インタラクションに必要な英語の語彙やフレーズの復習、模擬授業の計画、準備、およびリハーサルの実施
授業計画第7回 授業内容	模擬授業の計画、準備、およびリハーサルの続き
授業計画第8回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバック
授業計画第9回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第10回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第11回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第12回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第13回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第14回 授業内容	模擬授業;自己評価と修正、参加者からの批評とフィードバックの続き
授業計画第15回 授業内容	コースレビュー;コース評価;このクラスで学んだ最も役立つ情報と向上したスキルについての学生によるプレゼンテーション

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English as an International Language
担当教員	武藤 克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	「国際語としての英語」の考え方、「英語をコミュニケーション言語として用いた国際・異文化間コミュニケーション」の理解を通じた自身の意見や解決策を英語で発信する方法の習得
到達目標	(1)「国際語としての英語」とは何かを適切に理解する (2)トピックに関連する語彙を習得し英文を正確に読解できる (3)異文化間における相互理解に必要な英語発信力を獲得する
学習内容	(1)キーワードの確認とトピックに関するリーディング(自宅学習課題) (2)トピックに関する意見の記述 (3)ディスカッションを通じた意見交換 (4)発展的なテーマに関するライティングと口頭発表
成績評価の方法・基準	(1)自宅学習課題(5×12回):60% (2)中間テスト:10% (3)期末テスト:20% (4)積極的な授業参加等:10%
教科書	本名信行・竹下裕子・James D'Angel(2012)『Understanding English across Cultures グローバル化社会の英語を考える』金星堂.
参考書	鳥飼玖美子(2011)『国際共通語としての英語』講談社. 本名信行・竹下 裕子(編著)(2018)『世界の英語・私の英語—多文化共生社会をめざして』桐原書店. 本名信行(2013)『国際言語としての英語: 文化を越えた伝え合い』富山房インターナショナル.
授業計画第1回 授業内容	Course Overview: 授業の概要説明
授業計画第2回 授業内容	Unit 1 What Is English as an International Language?
授業計画第3回 授業内容	Unit 2 Why Is English So Important?
授業計画第4回 授業内容	Unit 3 McDonald's Stores in India Do Not Serve Beef Burgers! 1
授業計画第5回 授業内容	Unit 4 World Englishes

授業計画第6回 授業内容	Unit 5 More Non-Native Speakers than Native Speakers
授業計画第7回 授業内容	Unit 6 English as an Asian Language
授業計画第8回 授業内容	Review: Unit 1-6 & Midterm Exam Unit 1-6 のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	Unit 7 “The Official Language of Singapore Is Singlish, Sir.”
授業計画第10回 授業内容	Unit 8 English in India
授業計画第11回 授業内容	Unit 9 Expanding English as a Multicultural Language
授業計画第12回 授業内容	Unit 10 English as a Multicultural Language and Diversity Management
授業計画第13回 授業内容	Unit 11 “What’s Your Point?” “Why Don’t You Hear Me Out?”
授業計画第14回 授業内容	Unit 12 That Restaurant Is Very Delicious!
授業計画第15回 授業内容	Review: Unit 7-12 & Final Exam Unit 7-12 のまとめ・期末テスト

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	通訳トレーニング
担当教員	竹下 裕子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	<p>実務経験:この授業の担当者は、通訳の経験を有し、その経験を踏まえて学生の指導を行います。</p> <p>この授業では、将来的な英語使用に対する積極的な姿勢と具体的な目的をもつために、英語運用能力を向上させる訓練をします。学生が自身の英語による言語活動に関する展望を描きながら自主的に設定した目標のもと、実践的に英語を使用します。それにより、特定の受験対策指導を行なうことなく、結果的に標準化テストのスコアの向上を期待します。通常の大学の英語の授業では、教員による授業全体の目標は設定されるとしても、個々の学生のニーズに合った目標設定を学生個人がすることは難しく、20～30人の集団の作業のなかでは、異なる個々のニーズを明確に意識して個々人が学習を進めるということは現実的ではありません。よって、本授業では、学生に「考えること」と「実践的に英語を使用すること」の機会を十分に与えることにより、これを可能にすることを目的とします。</p>
到達目標	<p>すべての学生が、英語運用能力について、現在の立ち位置を認識し、そこから向上することをめざします。授業開始時と終了時にそれぞれ英語運用能力を確認するテストを受けますが、そのテストの受験対策をすることなく、「聴く力」と「話す力」を集中的に伸ばす訓練をすることを中心に、語彙の増強や読解力の向上も結果的にめざすような形で、総合的な英語力を高めることを目標とします。</p>
学習内容	<p>対面授業です。英検2級2次面接の内容程度の教材とNHK Worldの英語による最新のニュースが教材です。</p> <p>①通訳の作業に慣れるため、初めの何回かの授業では、英検2級でもちいられる程度の英語のペースを教材として、シャドーイング、口頭の日本語訳、口頭の英訳などの作業を通じて、通訳に必要な技術の基礎力を養います。</p> <p>②NHK World ニュースをもちいて、さらに俊敏な作業をめざします。最新のニュースの予習はできませんが、日本語を通じて背景知識を得ているニュースをもちいることを心がけます。このためには、日々、日本社会や国際社会の出来事に注意を払っておく必要があります。</p> <p>NHK World のニュースをもちいた授業の流れは次のとおりです。</p> <p>①英語のニュース映像の自由視聴を通じて、当日の日本や世界の状況を概観する</p> <p>②共通教材となるニュース映像を決定し、その内容を把握する</p> <p>③ニュースの元原稿を読み、内容を把握する</p> <p>④元原稿の一部を日本語に翻訳し、ニュース英語にふさわしい日本語文の作成方法を学ぶ</p> <p>⑤英語ニュース映像の一部を書き起こし、元原稿との比較をすることにより、文字情報と音声情報の比較分析を行う</p> <p>⑥英語ニュース映像の一部をもちいてシャドーイングを行うことにより、英語のリズムとイントネーションを体感する練習を行う</p> <p>⑦ニュースの内容に対する自身の意見を口頭で表し、それを録音して聞き返すことにより、改善の余地を探る</p>

成績評価の方法・基準	毎回の授業で行った作業を提出していただき、この作業に見られる英語運用能力の向上を常に注視してきます。聞くこと、話すこと、日本語から英語へ、あるいは英語から日本語へ言語を変えて内容を正しく伝えることをめざす努力を評価しながら、授業に対する取り組みの真剣さと、授業を通じた英語運用能力の伸びを、総合的に判断し、成績を評価します。
教科書	特になし
参考書	This Is My Presentation! 本名信行、竹下裕子、Anthony Allan 著、2018年、桐原書店
授業計画第1回 授業内容	履修者の確定とオリエンテーション。授業開始時の英語運用能力を把握するため、この回のアクティビティ結果を簡単なテストとして保存し、授業終了時の英語運用能力と比較します。
授業計画第2回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Japan のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第3回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Asia のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第4回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが World のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第5回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Business/Technology のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第6回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、Video Features のジャンルのニュースをチェックします。このジャンルにはニュース原稿が掲載されていないため、音声だけを頼りにニュース内容の把握を試みます。次に、ニュースの音声のみを消し、映像に合わせて自身の日本語による解説を加える練習を行います。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第7回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、Video Features のジャンルのニュースをチェックします。このジャンルにはニュース原稿が掲載されていないため、音声だけを頼りにニュース内容の把握を試みます。次に、ニュースの音声のみを消し、映像に合わせて自身の日本語による解説を加える練習を行います。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第8回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Japan のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。

授業計画第9回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが World のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第10回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Business/Technology のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第11回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、Video Features のジャンルのニュースをチェックします。このジャンルにはニュース原稿が掲載されていないため、音声だけを頼りにニュース内容の把握を試みます。次に、ニュースの音声のみを消し、映像に合わせて自身の日本語による解説を加える練習を行います。第6回の授業でも同様の作業を試みたため、作業内容に向上が見られたかどうか、自身で確認することが可能です。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第12回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Japan のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第13回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが Asia のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第14回 授業内容	NHK World の最新のニュースサイトをもちいて、上の学習内容で示した①の作業を行ったのち、教材に適するニュースが World のジャンルから選択可能な場合、それをもちいて②③④⑤⑥⑦の作業を通じて、英語運用能力の向上を目指します。学習を通じて学んだ語句や表現は、自宅学習を通じて習得することを望みます。
授業計画第15回 授業内容	これまでの作業・訓練を通じて身に着けた英語運用能力の向上を確認します。そのうえで、今後の自身の英語学習の目標設定を行います。

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	翻訳トレーニング
担当教員	金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。
到達目標	1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。
学習内容	各回の授業は、特定のテーマに関するひとつの文章を用いて以下を行う ① 文章を読む前に、大意や概要を問うリスニング問題に答える。解答は毎週授業内課題として提出する。 ② ①の作業を通して概要を把握した後に、文章を精読し、内容を詳細に理解する。 ③ 翻訳作業を行う。作業後は、教員の解説を聞いて添削する。 ④ 授業で取り上げた文章について英語でパートナーに説明をしたり、英語でディスカッションなどを行ったりする。(これらの代わりにロールプレイを行うこともある。) ⑤ パートナーに対して行った説明や、ディスカッションを経て得られた意見を英語で記し、授業内課題として提出する。(説明やディスカッションの代わりにディクテーションを行うこともある。その場合は、解答を提出する。)
成績評価の方法・基準	① 課題 (60%) ② 学期末テスト (40%) 〔評価基準〕 ・課題: 正確さ・的確さ、及び英語を運用する際のフルエンシーを評価する ・学期末テスト: 授業で学んだことを体得できているか否かを評価する
教科書	指定なし
参考書	ノア・S・ブラネン 『機能的翻訳のすすめ: コミュニケーションとしての翻訳』澤登春仁訳、バベル・プレス、1988年 成蹊大学文学部学会編 『意味をすくいあげて——通訳者と翻訳者の終わりなき挑戦』、風間書房、2022年

授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション:授業の概要 ・翌週から行う作業を体験する ・留意点等についての説明を受ける
授業計画第2回 授業内容	日本を紹介する文章を取り上げ、以下を行う(1) ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・文章全体についてパートナーに英語で説明する ・説明した内容をパラグラフにまとめる
授業計画第3回 授業内容	日本を紹介する文章を取り上げ、以下を行う(2) ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・文章全体についてパートナーに英語で説明する ・説明した内容をパラグラフにまとめる
授業計画第4回 授業内容	身近なテーマについてのエッセイを取り上げ、以下を行う(1) ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・取り上げた文章について英語でディスカッションを行う ・意見をパラグラフにまとめる
授業計画第5回 授業内容	身近なテーマについてのエッセイを取り上げ、以下を行う(2) ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・取り上げた文章について英語でディスカッションを行う ・意見をパラグラフにまとめる
授業計画第6回 授業内容	会話文を用いて、以下を行う(1) ・リスニングの問題に取り組む ・ディクテーションを行う ・文章の内容を確認した後、一部を翻訳する ・ロールプレイを行い、口語表現を身につける
授業計画第7回 授業内容	会話文を用いて、以下を行う(2) ・リスニングの問題に取り組む ・ディクテーションを行う ・文章の内容を確認した後、一部を翻訳する ・ロールプレイを行い、口語表現を身につける
授業計画第8回 授業内容	文学作品を用いて、以下を行う(1) ・リスニングの問題に取り組む ・ディクテーションを行う ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行い、意見を発表する
授業計画第9回 授業内容	文学作品を用いて、以下を行う(2) ・リスニングの問題に取り組む

	<ul style="list-style-type: none"> ・ディクテーションを行う ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行い、意見を発表する
授業計画第 10 回 授業内容	<p>文学作品を用いて、以下を行う (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・ディクテーションを行う ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行い、意見を発表する
授業計画第 11 回 授業内容	<p>社会的な内容の文章を取り上げ、以下を行う (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行い、意見を発表する ・意見をパラグラフにまとめる
授業計画第 12 回 授業内容	<p>社会的な内容の文章を取り上げ、以下を行う (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行いし、意見を発表する ・意見をパラグラフにまとめる
授業計画第 13 回 授業内容	<p>社会的な内容の文章を取り上げ、以下を行う (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・教員の設定したテーマについて英語でディスカッションを行いし、意見を発表する ・意見をパラグラフにまとめる
授業計画第 14 回 授業内容	<p>新聞記事を用いて以下を行う (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・文章全体についてパートナーに英語で説明する ・説明した内容をパラグラフにまとめる
授業計画第 15 回 授業内容	<p>新聞記事を用いて以下を行う (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスニングの問題に取り組む ・文章を精読し、一部を翻訳する ・文章全体についてパートナーに英語で説明する ・説明した内容をパラグラフにまとめる

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Communication and Discussion
担当教員	UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	この授業は、英検準1級(CEFR C1)の二次試験レベルまで英語のスピーキング能力を向上させたい学生を対象としています。また、特に教職課程履修学生にとって有益です。しかし、英検の面接は一般的な英語能力を試すものであるため、他の学生にとってもスピーキング能力を向上させるのに役立ちます。また、ある程度の英語のスピーキング能力を持ち、授業で英語を使ってコミュニケーションを取る意欲がある学生を対象としています。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会話ストラテジーを理解し使用して、他の学生と3分間の一般的な会話を開始、維持、終了することができるようになること。 2. 適切なディスカッション戦略や表現を使用し、質問をし、自分の批判的な意見を述べることで、5~8分間のディスカッションに積極的に参加できるようになること。 3. 英検面接でよく出る質問に対して、30秒間の回答を4回、論理的かつ一貫して表現できるようになること。 4. 英検2級のような短い文章を正確な発音、発声、イントネーション、ペースで音読できるようになること。 5. 英検準1級の面接のような4コマのイラストを完全に説明できるようになること。 6. 教師と学生のクイズや英検の語彙セクションでよく出る質問に対して、一般的、学術的、句動詞の語彙に関する知識と生産能力を示すことができるようになること。
学習内容	<p>学期中、この授業では以下の内容を学びます:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週ごとの流暢な会話の強化(戦略とスキル) 2. 英検トピックカードの学習:音読(2級)およびイラストの説明(2級および準1級) 3. 一般のおよび学術的な語彙リストに基づく単語カードのピアクイズ(どちらも英検面接に重要) 4. トピクトーク:英検面接でよく出るテーマに関する質問に答え、議論するために必要な言語能力、流暢さ、および思考速度の向上 <p>学生は個人およびペアやグループでの活動に参加し、学習課題を達成することが奨励されます。</p>
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラスディスカッションの準備、参加、やりとり(教師および他の学生との)20% 2. 語彙の宿題 20% 3. 英検スタイルの模擬面接(スピーキング)テスト 60% <p>この授業で良い結果を残すためには、すべての宿題を完了し、クラスに積極的に参加する必要があります。必要な語彙の宿題を完了し、定期的に復習することが重要です。欠席した場合でも、宿題を完了し、できるだけ早く教師に提出する必要があります。</p>
教科書	The teacher will provide all materials for this course. 教材はすべて授業内で配付します

参考書	2025年度版 英検準1級 過去6回全問題集 (旺文社英検書) 2025年度版 英検2級 過去6回全問題集 (旺文社英検書)
授業計画第1回 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Teacher introduction 2. Student introduction (written and spoken) 3. Course orientation: study plan, schedule, and assessment 4. Vocabulary and goal-setting 5. EIKEN KEY-POINT OVERVIEW <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師の紹介 2. 学生の紹介(書面および口頭) 3. コースのオリエンテーション:学習計画、スケジュール、および評価 4. 語彙と目標設定 5. 英検の重要ポイントの概要」
授業計画第2回 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Conversational fluency development 2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List <p>2ND GRADE INTERVIEW PRACTICE 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points 4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: DIRECT & REPORTED SPEECH 5. EIKEN Critical Thinking (interview-style) <ol style="list-style-type: none"> 1. 流暢な会話の強化 2. 単語カードのピアクイズ:一般サービスリスト、学術語リスト、PHaVE リスト.英検 2 級面接練習 1 3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント 4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 直接話法と間接話法 5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問): 質問形式の概要」
授業計画第3回 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Conversational fluency development 2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List <p>2ND GRADE INTERVIEW PRACTICE 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points 4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: EXPRESSIONS CONNECTING PICTURES 5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions) <ol style="list-style-type: none"> 1. 流暢な会話の強化 2. 単語カードのピアクイズ:一般サービスリスト、学術語リスト、PHaVE リスト 英検 2 級面接練習 2 3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント 4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 絵をつなぐ表現 5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)
授業計画第4回 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Conversational fluency development 2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List <p>2ND GRADE INTERVIEW PRACTICE 3</p>

	<p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: FEELINGS AND EMOTIONS</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ:一般サービスリスト、学術語リスト、PhaVE リスト 英検 2 級面接練習 3</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1:音読:主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2:イラストの説明:感情と感覚</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)」</p>
<p>授業計画第5回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PhaVE List</p> <p>2ND GRADE INTERVIEW PRACTICE 4</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: PAST TENSES</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ:一般サービスリスト、学術語リスト、PhaVE リスト 英検 2 級面接練習 4</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1:音読:主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2:イラストの説明:過去形</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第6回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PhaVE List</p> <p>2ND GRADE INTERVIEW PRACTICE 5</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: CONSECUTIVE EVENTS</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ:一般サービスリスト、学術語リスト、PhaVE リスト 英検 2 級面接練習 5</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1:音読:主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2:イラストの説明:連続する出来事</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第7回 授業内容</p>	<p>ACADEMIC SKILLS WORKSHOP 2: Retrieval Practice (conversation, story descriptions, discussion questions), one-to-one instruction and advice; using generative AI (e.g., ChatGPT) for improving grammatical accuracy and appropriateness.</p> <p>学術スキルワークショップ 2:リトリバルプラクティス(会話、物語の説明、ディスカッションの質問)、 一対一の指導とアドバイス;文法の正確さと適切さを向上させるための生成 AI(例:ChatGPT)の使用。</p>

<p>授業計画第8回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List PRE-1st GRADE INTERVIEW PRACTICE 1</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: THOUGHT BUBBLES</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ: 一般サービスリスト、学術語リスト、PHaVE リスト 準1級面接練習 1</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 思考の吹き出し</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第9回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List PRE-1st GRADE INTERVIEW PRACTICE 1</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: ADVERTS, NOTICES, SIGNS, ETC.</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ: 一般サービスリスト、学術語リスト、PHaVE リスト 準1級面接練習 1</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 広告、通知、標識など</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第10回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List PRE-1st GRADE INTERVIEW PRACTICE 2</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations: ADVANCED REPORTED SPEECH</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ: 一般サービスリスト、学術語リスト、PHaVE リスト 準1級面接練習 2</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 高度な間接話法</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第11回 授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PHaVE List PRE-1st GRADE INTERVIEW PRACTICE 3</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p>

	<p>4. EIKEN Topic-card study 2: Describing illustrations MAKING COMPLEX SENTENCES</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ: 一般サービスリスト、学術語リスト、PhaVE リスト 準1級面接練習 3</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2: イラストの説明: 複雑な文の作成</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第 12 回</p> <p>授業内容</p>	<p>1. Conversational fluency development</p> <p>2. Word-card peer quiz: General Service List, Academic Word List, PhaVE List</p> <p>PRE-1st GRADE INTERVIEW PRACTICE 3</p> <p>3. EIKEN Topic-card study 1: Reading aloud: Key pronunciation points</p> <p>4. EIKEN Topic-card study 2: DEVELOPING FLUENCY</p> <p>5. EIKEN Critical Thinking (interview-style questions)</p> <p>1. 流暢な会話の強化</p> <p>2. 単語カードのピアクイズ: 一般サービスリスト、学術語リスト、PhaVE リスト 準1級面接練習 3</p> <p>3. 英検トピックカードの学習 1: 音読: 主要な発音ポイント</p> <p>4. 英検トピックカードの学習 2: 流暢さの向上</p> <p>5. 英検クリティカルシンキング(面接形式の質問)</p>
<p>授業計画第 13 回</p> <p>授業内容</p>	<p>ACADEMIC SKILLS WORKSHOP 2: Retrieval Practice (conversation, story descriptions, discussion questions), one-to-one instruction and advice.</p> <p>学術スキルワークショップ 2: リトリバルプラクティス(会話、物語の説明、ディスカッションの質問)、 一対一の指導とアドバイス。</p>
<p>授業計画第 14 回</p> <p>授業内容</p>	<p>Student Interviews and Team Discussions: Round 1</p> <p>学生インタビューとチームディスカッション: ラウンド 1</p>
<p>授業計画第 15 回</p> <p>授業内容</p>	<p>Student Interviews and Team Discussions: Round 2</p> <p>学生インタビューとチームディスカッション: ラウンド 2</p>

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	Presenting in English
担当教員	BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(英語コミュニケーション)
単位数	2
テーマ・内容	この授業では、英語によるプレゼンテーションスキルの向上を目指します。この目標の達成に向けて、学生はさまざまな形式のプレゼンテーションの準備のために、リサーチを行い、アウトラインやスクリプト、視覚資料を作成します。また、信頼性の高い情報源から信頼度が高い事実のみを抽出し、声や発音だけでなく、体の姿勢やジェスチャーを用いて情報を明確に伝える技術を身につけることにも重点が置かれます。さらに、学生は自分自身や他の学生のプレゼンテーションを聞いて、それを要約、批評することで、リスニングおよびノートテイキングのスキルを習得します。
到達目標	この授業の主な目標は以下の通りです: 1. 4 技能について学生の英語運用能力全般を向上させることを目的とし、特にスピーキングとリスニングに焦点を当てる。 2. プレゼンテーション準備の際に、高度で信頼できる情報源を見つけ、選ぶスキルを高める。 3. プレゼンテーションで選んだトピックとそれに関連する問題について、学生の理解を深める。 4. 様々な状況で新しい知識を適切に要約、批評、応用する学生の認知能力を高める。
学習内容	この授業では、3 種類のプレゼンテーションを取り上げます。プレゼンテーションのトピックや形式は、学生の専攻に関連する興味・関心に基づいて選択されます。授業では、まず教師が各種類のプレゼンテーションを実演し、その後、学生が自ら準備し発表を行います。リスナーには、プレゼンテーションの要約と批評の課題が与えられます。また、学期を通して、基本的な英語学習スキル、ワープロソフトを活用した資料作成や情報収集のスキル、発音の練習も行います。 ※授業は対面形式(授業形態:対面授業)で実施されます。
成績評価の方法・基準	成績は、宿題の提出状況(40%)、授業への参加(30%)、そして3回のプレゼンテーション(30%)を基に評価されます。
教科書	Speaking for Presentations 2, by Liana Robinson, Seed Learning Publishers, 2019, ISBN: 978-1-9464-5290-0
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	Course introduction; communication activities to check students' level of English; selection of three kinds of presentations on which to focus in the class; Textbook Unit 1, One of My Favorite Things コース紹介、学生の英語レベルを確認するためのコミュニケーション活動、クラスで重点的に取り組む3種類のプレゼンテーションの選択、Textbook Unit 1, One of My Favorite Things
授業計画第2回 授業内容	What makes a presentation effective? Points to consider when preparing and giving presentations; Textbook Unit 1, One of My Favorite Things, continued

	効果的なプレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションを準備し実施する際のポイント、Textbook Unit 1, One of My Favorite Things(続き)
授業計画第3回 授業内容	Introduction to Presentation 1; teacher gives model presentation; choosing high-level, trusted sources of information; students choose their topics and begin searching for information; Textbook Unit 6, An Experience That Changed My Mind プレゼンテーション 1 の導入、教師によるモデルプレゼンテーション、高度で信頼できる情報源の選択、学生がテーマを選び情報収集を開始、Textbook Unit 6, An Experience That Changed My Mind
授業計画第4回 授業内容	Presentation 1—Students' preparation and practice of script and visual materials; Textbook Unit 6, An Experience That Changed My Mind, continued プレゼンテーション 1—学生によるスクリプトと視覚資料の準備・練習、Textbook Unit 6, An Experience That Changed My Mind(続き)
授業計画第5回 授業内容	Presentation 1—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and critique プレゼンテーション 1—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う
授業計画第6回 授業内容	Presentation 1—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and critique, continued プレゼンテーション 1—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う(続き)
授業計画第7回 授業内容	Introduction to Presentation 2; teacher gives model presentation; students choose their topics and begin searching for information; Textbook Unit 8, Making It Better プレゼンテーション 2 の導入、教師によるモデルプレゼンテーション、学生がテーマを選び情報収集を開始、Textbook Unit 8, Making It Better
授業計画第8回 授業内容	Presentation 2—Students' preparation and practice of script and visual materials; Textbook Unit 8, Making It Better, continued プレゼンテーション 2—学生によるスクリプトと視覚資料の準備・練習、Textbook Unit 8, Making It Better(続き)
授業計画第9回 授業内容	Presentation 2—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and Critique プレゼンテーション 2—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う
授業計画第10回 授業内容	Presentation 2—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and critique, continued プレゼンテーション 2—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う(続き)
授業計画第11回 授業内容	Introduction to Presentation 3; teacher gives model presentation; students choose their topics and begin searching for information; Textbook Unit 12, The Future プレゼンテーション 3 の導入、教師によるモデルプレゼンテーション、学生がテーマを選び情報収集を開始、Textbook Unit 12, The Future
授業計画第12回 授業内容	Presentation 3—Students' preparation and practice of script and visual materials; Textbook Unit 12, The Future, continued

	<p>プレゼンテーション 3—学生によるスクリプトと視覚資料の準備・練習、Textbook Unit 12, The Future(続き)</p>
<p>授業計画第 13 回 授業内容</p>	<p>Presentation 3—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and critique プレゼンテーション 3—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う</p>
<p>授業計画第 14 回 授業内容</p>	<p>Presentation 3—Students present; listeners take notes, discuss, summarize, and critique, continued プレゼンテーション 3—学生による発表、リスナーはノートを取り、ディスカッション・要約・講評を行う (続き)</p>
<p>授業計画第 15 回 授業内容</p>	<p>Review of all topics; course evaluation 全トピックの復習、コース評価</p>

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	English for Intercultural Understanding
担当教員	武藤 克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(異文化理解)
単位数	2
テーマ・内容	映画を通じた異文化間コミュニケーションの知識の習得と英語リスニング・プレゼンテーションスキルの向上
到達目標	(1)異文化間コミュニケーションに関する基礎知識を獲得する (2)映画英語のリスニング力を上達させる (3)異文化的観点から映画作品についてリサーチし、英語で発表できる
学習内容	(1)映画の中で描写される異文化間コミュニケーションの理解 (2)英語(台詞・ナレーション)のディクテーションと和訳 (3)テーマに関する英語文献の読解と映画レポートの作成 (4)異文化間コミュニケーションを題材にした映画に関する発表
成績評価の方法・基準	(1)授業内課題(5%×11回):55% (2)プレゼンテーション:15% (3)映画レポート:20% (4)積極的な授業参加等:10%
教科書	使用しません。
参考書	桜木俊行(2013)『映画で異文化体験—異文化コミュニケーション講座』近代映画社. Jackson, J. (2020). <i>Introducing Language and Intercultural Communication</i> (2nd Ed.). Routledge. Jandt, F. E. (2021). <i>An Introduction to Intercultural Communication</i> (10th Ed.). Sage.
授業計画第1回 授業内容	Course Overview: 授業の概要説明
授業計画第2回 授業内容	Communication Styles: コミュニケーション・スタイル(1) - My Big Fat Greek Wedding: マイ・ビッグ・ファット・ウェディング(2002年/アメリカ)
授業計画第3回 授業内容	Communication Styles: コミュニケーション・スタイル(2) - The Visitor: 扉をたたく人(2007年/アメリカ)
授業計画第4回 授業内容	Differences in Cultural Values: 文化的価値観の違い(1) - Ae Fond Kiss...: やさしくキスをして(2004年/イギリス・イタリア・ドイツ・スペイン)
授業計画第5回 授業内容	Differences in Cultural Values: 文化的価値観の違い(2) - Gran Torino: グラン・トリノ(2008年/アメリカ)
授業計画第6回 授業内容	To Overcome Cultural Bias: 偏見を乗り越える(1) - Crash: クラッシュ(2004年/アメリカ)

授業計画第7回 授業内容	To Overcome Cultural Bias: 偏見を乗り越える(2) - Hotel Rwanda: ホテル・ルワンダ(2004年/南アフリカ・イギリス・イタリア)
授業計画第8回 授業内容	Peer review & Discussion: レポートのピアレビューとディスカッション
授業計画第9回 授業内容	Different Cultures Coexisting in the Society: 社会に共存する異文化(1) - Transamerica: トランスアメリカ(2005年/アメリカ)
授業計画第10回 授業内容	Different Cultures Coexisting in the Society: 社会に共存する異文化(2) - Stolen Summer: 夏休みのレモネード(2002年/アメリカ)
授業計画第11回 授業内容	Different Cultures Seen in Sci-fi Movies: SF映画における異文化(1) - Edward Scissorhands: シーザーハンズ(1990年/アメリカ)
授業計画第12回 授業内容	Different Cultures Seen in Sci-fi Movies: SF映画における異文化(2) - Pleasantville: カラー・オブ・ハート(1998年/アメリカ)
授業計画第13回 授業内容	To Become Adapted to Another Culture: 文化適応への道のり - 使用映画は学生の興味・関心を参考に決定
授業計画第14回 授業内容	Students' Presentations: プレゼンテーション
授業計画第15回 授業内容	Students' Presentations (cont'd): プレゼンテーション(続き) Wrap-up: 講義全体のまとめ

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	Education around the World
担当教員	UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(異文化理解)
単位数	2
テーマ・内容	ますますグローバル化が進む世界において、教育はこれまで以上に重要です。異なる国際的な視点から教育を学ぶことは、自分の社会における教育の問題点や可能性をより深く理解することにつながります。このコースでは、比較国際教育の主要なテーマを『わかりやすい』方法で紹介します。
到達目標	この授業では、次のことを学びます。 なぜ教育がさまざまな国や文脈で異なる発展を遂げるのか。 教育とグローバリゼーション、文化、ジェンダーなどの主要なトピック。 異なる国や地域の教育を研究し、比較する方法。 クラスメートや教師と現代の教育問題について英語で話す方法。
学習内容	このコースは英語で行われます。しかし、内容を理解し、コースの目標を達成するために、学生間の多くの交流やさまざまな活動を行います。
成績評価の方法・基準	授業の準備(例:コースの読書など)20% 授業への貢献と積極的な参加 15% 研究プロジェクト 25% クイズ 40%(中間試験 15% とコース終了時 25%)
教科書	Students do not need to purchase a textbook. The teacher will provide all prints and worksheets for this course. すべてのプリントとワークシートは授業内で配付します
参考書	Marshall, J. (2019). An introduction to comparative and international education. Sage Publications.
授業計画第1回 授業内容	Course introduction: course purpose, goals, and assessment Class introductions Short class discussion 授業の紹介:授業の目的、目標、および評価方法 クラス紹介 短いクラスディスカッション
授業計画第2回 授業内容	(1) What is comparative and international education? Definitions, purposes, and challenges (1)比較教育と国際教育とは何か? 定義、目的、そして課題
授業計画第3回 授業内容	(2) How do we compare education in different countries? (2) 私たちはどのようにして異なる国の教育を比較するのか?

授業計画第4回 授業内容	(3) Culture and education (3)文化と教育
授業計画第5回 授業内容	(4) How do historical, social, economic, and political factors affect education? (4)歴史的、社会的、経済的、そして政治的要因は教育にどのような影響を与えるのか？
授業計画第6回 授業内容	Topics 1 to 4 review workshop 第1回から第4回授業までのレビューとワークショップ
授業計画第7回 授業内容	Midterm test; and research project seminar (1) 中間試験; 研究プロジェクトセミナー (1)
授業計画第8回 授業内容	(5) Globalization and education (5)グローバル化と教育
授業計画第9回 授業内容	(6) Education in the developing world (6)発展途上国の教育
授業計画第10回 授業内容	(7) Gender and education (7)ジェンダーと教育
授業計画第11回 授業内容	(8) Multicultural education (8)多文化教育
授業計画第12回 授業内容	(9) The internationalization of higher education (9)高等教育の国際化
授業計画第13回 授業内容	Topics 5 to 9 review workshop 第5回から第9回授業のレビューとワークショップ
授業計画第14回 授業内容	Final quiz and research project seminar (2) ファイナルクイズと研究プロジェクトセミナー (2)
授業計画第15回 授業内容	Research project seminar (3) 研究プロジェクトセミナー (3)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	異文化間コミュニケーション入門
担当教員	井上 美砂
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(異文化理解)
単位数	2
テーマ・内容	本講義では、英語圏を含む異文化間コミュニケーションに関する基本的な理論や概念を学び、それらを身近な人間関係や周辺で起こりうるさまざまな社会問題に結び付けて検討します。また、多様性や異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解し、その原因や解決策を考えていきます。
到達目標	英語圏を含む異文化間コミュニケーションに関する基本的な理論や概念を理解する。 学んだ理論や概念を自らの経験や社会問題(含む歴史)と結び付けて捉えることができるようになる。 多様な文化的背景を持った人々との課題について具体的事例を通して理解し、異文化交流の意義について理解する。
学習内容	授業では講義とそれに関連したエクササイズやグループディスカッションを行います。自分の意見を持ち、それをグループやクラスで発表できるよう準備する必要があります。毎回授業で学んだことに関するレスポンスシートの提出を求められます。(※国際共通語としての英語(ELF)を考慮する)
成績評価の方法・基準	授業への貢献度、提出物(課題・レスポンスシートを含む)50%、期末試験 50% 16週目に定期試験(期末試験)を実施する。 *注意:単位取得には、3分の2の出席が必要です。また、出席していれば単位が取得できるものではありません。出席したうえで、上記の評価方法・基準に基づき成績評価します。
教科書	適宜資料を配布する。
参考書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』石井敏・久米昭元ほか 有斐閣選書 2013 『コミュニケーション学—その展望と視点 増補版』末田清子・福田浩子 松柏社 2011 『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子・荒木晶子ほか 三修社 2008
授業計画第1回 授業内容	コースガイダンス — 授業内容の説明とコーススケジュール 異文化間コミュニケーションの概要 異文化性とは何か？異文化間コミュニケーションスキルとは？異文化間コミュニケーションはなぜ必要なのか？異文化間コミュニケーションスキルを学ぶ理由
授業計画第2回 授業内容	文化とは — 文化って何だろう 文化の特性について、物質文化、精神文化、行動文化について考える。見える文化と見えない文化とは何か？文化的価値観について考えよう。あなたの常識は私の非常識？(エクササイズ)
授業計画第3回 授業内容	コミュニケーションとは — コミュニケーションって何だろう コミュニケーションの特性、コミュニケーションのレベル、個人内コミュニケーションと対人コミュニケーション、言語・非言語コミュニケーション、メッセージの知覚と意味づけ、コミュニケーションクイズ(エクササイズ)

授業計画第4回 授業内容	自己とアイデンティティ — 自己とは何か、社会・文化的アイデンティティ 自己概念と文化のフィルター、独立的自己観と相互協調的自己観、ジェンダーアイデンティティ、主流派・少数派のアイデンティティ発達モデル、多文化な人たちのアイデンティティ発達モデル
授業計画第5回 授業内容	ステレオタイプと偏見・差別 ステレオタイプの特徴と知覚のプロセス、偏見の機能・レベル・メカニズム、偏見や差別の生じる理由、レイシャル・プロファイリングについて考える(エクササイズ)
授業計画第6回 授業内容	価値観と文化的特徴 — 見えない文化と文化的価値観 文化的価値観と学習過程(日米比較)、個人主義と集団主義、文化と自己観、文化の価値志向類型(ワークシート&グループディスカッション)
授業計画第7回 授業内容	言語コミュニケーション — ことばによるコミュニケーション 言語コミュニケーションから見る異文化(日英米中比較)、パラ言語、高コンテキスト・低コンテキスト、褒め方・謝り方・叱り方・断り方の日米比較、多民族社会と同質性の高い社会の比較
授業計画第8回 授業内容	コミュニケーション・スタイル — 高コンテキスト・低コンテキスト、自己開示 留学生ケイコとジェーンの会話、高コンテキスト文化と低コンテキスト文化の違い、直接的・螺旋的コミュニケーションスタイル、飛び石的・石畳的コミュニケーションスタイル、人間関係重視・情報重視、文化による自己開示の違い
授業計画第9回 授業内容	非言語コミュニケーションⅠ — ことばのないコミュニケーション ・身体動作と接触行動 非言語コミュニケーションの割合・種類、非言語コミュニケーションの機能、表情と表情表出の文化的規制、ジェスチャーの文化的意味の違い、非言語コミュニケーションを成功させるには
授業計画第10回 授業内容	非言語コミュニケーションⅡ — ことばのないコミュニケーション ・時間、空間、準言語 対人距離の文化比較、空間と縄張り行動、空間使用と文化差、時間の概念(モノクロニックタイムとポリクロニックタイム)、非言語コミュニケーションまとめのクイズ
授業計画第11回 授業内容	異文化適応 — カルチャーショック カルチャーショック曲線、カルチャーショックの兆候・要因・捉え方、異文化適応プロセス(段階的特徴) 異文化適応を促進するために、カルチャーショックレポート(各自の経験をレポートにて提出)
授業計画第12回 授業内容	DVD 視聴 — 小レポート課題 映画の主人公の異文化適応プロセスを分析
授業計画第13回 授業内容	DVD 視聴 — 小レポート課題 映画の主人公の異文化適応プロセスを分析
授業計画第14回 授業内容	異文化理解 — 異なる文化のとらえ方・接し方 異文化理解を促進する10の態度、自文化中心主義と文化相対主義、リスニングというコミュニケーション能力について、エンパシーとシンパシー(異文化理解に必要な)
授業計画第15回 授業内容	異文化間コミュニケーションのまとめ コースの振り返りと期末テストのための説明

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	グローバル時代のコミュニケーション
担当教員	井上 美砂
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(異文化理解)
単位数	2
テーマ・内容	先進国では社会のグローバル化に伴って、企業の経済活動や労働者の移動や移住、観光客の増加など、文化的背景の異なる人々と交流する機会は増大しています。一方、グローバリゼーションは、発展途上国や新興国の人々を取り巻く環境にも影響を与えています。本講義では、地球規模で起こっているさまざまな国際問題について、学生が主体となって情報収集し、問題の背景にある歴史や文化的価値観を理解したうえで問題の本質を探究します。後半には、グループで具体的な問題を取り上げ、現状と課題、解決策について発表します。
到達目標	国際人として、自文化や自国の枠組みを超えた柔軟性のある思考を獲得すること。 国際間の課題について深く考え、分析的視点で問題点を整理し、公平公正な判断ができること。 異なる価値観、信念、思考様式を理解したうえで、自分の意見を主張でき、自文化を相手に理解させることができるコミュニケーションスキルを身に付けること。
学習内容	授業は講義だけでなく、グループディスカッションと全体討議を多く取り入れるため、受講者は授業に積極的に参加すること。また国際問題に関心を持ち積極的に考え、自分の意見を持ち、それをグループや全体討議で発信すること。コースの後半には、グループで地球規模で起こっている諸問題をリサーチしクラスで発表する課題があります。
成績評価の方法・基準	授業への貢献度、課題(毎回のレスポンスシートと提出物を含む)35%、中間テスト15%、リサーチ・プロジェクトの発表・期末レポート50% *注意:出席していれば単位が取得できるものではありません。出席したうえで、上記の評価方法・基準に基づき成績評価します。
教科書	適宜、ハンドアウトを配布します。
参考書	『コミュニケーション・スタディーズーアイデンティティとフェイスからみた景色』末田清子 新曜社 2021 『改訂版 異文化コミュニケーション A to Z』小坂貴志 研究社 2017 『多文化世界(原書第三版)』ホフステード・ホフステード・ミンコフ 有斐閣 2013 『国際コミュニケーションー地球規模でつながる』平山修平 実教出版 2016 『異文化理解力』エリン・メイヤー 英治出版 2015
授業計画第1回 授業内容	コースガイダンス - 授業内容の説明とコーススケジュール
授業計画第2回 授業内容	国際コミュニケーションの概要
授業計画第3回 授業内容	コミュニケーションと文化

授業計画第4回 授業内容	自文化中心主義と文化相対主義
授業計画第5回 授業内容	国際コミュニケーションと文化1 ・権力格差—平等？不平等？ ・個人主義と集団主義—私、われわれ、やつら
授業計画第6回 授業内容	国際コミュニケーションと文化2 ・男性らしさ/女性らしさ — 男性、女性、人間 ・不確実性の回避 — あいまいなのは好き？嫌い？
授業計画第7回 授業内容	前半のまとめと中間テスト 予習：前半の授業で学んだことを確認する。
授業計画第8回 授業内容	DVD 視聴 — 小レポート課題
授業計画第9回 授業内容	異文化理解力
授業計画第10回 授業内容	人の移動・移住におけるコミュニケーションの問題 ・外国人労働者に関する問題
授業計画第11回 授業内容	国際ビジネスにおけるコミュニケーションの問題
授業計画第12回 授業内容	リサーチ・プロジェクト(作業日)DAY1
授業計画第13回 授業内容	リサーチ・プロジェクト (作業日)DAY2
授業計画第14回 授業内容	リサーチ・プロジェクト 学生発表 DAY1
授業計画第15回 授業内容	リサーチ・プロジェクト 学生発表 DAY2

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	グローバリゼーションと文化
担当教員	中野麻衣子
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科に関する専門的事項 中学・高校 英語(異文化理解)
単位数	2
テーマ・内容	<p>コロナ禍を経て、BRICS の拡大や、第 2 次トランプ政権の発足とその革命的な改革の数々を見ての通り、世界は今、歴史的な時代の転換期にあると言えます。またこの大きな変化は、冷戦後、(英語圏のみならず)世界中で、グローバリゼーション(グローバル化)を是として進められてきた政策に対する反動として起きているという側面が大きいと言えます。であるならば、グローバリゼーションとは何だったのかという歴史的な検証をすることは、今後、国や地域、町といった様々なレベルで未来創りをしていく上で極めて重要な作業になってきます。</p> <p>本講義では、まず「グローバリゼーション」という言葉の意味とその現象の本質をしっかりと理解した上で、グローバリゼーションの進展とともに文化の領域では何が起こってきたのかを、まさにグローバル化の経済的恩恵を受けて急成長したアジアの国々の社会の内部に視点を置いて、詳しく見ていきます。</p> <p>一般には、グローバル化が進むと世界は一つに収斂し、文化的にも均質化していくと想像されてきましたが、文化人類学・社会学分野における実地調査による研究は、実際には決してそうはならないことを示しています。グローバルな現象を世界の局所的な地点において観察し、分析していくことによって、グローバリゼーションの進展は、文化のレベルではむしろ「個性」の強調や他との差異化を促してきたことが理解されるでしょう。</p>
到達目標	<p>① グローバリゼーションという現象の本質を理解し、「近代化」や「西洋化」との意味の違いを説明できる。</p> <p>② 「グローバル」「ローカル」という言葉の意味を理解し、適切に使用できる。</p> <p>③ グローバリゼーションという現象の前提となる諸制度について理解する。</p> <p>④ グローバリゼーションに伴うローカリゼーションについて理解する。</p> <p>⑤ グローバリゼーションによる民族意識の高揚や文化の(再)創造といった現象を理解する。</p> <p>(* 国際共通語として英語(ELF)を考慮する)</p>
学習内容	<p>まず、「グローバリゼーション」という言葉の定義や解釈の仕方、グローバリゼーションと呼ばれる現象の起源やそれを支える諸制度、「文化」をはじめとする基本概念について学び、その上で、主にアジアの個別社会の事例をもとに、植民地統治と民族形成、国際観光産業と文化の創造、新中間層の成長と消費文化の発展、移民と街づくりといった具体的なテーマに沿って、グローバリゼーションと文化の関係を学んでいきます。また、本講義の終盤では、世界的な政治経済の変化の方向性と日本の未来を見据えつつ、日本的文化の世界的流行や日本語学習者の増加、訪日外国人の飛躍的増加と伝統的文化の再興隆など、日本の事象も積極的に取り上げていきます。</p> <p>授業形態： 対面授業</p>

	<p>授業では毎回、出席票を兼ねたリアクションペーパーを提出してもらいます。そこに授業の感想や意見、質問等を書いてください。書かれたコメントに対しては、次の授業でできるかぎり回答し、補足説明を行います。</p> <p>また、授業期間中に数回課題(小レポート)を出します。それを通して講義で学んだ内容の理解を深めてください。</p> <p>なお、資料配布、課題提出には Google Classroom を使用します。</p>
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業期間中の提出課題(小レポート)は評価の対象とします。ここでは、課題となった資料をきちんと読んだかどうかを最低限の評価の基準となり、内容の理解度に応じて評価します。 ・また、16週目に定期試験(記述式)を行います。試験は、講義を通して伝えた内容の本質をどのくらい理解しているかを評価の基準とします。 ・成績評価は、①定期試験 60%、②提出課題 30%、③授業への参加姿勢 10%、を総合して行います。ただし、欠席回数が授業回数全体の 1/3 を超える学生には成績評価を行いません。
教科書	教科書は使用しませんが、必要に応じて資料や文献のコピーを配布します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『海の帝国: アジアをどう考えるか』 著者: 白石隆 出版社: 中央公論新社 2000/9 ISBN: 4121015517 ・『マクドナルドはグローバルか: 東アジアのファーストフード』 著者: ジェームズ・ワトソン編、前川啓治・竹内恵育・岡部曜子訳 出版社: 新曜社 2003/1 ISBN: 4788508362 ・『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』 著者: 梅森直之編 出版社: 光文社 2007/5 ISBN: 4334034012 ・『グローバリズム以後: アメリカ帝国の失墜と日本の運命』 著者: エマニュエル・トッド、聞き手: 朝日新聞 出版社: 朝日新聞出版 2016/10 ISBN: 4022736895
授業計画第1回 授業内容	イントロダクション
授業計画第2回 授業内容	グローバリゼーションとは何か
授業計画第3回 授業内容	グローバリゼーションの起源と歴史
授業計画第4回 授業内容	近代の諸制度と「文化」の概念
授業計画第5回 授業内容	植民地における異種混雑性と「民族」の形成

授業計画第6回 授業内容	国民統合と先住民
授業計画第7回 授業内容	国際観光産業と伝統の「発明」
授業計画第8回 授業内容	新中間層の成長と消費文化の発展
授業計画第9回 授業内容	「マクドナルド」とアジアの諸社会
授業計画第10回 授業内容	グローバルなもののローカルな消費
授業計画第11回 授業内容	「豊かさ」をめぐる競争と平準化
授業計画第12回 授業内容	流行現象と伝統文化
授業計画第13回 授業内容	移民、観光、街づくり
授業計画第14回 授業内容	世界の中の日本語と日本文化
授業計画第15回 授業内容	「多文化主義」と日本の価値観

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	第二言語習得概論 I
担当教員	武藤克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目 中学・高校 英語
単位数	2
テーマ・内容	主要な第二言語習得理論の理解、言語習得・学習に関する基礎知識の習得および習得プロセスの授業指導への効果的活用
到達目標	到達目標 (1) 第二言語(外国語)を習得する基礎的な理論やプロセスを学習する (2) 理論やプロセスを外国語(英語)の指導や学習へ活用する方法を知る
学習内容	(1) 第二言語習得の背景や理論に関する知識を獲得する (2) 英語授業への応用について学習する (3) 指導方法や言語活動を自ら考える
成績評価の方法・基準	(1) リアクションペーパー等(5%×12回): 60% (2) 中間テスト: 15% (3) 期末テスト: 15% (4) 積極的な授業参加等: 10%
教科書	鈴木渉(編)(2017)『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店.
参考書	和泉伸一(2016)『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』アルク. 上智大学 CLT プロジェクト(2014)『コミュニカティブな英語教育を考える』アルク. 白井恭弘(2023)『英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版』大修館書店.
授業計画第1回 授業内容	授業の概要説明 第二言語習得と英語教育
授業計画第2回 授業内容	第1章 言語教授法の歴史 文法指導の変遷について知る キーワード: フォーカス・オン・フォーム、コミュニケーション、文法指導
授業計画第3回 授業内容	第2章 インプットとその強化方法 目標項目の目立たせ方について知る キーワード: インプット強化、インプット洪水、気づき、注意
授業計画第4回 授業内容	第3章 言語の処理指導 目標項目の処理指導について学ぶ キーワード: 処理指導、インプット処理、明示情報
授業計画第5回 授業内容	第4章 話す活動と文法指導 スピーキングと文法指導における間違い訂正について学ぶ

	キーワード: 訂正フィードバック、インプット供給型、アウトプット誘発型、卓越性
授業計画第6回 授業内容	第5章 ライティングのフィードバック ライティングにおける間違い訂正について学ぶ キーワード: 訂正フィードバック、振り返り、リビジョン
授業計画第7回 授業内容	第6章 言語タスク 言語タスクの効果的な導入方法について学ぶ キーワード: タスク、TBLT、英語教育
授業計画第8回 授業内容	前半(第1章～第6章)のまとめ・中間テスト
授業計画第9回 授業内容	第7章 ペアワークとグループワーク 協力的なクラスルーム環境を築く方法を学ぶ キーワード: インタラクション、フィードバック、社会的関係
授業計画第10回 授業内容	第8章 発音 発音の考え方と指導方法について学ぶ キーワード: 明瞭性、わかりやすさ、気づき、注意
授業計画第11回 授業内容	第9章 語彙 効果的な語彙指導について知る キーワード: 語彙、ボキャブラリー、単語、記憶
授業計画第12回 授業内容	第10章 語用論 話者の環境下で言葉がどのような意味をなすかを考える キーワード: 言語表現、文化、コンテキスト
授業計画第13回 授業内容	第11章 個人差とコンテスト 学習者ひとりひとりが持ち合わせる個人差について知る キーワード: 個人差、動機づけ、言語学習適正、臨界期
授業計画第14回 授業内容	第12章 評価 評価の方法や時期について学ぶ キーワード: 宣言的知識、手続き的知識、自動化、正確さと流暢さ
授業計画第15回 授業内容	後半(第7章～第12章)のまとめ・期末テスト

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	第二言語習得概論Ⅱ
担当教員	武藤克彦
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目 中学・高校 英語
単位数	2
テーマ・内容	第二言語習得、母語習得の諸理論や視点の理解を基に、英語(外国語)学習や指導の今後の可能性について考える。
到達目標	(1)第二言語(外国語)を習得する基礎的な理論やプロセスを学習する (2)第二言語習得の理論やプロセスを実際の英語(外国語)学習に活用する方法を知る (3)学習内容に基づき、今後の自身の英語(外国語)の学習法を考案できる
学習内容	(1)母語習得や第二言語習得の各論について理解する (2)学習内容に基づき、外国語学習や指導法に関する自身の意見や考えを述べる (3)ペア・グループでのディスカッションを通してトピックに関する意見を交換する
成績評価の方法・基準	(1)リアクションペーパー等(5%×11回):55% (2)授業内課題(1):10% (3)授業内課題(2):10% (4)期末テスト:15% (5)積極的な授業参加等:10%
教科書	馬場今日子、新多了(2016)『はじめての第二言語習得論講義:英語学習への複眼的アプローチ』大修館書店。
参考書	和泉伸一(2016)『第2言語習得と母語習得から「言葉の学び」を考える』アルク。 白井恭弘(2008)『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波書店。 鈴木孝明・白畑知彦(2012)『ことばの習得—母語習得と第二言語習得—』くろしお出版。
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション 第二言語習得が扱うテーマとは
授業計画第2回 授業内容	第1章 第二言語習得研究とは何か 考え方とその魅力
授業計画第3回 授業内容	第2章 母語習得についての2つの理論 なぜ人は言葉を習得するのか
授業計画第4回 授業内容	第3章 転移とリテラシー 母語と第二言語はどのように影響を与え合うのか
授業計画第5回 授業内容	授業内課題(1) 「グローバル化に対応した英語教育とは？」

授業計画第6回 授業内容	第4章 認知的アプローチの時代 第二言語習得はどのように始まったのか
授業計画第7回 授業内容	第5章 認知的アプローチと社会的アプローチ 第二言語学習についての2つの見方
授業計画第8回 授業内容	第6章 第二言語習得と外国語教育 タスク中心アプローチをめぐって
授業計画第9回 授業内容	第7章 外国語適性とパーソナリティー どのような人が第二言語学習に向いているのか
授業計画第10回 授業内容	授業内課題(2) “Can Monolingual Be Cured?”
授業計画第11回 授業内容	第8章 第二言語動機づけ どうすればやる気を持ち続けることができるのか
授業計画第12回 授業内容	第9章 臨界期仮説と児童英語教育(1) 若ければ若いほど良い？
授業計画第13回 授業内容	第9章 臨界期仮説と児童英語教育(2) 「子どもにやさしい」英語教育
授業計画第14回 授業内容	第10章 複雑系理論のアプローチ 第二言語習得の新しい考え方とは？
授業計画第15回 授業内容	講義全体のまとめ・期末テスト

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	英語科教育法 I
担当教員	UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学・高校 英語
単位数	2
テーマ・内容	Semester 1 is the ‘What’ of teaching English as a Foreign Language (EFL). The course will introduce you to the fundamental knowledge that every EFL teacher must have. You will learn about. (1)The main components of language (e.g., speaking, grammar, phonology, and lexis) (2)Concepts and issues related to language and teaching EFL (e.g., motivation, the role of error) (3)The influential approaches/methods to teaching EFL (e.g., CLT, Functional, TBLT, and GTM) 前期は、外国語としての英語(EFL)教育の「何」を学ぶ期間です。このコースでは、すべての EFL 教師が持つべき基本的な知識を紹介します。以下の内容について学びます： 言語の主要な構成要素(例:スピーキング、文法、音声学、語彙) 言語と EFL 教育に関連する概念と問題(例:動機付け、エラーの役割) EFL 教育に影響を与えるアプローチ/方法(例:CLT、機能的アプローチ、TBLT、GTM)
到達目標	The main objective of this course is to build a foundation of knowledge necessary for EFL (English as a Foreign Language) high school teachers. In addition, the course aims to deepen students’ understanding of the Course of Study and to foster the three key competencies: “Knowledge and Skills,” “Thinking, Judgment, and Expression,” and “Motivation to Learn, Interpersonal Skills, Empathy, and Social Responsibility.” この科目の主な目標は、EFL(外国語としての英語)高校教師に必要な知識の基礎を確立することです。また、この授業は、学習指導要領の理解を深め、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力を育成することを目的としています。
学習内容	Based on the principles of the Course of Study, this course incorporates learning activities designed to foster the three key competencies in English education: “Knowledge and Skills,” “Thinking, Judgment, and Expression,” and “Motivation to Learn, Interpersonal Skills, Empathy, and Social Responsibility.” Students will learn about English Teaching Methods 1 in English, working individually and with peers. Understanding will be checked through discussion, summaries, readings, quizzes, and a presentation on a teaching-related topic. 本授業では、学習指導要領の理念に基づき、英語教育における「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を意識した学習活動を取り入れます。学生は英語で「英語科教育法 I」を学び、個人やペアなどで活動します。内容の理解は、議論・要約・読書課題・クイズ・授業に関するトピックの発表を通じて確認されます。
成績評価の方法・基準	Preparation for class (quality of answers to reading homework) and participation in classroom activities and discussions* 30%Final presentation of a Semester 1 topic, which is related to classroom teaching 35%Quizzes 35% (Midterm, 15%; Final 20%)*To receive full points for participation, students must not only attend class, but also contribute to the class, participating actively with the other students and the teacher. 授業の準備(読書課題の回答の質)および教室での活動とディスカッションへの参加* 30% 教室での指導に関連する第1学期のトピックの最終プレゼンテーション 35% クイズ 35%(中間試験 15%; 期末試験 20%) *参加点を満点にするためには、学生は授業に出席するだけでなく、他の学生や教師と積極的に参加し、クラスに貢献する必要があります。
教科書	There is NO required textbook for this course. The teacher will provide all materials. 教材は全て授業内で配布します。
参考書	Spratt, M., Pulverness, A., & Williams, M. (2015). The Teacher Knowledge Test (TKT) Course. Cambridge University Press: Cambridge. { http://www.amazon.co.jp/gp/product/0521125650/ref=oh_aui_detailpage_o03_s00?ie=UTF8&psc=1 } 学習指導要領

授業計画第 1回 授業内容	Principles of Retrieval Practice (記憶検索型学習法). Course orientation: In this session, students will gain an understanding of the three key competencies described in the national curriculum – “knowledge and skills,” “thinking skills, judgment, and expression,” and “the motivation to learn and the interpersonal and social skills necessary for engaging with others” – and establish a foundation for future lesson design and teaching practices. 記憶検索型学習法の原則、授業のオリエンテーション: この回では、学習指導要領に示されている3つの資質・能力(「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」)の重要性について理解し、今後の授業設計や指導の基盤を築く。
授業計画第 2回 授業内容	1. PHONOLOGY: phonemes and the phonemic chart; word stress; sentence stress, and intonation; using technology to assist in pronunciation learning (for students and teachers) 音韻論: 音素と音素表、単語の強勢、文の強勢とイントネーション、発音学習を支援するための技術の活用(学生と教師向け)
授業計画第 3回 授業内容	2. GRAMMAR: Through grammar instruction, students will acquire “knowledge and skills” while engaging in activities designed to develop thinking, judgment, and expression skills. Topics include parts of speech, sentence structure, grammar in written and spoken forms, acquisition vs. learning, and the use of generative AI (ChatGPT) in grammar instruction. 文法指導を通して、学習指導要領の「知識及び技能」の習得を図るとともに、「思考力・判断力・表現力等」の育成も意識した活動を行う。主なトピックは、品詞、文の構造、書き言葉と話し言葉の文法、習得と学習、生成 AI(ChatGPT)の文法指導への活用である。
授業計画第 4回 授業内容	3. SPEAKING: Speaking activities aim to develop expression skills as well as interpersonal skills, empathy, and social engagement through dialogue with others. Specific topics are features of oral text (e.g., connected speech, accents, and dialects); text types (e.g., face-to-face conversations vs. telephone calls/web-conferencing); subskills; functions; fluency, accuracy, and appropriacy; using chatbots (e.g., ChatGPT) for conversation practice; evaluation of productive skills: speaking スピーキング: 発話活動を通じて、「表現力」や他者との対話を通じた「人間性等」の育成を目指す。主なトピックは、口頭テキストの特徴(例: 連結音声、アクセント、方言)、テキストの種類(例: 対面会話と電話/ウェブ会議)、サブスキル、機能、流暢さ、正確さ、適切さ、会話練習のためのチャットボット(例: ChatGPT)の使用、生産的スキルの評価: スピーキング
授業計画第 5回 授業内容	4. LISTENING: features of aural text (e.g., hesitations and contracted speech); text types; the role of context and schema; and subskills (e.g., listening for gist or detailed comprehension) リスニング: 聴覚テキストの特徴(例: ためらい、短縮形)、テキストの種類、文脈とスキーマの役割、サブスキル(例: 要点理解や詳細理解のためのリスニング)
授業計画第 6回 授業内容	5. READING: Reading activities strengthen thinking and judgment skills while enhancing the practical application of knowledge and skills. Specifically, top-down approaches (reading skills, cognitive ability, content knowledge, metacognitive skills, reading rate, discourse structure); bottom-up approaches (knowledge of language: lexical, grammatical, and semantic) リーディング: 読解活動では、「思考力・判断力」を鍛えると同時に、「知識及び技能」の応用力を高める。主なトピックは、トップダウンアプローチ(リーディングスキル、認知能力、内容知識、メタ認知スキル、読解速度、談話構造)、ボトムアップアプローチ(言語知識: 語彙、文法、意味)
授業計画第 7回 授業内容	Topics 1 to 5 Review through Structural Cooperative Learning and Retrieval Practice activities (materials will be distributed and activities conducted using Google Classroom) 1 から 5 のトピックの復習は、構造的協同学習と記憶検索型学習法の活動を通じて行います(教材は配布され、活動は Google Classroom を使用します)。
授業計画第 8回 授業内容	Presentation Seminar 1 & mid-term quiz プレゼンテーションセミナー1 と中間クイズ
授業計画第 9回 授業内容	6. WRITING: Writing instruction focuses on developing skills in organizing content and enhancing expression abilities. Specially, text types; genres; functions; structure and organization; cohesion and coherence; and the writing process; research-based approaches to using generative Ai (e.g., ChatGPT) for Written Corrective Feedback (ethics, advantages, limitations, creating effective user prompts) ライティング: ライティング指導においては、内容の構成力や「表現力」を育てる指導法を学ぶ。主なトピックは、テキストの種類、ジャンル、機能、構造と組織、結束性と一貫性、ライティングプロセス、生成

	AI(例: ChatGPT)を使用した研究に基づくライティングの訂正フィードバック(倫理、利点、制限、効果的なユーザープロンプトの作成)
授業計画第 10回 授業内容	7. L1 AND L2 LEARNING DIFFERENCES: Through understanding learners, students consider teaching approaches that emphasize motivation to learn along with interpersonal skills, empathy, and social responsibility. Specifically, context and exposure; cognitive development; motivation; critical period hypothesis 学習者理解を通じて、「学びに向かう力・人間性等」を重視した指導のあり方について考察する。第一言語(L1)と第二言語(L2)の学習の違い: 主なトピックは、文脈と露出、認知発達、動機付け、臨界期仮説
授業計画第 11回 授業内容	8. LEARNER CHARACTERISTICS AND NEEDS: By considering support tailored to diverse learner characteristics, students become aware of the importance of interpersonal skills, empathy, and social responsibility as teachers. Specifically, learning styles; learning strategies; maturity; past experiences and expectations; learner needs analysis 学習者の特性とニーズ: 多様な学習者の特性に応じた支援を考えることで、教師としての「人間性等」を意識する。主なトピックは、学習スタイル、学習戦略、成熟度、過去の経験と期待、学習者ニーズ分析
授業計画第 12回 授業内容	9. ASSESSING LANGUAGE: Develop perspectives that evaluate not only knowledge and skills but also thinking, judgment, expression skills, and motivation to learn with social and interpersonal awareness. Covers formative and summative assessment; methods for continuous assessment (e.g., portfolios) reasons for testing (e.g., placement, aptitude, and proficiency); objective and subjective assessment; test item formats (e.g., gap-fill, multiple-choice response, and open response); application to grammar, vocabulary, and the four skills; research-based approaches to using generative Ai (e.g., ChatGPT) for Written Corrective Feedback and assessment (ethics, advantages, limitations, creating effective user prompts) 言語評価: 「知識及び技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力」も評価できる視点を持つ。形成的・総括的評価、ポートフォリオ、テスト目的(配置、適性、熟達度)、評価方法、テスト形式、文法・語彙・四技能への応用、生成 AI(ChatGPT)による訂正フィードバック(倫理、利点、制限、プロンプト)を扱う。
授業計画第 13回 授業内容	Presentation Seminar 2, one-to-one advice, and planning session; final quiz 一対一のアドバイス、および計画セッション; 最終クイズ
授業計画第 14回 授業内容	Final Presentations; peer and teacher feedback/comments/Q&A 最終プレゼンテーション; 仲間や教師からのフィードバック/コメント/Q&A
授業計画第 15回 授業内容	Final Presentations; peer and teacher feedback/comments/Q&A 最終プレゼンテーション; 仲間や教師からのフィードバック/コメント/Q&A

	教員免許のための必修科目(中学校)
授業名	英語科教育法Ⅱ
担当教員	UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学 英語
単位数	2
テーマ・内容	<p>Whereas last semester focused on the 'What' of teaching EFL, Semester 2 concentrates on the 'How' of teaching English, and with a particular focus on the Japanese high school context. This will require students to consider both Japan's national curriculum for English (学習指導要領: 英語) as well as contextual factors (e.g., preparation for entrance examinations and school 'culture'), which can greatly influence a teacher's work.</p> <p>前期が EFL(外国語としての英語)の「何を教えるか」に焦点を当てていたのに対し、後期は英語の「どのように教えるか」に重点を置いています。特に日本の高校の文脈に焦点を当てています。これには、日本の英語の学習指導要領や、教師の仕事に大きな影響を与える文脈的要因(例: 入学試験の準備や学校の「文化」)を考慮することが求められます。</p>
到達目標	<p>Applying their learning from Semester 1, students will develop a deeper, practical knowledge about teaching EFL and apply this to the Japanese high school context. They will demonstrate an understanding of the national curriculum for English (学習指導要領の理解), and how to design lessons that foster the three key competencies: “知識及び技能”, “思考力・判断力・表現力等”, and “学びに向かう力・人間性等”.</p> <p>前期の学びを応用し、学生は EFL(外国語としての英語)教育に関するより深い実践的な知識を身につけ、それを日本の高校の文脈に適用します。また、英語の学習指導要領の理解(学習指導要領の理解)を深め、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成する授業デザインについて学びます。</p>
学習内容	<p>Students will study about English Teaching Methods 2 through English, working individually, in pairs, and in groups to achieve learning goals. Students will further develop their knowledge of teaching principles and their ability to actually teach through a Collaborative Lesson Research (協働的授業研究) approach. The course also promotes understanding of how to design annual, unit, and individual lesson plans based on the national curriculum and the three competencies. You will(1) develop background knowledge through classwork and discussion; (2) collaboratively research, design, and plan a lesson; (3) teach a specific part of the lesson, using peers as students and observers; and (4) improve your teaching practice through feedback from the teacher, peers, and self-reflection.</p> <p>学生は、この授業で英語で学び、個人、ペア、グループで学習目標を達成するために取り組みます。協働的授業研究(協働的授業研究)アプローチを通じて、教育原則に関する知識と実際に教える能力をさらに発展させます。この授業では、学習指導要領と3つの資質・能力に基づいた年間指導計画、単元計画、各授業の指導計画の立案方法についても学びます。具体的には、(1) 授業やディスカッションを通じて背景知識を身につけ、(2) 協力して授業を研究、設計、計画し、(3) 同級生を生徒として特定の授業部分を教えます。</p>
成績評価の方法・基準	Active participation in classroom activities and discussions* 20% Collaborative Lesson Research → Critical Self-Reflection Forms (1~3) 30% Final individual teaching demonstration 30% Final Short Quiz 20% *To receive

	<p>full points for participation, students must not only attend class, but also contribute to the class, actively participating with the other students and the teacher.</p> <p>最終個人ティーチングデモンストレーション 30% 最終ショートクイズ 20%</p> <p>*参加点を満点とするためには、単に授業に出席するだけでなく、クラスに貢献し、他の学生や教師と積極的に関わることが求められます。</p>
教科書	<p>There is NO required textbook for this course. The teacher will provide all materials.</p> <p>教材は全て授業内で配布します。</p>
参考書	<p>Kagan, S. (1992). Cooperative Learning. San Clemente, CA: Kagan Cooperative Learning.</p> <p>{http://www.amazon.co.jp/Kagan-Cooperative-Learning-Spencer/dp/1879097109}Nation, P. (2013). What Every EFL Teacher Should Know. Korea: Compass Publishing</p> <p>{http://www.amazon.co.jp/gp/product/1599662663/ref=oh_aui_detailpage_o02_s00?ie=UTF8&psc=1}Myskow, G., Underwood, P., & Hattori, T. (2012). EFL Writing in Japan. Theory, Policy and Practice. Osaka: MediaIsland.学習指導要領 {http://www.mediaisland.co.jp/item2/item102.html}Underwood, P., Myskow, G., & Hattori, T. (2012). EFL Reading in Japan. Theory, Policy and Practice. Osaka: MediaIsland.</p> <p>{http://www.mediaisland.co.jp/item2/item72.html}</p>
授業計画第1回 授業内容	<p>(1) Introduction to the national curriculum for English (学習指導要領の理解) and the importance of designing lessons that develop knowledge and skills (知識及び技能), thinking, judgment, and expression (思考力・判断力・表現力等), and proactive learning and human qualities (学びに向かう力・人間性等) (2) How cooperative learning helps foster the three competencies emphasized in the national curriculum: 'traditional' vs. 'structured group work'; the PIES principles; practical classroom considerations in Japanese JHS/SHS</p> <p>(1) 英語の学習指導要領の理解(学習指導要領の理解)、および「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育てる授業設計の重要性についての導入(2)協同学習が、学習指導要領で強調されている3つの資質・能力の育成にどのように役立つか:「伝統的な学習」と「構造化されたグループワーク」の比較、PIES 原則、日本の中学校・高等学校における実践的な授業運営の考慮事項</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>STRUCTURAL COOPERATIVE LEARNING/ EXAMPLES, TRY-IT-OUT, DISCUSSION: How to link objectives with structures (e.g., Think-Pair-Share; Heads-Together; Numbered Heads in the Corner; and Showdown) and materials/content to create lesson activities.</p> <p>(2) 構造的協同学習(STRUCTURAL COOPERATIVE LEARNING)【構造的協同学習／事例・体験・ディスカッション】</p> <p>授業活動を作成するために、目標を構造(例: Think-Pair-Share、Heads-Together、Numbered Heads in the Corner、Showdown)や教材・内容と結びつける方法</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>Collaborative Lesson Research 1: Lesson research and design, adapting textbooks, lesson planning, and task allocation, understanding of the national curriculum and setting learning objectives based on the three key competencies</p> <p>協働授業研究 1</p> <p>・授業研究と設計 教科書の適応 授業計画 課題の割り当て</p> <p>・学習指導要領の理解と、それに基づいた3つの資質・能力の指導目標設定</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>Collaborative Teaching Practice 1 (Focused on managing pair and group work effectively) Post-observation discussion, <Critical Self-Reflection Form 1>, and lesson plan revision.</p> <p>協働授業実践 1(ペア・グループワークの効果的な運営に焦点)</p> <p>・授業観察後のディスカッション</p>

	<p>・〈重要な自己省察フォーム 1〉</p> <p>・授業計画の修正</p>
授業計画第5回 授業内容	<p>TEACHING ENGLISH THROUGH ENGLISH (TETE; 英語を英語で教える)/ LECTURE, TRY-IT-OUT, DISCUSSION: English for pedagogical, social, and organisational goals; knowing when to use Japanese to facilitate learning; optimal code-switching;</p> <p>practical strategies for increasing teacher and student 'classroom English'; using generative AI (e.e., ChatGPT) for helping you check and SIMPLIFY your English classroom instructions and explanations.</p> <p>英語を英語で教える (TEACHING ENGLISH THROUGH ENGLISH, TETE)</p> <p>【講義・体験・ディスカッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的・社会的・組織的な目的のための英語使用 ・学習を促進するための日本語の適切な使用方法 ・最適なコードスイッチング (言語の切り替え) ・教師および生徒の「教室英語」を増やすための実践的戦略
授業計画第6回 授業内容	<p>Collaborative Lesson Research 2: Lesson research and design, adapting textbooks, lesson planning, and task allocation</p> <p>協働授業研究 2 授業研究と設計 教科書の適応 授業計画 課題の割り当て</p>
授業計画第7回 授業内容	<p>Collaborative Teaching Practice 2 (Focused on TETE) Post-observation discussion, <Critical Self-Reflection Form 2>, and lesson plan revision.</p> <p>文法をインタラクティブに学ぶ (LEARNING GRAMMAR INTERACTIVELY)【講義・ディスカッション (パート 1)】: 文法の構造的・機能的説明・帰納的アプローチ vs. 演繹的アプローチ・説明や提示の媒体の選択・生成 AI (例: ChatGPT) を活用して、分かりやすい文法説明、例文、練習問題を作成する方法</p>
授業計画第8回 授業内容	<p>LEARNING GRAMMAR INTERACTIVELY: Learning grammar interactively with peers not only improves language knowledge and skills, but also supports the development of thinking and expression abilities, as well as cooperative learning attitudes emphasized in the national curriculum. (Part 1): structural and functional descriptions; inductive vs. deductive approaches; medium of presentation and explanation; and using generative AI (e.g., ChatGPT) to assist with planning easy-to-understand grammatical explanations, example sentences, and practice drills.</p> <p>文法をインタラクティブに学ぶ (LEARNING GRAMMAR INTERACTIVELY): 仲間と協力して文法をインタラクティブに学ぶことは、言語の知識及び技能の向上に加え、思考力・判断力・表現力等や、学習指導要領で重視されている協働的な学びの態度の育成にもつながります。</p> <p>【講義・ディスカッション (パート 1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の構造的・機能的説明 ・帰納的アプローチ vs. 演繹的アプローチ ・説明や提示の媒体の選択 ・生成 AI (例: ChatGPT) を活用して、分かりやすい文法説明、例文、練習問題を作成する方法
授業計画第9回 授業内容	<p>LEARNING GRAMMAR INTERACTIVELY/ EXAMPLES, TRY-IT-OUT, DISCUSSION (Part 2): Learning grammar interactively with Structural Cooperative Learning: Odd-One-Out; State the Rule: Sentence Share</p> <p>構造的協同学習を活用したインタラクティブな文法学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Odd-One-Out (仲間外れ探し) ・State the Rule (ルールを説明する) ・Sentence Share (文を共有する)

授業計画第 10 回 授業内容	<p>LEARNING GRAMMAR INTERACTIVELY/ EXAMPLES, TRY-IT-OUT, DISCUSSION (Part 3): Learning grammar interactively with Structural Cooperative Learning: Spot the Difference; Show Up!; Five Kinds of Dictation- teacher led to student centered</p> <p>【実例・体験・ディスカッション(パート3)】 構造的協同学習を活用したインタラクティブな文法学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Spot the Difference(違い探し) ・Show Up!(発表活動) ・Five Kinds of Dictation(5種類のディクテーション) ○教師主導型から学習者主体型へ移行する形式
授業計画第 11 回 授業内容	<p>Collaborative Lesson Research 3: Lesson research and design, adapting textbooks, lesson planning, and task allocation</p> <p>協働授業研究 3 授業研究と設計 教科書の適応 授業計画 課題の割り当て</p>
授業計画第 12 回 授業内容	<p>Collaborative Teaching Practice 3 (Focused on teaching grammar interactively) Post-observation discussion, <Critical Self-Reflection Form 3>, and lesson plan revision.</p> <p>協働授業実践 3(インタラクティブな文法指導に焦点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察後のディスカッション ・<重要な自己省察フォーム 3> ・授業計画の修正
授業計画第 13 回 授業内容	<p>(1) Final Quiz;</p> <p>(2) Individual Teaching 1, peer and teacher feedback, reflection</p> <p>(1) 最終クイズ (Final Quiz)</p> <p>(2)個人指導 (Individual Teaching)とフィードバック・省察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人指導 1(ピア・教師によるフィードバック、振り返り)
授業計画第 14 回 授業内容	<p>Individual Teaching 2, peer and teacher feedback, reflection</p> <p>個人指導 (Individual Teaching)とフィードバック・省察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人指導 2(ピア・教師によるフィードバック、振り返り)
授業計画第 15 回 授業内容	<p>Individual Teaching 3, peer and teacher feedback, reflection</p> <p>個人指導 (Individual Teaching)とフィードバック・省察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人指導 3(ピア・教師によるフィードバック、振り返り)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	英語科教育法Ⅲ
担当教員	関谷 弘毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学・高校 英語
単位数	2
テーマ・内容	学習指導要領を踏まえ、文部科学省検定済み教科書や副教材を使って、高等学校において英語を指導する力を養う。指導するために必要な英語力を身につけるとともに、基本的な指導技術、教材研究の方法、ICTの活用などを実践を交えて体得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を指導するために要求される英語運用力を身につけることができる ・基本的な指導理論・技術を身につけ、高校生に英語を指導することができる ・学習指導要領の内容を理解し、英語教育学の理論をもとに指導案を練ることができる
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得研究、英語教育学の理論を実践に応用する ・学習指導要領の内容を理解し、高等学校における英語の模擬授業を行う ・情報通信技術の活用をして授業を組み立てる
成績評価の方法・基準	<p>1. 授業への参加(グループワーク・全体討論) 40%</p> <p>2. 模擬授業 60%</p> <p>* その他、不定期に増点課題が出されることがある</p>
教科書	<p>『CROWN English Communication I』三省堂</p> <p>『MY WAY English Communication I』三省堂</p> <p>『VISTA English Communication I』三省堂</p> <p>『高等学校学習指導要領 解説 外国語編 英語編』開隆堂出版株式会社</p>
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	<p>授業内容・方法、評価方針を理解する。学習指導案の作成方法、ITCの活用方法を学ぶ。</p> <p>予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする</p> <p>復習課題: 模擬授業(ビデオ視聴)の良かった点、改善点をレポートにまとめる</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>語彙指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。</p> <p>予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする</p> <p>復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>音読指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。</p> <p>予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする</p> <p>復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>機器を活用した帯学習指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。</p> <p>予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする</p> <p>復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる</p>

授業計画第5回 授業内容	個別対応の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第6回 授業内容	学習に対する動機づけの方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第7回 授業内容	効果的な指示の出し方を練習する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第8回 授業内容	指名の仕方を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第9回 授業内容	発表活動の手法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第10回 授業内容	オーラル・イントロダクションの方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第11回 授業内容	内容理解の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第12回 授業内容	1単元の授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第13回 授業内容	1タームの授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第14回 授業内容	1年間の授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第15回 授業内容	今後の学習の道筋を立てる。模擬授業を実施する。 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる

	教員免許のための必修科目(中学校)
授業名	英語科教育法Ⅳ
担当教員	関谷 弘毅
担当形態	単独
科目区分	教科及び教科の指導法に関する科目
科目区分2	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。) 中学 英語
単位数	2
テーマ・内容	学習指導要領を踏まえ、文部科学省検定済み教科書や副教材を使って、中学校において英語を指導する力を養う。指導するために必要な英語力を身につけるとともに、基本的な指導技術、教材研究の方法、ICTの活用などを、実践を交えて体得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を指導するために要求される英語運用力を身につけることができる ・基本的な指導理論・技術を身につけ、中学生に英語を指導することができる ・学習指導要領の内容を理解し、英語教育学の理論をもとに指導案を練ることができる
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得研究、英語教育学の理論を実践に応用する ・学習指導要領の内容を理解し、中学校における英語の模擬授業を行う ・情報通信技術の活用をして授業を組み立てる
成績評価の方法・基準	<p>1. 授業への参加(グループワーク・全体討論) 40%</p> <p>2. 模擬授業 60%</p> <p>* その他、不定期に増点課題が出されることがある</p>
教科書	『Here We Go! English Course 1』 光村図書出版 『Here We Go! English Course 2』 光村図書出版 『Here We Go! English Course 3』 光村図書出版 『中学校学習指導要領 解説 外国語編』 開隆堂出版株式会社
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	授業内容・方法、評価方針を理解する。学習指導案の作成方法、ICTの活用方法を学ぶ。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業(ビデオ視聴)の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第2回 授業内容	ICT機器を活用した語彙指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第3回 授業内容	ICT機器を活用した音読指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第4回 授業内容	ICT機器を活用した帯学習指導の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる

授業計画第5回 授業内容	ICT 機器を活用した個別対応の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第6回 授業内容	ICT 機器を活用した学習に対する動機づけの方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第7回 授業内容	ICT 機器を活用した効果的な指示の出し方を練習する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第8回 授業内容	ICT 機器を活用した指名の仕方を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第9回 授業内容	ICT 機器を活用した発表活動の手法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第10回 授業内容	ICT 機器を活用したオーラル・イントロダクションの方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第11回 授業内容	ICT 機器を活用した内容理解の方法を学ぶ。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第12回 授業内容	1単元の授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第13回 授業内容	1タームの授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第14回 授業内容	1年間の授業を企画・実践する。模擬授業を実施する。 予習課題: 学習指導案の作成及び模擬授業の準備をする 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる
授業計画第15回 授業内容	今後の学習の道筋を立てる。模擬授業を実施する。 復習課題: 模擬授業の良かった点、改善点をレポートにまとめる

	教員免許のための必修科目(中学校)
授業名	介護等体験
担当教員	山田 亮
担当形態	単独
科目区分	大学が独自に設定する科目
科目区分2	—
単位数	1
テーマ・内容	<p>1. 個人の尊厳と社会連帯の理念の理解 多様な背景や特性を理解し、それぞれの個性を尊重する態度を養う。 介護等体験を通じて、福祉の視点を学び、実践的に共生社会の意義を体感する。</p> <p>2. インクルーシブ教育の理解の深める。 すべての児童生徒が共に学び、成長できる教育環境を整えるための知識と実践的な視点を得る。 障がいのある児童生徒への合理的配慮や、多様な学びの場の創出についての理解を深める。</p> <p>3. 教員としての資質向上 介護等体験を通じて、支援を必要とする人々への理解を深め、共感力や倫理観を養う。 体験を通じて、適切な支援のあり方や、多様なニーズに応じた対応力を考える。</p>
到達目標	高齢者の介護・介助、障害のある児童・生徒等に必要とされる業務の補助等の幅広い体験を通し、福祉と教育と現場での実践と対人援助の重要性を理解する
学習内容	5日間の社会福祉施設と2日間の特別支援学校における体験の事前準備、実践、振り返り
成績評価の方法・基準	体験のレポートにより採点する。
教科書	特になし
参考書	全国特別支援学校長会 全国特別支援教育推進連盟 編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』 教育新社
授業計画第1回 授業内容	教職課程における介護等体験とは
授業計画第2回 授業内容	人権、個人情報の保護、服装・マナー・言葉づかい
授業計画第3回 授業内容	健康ガイダンス
授業計画第4回 授業内容	社会福祉施設における体験のための事前学習

授業計画第5回 授業内容	社会福祉施設 1日目
授業計画第6回 授業内容	社会福祉施設 2日目
授業計画第7回 授業内容	社会福祉施設 3日目
授業計画第8回 授業内容	社会福祉施設 4日目
授業計画第9回 授業内容	社会福祉施設 5日目
授業計画第10回 授業内容	社会福祉施設体験 まとめ
授業計画第11回 授業内容	特別支援学校における体験のための事前学習
授業計画第12回 授業内容	特別支援学校 1日目
授業計画第13回 授業内容	特別支援学校 2日目
授業計画第14回 授業内容	特別支援学校体験 まとめ
授業計画第15回 授業内容	介護等体験のまとめ、レポート提出

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	ICT 演習
担当教員	柳沢 昌義
担当形態	単独
科目区分	大学が独自に設定する科目
科目区分2	—
単位数	2
テーマ・内容	<p>現在、教育 DX をはじめとして、ICT や AI による教務・業務の効率化が注目されており、それができる人材が必要となってきています。教員あるいは社会人として教育活動および事務業務を的確にこなすには、1 年次必修の基礎情報科学だけでは不十分です。実際にはもっと多くの ICT スキルや、近年利用可能になった AI も校務・業務の効率化・省力化の力となります。</p> <p>本授業では、教員あるいは社会人として最低限必要になる ICT スキルを再学習および習得し、さらに、新しい AI を使用した効果的な業務遂行のためのスキルを習得します。</p> <p>校務業務効率化にはまずはパソコンによる文字入力を正しく早く行う必要があります。授業前半にはタッチタイピングの復習を毎週行っていきます。また、依然として校務業務の中核となるソフトウェアは Microsoft Excel であり、この基本からもう一度復習し、関数やマクロ、AI との併用など発展的に学びます。後半は実際の授業やプレゼンテーションのための PowerPoint や Canva などの応用方法を学びます。また教材・資料等に入れるための各種教材・素材を AI を使用して生成する基本を学びます。</p>
到達目標	<p>正しい指使いで速いタッチタイピングができるようになる。</p> <p>Windows を素早く操作するためのスキルを習得する。</p> <p>ファイル、クラウドといったコンピュータの基本概念を理解する。</p> <p>成績処理や名簿管理などの校務・事務に必要な Excel の復習および、最低限必要となる関数と VBA の習得をする。</p> <p>教材・資料作成のための基本的な ICT スキルを習得する。</p> <p>PowerPoint および Canva を使用して授業・資料教材を適切に作ることができる。</p> <p>生成 AI を利用した業務改善・効率化の方法を習得する。</p> <p>AI を授業・校務・業務に活用できるスキルを習得する。</p> <p>教材を生徒や聴衆に効果的に提示できる基本的 ICT 機器の操作スキルを習得する。</p>
学習内容	<p>上記を達成するために、前半は基本的に毎週タッチタイピングを行います。特に正しい指使いに重点を置きます。そして、順次、基礎情報科学の内容を復習しつつ、未修得の部分を再確認し、多くの演習を行っていきます。</p> <p>特に Excel を使用して学生名簿の作成、成績処理などを AI と関数および VBA を使用して行う方法を学びます。</p> <p>文字の大きさ、色使いなど、教材・資料の見せ方の基本を学び、それを、PowerPoint および Canva どのように実現するかを学習します。</p> <p>授業教材・プレゼン資料開発ためにどのように生成 AI を活用するかを学ぶ。</p> <p>AI を使用して校務・業務の効率化をどのようにするのかを学ぶ。</p> <p>見せるための ICT 技術の習得を行う。プロジェクター、実物投影機、PC、電子黒板、デジタルカメラなどの基本的操作を学ぶ。</p> <p>最後に、上記の ICT 技術をすべて使用した簡易的なプレゼンテーションを行う。</p>

成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な指で素早いタイピング ・パソコンやネットワークに関する知識を問う試験 ・AIを使用した校務・業務改善のスキル習得 ・Excel による事務処理の効率化(セル操作・関数操作・VBA 操作を含む) ・PowerPoint および Canva による教材・資料作成 ・授業で学んだすべての ICT ツールを使用したプレゼンテーション <p>以上をすべて合格した場合に優となる。 上記どれか1つでも達成できない場合は、不可となる。</p>
教科書	東洋英和女学院大学情報処理センター編, 『基礎情報科学』
参考書	なし
授業計画第1回 授業内容	<p>タッチタイピング練習1</p> <p>OS とは何か? OS とパソコンの種類</p> <p>Windows の基本操作の復習</p> <p>ファイルの概念と拡張子</p> <p>ショートカットの利用</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>タッチタイピング練習2</p> <p>電子メールの書き方、マナー</p> <p>Excel の復習: 基本操作、名称、操作、表示形式、ショートカット、式入力、絶対参照</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>タッチタイピング練習3</p> <p>生成 AI の基礎</p> <p>Excel 基礎1: CSV ファイルの扱い、拡張子の意味、キーボードによるセルの基本操作、書式コピー、 フィルハンドル、フラッシュフィル</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>タッチタイピング練習4</p> <p>Excel 基礎2: 乱数関数、文字列結合、各種統計関数、値貼り付け、フィルター、条件付き書式、成績 付け、countif 関数、if 関数、ifs 関数、lookup 関数</p>
授業計画第5回 授業内容	<p>タッチタイピング練習5</p> <p>Excel 基礎3: vlookup、絶対参照、マクロ、AI による Macro 生成、座席表づくり</p>
授業計画第6回 授業内容	<p>タッチタイピング練習6</p> <p>Excel 総合演習: データ生成、成績処理、座席表までの一連の流れを再確認する</p>
授業計画第7回 授業内容	<p>PowerPoint 演習</p> <p>効果的なプレゼンテーション</p> <p>テンプレート</p>
授業計画第8回 授業内容	プロジェクターの仕組みと基本的操作方法・投影方法・スクリーンの種類と設置方法
授業計画第9回 授業内容	実物投影機の使用法とその効果
授業計画第10回 授業内容	イメージスキャナおよびドキュメントスキャナの使用法とその効果

授業計画第 11 回 授業内容	Canva 演習1 デジタルカメラ(スマートフォン)を使用した教材・資料作成1 撮影法・編集方法
授業計画第 12 回 授業内容	Canva 演習2 デジタルカメラ(スマートフォン)を使用した教材・資料作成2 動画編集と教材化
授業計画第 13 回 授業内容	生成 AI 演習 生成 AI の基礎知識、文章生成 AI、画像生成 AI、動画生成 AI、音声生成 AI の体験的利用
授業計画第 14 回 授業内容	AI を使用した校務・業務の効率化
授業計画第 15 回 授業内容	教材・資料作成演習

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	英語で紹介する日本 A
担当教員	高橋 基治
担当形態	単独
科目区分	大学が独自に設定する科目
科目区分2	—
単位数	2
テーマ・内容	グローバル化の時代を迎え、昨今海外または日本国内において、日本の事について語る機会がますます増えています。本授業では、英国人記者の目から見た日本社会に関するレポートを読みながら、日本の文化社会的な側面についての理解を深めていきます。また、日本を説明する基礎的な単語や表現も同時に学習していきます。
到達目標	①日本の文化社会的な側面に対する認識を深める。 ②日本を英語で表現する際の基礎的な語彙を身につける。 ③日本語と英語の表現上の違いを文化的な観点から理解・説明できる。
学習内容	本講義は『対面授業』になります。教科書『「ニッポン社会」入門』に沿って、外部の目から見た日本社会論を学んでいきます。事前に教科書の予定された指定箇所を読み、その感想を毎回授業で発表してもらいます。また、副教材(第1回目に配布)にある日本に関する単語・表現、異文化比較に関する記事についても授業で触れていきます。適時、映像を見ながら、日本文化について考える機会も提供する予定です。
成績評価の方法・基準	評価の方法:①発表 30% ②課題 30%③学びの確認 30% ④クラス参加 10% 評価の基準:①教科書を通じどれだけ日本社会に対する認識を深めたか。 ②日本に関する時事単語をどれだけ理解し、表現できるようになったか。 ③日・英の表現上の違いを文化的な観点から理解・説明できるようになったか。 (注)出席していれば単位が修得できるものではありません。出席した上で、上記の評価方法・基準に基づき成績評価されます。
教科書	『「ニッポン社会」入門 - 英国人記者の抱腹レポート』 コリン・ジョイス NHK 出版 2006
参考書	『言いまくり! 英語スピーキング入門』高橋基治、ロバート・オハラ コスモピア株
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション - 授業の内容説明日本のことほんとうに知りたい?
授業計画第2回 授業内容	壱 基礎編 プールに日本社会を見た 通訳ガイド時事単語
授業計画第3回 授業内容	弐 日本語の難易度 通訳ガイド時事単語
授業計画第4回 授業内容	参 おもしろい日本語通訳ガイド時事単語
授業計画第5回 授業内容	四 日本の第一印象通訳ガイド時事単語

授業計画第6回 授業内容	伍 日本の日常通訳ガイド時事単語
授業計画第7回 授業内容	六 行儀作法通訳ガイド時事単語 学びの確認(第1回～5回)
授業計画第8回 授業内容	七 独創性八 ビールとサッカー拾 東京の魅力通訳ガイド時事単語
授業計画第9回 授業内容	九 行動様式九(1/2)ジョーク通訳ガイド時事単語
授業計画第10回 授業内容	拾 東京の魅力拾壱 東京案内通訳ガイド時事単語
授業計画第11回 授業内容	拾貳 ふたつの「島国」拾参 メイド・イン・ジャパン通訳ガイド時事単語
授業計画第12回 授業内容	拾四 特派員の仕事拾五 ガイジンとして通訳ガイド時事単語
授業計画第13回 授業内容	拾六 日英食文化通訳ガイド時事単語
授業計画第14回 授業内容	拾七 おさらい通訳ガイド時事単語
授業計画第15回 授業内容	「学びの確認」と授業総括、今後の学習アドバイス

	教員免許のための選択科目(中学校・高等学校)
授業名	英語で紹介する日本 B
担当教員	高橋 基治
担当形態	単独
科目区分	大学が独自に設定する科目
科目区分2	—
単位数	2
テーマ・内容	グローバル化の時代を迎え、昨今海外または日本国内において、日本の事について語る機会がますます増えています。本授業では、NHK海外向け放送の日本に関するニュースレポートを題材に、日本の文化社会的な側面についての理解を深めていきます。また、海外の人が疑問に思うことや、よく質問する事項についても扱っていきます。
到達目標	①日本の文化社会的な側面に対する認識を深める。 ②日本を英語で表現する際の基礎的な語彙を身につける。 ③日本語と英語の表現上の違いを文化的な観点から理解できる。
学習内容	本講義は『対面授業』を予定しています。授業は、教科書『What's on Japan 11』を使って、外部の目から見た日本社会を学んでいきます。事前に教科書の各指定 Unit を自宅でやってきてもらい、毎回授業で答え合わせと解説を行います。なお、適時、映像や配布資料を使いながら、日本文化について英語で学ぶ機会も提供する予定です。
成績評価の方法・基準	評価の方法:①発表 30% ②課題 30%③学びの確認 30% ④クラス参加 10% 評価の基準:①教科書を通じどれだけ日本社会に対する認識を深めたか。 ②日本に関する時事単語をどれだけ理解し、表現できるようになったか。 ③日・英の表現上の違いを文化的な観点から理解・説明できるようになったか。 (注)出席していれば単位が修得できるものではありません。出席した上で、上記の評価方法・基準に基づき成績評価されます。
教科書	『What's on Japan 11』 山崎達朗 他 金星堂 2017
参考書	『言いまくり! 英語スピーキング入門』高橋基治、ロバート・オハラ コスモピア株
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション — 授業の内容説明 Unit 1 Manga Message for the Young 漫画家ミサコ・ロックス—若者へのメッセージを使ってのやり方解説。
授業計画第2回 授業内容	Unit 2 umping for Victory ダブルダッチ選手権—神技集合!
授業計画第3回 授業内容	Unit 3 Seeking Quality over Cost 売れる店はこう作れ!
授業計画第4回 授業内容	Unit 4 Getting Dads Home Earlier イクメンボス企業—長時間労働を変える
授業計画第5回 授業内容	Unit 5 Plugging Privacy「ぼっち」消費—ニーズの多様化に応える

授業計画第6回 授業内容	Unit 6 Recycling Messages of Hope 折り鶴再生で平和祈念
授業計画第7回 授業内容	学びの確認(Unit 1～Unit 6) 日本に関する Q&A
授業計画第8回 授業内容	Unit 8 A Barrier-free Welcome バリアフリーホテル—北の大地でお出迎え
授業計画第9回 授業内容	Unit 9 Helping in Times of Disaster 災害弱者を守る取り組み—外国人の場合
授業計画第10回 授業内容	Unit 10 Right on Track カーレーサー井原慶子—挑戦は続く
授業計画第11回 授業内容	Unit 12 Japanese Conbini Comes to Dubai 日本式コンビニ、中東へ
授業計画第12回 授業内容	Unit 13 Mix Masters「混ぜる」に商機
授業計画第13回 授業内容	Unit 14 Virtual Connections バーチャルリアリティの新たな可能性
授業計画第14回 授業内容	Unit 15 Questioning Labor Practices ブラックバイトの現状—学生の生活を守れ！
授業計画第15回 授業内容	学びの確認(Unit 8～Unit 15 の学習した範囲)、総括、今後の学習法

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	日本国憲法
担当教員	田中 極子
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	日本国憲法
単位数	2
テーマ・内容	憲法と私たちの生活との関わりという観点から、憲法の定める諸制度を概観し「憲法とは何か？」ということを考えます。日常生活の中で憲法が存在を意識することはあまりないかもしれませんが、実は私たちの生活は憲法によって守られていることがたくさんあります。それらを1つずつ検討することを通じて憲法に関心をもってみましょう。
到達目標	(1)憲法に基づいて国家の政治を行うという立憲主義の考え方を理解できる。 (2)日本国憲法の基本的人権規定の役割を理解できる。 (3)日本国憲法の権力分立制度の役割を理解できる。
学習内容	本講義は『対面授業』を予定しています。基本的には教科書を用いた講義形式で、日本国憲法の基礎知識を学びます。必要に応じて関連する資料を配布してグループ討論を行います。
成績評価の方法・基準	各回での〇×式の小クイズを実施し、各授業での主なテーマに関する理解力を評価します:30% 定期試験を実施し(16週目)授業の理解度を評価します:70%
教科書	斎藤一久、堀口悟郎『図録 日本国憲法』(第2版)弘文堂、2021年
参考書	青井未帆・山本龍彦著『憲法Ⅰ 人権』有斐閣ストウディア、2016年 青井未帆・山本龍彦著『憲法Ⅱ 総論・統治』有斐閣ストウディア、2022年 山元一編『トピックから考える日本国憲法』北大路書房、2023年
授業計画第1回 授業内容	【1. 憲法への入り口】 憲法とは何か:憲法の最高法規性・立憲主義について学びます
授業計画第2回 授業内容	【1. 憲法への入り口】 国民主権、天皇制、平和主義といった日本国憲法の基本原理を学びます。
授業計画第3回 授業内容	【2. 憲法と人権】 基本的人権総論(憲法12条、13条、14条) 人権とは何か、人権の意義、人権と日本国憲法の関係を学びます。
授業計画第4回 授業内容	【2. 憲法と人権】 新しい人権(憲法12条、13条、14条) 幸福追求権を通して、個人の尊厳や個人の尊重について考えます。
授業計画第5回 授業内容	【2. 憲法と人権】 法の下での平等(憲法12条、13条、14条) 性別や宗教、信条など、個人の努力とは関係のない要素に基づいて差別されることは適切でしょうか?日本国憲法が平等をどのように考え、差別に対してどのような態度をとっているのか考えます。

授業計画第6回 授業内容	【3. 自由権】 思想・良心の自由(憲法 19 条) 考えることや、学問的な真理探究、そしてそれを外部に表現することが、日本国憲法ではどのように保障されているのか、その意味を学びます
授業計画第7回 授業内容	【3. 自由権】 信教の自由(憲法 20 条、89 条) 私たちは憲法によって特定の宗教を信仰すること、それにかかわる活動の自由が守られています。では信仰に基づけばなんでも許されるのでしょうか？信教の自由とその限界について考えます。
授業計画第8回 授業内容	【3. 自由権】 表現の自由(憲法 21 条) ヘイトスピーチも表現の自由によって保護されるのでしょうか？表現の自由とその限界、現代の問題について理解を深めます。
授業計画第9回 授業内容	【3. 自由権】 その他の自由権(憲法 22 条、23 条、29 条) 学問の自由、職業選択の自由、財産権などの権利について、憲法はどのように私たちを保護しているのかについて考えます。
授業計画第 10 回 授業内容	【4. 社会権】 生存権(憲法 25 条) 「健康で文化的な最低限度の生活」とはいったいどのような生活か、憲法が保障する生存権について考えます。
授業計画第 11 回 授業内容	【4. 社会権】 教育を受ける権利(憲法 26 条)
授業計画第 12 回 授業内容	【5. 国家の統治機構—三権分立】 国会 日本国憲法において、国家の統治機構をどのように制度化しているのか学び、立法権について学びます。
授業計画第 13 回 授業内容	【5. 国家の統治機構—三権分立】 内閣 日本国憲法において、国家の統治機構をどのように制度化しているのか学び、行政権がどのような権限・作用を意味するのか学びます。
授業計画第 14 回 授業内容	【5. 国家の統治機構—三権分立】 裁判所 日本国憲法において、国家の統治機構をどのように制度化しているのか学び、司法権とはどういう権力なのかを学びます。
授業計画第 15 回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	健康科学(講義・実技)
担当教員	澁谷 隆良
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	体育
単位数	2
テーマ・内容	現代に生きる人たちにとって、健康や体力の保持・増進には身体運動が重要な役割を果たす。また、身体運動は継続しなければ効果が定着しない。本クラスでは、身体の運動遂行能力を向上させ、身体の発揮する持久力・瞬発力を増大させることと定義されるトレーニングについて、そのシステム、メリット、実践方法等を科学的に詳しく解説していく。さらに、持久力と瞬発力のトレーニングを自ら実践し、自身の体力の向上についても確認していく。
到達目標	<p>①トレーニングの科学的基礎知識を身につけることで、自身の体力(持久力・瞬発力)維持や向上に役立てることができるようになります。</p> <p>②体力向上のためのトレーニング方法を身につけるで、様々な場面でトレーニングを実践することができるようになります。</p> <p>③年齢に応じた運動実践方法を理解することで、成長・発達期、および加齢・老化期に適したトレーニングを指導、実践することができるようになります。</p>
学習内容	<p>講義では、身体運動・スポーツの実践が健康維持や体力保持にどのように役立つかについて、科学的基礎知識を身につけていく。</p> <p>実技では、講義で得られた知識を基に、実際に体力トレーニングを実践することで自身の体力に変化がみられるのかを確認していく。</p> <p>授業形態は【対面授業】となります。</p>
成績評価の方法・基準	実技での活動状況と講義での課題、期末レポートのできばえで評価する(実技での活動状況 40%、講義での課題 30%、期末レポート 30%)。
教科書	『トレーニングの科学的基礎』 宮下充正 Book House HD 2007
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	ガイダンスおよびイントロダクション(講義) 遺伝と環境の相互作用
授業計画第2回 授業内容	持久力・瞬発力向上のためのトレーニング(講義) 筋肉の質について考える
授業計画第3回 授業内容	体力測定①(実技) 持久力、瞬発力の診断
授業計画第4回 授業内容	体力測定②(実技) トレーニング・メニューの作成

授業計画第5回 授業内容	運動不足による体力の低下(講義)
授業計画第6回 授業内容	加齢による体力の低下(講義)
授業計画第7回 授業内容	トレーニング①(実技) トレーニングの原則に基づく実践(全面性・個別性)
授業計画第8回 授業内容	トレーニング②(実技) トレーニングの原則に基づく実践(反復性)
授業計画第9回 授業内容	トレーニング③(実技) トレーニングの原則に基づく実践(意識性)
授業計画第10回 授業内容	トレーニング④(実技) トレーニングの原則に基づく実践(漸進性)
授業計画第11回 授業内容	成長・発達期のからだの変化(講義)
授業計画第12回 授業内容	加齢・老化期のからだの変化(講義)
授業計画第13回 授業内容	体力測定③(実技) 持久力・瞬発力の再診断
授業計画第14回 授業内容	体力測定④(実技) 新たなトレーニング・メニューの作成
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめと期末レポートの解説(講義)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	スポーツ科学 A
担当教員	澁谷 隆良
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	体育
単位数	1
テーマ・内容	<p>社会の変化に伴う運動不足を解消する手段として、今日では多くのスポーツ種目が生活の中に取り入れられ実践されている。その中でも、各自の体力、技術レベルに応じて運動量を調節できるテニスは、性別や年齢に関係なく誰にでも手軽に行える優れた生涯スポーツと言える。</p> <p>本クラスでは、初心者・初級者を対象に、生涯にわたってテニスを楽しめる基本的な技術と知識を身につけるとともに、運動を習慣化し実践していくことが、体力の保持・増進や健康維持にどのように役立っているかも学習していく。</p> <p>【実務経験】元プロテニスプレーヤー、そして元ナショナルチーム監督であった経験をもとに、テニス初心者・初級者を対象として、半期という短い期間の中で、ダブルスの試合で求められる技術の習得、試合の進め方で必要とされる知識の獲得を目指す授業を展開する。</p>
到達目標	<p>①基本練習を反復的におこなうことで、テニスのショット(ストローク・ボレー・スマッシュ・サービス)を正確に打てるようになります。</p> <p>②試合のルールやマナー、ポジショニング、フォーメーションを理解することで、ダブルスの試合を円滑に進められるようになります。</p> <p>③テニスの概要(歴史、運動効果、障害等)を学ぶことで、テニスの素養が身につきます。</p>
学習内容	<p>各ショットのメカニズムを理解しながら、実践練習を積み重ね技術を高めていく。ある程度の技術が身についた時点で、ダブルスの試合の進め方についても学んでいく。また、テニスを通して獲得できる健康、体力についても学習する。</p> <p>授業形態は【対面授業】となります。</p>
成績評価の方法・基準	授業での活動状況と期末レポートのできばえで評価する(活動状況 50%、技術等の到達度 20%、期末レポート 30%)。
教科書	『指導者のためのテニスの科学と応用』 澁谷隆良 ブックハウス HD 2010
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	ガイダンスおよびイントロダクション(講義)
授業計画第2回 授業内容	グリップの握り方、スタンス、フットワークについて(実技) 基本動作の発達について
授業計画第3回 授業内容	ボレーのメカニズム(実技) 巧みさの獲得について
授業計画第4回 授業内容	ストロークのメカニズム(実技) ねばり強さ(持久力)の獲得について

授業計画第5回 授業内容	サービスのメカニズム(実技) ちから強さ(瞬発力)の獲得について
授業計画第6回 授業内容	ボレー対ボレー(実技) テニスの歴史について
授業計画第7回 授業内容	ストローク対ストローク(実技) テニスの運動強度について
授業計画第8回 授業内容	ボレー対ストローク(実技) テニスの障害と予防方法について
授業計画第9回 授業内容	サービス対レシーブ(実技) 障害者のためのテニスについて
授業計画第10回 授業内容	サービス対レシーブからのラリー(実技) ダブルスにおける前衛と後衛のポジショニングについて
授業計画第11回 授業内容	ダブルスの試合形式／基礎編(実技) ダブルスにおけるフォーメーションについて
授業計画第12回 授業内容	ダブルスの試合形式／応用編(実技) ダブルスの試合の進め方について
授業計画第13回 授業内容	ダブルスの試合(実技) ルールについて
授業計画第14回 授業内容	ダブルスのチーム戦(実技) マナーについて
授業計画第15回 授業内容	ダブルスのチーム戦と授業のまとめ(実技)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	スポーツ科学 B
担当教員	北 徹朗
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	体育
単位数	1
テーマ・内容	<p>主に大学内に設置されるゴルフ練習場を利用して授業を展開する。</p> <p>但し、第1回目をはじめ、数回は教室内で行うことがある。また、雨天により屋外での活動が困難な場合も屋内で実施する。</p> <p>大学内にゴルフ練習場が設置されている大学は幾つかあるが、グリーンやバンカーなども設置されている施設を有する大学は全国的にも数少ない。大学授業でゴルフを実践するには大変恵まれた環境であるが、この授業では学内教場のみで完結する。</p> <p>本来、ゴルフはゴルフ場でプレーするものであるが、本授業ではスイングづくりや練習を中心に、グラウンド等での簡易コースラウンドなどを通して、コースラウンドをするための基本的な知識と技術を身に付けるための基礎を学ぶ。</p> <p>学ぶ過程においてペア学習やグループ学習でスイングを評価したり、打球の行方を評価したりしながら。ゴルフの特性やコツを学ぶ機会を提供する。</p> <p>ゴルフはそのルールブックの冒頭にエチケット、マナーについてまず記載される珍しいスポーツでもある。また、本来ゴルフプレーは4時間程度かけて行う(18ホール)が、実際にボールを打っている時間は2-3分程度であり、その他の時間は移動しているか、考えている時間である。その点でも、他のスポーツには見られない稀有なスポーツであると言える。</p> <p>授業を通じて、ゴルフの様々な魅力を学んで頂きたい。</p>
到達目標	<p>①ゴルフとはどのようなスポーツであるかを理解し、コースラウンドの基本を理解する。</p> <p>②ペア学習、グループ学習等を通して、ゴルフ技術についての理解を深めるとともに、他への尊重と協調性を養う。</p> <p>③スイング動作とクラブの動き(フェース角, アタック角, スイング軌道, ヘッドスピードなど)を数値で理解する。</p> <p>ゴルフの基本的なマナー、エチケットを理解する。</p>
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <p>ゴルフは「生涯スポーツ」として人気の高いスポーツの一つである。また、ゴルフは適度な運動として健康づくりの観点からも推奨される。本授業では、ゴルフとはどのようなスポーツであるかを理解し、各クラブの特性やそれに応じた技術を学習する。さらに、誰とでも楽しくラウンドできることを目指し、ゴルフルールやエチケットについての理解も重視する。</p> <p>授業の前半では、ICT 機器を利用したりペア学習でボールを上手に捉える学習を中心に行う。授業の後半では、グラウンドに仮設コースを設定し、スコアを記録しながらラウンドプレーの楽しみ方を学ぶ。</p>
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み(データの収集・記録・分析など)60% ・授業最終回で行う期末レポート 20% ・授業への参加態度(服装や手袋持参などの装備も含む)20%

教科書	特になし
参考書	R&A 公式ゴルフ規則 アプリ
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション(授業の進め方の説明や注意事項)、ゴルフとはどんなスポーツなのか
授業計画第2回 授業内容	ゴルフクラブの種類と名称の理解。グリップ、アドレス、スタンス、スイングの基本。
授業計画第3回 授業内容	ショートアイアン①、パッティング
授業計画第4回 授業内容	ショートアイアン②、ショートゲーム①
授業計画第5回 授業内容	アプローチ①
授業計画第6回 授業内容	アプローチ②、ショートゲーム②
授業計画第7回 授業内容	ミドルアイアン①
授業計画第8回 授業内容	ショートアイアン③、ミドルアイアン②、ショートゲーム③
授業計画第9回 授業内容	ロングアイアン、ウッドに挑戦
授業計画第10回 授業内容	パッティング①、様々なクラブを使い分ける
授業計画第11回 授業内容	パッティング②、バンカーショット、ショートゲーム④
授業計画第12回 授業内容	ゴルフのエチケット、マナー
授業計画第13回 授業内容	コースラウンドの方法とスコアの付け方
授業計画第14回 授業内容	コースラウンド(グラウンドに簡易設営したコースでプレーする)
授業計画第15回 授業内容	授業のまとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	スポーツ科学C
担当教員	高木 聡子
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	体育
単位数	1
テーマ・内容	<p>「スポーツを楽しむための基礎づくり」</p> <p>運動が身体によいと分かっていても、生活の中に運動習慣を取り入れ継続的に実施することは難しいと感じる人が多いのではないのでしょうか。しかし、運動と無縁に過ごしていた人でも、スポーツを好きになり仲間とその楽しさを分かち合うことができれば、少しでも運動する機会は増えてくるのではないのでしょうか。この授業ではいくつかのスポーツ種目を通じて、その基本的技術を身につけること、仲間とのコミュニケーションの機会を得ること、身体を動かすことの爽快感や充実感を体験することで、スポーツの意義を理解し、生涯にわたってスポーツを楽しむための基礎づくりをすることを目的とします。</p> <p>【実務経験】厚生労働省認定ヘルスケア・トレーナーなどの資格を有し、一般企業や保健センターなどでの業務経験も活かした健康づくりのための授業を行います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの基本的技術を身につける。 ・積極的、協力的な態度を養う。 ・コミュニケーション力を養う。 ・生涯スポーツへの基礎づくりをする。 ・スポーツの意義や、健康づくりの大切さを理解する。
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業で実施します。 ・健康づくりのための運動について正しい知識を得る。 ・運動の目的を意識し、自分の体力や技術にあった運動方法を考える。 ・チームや全体の中での自分の役割を考える。 ・いくつかのスポーツ種目について、基礎練習や簡単な試合をおこなう。 ・練習や試合を実施し、その改善点を探り、解決する方法を考える。
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各時間の活動状況 75% 2. レポートなどの提出物 25%
教科書	特になし
参考書	青木 謙介, 曾我部 敦介「大学生のための健康・スポーツの基礎知識」創風社出版 2020
授業計画第1回 授業内容	ガイダンス
授業計画第2回 授業内容	ソフトバレーボール

授業計画第3回 授業内容	インディアカ
授業計画第4回 授業内容	ミニバレーボール
授業計画第5回 授業内容	バレーボール①アンダーハンドパス、サーブ、ゲーム
授業計画第6回 授業内容	バレーボール②オーバーハンドパス、スパイク、ゲーム
授業計画第7回 授業内容	バスケットボール①パス、ドリブル、シュート、ゲーム
授業計画第8回 授業内容	バスケットボール②ディフェンスの練習、ゲーム
授業計画第9回 授業内容	バドミントン①ドライブ、クリア、サーブ、シングルスゲーム
授業計画第10回 授業内容	バドミントン②ロブ、ドロップ、ダブルスゲーム
授業計画第11回 授業内容	バドミントン③ネットリプライ、スマッシュ、ゲーム
授業計画第12回 授業内容	卓球①ショート、ロング、シングルスゲーム
授業計画第13回 授業内容	卓球②サーブ、フットワーク、ダブルスゲーム
授業計画第14回 授業内容	選択種目
授業計画第15回 授業内容	選択種目、授業のまとめ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	Sophomore English A I
担当教員	高橋 基治、BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)、UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)、武藤 克彦、関谷 弘毅、金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	外国語コミュニケーション
単位数	1
テーマ・内容	リーディングとライティングと連携しながら、通常の英語技能の訓練だけでなく、各学科のテーマについて調査し、批判的な分析を通して自分の視点を磨き、教員や他の学生同士とのやり取りを通して自分の意見を調整する力を磨きます。批判的かつ自発的に考え、リーダーシップを発揮することができる学生を養成することを目的としています。授業では、ペアワークやグループディスカッション等を行いながらスピーキング力を養い、さらに講義や視聴覚教材を視聴し、大意理解や要約などを行うこともあります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科指定のトピックに基づくディスカッションで、英語のみで意見を自由かつ流暢に、伝えあうことができる。 ・学科指定のトピックに関する正確で論理的な発表を行い、聴衆からの質問に英語で答えることができる。 ・様々な教室英語を使用し、教員または他の学生と流暢にやり取りできる。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業 (Business and Economics)</p> <p>この授業では、個人およびペア/グループで学習目標の達成に取り組みます。コース終了時には、学生は以下のことができるようになります:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Sophomore B コースのリーディング教材に基づいたトピックについて、批判的に分析し議論すること 2.リーディング教材のテーマに基づき、さらに発展させた内容の短い講義を理解すること 3.経済・ビジネス関連のトピックについて適切に調査し、プレゼンテーション原稿を作成し、その内容を効果的にクラスメートに発表すること
成績評価の方法・基準	<p>英語での積極的な参加および予習・宿題 25%</p> <p>ディスカッションテスト 30%</p> <p>リサーチおよびプレゼンテーション 45%</p>
教科書	大学作成オリジナルテキストを初回の授業で配布する。
参考書	<p>「Learning Essential Economics in English 英語で学ぶやさしい経済学」</p> <p>倉橋洋子/Julyan Nutt 編著 英宝社</p>
授業計画第1回	オリエンテーション
授業内容	Unit 1: What is Economics? に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第2回	Unit 2: History and Future of Money に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業内容	
授業計画第3回	Unit 3: Banks and the 2008 Financial Crisis に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業内容	

授業計画第4回 授業内容	Unit 4: Supply and Demand に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第5回 授業内容	Unit 5: Inflation and Deflation に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第6回 授業内容	Unit 6: Exchange Rates に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第7回 授業内容	中間ディスカッションテスト、学びの確認
授業計画第8回 授業内容	Unit 7: Capitalism に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第9回 授業内容	Unit 8: Adam Smith and John Maynard Keynes に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第10回 授業内容	Unit 9: Bubble Economies に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第11回 授業内容	Unit 10: Bursting the Bubble and Recession に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第12回 授業内容	Unit 11: Protectionism vs. Free Trade に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第13回 授業内容	Unit 12: The Stock Exchange に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第14回 授業内容	プレゼンテーションスキルセミナー、ワークショップ
授業計画第15回 授業内容	期末プレゼンテーション(カルーセル形式)、Q&A

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	Sophomore English A II
担当教員	高橋 基治、BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)、UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)、武藤 克彦、関谷 弘毅、金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	外国語コミュニケーション
単位数	1
テーマ・内容	リーディングとライティングと連携しながら、通常の英語技能の訓練だけでなく、各学科のテーマについて調査し、批判的な分析を通して自分の視点を磨き、教員や他の学生同士とのやり取りを通して自分の意見を調整する力を磨きます。批判的かつ自発的に考え、リーダーシップを発揮することができる学生を養成することを目的としています。授業では、ペアワークやグループディスカッション等を行いながらスピーキング力を養い、さらに講義や視聴覚教材を視聴し、大意理解や要約などを行うこともあります。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科指定のトピックに基づくディスカッションで、英語のみで意見を自由かつ流暢に、伝えあうことができる。 ・学科指定のトピックに関する正確で論理的な発表を行い、聴衆からの質問に英語で答えることができる。 ・様々な教室英語を使用し、教員または他の学生と流暢にやり取りできる。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業 (Media and Society)</p> <p>この授業では、個人およびペア/グループで学習目標の達成に取り組みます。コース終了時には、学生は以下のことができるようになります:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.Sophomore B コースのリーディング教材に基づいたトピックについて、批判的に分析し議論すること 2.リーディング教材のテーマに基づき、さらに発展させた内容の短い講義を理解すること 3.メディアと社会への影響に関連するトピックについて適切に調査し、その情報をクラスメートに効果的に発表すること
成績評価の方法・基準	<p>英語での積極的な参加および予習・宿題 25%</p> <p>ディスカッションテスト 30%</p> <p>リサーチおよびプレゼンテーション 45%</p>
教科書	大学作成オリジナルテキストを初回の授業で配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「池上彰のメディア・リテラシー入門」 池上彰 オクムラ書店 ・「メディア・リテラシー—世界の現場から」 菅谷 明子 岩波書店
授業計画第1回	オリエンテーション
授業内容	Topic 1: What really happened? に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第2回	Topic 2: How true is what we read? に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業内容	Topic 2: How true is what we read? に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第3回	Topic 3: How the political spectrum affects our news に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業内容	Topic 3: How the political spectrum affects our news に関するテーマについての授業活動とディスカッション

授業計画第4回 授業内容	Topic 4: Spinning out of control に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第5回 授業内容	Topic 5: Advertising or brainwashing に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第6回 授業内容	Topic 6: Stereotypes and the media に関するテーマについての授業活動とディスカッション
授業計画第7回 授業内容	中間ディスカッションテスト、学びの確認
授業計画第8回 授業内容	Topic 7: Another bash on the head に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第9回 授業内容	Topic 8: Privacy and the media に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第10回 授業内容	Topic 9: Privacy and the media に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第11回 授業内容	Topic 10: Staged News Stories or TV Shows に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第12回 授業内容	Topic 11: Consumerism Gone Mad に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第13回 授業内容	Topic 12: Like a Puppet on a String に関するテーマについての授業活動と小プレゼンテーション
授業計画第14回 授業内容	プレゼンテーションスキルセミナー、ワークショップ
授業計画第15回 授業内容	期末プレゼンテーション(カルーセル形式)、Q&A

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	Sophomore English B I
担当教員	高橋 基治、BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)、UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)、武藤 克彦、関谷 弘毅、金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	外国語コミュニケーション
単位数	1
テーマ・内容	スピーキング・リスニングのクラスと連携しながら通常の英語技能の訓練だけでなく、各学科のテーマについて調査し、批判的な分析を通して自分の視点を磨き、教員や学生同士とのやり取りを通して自分の意見を調整する力を磨きます。批判的かつ自発的に考え、リーダーシップを発揮することができる学生を養成することを目的としています。毎回の授業では指定教科書や関連資料、視聴覚教材などを使いながらリーディングとライティング能力を養っていきます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科指定のトピックに関連した学術書、新聞やインターネットの記事などを読み、より高度な英語の読解力を習得することができる。 ・学科指定のトピックに関連した読み物を読んで、要約することや自分の意見を英語のみで伝えることができる。 ・学科指定のトピックに関して、より高度な文型、構成や学術的な文体を使用して、エッセイを正確かつ明確に書くことができる。 ・1年次で習得したスキルを活用して、広範囲にわたる出典を参照し、的確に引用したり言い換えたりすることができる。 ・自分が参照する情報源(学術書、新聞やインターネット、など)の信憑性を吟味することができる。
学習内容	学科に関連したテーマの文献を毎回読み、語彙や構文、背景知識などを身につけていきます。そして、専門課程にスムーズに進めるようにライティング能力を養成します。
成績評価の方法・基準	授業活動への参加度:25% 課題:40%(提出締切り期日厳守の場合) 定期試験:20%・中間試験:15%
教科書	「Learning Essential Economics in English 英語で学ぶやさしい経済学」 倉橋洋子/Julyan Nutt 編著 英宝社
参考書	「Academic Writing Strategies Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals 大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー」中谷安男 著/金星堂
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション Unit 1: What is Economics? Microeconomics and macroeconomics
授業計画第2回 授業内容	Unit 2: The History and Future of Money
授業計画第3回 授業内容	Unit 3: Banks and the 2008 Financial Crisis

授業計画第4回 授業内容	Unit 4: Supply and Demand
授業計画第5回 授業内容	Unit 5: Inflation and Deflation
授業計画第6回 授業内容	Unit 6: Exchange Rates
授業計画第7回 授業内容	学びの確認、アカデミックライティングワークショップ、中間クイズ
授業計画第8回 授業内容	Unit 7: Capitalism
授業計画第9回 授業内容	Unit 8: Adam Smith and John Maynard Keynes
授業計画第10回 授業内容	Unit 9: Bubble Economies
授業計画第11回 授業内容	Unit 10: Bursting the Bubble and Recession
授業計画第12回 授業内容	Unit 11: Protectionism vs. Free Trade
授業計画第13回 授業内容	Unit 12: The Stock Exchange
授業計画第14回 授業内容	学術講演(実社会での読み書きの実践)1
授業計画第15回 授業内容	授業内容 学びの確認、アカデミックエッセイ期末ワークショップ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	Sophomore English B II
担当教員	高橋 基治、BLACK, Miriam T.(ブラック ミリアム)、UNDERWOOD, Paul(アンダーウッド ポール)、武藤 克彦、関谷 弘毅、金子 真奈美
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	外国語コミュニケーション
単位数	1
テーマ・内容	スピーキング・リスニングのクラスと連携しながら通常の英語技能の訓練だけでなく、各学科のテーマについて調査し、批判的な分析を通して自分の視点を磨き、教員や学生同士とのやり取りを通して自分の意見を調整する力を磨きます。批判的かつ自発的に考え、リーダーシップを発揮することができる学生を養成することを目的としています。毎回の授業では指定教科書や関連資料、視聴覚教材などを使いながらリーディングとライティング能力を養っていきます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科指定のトピックに関連した学術書、新聞やインターネットの記事などを読み、より高度な英語の読解力を習得することができる。 ・学科指定のトピックに関連した読み物を読んで、要約することや自分の意見を英語のみで伝えることができる。 ・学科指定のトピックに関して、より高度な文型、構成や学術的な文体を使用して、エッセイを正確かつ明確に書くことができる。 ・1年次で習得したスキルを活用して、広範囲にわたる出典を参照し、的確に引用したり言い換えたりすることができる。 ・自分が参照する情報源(学術書、新聞やインターネット、など)の信憑性を吟味することができる。
学習内容	学科に関連したテーマの文献を毎回読み、語彙や構文、背景知識などを身につけていきます。そして、専門課程にスムーズに進めるようにライティング能力を養成します。
成績評価の方法・基準	授業活動への参加度:25% 課題:40%(提出締切り期日厳守の場合) 定期試験:20%・中間試験:15%
教科書	大学作成オリジナルテキストを初回の授業で配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「池上彰のメディア・リテラシー入門」 池上彰 オクムラ書店 ・「メディア・リテラシー—世界の現場から」 菅谷 明子 岩波書店
授業計画第1回 授業内容	前期の総括、後期の授業の進め方、Topic 1: What really happened?
授業計画第2回 授業内容	Topic 2: How true is what we read?
授業計画第3回 授業内容	Topic 3: How the political spectrum affects our news

授業計画第4回 授業内容	Topic 4: Spinning out of control
授業計画第5回 授業内容	Topic 5: Advertising or brainwashing
授業計画第6回 授業内容	Topic 6: Stereotypes and the media
授業計画第7回 授業内容	学びの確認、アカデミックライティングワークショップ、中間クイズ
授業計画第8回 授業内容	Topic 7: Another bash on the head
授業計画第9回 授業内容	Topic 8: Privacy and the media
授業計画第10回 授業内容	Topic 9: New media-same old problems
授業計画第11回 授業内容	Topic 10: Staged News Stories or TV Shows
授業計画第12回 授業内容	Topic 11: Consumerism Gone Mad
授業計画第13回 授業内容	Topic 12: Like a Puppet on a String
授業計画第14回 授業内容	学術講演(実社会での読み書きの実践)2
授業計画第15回 授業内容	学びの確認、アカデミックエッセイ期末ワークショップ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	基礎情報科学
担当教員	藤田 光治
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
単位数	2
テーマ・内容	卒業後の社会においてはもちろん、学生生活においても情報を活用することが、ますます重要になりつつあります。本学では入学時に全員にコンピュータとインターネットを利用する個人識別記号を与え、自ら情報を活用する機会を与えています。基礎情報科学では、このコンピュータ環境を活かし、学内外の人々との活発なコミュニケーションを行ない、世界の情報を基にした学習・研究活動を実践するための基礎を学習します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学のコンピュータの構成と使用規約、自己責任の重要性などを理解する。 2. レポートを書くために必要なタイピングや Word 用いた文章表現を行うことができる。 3. プレゼンテーションに必要な PowerPoint を用いた資料の作成やインターネットを活用した情報検索を行うことができる。 4. 情報化社会で必要となる基礎知識と、それに伴う情報倫理を身に着け、データや AI 活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)を理解することができる。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい指使いで大学生活で必要となるタイピングスキルを習得します。 2. インターネットの活用方法と情報倫理について学習します。 3. Word や PowerPoint の機能を学習し、文章による自己表現を工夫する。大学でレポートを書くときやプレゼンテーションを行う際に必要なスキルを身につけます。
成績評価の方法・基準	<p>授業内課題…20%、レポート課題…30%、学期末試験… 50%</p> <p>シラバスに記載されたレポート以外に、担当者の指示したレポートも加わります。</p> <p>欠席が 4 回以上、レポート課題未提出、タイピングテストの結果が一定基準に達しない場合のいずれかに該当するときは原則不合格になります。</p> <p>また、第 16 週目に前期の学習内容に関する学期末試験を実施します。</p>
教科書	<p>情報処理センター編『基礎情報科学 2024 年度版』 ムイスリ出版社 2024</p> <p>リベラルアーツで学ぶ情報倫理—大学生が知っておきたい AI の基礎知識— ムイスリ出版社 2025</p>
参考書	授業中に適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	<p>情報とは何か…</p> <p>年間授業計画／情報とは何か／パスワード (第 1 章)</p>
授業計画第2回 授業内容	タッチタイプ(第 2 章)
授業計画第3回 授業内容	Word の基礎…Windows の理解/文字入力/文章作成の手順を理解/ファイルの保存 (第 3 章)
授業計画第4回 授業内容	ファイルとフォルダ1…ファイル/フォルダ/拡張子(第 4 章)

授業計画第5回 授業内容	PowerPoint…プレゼンテーション(第5章)
授業計画第6回 授業内容	情報化社会…インターネットとは/情報化社会と生活への変化
授業計画第7回 授業内容	情報倫理…情報化社会とセキュリティ
授業計画第8回 授業内容	ウェブページの活用…検索エンジンによる情報の絞込み(第8章)
授業計画第9回 授業内容	電子メールの管理…メールの機能(第9章)
授業計画第10回 授業内容	Wordの応用1…編集/ファイルの保存・呼び出し(第10章) ※タイピングテスト第1回
授業計画第11回 授業内容	Wordの応用2…文書のレイアウト 余白/ページ番号/ レポートの印刷(第11章) ※タイピングテスト第2回
授業計画第12回 授業内容	Wordの応用3…著作権、引用を用いたレポート作成(第12章) ※タイピングテスト第3回
授業計画第13回 授業内容	Wordの応用4…英文レイアウト(第13章) ※タイピングテスト第4回
授業計画第14回 授業内容	総合演習1…授業内容のまとめ ※タイピングテスト第5回
授業計画第15回 授業内容	総合演習2…編集機能を使ったレポート

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	基礎情報科学Ⅱ
担当教員	藤田 光治
担当形態	単独
科目区分	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
科目区分2	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作
単位数	2
テーマ・内容	卒業後の社会においてはもちろん、学生生活においても情報を活用することが、ますます重要になりつつあります。本学では入学時に全員にコンピュータとインターネットを利用する個人識別記号を与え、自ら情報を活用する機会を与えています。基礎情報科学では、このコンピュータ環境を活かし、学内外の人々との活発なコミュニケーションを行ない、世界の情報を基にした学習・研究活動を実践するための基礎を学習します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Excel を活用して数表やグラフを含んだレポートを作成することができる。 2. デジタルとアナログの違いやフォルダの構造など、パソコンの基本的な原理や仕組みについて理解する。 3. AI の歴史とそれに伴う様々なサービスの活用事例を学び、利活用する方法を理解することができる。
学習内容	<p>授業形態: 対面授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算の代表である Microsoft Excel の使い方の基礎を一通り学びます。 2. ハードウェア・ソフトウェアについて理解し、コンピュータの基本的な原理を学びます。 3. AI の歴史を学び、実践的な活用方法を学びます。 4. 情報の単位、2進数・10進数・16進数の仕組み、文字コード、音声や画像の表現方法を学びます。
成績評価の方法・基準	<p>授業内課題…20%、レポート課題…30%、学期末試験… 50%</p> <p>シラバスに記載されたレポート以外に担当者の指示したレポートも加わります。</p> <p>欠席が4回以上、レポート課題未提出のいずれかに該当するときは原則不合格になります。</p> <p>また、後期末に学習内容に関する学期末試験を実施します(16週目に定期試験を実施します)。</p>
教科書	<p>情報処理センター編『基礎情報科学 2024 年度版』ムイスリ出版社 2024</p> <p>「リベラルアーツで学ぶ情報倫理—大学生が知っておきたい AI の基礎知識—」ムイスリ出版社 2025</p>
参考書	授業中に適宜紹介します。
授業計画第1回 授業内容	Excel1… データ入力と計算式 (テキスト 14 章)
授業計画第2回 授業内容	Excel2… 関数の理解/グラフの理解(テキスト 15 章)
授業計画第3回 授業内容	Excel3… 表とグラフの作成(テキスト 16 章)
授業計画第4回 授業内容	Excel4… シミュレーション、演習課題の提出(第 17 章)

授業計画第5回 授業内容	パソコンの仕組み1…コンピュータの動作原理／ハードウェア(テキスト 18 章)
授業計画第6回 授業内容	パソコンの仕組み2…コンピュータの動作原理／OS、ソフトウェア (テキスト 19 章)
授業計画第7回 授業内容	ファイルとフォルダ2…ファイル／拡張子／フォルダ／木構造(テキスト 20 章)
授業計画第8回 授業内容	AIとは①…AIとは何か
授業計画第9回 授業内容	AIとは②…AIの活用と実践
授業計画第10回 授業内容	デジタル…デジタル化／情報量/bit(テキスト 23 章)
授業計画第11回 授業内容	数のデジタル化…2進数/16進数(テキスト 24 章)
授業計画第12回 授業内容	文字のデジタル化…ASCIIコード／日本語の文字コード(テキスト 25 章)
授業計画第13回 授業内容	画像と音のデジタル化…デジタル化／通信／メモリ(テキスト 26 章)
授業計画第14回 授業内容	総合演習1…授業内容のまとめ
授業計画第15回 授業内容	総合演習2…数表とグラフ

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育学概論 I
担当教員	尾崎 博美
担当形態	単独
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
単位数	2
テーマ・内容	「教育」とは、最も身近な営みであると同時に、最も多様な形態をもつ営みでもあります。なぜ私たちは、教育を通して子どもたちを特定の価値へと導こうとするのでしょうか。また、そこには、たくさんの評価のための基準がありますが、その基準はどのように作られているのでしょうか。本授業では、「教育とは何か」というシンプルな問いを通して、その基礎となる教育の思想や歴史に関する知識に基づき、現実の個人と社会のつながりや、学ぶことと生きることとのつながりなどについて考え、教育学の基本的な知識や見解を得ることを目的とします。
到達目標	本講義では受講生の到達目標として下記の3点を設定します。 (1)「教育」とはいかなる行為・営みであるかという「教育観」を説明するための基礎的・原理的な知識(教育の思想・歴史・方法論等)を得る。 (2)上記の「教育観」について、受講者個々人がそれぞれ自分自身の見解を構築する。 (3)「教育」という行為・営みを論じ検討する上で、自分自身の見解と他者の見解とを比較・検討し、建設的かつ生産的な議論に参加する機会と能力の素地を形成する。
学習内容	授業はオンラインで行います。履修登録後に e-pass に配信される「講義連絡」も必ず確認してください。 〔授業方式〕オンデマンド型 〔使用ツール〕Google クラスルーム ※Google クラスルームのクラスコードは履修登録者に講義連絡でお知らせします。 〔授業教材〕毎週木曜日1限開始時間に Google クラスルームより配信します。 ※必要に応じて早めに資料を掲示することもあります。 〔出席確認〕課題の提出をもってカウントします。 〔課題提出〕Google クラスルームから提出してください。 〔質問方法〕尾崎の英和メールアドレスまで ※Google クラスルームの「限定コメント」でも可能です。授業では「教育」について考えるために、社会の中で「価値がある」とみなされているものは何かを問い、また「教育」の基盤となっている思想・及び教育理論を学びます。その中で、「教える」行為がもつ意味や「学習」という行為に必要な事は何かを考察していきます。「教育」や「学校」を考える上で暗黙のうちに設定される「当たり前」を問う視点を、毎回の授業で検討していきます。
成績評価の方法・基準	【単位認定の基準】以下のものが求められる達成度に達すること (1)授業及び議論への参加、コメント(20%) (2)授業内で課すワークシート等の課題(30%) (3)授業の中間・最後に提出するレポート(50%) 【単位認定の条件】①出席が全体の授業回数数の3分の2以上であること ②中間レポート・最終レポートを期間内にすべて提出すること⇒単位認定の条件・基準の双方を満たした場合:「秀～可」(達成度に応じて判定)

	求められる達成度に届かない場合:「不可」 単位認定の条件を満たさない場合:「放棄」※なお、コメントペーパー、ワークシート、レポート等のすべての求められる提出物・課題について、代筆・コピー&ペースト・剽窃・盗用等の不正行為が確認された場合には、上記の条件・基準の如何によらず、すべて「不可」とし、関係各所との連携の上で厳正な対処をとります。
教科書	井藤元編、尾崎博美・高宮正貴・渡邊福太郎ほか著、『ワークで学ぶ教育学<増補改訂版>』、ナカニシヤ出版、2020年なお、授業に必要な資料を適宜配布する。
参考書	学習指導要領
授業計画第1回 授業内容	教育とは何か(1)「教える」とは何か—教育の思想と理想:なぜ、勉強をしなければならないのか?
授業計画第2回 授業内容	教育とは何か(2)「教育目的」とは何か—教育の思想と価値:教育的価値、アイデア論、自然主義、経験主義(プラトン、ルソー、デューイ)
授業計画第3回 授業内容	学校とは何か(1) 学校の誕生—学びの思想、模倣教育、産業革命、徒弟制度
授業計画第4回 授業内容	学校とは何か(2) 学校の制度—学校論、学校教育法、学校設備、学校開放
授業計画第5回 授業内容	学校とは何か(3) 教師とはだれか—教師の思想:よい先生とはどんな先生か?
授業計画第6回 授業内容	子どもと教育(1) 子どもとはだれか—教育思想における「子ども」:子ども白紙説、子ども中心主義(ロック、フレーベル、ペスタロッチ)
授業計画第7回 授業内容	子どもと教育(2) 学校教育と家庭教育—刷り込み、環境を通しての教育
授業計画第8回 授業内容	子どもと教育(3)子どもの発達理論—ピアジェ、エリクソン、シュタイナー
授業計画第9回 授業内容	現代教育の課題(1) 学力問題—「学力低下」、ゆとり教育とは何か
授業計画第10回 授業内容	現代教育の課題(2) 学校、地域、家庭の変化と連携—パーソナリティ形成、
授業計画第11回 授業内容	現代教育の課題(3) いじめと不登校—いじめの定義、認知件数
授業計画第12回 授業内容	こらからの教育(1) 教育格差と価値観の多様化—グローバリゼーション・文化多元主義
授業計画第13回 授業内容	これからの教育(2) 家庭と仕事の両立と教育—キャリア教育とシティズンシップ教育
授業計画第14回 授業内容	これからの教育(3) コミュニケーションと教育—受容性、共感力、ケアリング
授業計画第15回 授業内容	授業全体の総括と振り返り

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教職の理解
担当教員	山田 亮・後藤 康志
担当形態	オムニバス
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
単位数	2
テーマ・内容	<p>この授業では、教員の職務の理解の導入と社会の必要性に鑑み、教職の重要性、背景、意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について、教育や学校という場の理解を深めながら、教職への意欲を高め、適性を判断し、教職の進路選択に資する自分自身を考えることを目標とする。</p> <p>履修者が自らの学校経験を振り返りながら、教職について理解を深める。また、授業においては、書く・話す・説明する・議論する・振り返る等の能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れながら進める。【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。</p>
到達目標	<p>教員としての実践的指導力につながる基礎的資質を形成することを目指し、教職に関する多角的な検討を通じて、教員の服務や教職の魅力、社会的意義等について理解することを目指す。</p> <p>(1) 学校教育や教職の社会的意義、公教育の目的が理解できる</p> <p>(2) 教員の職務の全体像が理解できる</p> <p>(3) 教員研修の意義と必要性が理解できる</p> <p>(4) 教員の服務上・身分上の義務及び身分保障が理解できる</p> <p>(5) 学校の多様な役割が理解できる</p> <p>(6) 学校、地域、国際社会との連携が理解できる</p> <p>(7) チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性が理解できる</p> <p>(8) 教職を取り巻く課題を考える</p>
学習内容	<p>【主たる学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育や教職の社会的意義、公教育の目的 ・ 教員の職務の全体像 ・ 教員研修の意義と必要性 ・ 教員の服務上・身分上の義務及び身分保障 ・ 学校の多様な役割 ・ 学校、地域、国際社会との連携 ・ チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性 ・ 教職を取り巻く課題 <p>◆上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める</p>
成績評価の方法・基準	①授業での発表・議論・提出物(70%)、②定期試験・レポート(30%)とする。評価基準は、関連する知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。
教科書	<p>文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』</p> <p>文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』</p>

参考書	文部科学省『学習指導要領』『学習指導要領解説』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
授業計画第1回 授業内容	授業の目標、内容、進め方、受け方、テキストの使用法等を説明する。 導入として履修者が自らの学校経験を振り返る。 (担当:山田亮)
授業計画第2回 授業内容	今日の学校教育及び教職を取り巻く諸問題について、具体的な事例から理解する。 (担当:後藤康志)
授業計画第3回 授業内容	学生自身の経験をもとに教職の意義とその職務の特徴を理解する。 (担当:後藤康志)
授業計画第4回 授業内容	教員の役割や求められる資質・能力を考え、望ましい教師の在り方を考える。 (担当:後藤康志)
授業計画第5回 授業内容	求められる教師像について、教育行政の観点から理解する。 (担当:後藤康志)
授業計画第6回 授業内容	自分自身が必要と考える教員の資質・能力を検討するとともに、現時点での自己評価を行う。 (担当:後藤康志)
授業計画第7回 授業内容	法律などに則った教員の職務内容、教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解し、実際の教員の仕事と比較し、課題を考える。 (担当:後藤康志)
授業計画第8回 授業内容	実際の教師の仕事(教科指導、生徒指導、進路指導等)について、自らの学校体験を振り返りつつ、事例に基づいて理解する。 (担当:山田亮)
授業計画第9回 授業内容	教員研修の意義と専門職として適切に職務を遂行するため学び続ける教員のライフワークについて考える。 (担当:後藤康志)
授業計画第10回 授業内容	拡大・多様化する学校の役割を考え、学校の内外の専門家等と連携・分担する必要性を理解する。 (担当:後藤康志)
授業計画第11回 授業内容	多様な専門性を持つ人材と効果的にネットワークを作ることの重要性を理解する。 (担当:後藤康志)
授業計画第12回 授業内容	教育行政文書に見られる「チーム学校」の理解と実際の事例から、その重要性を学ぶ。 (担当:後藤康志)
授業計画第13回 授業内容	学習指導要領における社会科・地理歴史科・英語科の位置付け①(目標・内容・取扱いについて等) (担当:山田亮)
授業計画第14回 授業内容	学習指導要領における社会科・地理歴史科・英語科の位置付け②(育成する資質・能力、等) (担当:山田亮)
授業計画第15回 授業内容	これまでの重要事項の振り返りと再確認、定期試験および学期末レポートの書き方等の説明 (担当:山田亮)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育社会学(中・高)
担当教員	池本 紗良
担当形態	単独
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
単位数	2
テーマ・内容	教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象に、社会学の視点と方法で研究する「方法の学問」である。教育という営みには価値がつきまとい、「○○すべき」(例えば「早期から英語教育をすべき」「高校教育は無償にすべき」など)という具合に、規範的な語りがなされる。しかし規範で語られるということは、実際にはそうなされていない現実があり、まずは現実がどうなっているのかを問う必要がある。なぜ「すべき」とおりになされていないのか、そもそも「すべき」という根拠はどこにあるのか。そうした規範で語られやすい教育の営みを当然視せず、相対化してみることが教育社会学のテーマである。
到達目標	社会学の基本概念や理論の学習を通して、現代の教育事象を捉える社会学的思考を身につける。そうした社会学的検討を通して、教育を社会と関連づけて理解できる。具体的には、それぞれが経験してきた教育のあり方を、社会学的思考をもって捉えなおし、教育と社会の相互規定性を考える。
学習内容	教育は幅広い社会の営みではあるが、近代以降、とくに学校によって担われてきた。そこでまず学校に関する教育事象(学校の社会的機能、教育機会と格差、ジェンダーと教育など)から出発し、人間形成(「社会化」)を担う学校教育について検討する。講義後半では、そこから視野を広げ、全体社会と教育の関わり(職業世界との関わり、家族と学校、教育問題など)について検討する。 具体的な授業実施方法は以下の通りである。 (1) 授業実施形態:オンデマンド (2) 使用するツール:e-pass、Google Classroom (3) 教員への連絡方法:メール
成績評価の方法・基準	成績評価は、講義内で課すコメントシートの提出(50%)と、レポート(50%)による。 コメントシートは、講義を聴いて自分が考えたことを300字程度で記入すること。 レポートは、関心をもったテーマを設定し、教育社会学のアプローチをもって論理的に記述すること。
教科書	なし。講義にて資料を配布する。
参考書	柴野昌山・菊池城司・竹内洋(編)『教育社会学』有斐閣、1992年。 飯田浩之・岡本智周(編)『はじめて学ぶ教職 教育社会学』ミネルヴァ書房、2018年。
授業計画第1回 授業内容	第1回:教育社会学のアプローチ 教育を社会学的にみるということとはどのようなことか、その視点や特徴について理解する。またなぜそうしたアプローチが必要なのかを、教育社会学の歴史を振り返るなかで考える。
授業計画第2回 授業内容	第2回:学校の社会的機能 社会の中で学校はいかなる機能を果たしているのか。学校の社会的機能(社会化、選抜・配分、社会統制・正当化)について理解する。
授業計画第3回 授業内容	第3回:学校教育と社会階層 教育は、出身家庭と将来の社会的地位とをつなぐ上で、どのような役割を果たしているのだろうか。学歴と社会階層についての考え方や、機会の平等と結果の平等について考える。

授業計画第4回 授業内容	第4回：能力主義(メリトクラシー)と学力格差 能力によって地位配分が決まるのは当然なのか。そこには問題があるのか／ないのか。「能力」と「学力」はどのように異なるのか。能力によって物事が決まるという近代社会の当然視を問い直す。
授業計画第5回 授業内容	第5回：高校進学のもつ意味 戦後日本では、教育機会の拡大とともに、人々は身分や家柄によらず、誰でも能力と努力によってより高い地位をめざせる社会になったといわれる。それは本当なのか。戦後直後の新制高校の理念を参照しつつ、高校進学の実際や意味がどのように変わっていったのかを展望する。戦後直後は高校は地域の学校として位置づいていたが、大衆に開かれるにしたがって、逆説的に地域との関係は希薄になっていく。こうした点からも高校進学の意味を考える。
授業計画第6回 授業内容	第6回：カリキュラムと教師 カリキュラムとはなにか。それは教師—児童生徒関係をいかに規定しているのか。今日、教師の多忙化が言われて久しいが、その実態と原因を探る。
授業計画第7回 授業内容	第7回：学習指導要領と教育改革 およそ10年に1度検討される学習指導要領の意味を考える。「ゆとり教育」や「生きる力」、「資質能力」などのこれまでの教育改革にふれながら、系統主義と経験主義の揺れ動きを確認する。
授業計画第8回 授業内容	第8回：隠れたカリキュラムとジェンダー 学校教育で男女平等が謳われているが、はたしてどこまで平等なのか。そもそもなぜ男女平等が謳われるのか。学力や学習意識、進路などにおける性差をどう考えたらよいか。そうした差の背景として、近代の学校教育において性差がどのように扱われてきたのかを、男女共学や制服の設定などに触れながら考える。
授業計画第9回 授業内容	第9回：家庭教育と学校教育 これまで言及してきた学力や性差について、学校教育のほかに、家庭教育の影響を考える。家庭教育の担い手は誰なのか、学校教育とはどのような関係にあるのかを整理する。
授業計画第10回 授業内容	第10回：学校と職業のリンケージ 学校教育は職業世界へと児童生徒をどのように導いているのか。はたまた、児童生徒は学校教育で得た経験を職業世界にどのように生かすのか。企業社会はいかなる人材を求めているのか。興味深いのは、学校が地域の産業・職業からの人材供給の要望にこたえ、その就職斡旋を担っていた点である。そうした学校と職業の接続を捉えていく。
授業計画第11回 授業内容	第11回：マイノリティから見た学校空間 学校教育はすべての者に保障されているのだろうか。学校教育がある特定の子どもたちを排除・周縁化しているメカニズムを探るとともに、社会的包摂とは何かを考える。
授業計画第12回 授業内容	第12回：地域に開かれた学校 学校教育が地域に開かれるとはどういうことか。なぜ地域と学校の連携の必要性が要されてきたのか。部活動の地域移行やフリースクールと学校との連携を題材に教育の機会均等を考える。
授業計画第13回 授業内容	第13回：安全と教育のジレンマ 子どもの登下校時や不審者校内侵入時における「安全」の確保についての報道・議論を参照し、それらが「教育問題」として取り上げられることの意味を考える。この根底には「子どもの安全」をめぐる、子どもを「保護」すべき存在とまなざす見方がある。こうした見方が「教育的」に、そして「社会的」にどのような意味があるのかを考える。
授業計画第14回 授業内容	第14回：教育資源としての共生概念 「共に生きる」とはどういうことか。その由来と変容を辿りながら、規範論ではない「共生」概念について考える。さらに「共生」概念を資源とした教育がいかなるものになりうるかを検討する。

授業計画第 15 回
授業内容

第15回:総括

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育心理学
担当教員	久保田 まり
担当形態	単独
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
単位数	2
テーマ・内容	教育心理学の使命は、具体的な教育実践に貢献しうる心理学的知見を提出することである。本講では、動機付けや知識の獲得過程など、子どもの意欲や学習における認知過程を理解し、その上で、それらの知識や知見をどのように教育実践に繋げていったらよいかを考察できるだけ学ぶことを目標とする。また、教師との人間関係と学習過程、学級・学校への適応の問題、様々な学習の形態、教育評価についても理解できることを目的とする。
到達目標	<p>①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解できる。</p> <p>②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解できる。</p> <p>③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。</p>
学習内容	<p>本講義は、対面授業を予定しています。</p> <p>テキスト、配布プリント、参考図書にそって、教育心理学理論や概念と、具体的な子どもの行動や現象を結びつけて考えていく。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価方法 各回の課題レポートの合計 100% (出席は当然の条件です)</p> <p>評価基準 ①教育心理学の基礎概念、基礎用語の理解の程度。</p> <p>②動機付け理論を教育実践に応用して考えられることの程度。</p> <p>③教育心理学の実験結果から具体的考察ができることの程度。</p>
教科書	市川伸一 著 『学習と教育の心理学 増補版(現代心理学入門 3)』 岩波書店
参考書	特に無し
授業計画第1回 授業内容	教育心理学とは何を目指しているのか
授業計画第2回 授業内容	学習のレディネス:成熟優位のレディネス・形成的レディネスと発達の最近接領域
授業計画第3回 授業内容	学習における動機付け①:動機付けの種類と最適水準
授業計画第4回 授業内容	学習における動機づけ②:学習性無力
授業計画第5回 授業内容	学習における動機づけ③:原因帰属理論

授業計画第6回 授業内容	知能とは何か： 知能の構造
授業計画第7回 授業内容	知識の獲得過程①: 視覚的イメージの理解と文章理解
授業計画第8回 授業内容	知識の獲得過程②: スキーマ、スクリプト、先行オーガナイザー
授業計画第9回 授業内容	学習指導の形態
授業計画第10回 授業内容	障害のある学習者における学習過程の特質
授業計画第11回 授業内容	集団の機能と発達
授業計画第12回 授業内容	教師の機能と発達
授業計画第13回 授業内容	子どもと教師の人間関係と、子どもの学習意欲・学校適応
授業計画第14回 授業内容	教育評価と学習意欲
授業計画第15回 授業内容	自己学習力について

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	特別支援教育
担当教員	平田 幸宏
担当形態	単独
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
単位数	2
テーマ・内容	<p>【特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と支援】</p> <p>今日の日本における特別支援教育の諸問題を理論的・歴史的に考察し、特別支援教育の目的、原理、方法について理解を促すものである。本講義では、一般に「障害」と呼称される状態像に関する基本的な考え方をはじめ、知的障害・視覚障害・聴覚障害・運動障害(病弱・身体虚弱を含む)・重度重複障害の主要な5障がいと、発達障害に関して、出生から学齢期を中心に、それぞれの原因と状態像、教育場面における支援のあり方に関して講義を行う。「対象の理解」にあたっては、定型発達の児童との発達上の差異を明らかにするのではなく、障がいを個人の属性の一つとしてとらえ、個々の児童生徒をいかに理解するかという障がい理解の観点から理解を促したい。具体的理解を促すために視聴覚教材を活用し、それぞれの障がいの状態に応じた合理的配慮の基本を学ぶ。加えて、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みに関して講義を行い、今日の特別支援教育の現状と課題について理解を促すものである。</p> <p>【実務経験】14年間の筑波大学附属知的障害特別支援学校における指導経験、ならびに、筑波大学学校教育部での教育相談・発達相談の経験、加えて、武蔵野市立小・中学校での18年間にわたる専門家スタッフ(特別支援教育コーディネーターならびに担任教員への指導助言)の経験、キリスト教幼稚園における20年間の体操指導ボランティア経験を生かし、特別支援教育に関わる基本的な知識と手法、インクルーシブ教育に関する基本的考え方について授業を行う。</p>
到達目標	<p>【特別な支援を必要とする児童生徒の理解と支援】</p> <p>①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>
学習内容	<p>A. 動画教材の視聴により、それぞれの診断名の子どもたちの具体的な理解を行う。</p> <p>B. テキストやパワーポイント、また、補足資料を参照しながら、理解と支援の在り方について学習を深める。</p> <p>C. 毎回、感想と質問事項を授業コメントとして提出する。</p> <p>D. 2回のフィールドワークに基づいたレポートを提出する。</p> <p>【授業の講義形式:演習】 対面授業で行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>【評価の方法】 ①毎回の授業コメント:45点(3点/回×15回)</p> <p>②フィールドワークレポート:20点(10点/課題×2課題)</p> <p>③学期末試験:35点(10点/問×3問+5点/問×1問)</p> <p>【評価基準】 ①それぞれの障害に関する基礎的理解と支援の在り方の理解</p> <p>②特別支援教育の理念と概要の理解 とする。</p>

教科書	・参考資料等 適宜資料を配布する
参考書	・特別支援学校学習指導要領(幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領、高等部学習指導要領)(平成 29 年 3 月公示 文部科学省) ・特別支援学校学習指導要領解説(平成 29 年 3 月 文部科学省)
授業計画第 1 回 授業内容	イントロダクション「子どもの心理状態の理解」 ・前言語段階の幼児、児童及び生徒のコミュニケーションについてアクティビティを通じた理解
授業計画第 2 回 授業内容	インクルージョン時代の特別支援教育 ・障害のとらえ方の変遷と理解
授業計画第 3 回 授業内容	知的障害の理解①「ダウン症候群を中心に」 ・ダウン症候群の幼児、児童及び生徒の特性に応じた支援の方法の理解
授業計画第 4 回 授業内容	知的障害の理解②「自閉症スペクトラム(ASD)を中心に」 ・ASD の幼児、児童及び生徒の特性に応じた TEACCH プログラムなどの理解
授業計画第 5 回 授業内容	発達障害の理解①「注意欠如／多動性障害(AD/HD)・アスペルガータイプの理解と支援」 ・AD/HD、アスペルガータイプの幼児、児童及び生徒の特性に応じた構造化による支援の理解
授業計画第 6 回 授業内容	発達障害の理解②「学習障害(LD)の原因と理解」 ・LD の幼児、児童及び生徒の特性に応じた構造化を用いた支援の理解
授業計画第 7 回 授業内容	視覚障害の理解①「視覚障害の原因と心理」 ・視力障害、視野障害、色覚障害の原因と状態像の理解
授業計画第 8 回 授業内容	視覚障害の理解②「視覚障害児への支援」 ・視覚障害の幼児、児童及び生徒の特性に応じた支援の理解
授業計画第 9 回 授業内容	聴覚障害の理解①「聴覚障害の原因と心理」 ・伝音性難聴、感音性難聴の原因と状態像の理解
授業計画第 10 回 授業内容	聴覚障害の理解②「聴覚障害児への支援」 ・聴覚障害の幼児、児童及び生徒の特性に応じた支援の理解
授業計画第 11 回 授業内容	運動障害の理解①「運動障害の原因と心理」 ・脊髄損傷、脳性麻痺(CP)、進行性筋ジストロフィーなどの原因と状態像の理解
授業計画第 12 回 授業内容	運動障害の理解②「運動障害児への支援」 ・運動障害の幼児、児童及び生徒の特性に応じた支援の理解
授業計画第 13 回 授業内容	特別支援教育の理解と課題(歴史を含む) ・インクルーシブ教育の理論的理解と実際の理解
授業計画第 14 回 授業内容	特別支援教育に関する教育課程の理解 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容の理解 ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の理解
授業計画第 15 回 授業内容	地域における関連諸機関との連携と支援 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携した支援体制構築の必要性の理解 ・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習、生活上の困難と対応の理解

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育課程論
担当教員	尾崎 博美
担当形態	単独
科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
科目区分2	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)
単位数	2
テーマ・内容	本講義では、教育課程に関する基本的な知識を得るとともに、よりよい教育課程の編成及び実践を目指すためにはどのような能力・資質が求められるのかについて基本的な理解を得ることを目的とする。
到達目標	<p>①教育課程に関する基本的な知識を得る</p> <p>②よりよい教育課程の編成及び実践を目指すために求められる資質・能力について考察し、自分自身の課題を設定する。</p> <p>③教育課程が現代社会の教育の文脈において対峙すべき課題について情報を得、当該の課題に対する自分自身の解決策・対応策を構築できるようになる。</p>
学習内容	<p>授業はオンラインで行います。履修登録後に e-pass に配信される「講義連絡」も必ず確認してください。</p> <p>〔授業方式〕オンデマンド型</p> <p>〔使用ツール〕Google クラスルーム</p> <p>※Google クラスルームのクラスコードは履修登録者に講義連絡でお知らせします。</p> <p>〔授業教材〕毎週金曜日1限開始時間に Google クラスルームより配信します。</p> <p>※必要に応じて早めに資料を掲示することもあります。</p> <p>〔出席確認〕課題の提出をもってカウントします。</p> <p>〔課題提出〕Google クラスルームから提出してください。</p> <p>〔質問方法〕尾崎の英和メールアドレスまで</p> <p>※Google クラスルームの「限定コメント」でも可能です</p> <p>教育課程、特に日本における学習指導要領の意義、役割、課題を問うことを通して、よりよい教育実践を構築するために必要な教育課程の編成、運営、評価(カリキュラムマネジメント)の一連のサイクルについて考察・理解する。</p> <p>①学習指導要領について精読し、自分自身が実際に受けてきた教育がどのように計画され、どんなねらいをもってつくられているのかを考察する。</p> <p>②編成された教育課程と授業等の教育実践とのつながりを理解し、PDCA サイクルの理論を実例に即して学ぶ。</p> <p>③現代社会の問題と教育課程とのつながりについて具体的な材料を、書籍、インターネット、テレビ等のメディアを通して収集する。</p>
成績評価の方法・基準	<p>本講義は下記の点を評価対象とします。</p> <p>(1)授業及び議論への参加、コメント(20%)</p> <p>(2)授業内で課す小レポート(30%)</p> <p>(3)授業の中間・最後に提出するレポート(50%)</p>

教科書	尾崎博美・井藤元編、『ワークで学ぶ教育課程論<増補改訂版>』、ナカニシヤ出版、2024年 ※その他、授業の中で適宜資料を配布する
参考書	学習指導要領
授業計画第1回 授業内容	オリエンテーション: 授業の進め方と目的について
授業計画第2回 授業内容	教育課程と教育(1): カリキュラムの意味と役割
授業計画第3回 授業内容	教育課程と教育(2): カリキュラムと教育実践の関係
授業計画第4回 授業内容	教育課程と教育(3): カリキュラムの編成、運営、評価—PDCA サイクルとカリキュラムマネジメント
授業計画第5回 授業内容	学校指導要領の変遷(1) 学習指導要領ができるまで—明治期・昭和初期の教育課程
授業計画第6回 授業内容	学校指導要領の変遷(2) 近代教育と戦後教育—昭和後期の教育課程
授業計画第7回 授業内容	学校指導要領の変遷(3) 戦後教育の展開と課題—平成の教育課程
授業計画第8回 授業内容	学習指導要領の課題(1) 受験戦争とゆとり教育
授業計画第9回 授業内容	学習指導要領の課題(2) 生きる力と問題解決能力
授業計画第10回 授業内容	学習指導要領の課題(3) 「学力」とはなにか
授業計画第11回 授業内容	現在の学習指導要領と可能性(1) 問題解決型学力
授業計画第12回 授業内容	現在の学習指導要領と可能性(2) グローバル教育とコミュニケーション
授業計画第13回 授業内容	現在の学習指導要領と可能性(3) 道徳教育と多様性のカリキュラム
授業計画第14回 授業内容	教育課程の課題と展望(1) 「市民」を育てるカリキュラム
授業計画第15回 授業内容	教育課程の課題と展望(2) 「個人」と「社会」とつなぐカリキュラム

	教員免許のための必修科目(中学校)
授業名	道徳教育の理論と実践
担当教員	大川 洋
担当形態	単独
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目区分2	道徳の理論及び指導法
単位数	2
テーマ・内容	道徳教育の基礎的な理解を得ると同時に、学校における道徳教育の担い手としての自覚と責任感を培う。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育およびその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳の本質(道徳とは何か)を説明できる。 2. 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。 3. 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。 4. 学習指導要領に示された道徳教育、道徳科の目標および主な内容を理解している。 5. 学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 6. 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 7. 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 8. 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 9. 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 10. 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
学習内容	<p>文部科学省や地方教育委員会の教育施策を踏まえつつ、わが国における道徳教育の現状、歴史、指導法、およびこれからの課題について学ぶ。また、道徳性の発達理論を学び、道徳の本質について考察する。</p> <p>授業形態: 対面授業(Google Classroom も使用する)</p>
成績評価の方法・基準	小テスト等による平常点(30点)、模擬授業の学習指導案および模擬授業(30点)、学期末のレポート(40点)
教科書	教科書は、指定しない。
参考書	<p>「中学校学習指導要領」(2017年3月)の第1章「総則」と第3章「特別の教科 道徳」</p> <p>『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(2017年7月)</p> <p>『私たちの道徳 中学校』文部科学省(2014年)</p> <p>『中学校道徳 読み物資料集』文部科学省(2012年)</p> <p>その他、テーマ別にまとめた参考文献のリストを配付する。</p>

授業計画第1回 授業内容	<p>オリエンテーション</p> <p>内容: 本講義の目的、概要、構成を理解した後、授業内レポート「私の受けた道徳教育」を作成し、ディスカッションを行う。</p> <p>予習・復習: この授業のねらいと内容を確認する。道徳教育の関連サイトに目を通す。</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>1. 学校における道徳教育の実際(第1回)</p> <p>内容: 学習指導要領の中の道徳教育に関する記述を確認する。その際、道徳科の評価については、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』第5章の記述も確認する。また、道徳教育の全体計画と年間指導計画の事例を考察する。</p> <p>予習・復習: 「中学校学習指導要領」と「高等学校学習指導要領」の道徳教育に関連する記述を読む。</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>1. 学校における道徳教育の実際(第2回)</p> <p>内容: 読み物資料を使用した道徳の授業実践事例を考察する。</p> <p>予習・復習: 文部科学省ホームページ上の『中学校道徳 読み物資料集』に目を通す。</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>1. 学校における道徳教育の実際(第3回)</p> <p>内容: 『私たちの道徳』の活用について考察する。また、道徳の時間の指導案作成のポイントを理解する。</p> <p>予習・復習: 道徳教育アーカイブの授業映像や工夫事例(指導案)を見る。</p>
授業計画第5回 授業内容	<p>1. 学校における道徳教育の実際(第4回目)</p> <p>内容: 道徳の学習指導案の作成方法を読み物資料を用いて演習形式で理解する。</p> <p>予習・復習: 模擬授業に向けて、実際に道徳の学習指導案を作成する。</p>
授業計画第6回 授業内容	<p>1. 道徳教育の歴史—明治時代以降の日本の道徳教育の変遷—(第1回)</p> <p>内容: 明治時代の道徳教育の歴史についての理解を深める</p> <p>予習・復習: 「学事奨励ニ関スル被仰出書」や「教学聖旨」を読む。</p>
授業計画第7回 授業内容	<p>授業内容2. 道徳教育の歴史—明治時代以降の日本の道徳教育の変遷—(第2回)</p> <p>内容: 教育勅語から終戦までの道徳教育の歴史についての理解を深める。</p> <p>予習・復習: 「教育勅語」を読む。</p>
授業計画第8回 授業内容	<p>1. 道徳教育の歴史—明治時代以降の日本の道徳教育の変遷—(第3回)</p> <p>内容: 戦後の道徳教育の歴史についての理解を深める。</p> <p>予習・復習: 文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』の149～159ページを読む。</p>
授業計画第9回 授業内容	<p>1. これからの道徳教育の課題と展望(第1回)</p> <p>内容: 教師と生徒、生徒相互の人間関係の深化について考察する。</p> <p>予習・復習: 文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』の143～147ページを読む。</p>
授業計画第10回 授業内容	<p>2. これからの道徳教育の課題と展望(第2回)</p> <p>内容: 学校・家庭・地域社会の連携について考察する。</p> <p>予習・復習: 文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』の147～148ページを読む。また、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』の102～103ページを読む。</p>
授業計画第11回 授業内容	<p>3. これからの道徳教育の課題と展望(第3回)</p>

	<p>内容:人権、生命倫理、環境倫理、情報モラルなど、新しい倫理的要請を踏まえた内容の改造について考察する。</p> <p>予習・復習:文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』の99~101ページ、および104~105ページを読む。</p>
授業計画第12回 授業内容	<p>1. 道徳の模擬授業(第1回)</p> <p>内容:作成した学習指導案をもとに模擬授業をし、授業研究を行う。教材研究の方法についての理解を深めると同時に、授業改善の方法を学ぶ。</p> <p>予習・復習:道徳の学習指導案を作成するにあたっては、文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』の第4章第2節「道徳科の指導」(76~85ページ)を読んで、学習指導案作成の主な手順を理解する。また、第3章第2節「内容項目の指導の観点」(24~69ページ)を読んで、内容項目ごとの指導の観点について理解する。</p>
授業計画第13回 授業内容	<p>3.道徳の模擬授業(第2回目)</p> <p>内容:作成した学習指導案をもとに模擬授業をし、授業研究を行う。授業実践力向上のための課題を確認する。</p> <p>予習・復習:道徳の学習指導案を作成するにあたっては、文部科学省ホームページの『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』の第4章第2節「道徳科の指導」(76~85ページ)を読んで、学習指導案作成の主な手順を理解する。また、第3章第2節「内容項目の指導の観点」(24~69ページ)を読んで、内容項目ごとの指導の観点について理解する。</p>
授業計画第14回 授業内容	<p>5. 道徳性の発達理論</p> <p>内容:ピアジェ、コールバーグからギリガンの「ケアの倫理」まで、道徳性の発達理論を学び、教育実践との関連性を考察する。</p> <p>予習・復習:ピアジェの『児童道徳判断の発達』やコールバーグの『道徳性の発達と道徳教育』を読む。</p>
授業計画第15回 授業内容	<p>6.道徳教育の本質</p> <p>内容:カントの哲学を踏まえ、道徳の本質は自律であることを確認する。また、デュルケムの『道徳教育論』とベルクソンの『道徳と宗教の二つの源泉』を通して、道徳教育の特色を考察する。さらに、徳は教えられるかどうか、道徳教育の原理を考察する</p> <p>予習・復習:カントの『実践理性批判』やデュルケムの『道徳教育論』やベルクソンの『道徳と宗教の二つの源泉』を読む。</p>

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	特別活動と総合的な学習の時間
担当教員	山田 亮 ・ 後藤康志
担当形態	オムニバス
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目区分2	総合的な学習(探究)の時間の指導法 特別活動の指導法
単位数	2
テーマ・内容	「特別活動」および「総合的な学習の時間」(総合的な探究の時間)の目標・性格・内容・指導計画の作成・活動評価等について深く理解することをねらいとする。履修者が自らの学校経験を振り返りながら、特別活動の指導法について理解を深める。また、授業においては、書く・話す・説明する・議論する・振り返る等の能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れながら進める。【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、及び教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。
到達目標	学校教員としての実践的指導力につながる基礎的資質を形成することを目指し、実際の指導場面を想定した事例検討を通じて、各活動における具体的な指導法を考察できるようになることを目標とする。
学習内容	学習指導要領における「特別活動」および「総合的な学習の時間」(総合的な探究の時間)の位置付けとその変遷、目標・基本的性格・教育的意義等を学ぶ。また、特別活動の各活動(ホームルーム活動・学級活動、生徒会活動、学校行事)および「総合的な学習の時間」の目標・内容・指導計画および評価のあり方について理解を深める。各活動の指導法については、実践例の検討などを通じて理解を深め、実践的指導力の基礎を身に付ける。上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める
成績評価の方法・基準	①授業での発表・議論・提出物(50%)、定期試験(50%)とします。評価基準は、関連する知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。
教科書	教師のための教育学シリーズ編集委員会(監)・林尚示(編著)(2022)『特別活動一改訂二版 総合的な学習(探究)の時間とともに』
参考書	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 特別活動編(平成30年7月)』
授業計画第1回 授業内容	【第1回 特別活動と総合的な学習の時間の指導法 オリエンテーション】 授業の進め方・受け方・テキストの使用法等を説明する。 特別活動の指導法の導入として履修者が自らの学校経験を振り返る。(担当:山田亮・後藤康志)
授業計画第2回 授業内容	【第2回 特別活動の目標、評価と改善】 特別活動の全体目標と各活動の目標との関連について学ぶ。 また、教育課程全体を通じて行う特別活動の特質を理解し、個人内成長を見取ることの重要性と方法について学ぶ。また、カリキュラム・マネジメントの観点からも、特別活動の評価・改善の必要性について学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第3回 授業内容	【第3回 特別活動の基本的な性格と教育的意義】

	教育課程上の位置付けと教育的意義、各教科・道徳・総合的な学習の時間等との関連について学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第4回 授業内容	【第4回 中学校の学級活動】 中学校の学級活動の目標、内容、指導計画、評価について、発達段階と他校種との異同を踏まえながら学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第5回 授業内容	【第5回 高等学校のホームルーム活動】 高等学校のホームルーム活動の目標、内容、指導計画、評価について、発達段階と他校種との異同を踏まえながら学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第6回 授業内容	【第6回 学級活動・ホームルーム活動の実践例①】 事例検討を通じて、望ましい人間関係・自主的実践的な態度を形成するための学級活動・ホームルームのあり方を考え、グループで議論等を行う。(担当:山田亮)
授業計画第7回 授業内容	【第7回 学級活動・ホームルーム活動の実践例②】 事例検討を通じて、集団の一員としてよりよい生活づくりに参画し、健全な生活態度を形成するための学級活動・ホームルームのあり方を考え、グループで議論等を行う。(担当:山田亮)
授業計画第8回 授業内容	【第8回 生徒会活動①】 中学校および高等学校の生徒会活動の意義、目標と内容、活動、指導計画について、発達段階を踏まえながら学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第9回 授業内容	【第9回 生徒会活動②】 中学校および高等学校の生徒会活動が自主的・実践的運営となるように、具体的な生徒会活動の運営方法や活動内容を考え、グループで議論等を行う。(担当:山田亮)
授業計画第10回 授業内容	【第10回 学校行事①】 中学校および高等学校の学校行事の意義、目標と内容、指導計画について、発達段階を踏まえながら学ぶ。また、地域との連携の重要性について学ぶ。(担当:山田亮)
授業計画第11回 授業内容	【第11回 学校行事②】 中学校および高等学校の学校行事の評価、総合的な学習の時間や他活動との関連について、発達段階をふまえながら学ぶ。地域連携による実際例から自校の特徴を生かした特別活動のあり方について考察する。(担当:山田亮)
授業計画第12回 授業内容	【第12回 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)①】 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)の定義、意義、目標と内容、指導体制、評価、今日的課題について、発達段階を踏まえながら学ぶ。(担当:後藤康志)
授業計画第13回 授業内容	【第13回 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)②】 具体的な事例検討を通じて、総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)と特別活動・道徳教育・教科学習等との関連について学ぶ。(担当:後藤康志)
授業計画第14回 授業内容	【第14回 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)③】 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)で実施する内容は、地域社会等との連携により更に深まる。具体例として主権者教育やキャリア教育を取り上げて、地域社会・産業界との連携の重要性とその実際について学ぶ。(担当:後藤康志)
授業計画第15回 授業内容	【第15回 これまでの重要事項の再確認、定期レポートの書き方等の指導・指示】 「特別活動と総合的な学習の時間」で学んだ重要事項についての振り返りと再確認。また、学校体験や教育実習における自身の特別活動に対する見方・考え方・計画等を発表し、議論する。(担当:山田・後藤)

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育の方法と技術
担当教員	柳沢 昌義
担当形態	単独
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目区分2	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
単位数	2
テーマ・内容	<p>本授業では、中学・高校の教員を目指す学生が、新しい情報機器を用いて実際に授業ができるような基礎的な教授方法を習得できることを目指している。</p> <p>21世紀の教員は、パーソナルコンピュータ、インターネット、AIといった新しい学習環境を使いこなし、授業設計・実施等を行えなければならない。</p> <p>前半は、教師としての基本である「話し方」を徹底して練習する。全員に3分間スピーチを3回行ってもらう。さらに、「黒板」「チョーク」の使い方の基礎を学ぶ。</p> <p>中盤は、ICTを活用した教育方法の基本技術を実習として習得し、実際の授業での活用事例は実践動画を通して学ぶ。プロジェクター、イメージスキャナ、デジタルカメラ、動画編集を行う。</p> <p>後半は、GIGAスクール、デジタル教科書、電子黒板、教育DX、生成AIといった教育環境と教育実践について学ぶ。</p>
到達目標	<p>生徒の前で堂々と話すことができるようになる。きれいな字で、正しい書き順で、まっすぐ、適切な大きさで、適切な色で板書ができるようになる。</p> <p>ICTを活用すると学習効果が高まることを知り、その実践ができるようになる。</p> <p>授業・校務で各種ICT機器が実際に使えるようになる。</p> <p>デジタル教科書や電子黒板の原理を知り、それを使えるようになる。</p> <p>ICT機器を使用しながら、授業ができるようになる。</p> <p>デジタルカメラの使い方を学び、簡単な動画編集ができるようになる。</p> <p>自らICTを使用した授業を行い、それを動画配信できるまでの基本技術を習得する。</p>
学習内容	<p>授業形態: 対面授業半年間で教師としての基本的技術を順序を追って学んでいく。</p> <p>演習スタイルの授業によって、話し方、書き方、ICT機器の使い方を学んだうえで、総合的演習としてマイクロティーチングを行う。</p> <p>何回か授業と関連のある映像教材が宿題で出されるのでそれについてレポートを書くことになる。</p>
成績評価の方法・基準	<p>評価の方法: ①Google Classroomを使用したMinit Paper(20%) ②ほぼ毎回出される小レポート(20%) ③スピーチ&ビデオ編集(20%) ④マイクロティーチング(20%) ⑤最終課題のビデオ編集(20%) ⑥スピーチトレーニングの結果 ⑦美文字トレーニングの結果。</p> <p>評価の基準: ①技術の習得ができているか ②真剣に課題に取り組んでいるか ③指定された書式でレポートを提出しているか ④熟考されたレポートになっているか</p>
教科書	学習指導要領
参考書	特になし
授業計画第1回 授業内容	<p>教育の方法及び技術について学校教育法における位置づけを学ぶ。</p> <p>教育の方法及び技術と、情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法の内容について。</p> <p>教育方法の基礎的理論を歴史を追って理解する(ソクラテス～ヴィゴツキーまで)。</p> <p>教材・教育メディアとは何か。どのような種類と学習上の効果があるのかを学ぶ。</p> <p>経験の円錐、授業改善の意義、ICT利用を利用した教育の意義、メディアミックス、適性処遇交互作用、ICTを利用した教育へのシフトについて。</p> <p>旧来の黒板・教科書・ノートではない、今後の新しい教育の在り方についての概要を学ぶ。</p>

授業計画第2回 授業内容	<p>授業において教員の話法の重要性および生徒に授業への関心を持たせ、かつ内容を理解させるための話し方の技術を学ぶ。</p> <p>話し方人に伝わる話し方とは何か？メラビアンの法則とは。</p> <p>緊張を解く、活舌、禁句(使うべきではない言葉)、声の大きさと教室の大きさの関係、目線と生徒人数および座席配置の関係、ジェスチャー使用によるノンバーバルコミュニケーションの重要性。</p> <p>3分間スピーチレーニングのやり方</p> <p>【課題】新聞を題材に時事問題を3分間で話せるように練習を積む</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>授業において黒板がもたらす教育効果を学ぶ。</p> <p>黒板黒板の歴史、黒板の構造・仕組み。教室の構造と黒板の意義。</p> <p>基本的な使用法、黒板消し板書練習</p> <p>【課題】指定された板書例を黒板に実際に書き、デジタル写真にして提出する</p>
授業計画第4回 授業内容	<p>チョークの性質を知ることにより効果的な授業を展開する方法を学ぶ。</p> <p>文字チョークの歴史、種類、選び方、チョークを作る人々、喘息、色覚多様性。文字トレーニング。</p> <p>人はなぜ仕事をするのか。仕事によってしか得られない喜びとは。</p> <p>【課題1】板書の実習。</p> <p>【課題2】チョーク製造工場のドキュメンタリー番組を見て感想を書く。</p>
授業計画第5回 授業内容	<p>学習指導案、板書計画について学ぶ</p> <p>板書計画を使用しない授業はどうなるか？わかりやすい板書デザイン。板書事例の書籍の紹介。各教科の学習指導案の実例について。</p> <p>教員からの一方的な授業ではなく、生徒参加型の対話的な授業を展開するために必要な、授業方法および板書技術を学ぶ。</p> <p>【課題1】板書の実習</p> <p>【課題2】本授業の第2回～第5回までの授業を行う場合の板書計画を作画する</p>
授業計画第6回 授業内容	<p>学習評価とはなにか。具体例として、全国学力・学習状況調査、世界規模のPISAについて学ぶ。</p> <p>PISA ショック、フィンランド教育の思想と日本との違い、日本の授業改善への取り組み、教育の情報化、学校のICT化へ取組、ICTを使用した教育へのシフト、ICT利用教育の効果、ICT利用と特別支援</p> <p>【課題1】板書の実習</p> <p>【課題2】フィンランドの教育感に関する動画をみて、日本との違いについて論じる</p>
授業計画第7回 授業内容	<p>ICTを利用した授業方法の意義、ICTを利用することでこれからの授業がどのように変わるかを学ぶ。</p> <p>ICT演習の概要これから数週間にわたって行う演習の総説明。</p> <p>教員とICT能力の関係、教育の情報化、校務の情報化の関係。</p> <p>【課題1】反転授業として、今後行う各種ICT機器の取り扱いに関する映像授業を事前にみて習得しておく。</p>
授業計画第8回 授業内容	<p>ICT演習1：校務の情報化、教材の作成法、答案・資料等のデジタル管理、その実例としてスキャナに着目して実践的に学ぶ。</p> <p>文書のデジタル化。イメージスキャナ、ドキュメントスキャナアナログからデジタルにすることの有効性。授業内での活用事例。</p> <p>教育の情報化とデジタル文書の管理、セキュリティ・著作権法。</p> <p>スキャンした画像を授業で使用するための加工法(トリミング・明るさ・コントラスト調整など)</p> <p>【課題】プロジェクターで投影すべき資料、授業配布資料、手書き文字、板書計画をそれぞれデジタル化する。</p>
授業計画第9回 授業内容	<p>ICT演習2：授業でプロジェクターや大型モニターにより生徒に教材を提示する教育効果およびその手法を学ぶ。</p> <p>プロジェクター、PC、音声再生プロジェクターを利用する意義・授業例。実物投影機の利用と、その教育効果。授業への活用事例。プラズマディスプレイとプロジェクターの差異。単焦点と長焦点。ICTを利用した弱視生徒やADHD生徒への配慮・大きく拡大する意義。ICT機器の接続・配線方法と取り扱いの注意点。</p> <p>【課題1】プロジェクターできれいに投影し、写真を撮影する。</p> <p>【課題2】小さなものを大きく課題してそれを撮影する。</p> <p>【課題3】PCから指定された音源を流しそれを録音する。【課題4】授業でプロジェクターを使って大きく拡大する意義についての教育番組をみて、プロジェクターや実物投影機の利用法を学ぶ。</p>

授業計画第 10 回 授業内容	<p>ICT 演習3:遠隔授業・リモート授業・配信授業・反転授業のための授業動画撮影・活用法を実践的に学ぶ。録画授業の意義について、撮影法、動画の録画について。演習としてはスピーチ録画を通して学ぶ。ビデオカメラとデジタルカメラとスマートフォンの違い。動画を授業で活用する意義と活用事例(音楽・図工・体育・英語・社会科での例)。</p> <p>【課題1】新聞記事の内容を3分にまとめ、各自スピーチを行い、その様子を撮影する。</p> <p>【課題2】授業で撮影した動画をどのように活用しているかについての教育番組をみて、動画撮影とその授業内利用の効果について学ぶ。</p> <p>【課題3】前回までに作成・デジタル化した板書計画に基づき、それを実際に板書して撮影して提出。</p>
授業計画第 11 回 授業内容	<p>ICT 演習4:動画編集動画を有効に授業コンテンツとして作成する考え方。スピード、色、フォント、分量。動画配信サイトや遠隔教育、反転授業での動画の教育事例。社会科等で使用するための動画コンテンツ作成を体験する。</p> <p>【課題】前動画を編集し、授業コンテンツとして利用できる形に仕上げる。</p>
授業計画第 12 回 授業内容	<p>英語教育の考え方、および教育手法の歴史の変遷を学ぶ。</p> <p>韓国における英語教育。韓国版英語デジタル教科書の導入の歴史。</p> <p>日本における英語必須化への歴史と英語教科書の変遷。</p> <p>英語で ICT を使用する意義・活用事例・指導法について。</p> <p>英語デジタル教科書の実体験。</p> <p>【課題】自分自身およびほかの学生が作成した3分間新聞スピーチ動画をみて、批評し、内省する。</p>
授業計画第 13 回 授業内容	<p>各教科における情報活用能力の育成について学ぶ。実際の ICT を使った教育方法およびリテラシーの獲得について学ぶ。</p> <p>まず、日本以外の ICT を活用した授業実践例学ぶ。例えば、韓国・中国・シンガポールの授業の様子、ICT の整備状況、各教科での活用方法(理科・国語・英語・数学)を通して学ぶ。</p> <p>日本における ICT 教育および ICT を利用した教育について、その意義、実践例を学び、生徒らの情報倫理・モラルに関する諸問題と指導方法について学ぶ。</p> <p>【課題】GIGA スクール後の学校についての教育番組をみて、将来の ICT を利用した学校教育についてレポートする。</p>
授業計画第 14 回 授業内容	<p>デジタル教科書について学ぶ。</p> <p>日本の ICT 活用の歴史:紙の教科書からデジタル教科書への研究や実践の歴史。</p> <p>総合的な学習の時間について議論し、その中での情報活用能力の育成について学ぶ。</p> <p>デジタル教科書の普及への取り組み、デジタル教科書の原理・仕組み、電子黒板との関係。電子黒板の体験的利用。</p> <p>社会科のデジタル教科書と電子黒板を使用した教授法についてまなび、実際に社会・英語・国語・理科のデジタル教科書の体験して、生徒にどのように指導するかを習得する。</p> <p>【課題1】デジタル教科書のサンプルから各種機能を体験し、どのような授業を行えるか考える。</p> <p>【課題2】デジタル教科書の効果・意義について動画を閲覧し、デジタル教科書の必要性について考えレポートする。</p>
授業計画第 15 回 授業内容	<p>GIGA スクール後の新しい教育 DX とはなにか?</p> <p>記録メディアの歴史、紙からデジタルへ。教科書の変遷の歴史。ICT を利用した各教科の指導方法について。その歴史から、将来の ICT 利用について。教員が今後 ICT や AI など次世代テクノロジーとどうかわるのか?</p> <p>生成 AI との関係性と各教科での生成 AI の有効活用と諸問題を理解する。</p> <p>【課題】板書付きのミニ授業を行う。それを動画に撮影し、編集し、1つの教材として完成させる。</p>

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	生徒・進路指導の理論と方法
担当教員	山田 亮
担当形態	単独
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目区分2	生徒指導の理論及び方法
単位数	2
テーマ・内容	生徒指導および進路指導・キャリア教育の意義・目的・歴史・方法等について理論と実践の両面からアプローチし、深い理解を得ることをねらいとする。また、授業においては、書く・話す・説明する・議論する等の能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れながら進める。 【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要となる知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。
到達目標	教員としての実践的指導力につながる基礎的資質を形成することを目指し、実際の指導場面を想定した事例検討を通じて様々な指導法を考察できるようになることを目標とする。
学習内容	(1)生徒指導の意義と原理、発達段階を踏まえた生徒理解、集団指導や個別指導の形態と方法、進路指導や学習指導との関連、歴史的変遷等について学ぶ。また、実際の指導場面を想定して具体的な指導方法を考察する。 (2)進路指導およびキャリア教育に関する理論と実践について学ぶ。具体的には、意義・原理、実践を支える処理論、指導場面を想定した事例検討、評価のあり方等について、理論と実践の両面から学ぶ。上記を調査・議論・発表する際は、学校現場における実践的指導力を育成するために、ICT 機器を適宜使用しながら進める
成績評価の方法・基準	①授業での発表・議論・提出物(50%)、定期試験・レポート(50%)とする。 評価基準は、関連する知識・技能の修得状況、思考力・判断力・表現力、主体的な学修姿勢とする。
教科書	松井賢二・横山知行(編著)(2019)『生徒指導・教育相談・進路指導』東洋館出版社
参考書	文部科学省(2022)『生徒指導提要(改訂版)』 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008_00001.htm)
授業計画第1回 授業内容	【第1回 「生徒・進路指導法の理論と方法」のオリエンテーション】 授業の進め方・受け方・テキストの使用方法を説明する。 生徒・進路指導の理論と方法の導入として自らの学校経験を振り返る。
授業計画第2回 授業内容	【第2回 生徒指導の意義と原理】 生徒指導の定義・意義・原理について、歴史的経緯を踏まえながら理解する。
授業計画第3回 授業内容	【第3回 教育課程と生徒指導】 中学校・高等学校の学習指導要領および教育課程と生徒指導の関連について学ぶ。
授業計画第4回 授業内容	【第4回 生徒理解と生徒指導の考え方】 現代生徒を取り巻く環境、現代的課題、生徒指導に必要な姿勢や方法などを学ぶ。 生徒指導の在り方として、基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の姿勢を学ぶ。 生徒各人の存在感が育まれる学級づくり学校づくりの在り方を例示し、その重要性を理解する。

授業計画第5回 授業内容	【第5回 学校における生徒指導体制・担任教員による生徒指導】 学校としての組織的対応の進め方や担任教員の生徒指導の実際などについて理解する。 生徒指導の計画と組織的指導の必要性について、学級担任・HR担任・分掌上の役割の観点から理解する。
授業計画第6回 授業内容	【第6回 生徒指導に関する現代的課題①】 いじめ、不登校等の現代的課題について考え、議論する。
授業計画第7回 授業内容	【第7回 生徒指導に関する現代的課題②】 校則、体罰、出席停止等の現代的課題について考え、議論する。 インターネットに係る課題などを取り上げて、現代的対応について考える。
授業計画第8回 授業内容	【第8回 進路指導・キャリア教育の意義と原理】 進路指導・キャリア教育の定義、意義、原理について、歴史的経緯を踏まえながら理解する。
授業計画第9回 授業内容	【第9回 教育課程と進路指導・キャリア教育】 中学校・高等学校の学習指導要領・教育課程と進路指導・キャリア教育との関連について学ぶ。
授業計画第10回 授業内容	【第10回 進路指導・キャリア教育の実践を支える諸理論】 進路指導・キャリア教育の実践を支える教育学・心理学・キャリアカウンセリングの諸理論について学ぶ。
授業計画第11回 授業内容	【第11回 進路指導・キャリア教育の校内組織体制と指導計画】 小中高を通じた系統的なキャリア教育の必要性と校内組織のあり方、特別活動や総合的な学習の時間、各教科を通じた進路指導・キャリア教育のあり方について学ぶ。 カリキュラム・マネジメントの視点からキャリア教育を振り返り、評価・改善することの必要性について取り上げる。
授業計画第12回 授業内容	【第12回 啓発的経験の例に学ぶ(職業人講話・職場体験・インターンシップ等)】 啓発的経験の意義、計画、家庭・地域・産業界との連携等について学ぶ。 キャリア発達と基礎的・汎用的能力の育成について理解を深める。
授業計画第13回 授業内容	【第13回 進路選択に関する指導の実際】 生徒を取り巻く進学環境、労働環境等について理解を深める。 自らの経験を振り返り、自分自身の進路選択を意味づけて言語化し、今後のキャリアを展望する。
授業計画第14回 授業内容	【第14回 進路指導の事例検討・演習】 進路指導場面を想定した事例検討を行う。生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方について学ぶ。
授業計画第15回 授業内容	【第15回 これまでの重要事項のまとめ・再確認】 これまでの重要事項の振り返りと再確認、 学期末レポートの具体的内容・方法についての指導・指示を行う。

	教員免許のための必修科目(中学校・高等学校)
授業名	教育相談(中・高)
担当教員	小坂 和子
担当形態	単独
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
科目区分2	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法
単位数	2
テーマ・内容	<p>思春期の生徒は、学校の中でも、家庭でも、「ネット社会」と「リアルな社会」とを生きている。体験の可能性が広がることと同時に、こころの問題は複雑化し、潜在化してきていると言われている。学校現場では、自己理解と他者理解、および多様な人間関係を体験しながら、集団の中での個人の成長が期待されている。そのためには、普遍的な子どもの心性と、時代や環境によって生まれる特性をふまえた、柔軟な指導と支援が必要になる。</p> <p>本講義では、思春期のこころの発達の特徴と課題について、基礎的な知識・理論を学ぶ。そして、「こころの危機」は、もちろん解決しなければならない大きな問題であると同時に、「悩むこと」もまた思春期の人々が成長していくためには必要であることにも目を向ける。</p> <p>さらに、教育相談の現場に即した設定で、ペアワーク・グループワークなどの演習体験を通じて、実践的にも学ぶ。</p> <p>【実務経験】臨床心理士・公認心理師として教育相談活動および現場の研修に関わってきた。担任や教科担当教員としての心の支援、校務としての教育相談担当者としての支援と、スクールカウンセラーとしての心の支援を比較しながら、それぞれの立場で、子どもの全体像を理解し、実際に支援を実行できる力を育てる。</p>
到達目標	<p><理論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期の生徒について、発達課題・心理的問題および学校場面における行動特性について理解する。 2. 思春期の生徒への支援について、教育相談の意義と理論、教員の役割の可能性と課題、チーム学校のシステムを学ぶ。 <p><方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期の生徒との「かかわり(カウンセリングマインド)」を演習によって学ぶ。 2. 思春期の生徒の「こころの問題」を、事例を基にディスカッションやグループワーク、多様な演習によって学ぶ。 <p><展開></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の学校の抱える課題をテーマとして、構造・現象・対応について具体的に学ぶ。
学習内容	<p>中高における教育相談の特徴、出会うことの多い心理的な問題とその対処方法について、理論と具体的な事例をもとに学ぶ。ディスカッション、ロールプレイを含む演習等を通じて、教員として子どもの問題を見立て、背景要因についての仮説を立て、改善のために必要な関わりを提供できるよう学ぶ。特に、校務としてだけでなく、担任・教科指導・課外活動指導教員としてできることは何かを主体的・具体的に考えて行動する力を養う。また「チーム学校」の理論と活動の実際を教育相談の視点から理解を深める。</p> <p>なお、授業形態は対面授業で実施する。</p>
成績評価の方法・基準	学期末レポート試験 50%、授業内・課外の課題 50%(プレゼン、演習課題、ワーク課題、ディスカッション参加、小レポート、レスポンスシートなど)
教科書	春日井敏之・伊藤美奈子編 『よくわかる教育相談』(2011) ミネルヴァ書房
参考書	「教職教養講座 第11巻 教育相談と学校臨床」(2018)(桑原知子編著)
授業計画第1回 授業内容	<p>オリエンテーション</p> <p>学校教育における「教育相談」の意義を理解し、その概要を理解する。生徒への支援だけでなく、学校組織・地域連携の視点からの活動の重要性を知る。</p>
授業計画第2回 授業内容	<p>理論①:教育相談と学校臨床</p> <p>現代の中学・高等学校教育の現場における「教育相談」の必要性、および現状と課題、学校組織における位置づけを総合的に理解する。特に「学校臨床」と呼ばれる心理学的支援視点の基礎を学ぶ。</p>
授業計画第3回 授業内容	<p>理論②:学校教育と心理臨床</p> <p>生徒への教育相談を行う際に必要となる教育心理学と臨床心理学の基礎的な理論・知識を理解する。教師に求められる「カウンセリングマインド」の原理を学ぶ。*「傾聴」のワークショップ(WS)を行う。</p>

授業計画第4回 授業内容	理論③:思春期の発達とこころの健康 生徒への教育相談を行う際に必要となる思春期・青年期の発達理論を理解し、さらに学校場面での問題との関連を理解する。「カウンセリングマインド」とロジャースの三原則理論を具体的に学ぶ。
授業計画第5回 授業内容	理論④:生徒への支援、家族への支援、教職員への支援 スクールカウンセラーによる心理的支援と、教師による教育相談の共通点・相違点を理論的に理解する。問題化する前のSOSのサインに気づくこと、問題の多様な理解をふまえた相談活動の流れと連携の構造化、支援者の姿勢に不可欠な配慮と留意点を学ぶ。*「傾聴」・「共感的理解」のWSを行う。
授業計画第6回 授業内容	生徒対応① 不登校 「不登校」の理解及び教師の教育相談活動の原則を理解する。非社会的行動には、学校場面の問題(友人関係・学業・諸活動など)だけでなく、家庭生活・学外生活・発達課題および医学的な問題など多様な背景があり、それぞれに対して適切な対応が求められることを学ぶ。*ロールプレイを行う。
授業計画第7回 授業内容	生徒対応② いじめと暴力 「いじめ」「暴力行為(言葉を含む)」の理解および教師による教育相談・生徒指導の原則を理解する。問題化する前のサインに気づくこと、問題化した時の迅速な対応と長期的な相談活動・連携活動、未然に防ぐための取り組みを学ぶ。*トラブルレベルの事例から深刻な事例まで、ロールプレイを行う。
授業計画第8回 授業内容	生徒対応③ 発達障害 「発達障害」の理解および教師の教育相談の原則を理解する。10代の発達課題に由来するものと、ADHD、学習障害およびASD傾向などの個人特性の特徴を理解し、「合理的配慮」も含む教育相談の実際を学ぶ。*生徒・保護者対応、教員相互のサポート・専門機関との連携について事例検討を行う。
授業計画第9回 授業内容	生徒対応④ さまざまな精神医学的問題 中学生・高校生に見られる精神医学的問題について理解する。特に、自傷行為・希死念慮・摂食障害・強迫傾向・対人恐怖・抑うつ傾向や精神病水準の不安など、特徴を理解し、学内外の連携も含む教育相談の実際を学ぶ*生徒・保護者対応、養護教諭・専門機関との連携について事例検討を行う。
授業計画第10回 授業内容	学校が抱える現代的課題① 保護者の心理 現代の教育相談には、保護者との信頼関係が不可欠である。保護者との協力体制、保護者からの希望・問題提議に、教育相談の立場から、傾聴し受容しつつも、チーム学校として働きかける実際を学ぶ。*ロールプレイおよび事例検討を行う。
授業計画第11回 授業内容	学校が抱える現代的課題② 友人関係 生徒同士の関係・学外の友人関係・異性関係・ネット上の友人関係など、現代の思春期の多様な対人関係を理解する。葛藤体験の意味を理解し、チャムシップやピアサポートを見守ることと同時に、葛藤体験の意義と限界、問題化する危険性の察知のポイントと対応を具体的に学ぶ。*事例検討を行う。
授業計画第12回 授業内容	学校が抱える現代的課題③ 教職員間の連携・地域との連携 発達課題として「心理的分離独立」に取り組む思春期の生徒の教育相談は、個対個のユニットだけでなく、校内の相互援助、そして家族および地域社会との協力の両方が不可欠であることを理解する。集団力働の心理、および組織的な取り組みの立案・実施の実際を学ぶ。*事例検討を行う。
授業計画第13回 授業内容	学校が抱える現代的課題④ 専門機関との連携 学校現場で出会う問題は幅広い。心理、医療、福祉、司法あるいは教育関連機関やさまざまなNPOなど、多方面の専門機関の存在と意義について理解する。ネットワークを構築し、「守秘」と「オープンさ」のバランス、安定したコミュニケーションの実際を具体例に即して学ぶ。*事例検討を行う
授業計画第14回 授業内容	学校の今① ストレスとこころの健康 学校における教育相談には問題解決から、予防・開発的な教育相談まで含まれることを理解する。さらにや「思春期を生きること」「思春期のストレス」を巡る生きづらさとその発達の意義について理解する。「こころの健康」の心理教育のプラン、および自己理解・他者理解を進める企画についても学ぶ。
授業計画第15回 授業内容	学校の今② 学校を離れること 現代の高校生の学校現場では、休学・退学・転校(通信制・定時制高校、留学を含む)など、多様な理由から学校を離れることが生じる。高校卒業後就職やフリーターとなる生徒もいる。巣立っていくにせよ、学校から避難するにせよ、現代の教育相談には、進路・キャリア相談が含まれることを理解する。本人の現実と将来をアセスメントし、多岐にわたる相談活動の実際について学ぶ。*事例検討を行う。

科目	教員免許のための必修科目 教育実践に関する科目(中学校・高等学校) 教職実践に関する科目		
授業名	教職実践演習(中・高)		
担当教員	山田亮		
単位数	2	受講者数	10人
履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
教員の連携・協力体制	本科目の実施にあたり、計画立案段階から教職担当教員にくわえて教科専門担当教員との連携協力を図りながら授業展開を行う。また、近隣中学校・高等学校現場との連携を行い、実践的な演習形式を取り入れた授業展開を行う。		
テーマ・内容	教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、身につけた資質能力を、自身が持つ教員像や到達目標等に照らして最終的に確認する。将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。 【実務経験】高等学校・中高一貫校での教員経験にもとづき、教育実践に必要な知識・技能、および教育実践を支える諸理論について取り上げ、理論と実践の接続を意識した講義・演習を行う。		
到達目標	次の4つの観点から養成課程における自身を振り返り、今後の力量形成の見通しを立てる。 (1)使命感や責任感、教育的愛情 (2)社会性や対人関係能力 (3)生徒理解や学級経営 (4)教科等の指導力		
授業の概要	下記に関するテーマを取り上げて、これまでの教職課程を振り返る。 また、様々な指導場面を想定した演習も行う。 ①教職の意義や教員の役割、職務内容、生徒に対する責務 ②教員としての社会性、保護者や地域理解、同僚性 ③学校における生徒の活動(授業、特別活動、総合的な学習の時間、課外活動、等) ④今日的教育課題、学級経営、授業研究、教材研究 ◆上記を調査・議論・発表する際は、学校現場と連携・協力を図りながら実践的指導力を育成する。また、上記の演習においてはICT機器を使用しながら実践的指導力の基盤を形成する。		
成績評価の方法・基準	教育実践に関する毎回の学習ワークシート提出 40%、観察及び議論に対する主体的な参加姿勢 40%、定期レポート・発表 20%を総合して評価を行う。		
教科書	特になし		
参考書	文部科学省(2017)『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』		
参考URL	文部科学省『学習指導要領』『学習指導要領解説』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm		
第1回 履修のカルテや教育実習をもとに課題の確認する			
第2回 教職の専門性と生徒理解の意義と重要性について理解する			
第3回 教育実習の振り返りに基づく授業再構成1(教科教育に焦点を当てて)			

第4回 教育実習の振り返りに基づく授業再構成2(特別活動に焦点を当てて)
第5回 学校文化の観点から社会性や対人関係能力の育成の必要性について理解する
第6回 学校における諸問題1(調査を通じて、教育実習校の地域特性と生徒文化の関係について理解する)
第7回 学校における諸問題2(調査結果を踏まえて、あらためて教育実習校の教育方針と育成を目指す生徒像について検討し、自身の教育実践を内省し発表する)
第8回 事例をもとに学級づくりを考える(生徒理解や学級経営に焦点を当てて) 学校現場の教員による事例報告に触れ、内容を理解し、課題や取組みについて検討する。
第9回 教科指導力を形成する1(これまでの学習指導案を振り返り、授業展開の種類や方法を再検討することを通して、多様な生徒に対応する授業を構想する)
第10回 教科指導力を形成する2(前時で検討した学習指導案に基づく授業の実践及び協同学習を通じて、将来の学校現場で協働による学び続ける姿勢を形成する)
第11回 教科外活動を考える1(特に、特別活動のうち、学級活動に焦点を当てて自らの教育実習経験を内省し、指導において留意すべき点を言語化し、相互に学び合う)
第12回 教科外活動を考える1(特に、特別活動のうち、学校行事・生徒会活動に焦点を当てて自らの教育実習経験を内省し、指導において留意すべき点を言語化し、相互に学び合う)
第13回 現職教員講話から学校現場の実際に触れることを通して、教職に就いた初任者としての自身の目標や課題を明確化する。
第14回 自治体による「教員育成指標」に照らして、養成段階から初任者の接続段階で求められる資質・能力を意識し、教職生活を通して学び続けることの重要性を理解する。
第15回 教職課程の総まとめとして、これまでの教職のカルテや本学独自の履修確認シートに基づく修得した資質・能力の振り返りと教職生活への展望をもつ。